医療業績集2022

Medical Achievements

社会医療法人愛仁会

https://www.aijinkai.or.jp

目　次

はじめに・理念・沿革 …… 1

愛仁会グループ施設紹介 …… 3

Ⅰ．千船病院
- 内科
  - 総合内科 …… 7
  - 呼吸器内科 …… 9
  - 循環器内科 …… 11
  - 消化器内科 …… 12
  - 糖尿病内分泌内科 …… 14
  - 糖尿病・減量外科 …… 15
  - 腎臓内科 …… 18
  - 救急診療部 …… 19
- 外科 …… 20
- 整形外科・関節センター …… 21
- リハビリテーション科 …… 23
- 泌尿器科 …… 25
- 脳神経外科 …… 26
- 皮膚科 …… 27
- 眼科 …… 28
- 耳鼻咽喉科 …… 29
- 小児科 …… 30
- 産婦人科 …… 32
- 麻酔科 …… 34
- 画像診断科 …… 35
- 病理診断科 …… 36
- 千船クリニック …… 38

Ⅱ．尼崎だいもつ病院
- 診療部総括（病棟，外来）…… 41

Ⅲ．高槻病院
- 内科
  - 総合内科 …… 45
  - 呼吸器内科 …… 46
  - 循環器内科 …… 47
  - 消化器内科 …… 48
  - 糖尿病内分泌内科 …… 50
  - 腎臓内科・人工透析科…… 51
  - 不整脈センター…… 52
  - 血液内科 …… 53
  - 脳神経内科…… 54
  - 総合救急医療センター …… 56
  - 精神科…… 59
  - 病理診断科 …… 61
- 小児科・新生児小児科 …… 62
  - NICU・GCU …… 63
  - PICU …… 64
- 小児外科 …… 65
- ICU …… 67
- 外科
  - 呼吸器外科 …… 68
  - 心臓血管外科 …… 69
  - 消化器外科 …… 70
  - 乳腺外科 …… 71
- 脳神経外科 …… 73
- 小児脳神経外科 …… 74
- 整形外科・関節センター …… 75
- 泌尿器科 …… 76
- 腎移植科 …… 77
- 皮膚科 …… 78
- 形成外科 …… 79
- 産婦人科
  - 産科 …… 80
  - 婦人科 …… 82
- 眼科 …… 83
- 耳鼻いんこう科 …… 84
- 放射線診断科 …… 85
- 放射線治療科 …… 89
- 麻酔科 …… 90
- リハビリテーション科 …… 91

Ⅳ．愛仁会リハビリテーション病院
- 診療部総括 …… 95

Ⅴ．愛仁会しんあいクリニック
- 診療部総括 …… 99

Ⅵ．明石医療センター
- 総合内科 …… 103
- 救急科 …… 105
- 呼吸器内科 …… 106
- 循環器内科 …… 107
- 消化器内科 …… 108
- 腎臓内科 …… 109
- 糖尿病・内分泌内科 …… 112
- 小児科 …… 113

放射線科…… 115
病理診断科 …… 116
外科 …… 117
心臓血管外科 …… 119
呼吸器外科 …… 121
整形外科 …… 122
産婦人科 …… 123
麻酔科 …… 125
集中治療科…… 127

Ⅶ．井上病院
腎臓内科 …… 131
循環器内科 …… 132
眼科 …… 133
糖尿病内科 …… 134
消化器内科 …… 135
泌尿器科 …… 136
透析内科 …… 137
放射線科 …… 138
麻酔科 …… 139
外科 …… 140
心臓血管外科 …… 141
リハビリテーション科 …… 143
リウマチ科 …… 144
整形外科 …… 145

Ⅷ．井上病院附属診療所
腎移植外来 …… 149

Ⅸ．井上診療所
井上診療所 …… 153

愛仁会グループ活動統計 …… 157

学術業績集 …… 165

はじめに

本医療業績集は2022年1月1日から2022年12月31日までの法人活動を対象とした業績報告である.

社会医療法人愛仁会 理念

1．広く社会のためにより良い医療サービスを提供し，健康で豊かな生活の増進に貢献する.
2．法人活動の成果は明日の医療の発展と福祉の向上に活用する.
3．地域社会との協調を深め，創意工夫をこらして法人の健全な発展を図る.
4．医療人としての使命を自覚し，学識・技術の研鑽と人間性の向上に努める.
5．自主性と和の精神を重んじ，法人に働く誇りと喜びを共にする.

モットー

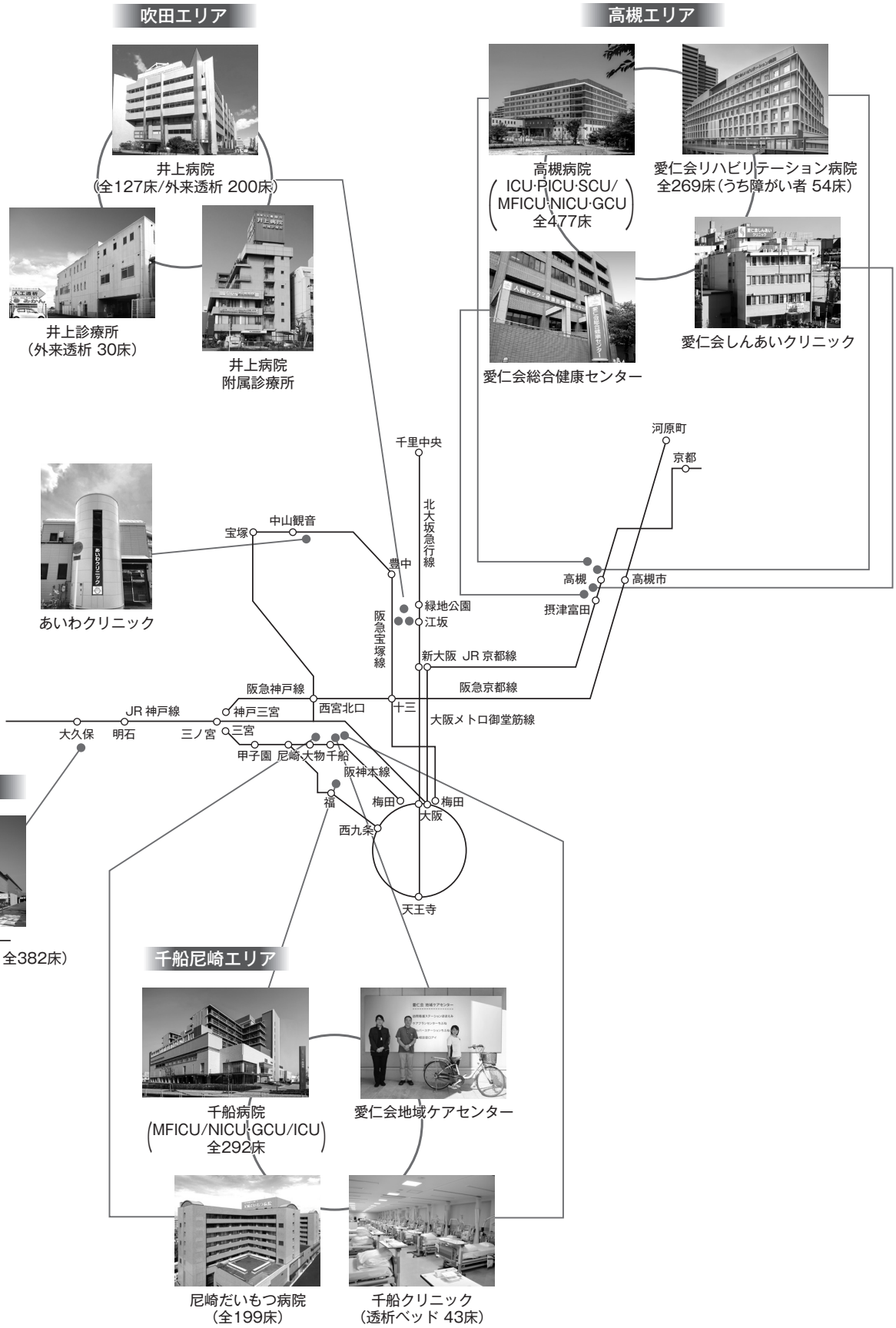
●貢献　●創意　●協調

沿革

1958年11月 1日　医療法人設立認可
1959年 1月11日　医療法人愛仁会千船診療所発足
1966年 5月 1日　千船病院開院（94床）
1971年 5月 2日　千船病院増築竣工開院（191床）
1977年 6月10日　本部事務局発足
11月 1日　高槻病院竣工開院（180床）
1980年 4月 1日　愛仁会看護専門学校開校
1982年 4月 1日　高槻病院新築移転開院（302床）
7月 1日　千船病院新築移転開院（292床）
1983年 4月 1日　理学診療科病院開院（186床）
1984年 9月 1日　杏和総合医学研究所設立
1985年 3月23日　竹中普久先生名誉理事長就任
4月 1日　中後勝先生理事長就任
1987年 3月18日　特定医療法人認可
8月 1日　高槻病院増築竣工開院（477床）
1989年 4月 1日　愛仁会新理念制定
1991年 4月 1日　本部事務局を愛仁会本部と名称変更
1995年 8月 1日　介護老人保健施設「ユーアイ」竣工（入所100名）
1996年 8月 1日　訪問看護ステーション「ほほえみ」設立
8月 1日　千船病院　開放型病院認可
1997年 4月 1日　愛仁会看護助産専門学校に改称（助産学科新設）
4月 1日　高槻病院　厚生省臨床研修指定病院に認可
5月13日　中後理事長「藍綬褒章」受章
9月 1日　介護老人保健施設「ケーアイ」竣工（入所100名）
12月 1日　高槻病院　開放型病院認可
1998年 2月 1日　訪問看護ステーション「スマイル」設立
2月 9日　千船病院　病院機能評価認定証交付
4月 1日　在宅介護支援センター「ケーアイ」設立
5月19日　高槻病院　病院機能評価認定証交付
1999年 1月26日　高槻病院　救急告示病院に認可
4月 1日　理学診療科病院，愛仁会リハビリテーション病院に名称変更
10月28日　社会福祉法人愛和会設立認可
2000年 4月 1日　ヘルパーステーションユーアイ，ケーアイ活動開始
5月15日　愛仁会リハビリテーション病院 病院機能評価認定証交付
10月 1日　社会福祉法人愛和会　複合福祉施設開設
2001年 1月26日　あいわ診療所開院
4月 1日　中後勝先生　会長就任
根岸宏邦先生　理事長就任
千船病院　厚生労働省臨床研修指定病院に認可
職員共済会「親愛会」発足
8月 4日　高槻病院　東館開設
10月 1日　高槻病院　総合周産期母子医療センター棟開設
2002年 1月10日　社会福祉法人豊中愛和会設立
5月13日　中後会長　勲四等瑞宝章受章
2003年 4月 1日　社会福祉法人豊中愛和会　総合福祉施設ローズコミュニティ・緑地開設
4月22日　本部保健福祉事業部 ISO9001取得
9月 9日　根岸理事長　救急医療功労者厚生労働大臣賞受賞
12月15日　高槻病院　病院機能評価更新認定
2004年 2月 1日　高槻病院，愛仁会リハビリテーション病院 電子カルテシステム導入
2月16日　千船病院　病院機能評価更新認定
4月 1日　高槻あいわ保育園・あいわ児童館開設
杏和総合医学研究所　滅菌センター開設
7月 1日　千船病院附属千船クリニックス開院
千船病院，千船病院附属千船クリニックス 電子カルテシステム導入
7月24日　愛仁会リハビリテーション病院 日本リハビリテーション医学会研修病院認定
12月 1日　愛仁会千船在宅サービスセンター設立
2005年 5月15日　愛仁会リハビリテーション病院 病院機能評価更新認定
7月30日　千船病院　全館改修工事終了
8月31日　特別医療法人認可
12月28日　高槻病院　地域医療支援病院認定
2006年 2月17日　根岸理事長，山門常務理事 大阪府知事賞受賞
2月20日　愛仁会リハビリテーション病院 病院機能評価付加機能（リハビリテーション機能）評価認定
4月 1日　高槻北地域包括支援センター，緑地地域包括支援センター設立
4月20日　本部　ISO9001取得
6月 1日　千船病院　7対1看護 承認
千船病院・高槻病院　NICU増床
7月 1日　ケアプランセンターケーアイ開設
7月29日　千船病院　人間ドック機能評価認定
2007年 4月 1日　根岸宏邦先生　会長就任
筒泉正春先生　理事長就任
9月29日　第1回　介護福祉施設合同業務改善成果発表会開催
10月 1日　愛仁会リハビリテーション病院 増床（225床）
11月 8日　高槻病院　人間ドック機能評価認定

11月14日　千船病院　地域周産期母子医療センター認定
2008年 1月29日　千船病院　卒後臨床研修評価認定
2月 9日　千船病院　病院機能評価更新認定
4月 1日　愛仁会総合健康センター開設
長尾地域包括支援センター設立
4月11日　千船病院　消化器内視鏡センター開設
5月 1日　愛仁会総合健康センター附属デイサービスセンター開設
5月18日　高槻病院　病院機能評価更新認定
8月 2日　高槻病院　WHO・ユニセフ「赤ちゃんにやさしい病院（BFH）」認定
10月 5日　愛仁会グループ創立50周年記念大スポーツ大会開催（なみはやドーム）
11月 1日　愛仁会グループ創立50周年記念行事開催
2009年 1月 1日　特別・特定医療法人愛仁会から社会医療法人愛仁会に移行
3月30日　千船病院バースセンターリニューアルオープン
4月 1日　千船病院附属千船腎臓・透析クリニック開設
ユーアイデイサービスセンターなごみ開設
愛仁会本部学術部に国際課設置
5月31日　社会福祉法人豊中愛和会　多機能型事業所あすなろ　あすなろ麺，モンド・セレクション2009金賞受賞（2010年，2011年と3年連続金賞受賞）
10月 2日　「第11回フォーラム　医療の改善活動 in 大阪」筒泉理事長を大会長として運営を担当
11月16日　社会医療法人愛仁会　中期事業計画策定
12月 4日　明石医療センター　病院機能評価Ver.6認定
2010年 3月 5日　愛仁会リハビリテーション病院
病院機能評価更新認定
4月 1日　社会福祉法人豊中愛和会
ローズコミュニティ・豊中南開設
5月 8日　愛仁会看護助産専門学校　創立30周年記念行事開催
6月 5日　第1回愛仁会フォーラム開催
10月17日　社会福祉法人愛和会　10周年記念を祝う会開催
11月 6日　「第20回日本新生児看護学会学術集会」（於 神戸）高槻病院で運営を担当
2011年 1月 7日　愛仁会リハビリテーション病院
病院機能評価（リハビリテーション付加機能）更新認定
1月30日　第1回愛仁会グループ看護・介護学会開催
3月18日　フィリピン大学，フィリピン総合病院との人材交流プログラム開始
4月 1日　医療法人社団明石医療センター設立
7月 1日　愛仁会リハビリテーション病院
新築移転（MUSEたかつき）開院
9月 1日　ケアプランセンター愛仁会富田開設
10月25日　第3回　日中韓看護学会参加（於 ソウル）
2012年 1月 1日　ヘルパーステーション愛仁会富田開設
5月 1日　千船クリニックス　千船病院へ統合
5月19日　豊中愛和会　創立10周年記念行事開催
6月 1日　医療法人社団　明石医療センター，医療法人仁愛会　田畑胃腸病院と合併
8月29日　第1回愛仁会グループリハビリテーション部門学術大会開催
2013年 1月 1日　おかじま病院開院，介護付有料老人ホームスローライフおかじま開設
1月18日　千船病院　病院機能評価Ver.6認定
2月13日　第1回　愛仁会・神戸大学・フィリピン大学フィリピン総合病院国際会議開催
3月21日　医療法人社団　明石医療センター　特定医療法人　承認
4月 1日　社会福祉法人愛和会，社会福祉法人豊中愛和会を社会福祉法人愛和会として合併
4月 6日　愛仁会看護助産専門学校　新校舎移転，看護学科2クラス定員80名に
6月 7日　「第41回日本小児神経外科学会」（於 大阪）高槻病院　山崎麻美副院長を大会長として高槻病院で運営を担当
7月 1日　高槻病院院内保育園「にじっこ保育園」，愛仁会看護助産専門学校1階に新設開園
7月27日　明石医療センター南館オープン
許可病床数382床に増床
10月 1日　カーム尼崎健診プラザ開設
2014年 4月 1日　医療法人進愛会と合併
カーム尼崎健診プラザ健診事業開始
8月 1日　宝塚あいわ苑訪問看護ステーション開設
10月 1日　社会福祉法人ますみ会を承継
10月27日　高槻病院 新病院I期棟 開設
11月 1日　明石医療センターNICU稼動
12月 1日　高槻病院PICU開設
2015年 1月 1日　明石医療センター　社会医療法人認可
1月 7日　明石医療センター泌尿器科外来開設
3月31日　筒泉正春先生　理事長退任
4月 1日　内藤嘉之先生　理事長就任　→現在に至る
7月 3日　高槻病院不整脈センター開設
2016年 1月 4日　社会福祉法人愛和会（宝塚地区）にあいわ結愛ガーデン開設
4月 1日　社会医療法人愛仁会，社会医療法人明石医療センターと合併
尼崎だいもつ病院開設
10月23日　「第44回国際小児神経外科学会（ISPN2016）」（於 神戸）高槻病院　山崎麻美副院長を大会長として開催
2017年 2月 4日　第1回愛仁会学術大会開催
4月 1日　社会福祉法人ますみ会と合併
5月 8日　高槻病院 新病院Ⅱ期棟 開設
6月 1日　介護老人保健施設だいもつ，レジリエンスだいもつ開設
7月 1日　千船病院 新築移転 開院
7月20日　「第67回日本病院学会」（於 神戸）
内藤嘉之理事長を大会長として開催
2018年 2月24日　「第11回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会」（於 大阪）愛仁会リハビリテーション病院　吉田和也院長を大会長として開催
3月31日　おかじま病院 閉院，杏和総合医学研究所 閉所
6月 1日　高槻病院新築Ⅲ期工事竣工 グランドオープン
8月　愛仁会地域ケアセンターに在宅事業（千船地区）を集約移転
2019年 4月 1日　特定医療法人蒼龍会と合併
社会福祉法人愛和会 宝塚地区
Waiwai コミュニティあいわ開設
6月 1日　あいわクリニック開設
7月 8日　ベトナム・ドンア大学との国際業務提携締結
2020年 5月 1日　ケアプランセンターちぶね，ケアプランセンター千船病院に統合
9月 7日　森ノ宮医療大学と相互連携協定締結
12月31日　愛仁会総合健康センター附属デイサービスセンター廃止
2021年 9月30日　しんあい病院，しんあいクリニック閉院
10月 1日　愛仁会しんあいクリニック開院
12月10日　一般社団法人淀川ヘルスケアネット設立
2022年 3月31日　ヘルパーステーション愛仁会富田　ヘルパーステーション愛仁会高槻と統合

愛仁会グループ施設紹介



Ⅰ

千　船　病　院

7:1急性期病院
地域周産期母子医療センター
地域医療支援病院
大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関
MFICU/NICU·GCU/ICU
全292床

〒555-0034
大阪府大阪市西淀川区福町3丁目2番39号
TEL.06-6471-9541

院長　吉井勝彦

総合内科

スタッフ紹介

二宮幸三
　日本内科学会　総合内科専門医・指導医
　日本循環器学会　専門医・指導医
　日本動脈硬化学会　動脈硬化専門医・指導医
　日本病院総合診療医学会　認定医
藤田芳正
　日本内科学会　総合内科専門医・指導医
　日本腎臓学会　専門医
　ICD
依藤兼太郎
　日本内科学会　総合内科専門医　認定内科医
宮井佑也
　内科専攻医
香山元伸
　内科専攻医
好木康明
　内科専攻医

2022年3月に宮井佑也医師，2022年6月に好木康明医師が退職した．

診療内容

総合内科外来は，午前は2診体制，午後は1診体制で行っている．主として各内科系の若手医師が対応している．また，別枠で総合内科専門外来を藤田医師と依藤医師が行っている．診療内容は主に初診を受け持ち，必要により専門診療科に振り分けている．当科でフォローできる患者や完結できる場合はそのまま継続診療もしている．

2022年のトピックス・実績

総合内科外来の患者数は，24,507人で，1日平均101人であった．入院患者数は，450人であり，疾患別にみると損傷・中毒など外因の影響160人（35.6%），新型コロナウイルス感染症116人（25.8%），呼吸器系疾患51人（11.3%），循環器系疾患23人（5.1%），腎尿路生殖器系の疾患21人（4.7%），消化器系疾患17人（3.8%），内分泌・栄養及び代謝疾患15人（3.3%），筋骨格及び結合組織の疾患9人（2.2%），皮膚及び皮下組織の疾患9人（2.2%），感染症及び寄生虫症9人（2.2%），その他22人（4.5%）であり，多岐に渡った．特に新型コロナウイルス感染症と大腿骨近位部骨折の症例が増えたのが，例年と異なっている．

また，若手医師の教育については，藤田医師により内科全般の疾患と感染症診療をテーマに毎週1～2回定期的な勉強会を行っている．

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療について

2020年より引き続き一般外来と分離した発熱外来（臨時外来）を開設し，地域の発熱患者を積極的に受け入れた．2022年当初からオミクロン株の大流行による第6波に始まり，第7波と第8波の入り口まで流行が続いた1年であった．

入院対応では，軽症・中等症の新型コロナウイルス感染症患者受け入れ病院として，感染フェーズに合わせて大阪府より決められた病床数を運用した．担当を全内科医師とし週ごとにチームに分けて診療した．流行期の第6波から第7波のピーク（2月と8月）には入院患者数が増加した．

今後の展望

今後も入院患者は，多疾患を有する高齢患者や感染症の疾患を中心に増やしていきたい．また，新型コロナウイルス感染症については感染症法上，第5類に分類が変わり，社会情勢を見ながら対応も変更していきたい．

高齢で多くの基礎疾患を有する大腿骨近位部骨折患者の入院管理についても整形外科と協力していく．

また，初期研修医など若手医師の教育・育成も引き続き当科で行い，更に実習やカンファレンスを継続する予定である．

表１．臨時外来患者数

（単位：人）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2020年患者数			68	258	126	114	0	67	43	49	90	115	930
2021年患者数	123	81	83	157	113	125	145	239	297	123	104	102	1,602
2022年患者数	341	546	278	293	251	208	752	1,079	348	235	276	427	5,034

表2．新型コロナウイルス感染症入院患者数

（単位：人）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2020年患者数			0	1	3	0	2	13	6	8	15	26	74
2021年患者数	24	9	10	41	45	12	18	52	39	3	2	1	256
2022年患者数	31	62	39	21	20	22	49	55	32	16	28	32	407

呼吸器内科

スタッフ紹介

竹嶋　好　部長
　日本呼吸器学会呼吸器専門医
　日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
　日本がん治療認定医機構がん治療認定医
　日本緩和医療学会認定医
　肺がんCT検診認定医師
住谷充弘　部長（兼　リハビリテーション部長）
　日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医
　日本アレルギー学会アレルギー専門医
　日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
　日本リハビリテーション科専門医
　日本呼吸ケア・リハビリテーション学会認定
　呼吸ケア指導士（初級）

診療内容

呼吸器内科医は常勤医師2名（1名は主に睡眠時無呼吸症候群を中心として診察），非常勤医師1名で診察に当たっている．呼吸器内科専門医を持つ経験豊富な医師が，呼吸器疾患全般的に診断，方針決定，治療を行っている．

【呼吸器疾患】

肺がんについては，現在，検査・治療が非常に複雑化し施設格差があるのが現実である．当院では放射線治療の設備環境がないため，主に診断や緩和的な化学療法を中心として行っている．ACP（アドバンス・ケア・プランニング）をなるべく早期から実施するようにし，患者・ご家族と話し合って，患者の価値観などになるべく合わせた治療を選択するように心掛けている．

また，これまでの経験に基づき，可能な限り苦痛や負担がなく生活の質を落とさない治療や化学療法を行うようにしている．

【睡眠呼吸障害】

睡眠時無呼吸症候群（SAS）と関係が深い関連内科疾患（高血圧，心房細動，糖尿病，逆流性食道炎など）との関連を踏まえた，睡眠時無呼吸治療を目指している．睡眠時無呼吸症候群との関連が多い肥満症についても，糖尿病内分泌内科や糖尿病・減量外科と協力し，手術も含めて減量介入を行っている．

2022年のトピックス・実績

CPAP導入が安定しない方などにCPAP・NPPVタイトレーションの施行を開始した．

また，初診時に低酸素傾向を認める肥満性低換気症候群の患者にNPPV導入を行い，3−6か月で病態を安定させ代謝改善・減量手術が行えるように減量外科にバトンタッチしている．

今後の展望

呼吸器内科疾患の治療において，ベストな治療ができるようにサポートする．

- 肺がんについては，最近では施設格差も広がっているため，一人ひとりに合わせた診療を提案．
- 体重増加・生活習慣病（特に夜間高血圧評価を踏まえて）の改善を踏まえた睡眠呼吸障害に対する治療介入．
- CPAP，NPPVなどの非侵襲的陽圧換気療法の使用コンプライアンスを改善するタイトレーション評価・治療の介入．
- 肥満合併などの難治喘息症例における生物学的製剤での加療を踏まえた喘息診療．
- 身体活動性維持を目指した入院での呼吸リハビリテーションの介入．

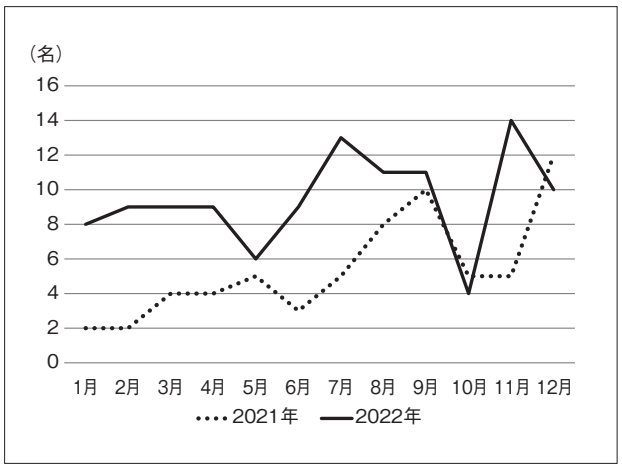


図1．精密PSG検査件数（2021年：65件, 2022年：113件）

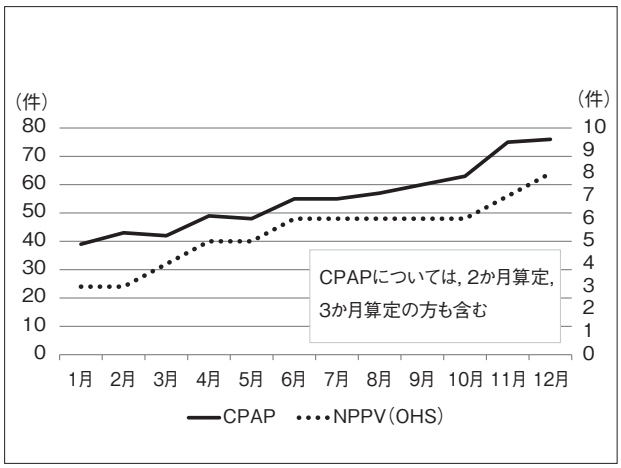


図2．指導料算定件数（呼吸器内科）

循環器内科

スタッフ紹介

2022年は尾崎正憲副院長，板垣毅主任部長，濱田晶子医長，黒瀬潤医長の常勤医4人体制で，総合内科の二宮幸三主任部長に循環器診療業務の一部をサポートしていただいた．また外来では神戸学院大学の藤岡由夫教授と以前当院の常勤医として勤務されていた松森佳子医師に非常勤医としてご協力いただいた．

診療内容

循環器内科では，心不全，虚血性心疾患，心筋症，心臓弁膜症，不整脈疾患，末梢動脈疾患，肺血栓塞栓症（下肢静脈血栓症を含む），高血圧症（周産期血圧管理や二次性高血圧を含む），脂質異常症など幅広く循環器疾患全般について診療を行っている．千船病院では高度先進的な医療は実施できないが，虚血性心疾患に対する冠動脈インターベンション（PCI），末梢動脈疾患に対する血管内治療（EVT），頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション，徐脈性不整脈に対するペースメーカー植え込み術，静脈血栓塞栓症に対する下大静脈フィルター留置など，高次あるいは先進的な医療を要さないものにおいてはほとんどの疾患で治療が可能である．外来においては地域医療支援病院の役割を意識しつつ，また医師の働き方改革の面から病状の安定した患者の積極的な逆紹介を勧めている．

当科の特徴として挙げられるのは，心臓CTや心臓MRI，心臓RI検査（SPECT）といったイメージングモダリティが充実していることである．これらを用いて正確な診断を行い，よりEBMに基づいた診療が十分に行える環境にある．これは臨床研修指定病院かつ内科専門研修プログラムの基幹施設である当院の研修医や専攻医が，客観的検査所見に基づいて論理的に思考することができ，臨床能力の向上に役立っている．教育面では病棟カンファレンス（月），心エコーカンファレンス（木），英語論文抄読会（木），アンギオカンファレンス（金）を行い，研修医や専攻医にプレゼンテーションの場を多く設定している．

2022年のトピックス・実績

2021年4月に神戸大学及び甲南医療センターで不整脈の研鑽を積んできた黒瀬医師が当院に赴任し，不整脈領域は板垣主任部長と2人体制となった．そのため，カテーテルアブレーションの治療件数は徐々に増加した．心不全入院患者における心不全教室は新型コロナウイルス感染症がまん延している中で集団指導から個別指導に切り替えて継続し，心臓リハビリテーション（運動療法）の件数も，入院リハ件数だけでなく外来リハ件数も増加した．一方，昨年から取り組んでいる心不全地域連携パス件数については伸び悩み，今後地域の開業医の先生に講演会や同行訪問でより丁寧に説明し，更なる連携をとっていきたい．

主な診療実績：冠動脈造影検査71件，PCI 83件，EVT 4件，アブレーション31件，ペースメーカー植え込み17件，IVCフィルター1件，心臓リハビリテーション2,136例など．

主な学術実績：第239回日本内科学会近畿地方会，第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会にて発表を行った．

今後の展望

地域医療支援病院として地域の信頼を得るためには，近隣の医療機関や救急からのお断りをなくし，いつでも診てもらえるといった体制作りが必須である．特に医師の働き方改革もあり，循環器診療の充実化を図るためには各医師に過度な負担がかからずに救急を行うだけの人員確保が重要である．大阪市西部医療圏での当院の立ち位置や中期的な医療需要を見据え，如何に人材を確保し，育成するかを考えつつ，診療の幅を広げていきたい．

消化器内科

スタッフ紹介

船津英司（1998年卒）
　日本内科学会総合内科専門医
　日本消化器内視鏡学会指導医・専門医
　日本消化器病学会指導医・専門医
　日本肝臓学会認定肝臓専門医
　日本膵臓学会指導医
　日本病院総合診療医学会認定病院総合診療医
那賀川　峻（2007年卒）
　日本内科学会総合内科専門医
　日本消化器内視鏡学会指導医・専門医
　日本消化器病学会指導医・専門医
　日本膵臓学会指導医
松本　慶（2012年卒）（2022年4月～）
　日本内科学会認定医
　日本消化器内視鏡学会専門医
板東正貴（2012年卒）（～2022年3月）
羽鳥広隆（2013年卒）（～2022年3月）
　日本内科学会認定医
　日本消化器病学会専門医
　日本消化器内視鏡学会専門医
名方勇介（2015年卒）
　日本内科学会認定医
　日本消化器病学会専門医
西川浩介（2017年卒）
中村碩孝（2018年卒）（～2022年3月）
石原美崎（2018年卒）（～2022年3月）
岩本陽菜（2019年卒）（2022年4月～）

診療内容

船津は消化器内科主任部長として消化器疾患の診療全般の統括に当たり，他常勤医の技術指導・診療支援も行っている．また消化器内視鏡センター長として看護部及び技術部，放射線技師との連携をとりながら，内視鏡センターの運営・統括を行っている．那賀川は消化器内科医長として，船津とともに後進の消化器内科医師の技術指導・診療支援を行いつつ，学会発表の指導にも尽力している．松本・羽鳥・名方は一連の消化器内視鏡技術を習得し，通常検査業務を主力として行いつつ，より高度な技術習得を目指し日々修練に励んでいる．西川・中村・石原・岩本は後期レジデントとして日々消化器内科の検査・診療において研鑽を積んでいる．診療体制は月曜日から金曜日の午前・午後に消化器専門外来を開設し，検査業務として月曜日から金曜日までの午前は上部消化管内視鏡検査・腹部超音波検査を行い，月曜日から木曜日までの午後に下部消化管内視鏡検査を行っている．胆膵内視鏡検査は月曜日から金曜日の午後に行っている．休日夜間診療は，オンコール体制にて消化器系救急疾患に緊急対応している．紹介患者に関しては，全て消化器科専門医が初療に当たり，緊急を要する症例に対しては，救急外来にて迅速な診断・処置を行っている．

2022年のトピックス・実績

2022年の業績として，胆道学会に1題，消化器病学会近畿支部例会に1題の発表を行った．新型コロナウイルス感染症がまん延している中で開催を中止していた愛仁会消化器カンファレンスを11月に開催した．懇親会は行わなかったが，活発な討論を行った．

がん検診受診率向上のため，2021年から取り組んでいるがん検診啓蒙キャンペーンを10月～11月にかけて行った．これまでのポスター掲示に加え，大腸がん検診受診を啓蒙する備品（トイレットロール）を院内に設置した．またがん検診啓蒙キャンペーンの一環として，働き世代のがん検診受診率向上のため西淀川工業会主催の健康セミナーにて講演を行った．

愛仁会消化器内科グループとして，神戸大学大学院医学研究科内科学講座消化器内科学分野医局との共同研究契約締結に向けた手続きを開始した．

今後の展望

今後も苦痛の少ない内視鏡検査，超音波内視鏡検査などの専門的な内視鏡検査を提供していくことで，地域の中で特殊性をもった消化器診療を広げていく．また症例蓄積を利用した学会報告を行っていくことにより，紹介患者の増加・地域医療への更なる貢献を実現していきたい．

地域に向けては，がん検診の受診率向上を呼びかけるだけでなく，病院受診が必要となる前段階で西淀川区民の健康意識改善に取り組んでいきたい．

表．内視鏡検査実績

（単位：件）

上部消化管内視鏡検査総数	3,784
超音波内視鏡	234
ポリープ切除	17
ESD	34
止血術	57
静脈瘤	21
PEG	22
ステント・拡張術	44
異物除去	16
食道胃 24 時間 pH 測定	30

下部消化管内視鏡検査総数	2,187
ポリープ切除	868
ESD	13
止血術	46
ステント・拡張術	13
S 状結腸軸捻転解除術	24
カプセル内視鏡・ダブルバルーン内視鏡	18

胆膵関連検査総数	253
EST	81
採石 / 砕石術	118
EBD	90
EMS	10
膵管ドレナージ	4
EUS 下ドレナージ	7

糖尿病内分泌内科

スタッフ紹介

中島進介（部長，2008年卒）
岡　亜希子（医長，2011年卒）
羽鳥広隆（医員，2012年卒）（2022年4月～）
大島令子（専攻医，2017年卒）（～2022年3月）
影山智子（専攻医，2019年卒）（2022年4月～）
小林基子（専攻医，2019年卒）（2022年4月～）

診療内容

2022年の専門外来の診療体制であるが，中島3.5単位，岡3.5単位，大島1単位，神戸大学糖尿病内分泌内科から派遣された非常勤医師3名が計3単位を担当した．2022年4月からは大学の人事異動により大島に代わり影山が赴任し，専門外来1単位を担当，また新たに当院消化器内科から羽鳥が当科に異動，さらに小林が大学の人事異動で赴任し，それぞれ2単位，1単位を担当した．

糖尿病認定看護師の田中友香看護師が担当する療養支援外来については6単位を継続し，外来療養支援の充実を図っている．

また，前年同様，肥満・糖尿病内分泌センターとして，減量外来（糖尿病・減量外科 北濵部長，4単位担当）での患者は遠方からの受診も多く，中島・岡・羽鳥・影山・小林が随時糖尿病内分泌内科での併診対応を行った．

病棟においては糖尿病（1型・2型・妊娠糖尿病）及び高度肥満症の教育入院，内分泌検査入院，外科系周術期，化学療法，ステロイド療法時などの血糖管理を中心に行った．当院のNST活動についても引き続き，栄養管理科，薬剤科，理学療法科，検査科でチームを構成し週1回のNST回診を行った．

2022年のトピックス・実績

2022年の実績は外来糖尿病患者2,245名，肥満・糖尿病教育入院87名と，外来患者数は増加したが，入院患者は減少傾向であった．内分泌疾患においては，主に外来となるが，甲状腺疾患821名，副甲状腺疾患52名，下垂体疾患156名，副腎疾患74名となっていた．減量・糖尿病外科の年間手術件数は合計97件で，術前・術後と糖尿病，内分泌疾患のある患者について当科で併診を行った．

当科は，主に糖尿病・減量外科と共同して学術活動を行ったが，当科が筆頭演者となった学会発表は9件であった．

今後の展望

糖尿病治療については，GLP-1受容体作動薬やSGLT2阻害薬などの新規治療薬の進歩が目覚ましく，多くの糖尿病は適切な外来治療を行うことで確実な血糖降下が得られ，合併症の進行も抑制できる時代となりつつある．

また先進医療機器についても，現実的には１型糖尿病など限られた患者にしか使用できなかった持続血糖モニター（CGM）の保険適応が2022年より拡大され，インスリンを使用している全ての患者に使用可能となった．当院では積極的にCGMを導入し，より精度の高い確実な治療が可能となっている．外来診療の充実に向けて糖尿病認定看護師，栄養管理科及び検査科と連携し，糖尿病教育指導などを外来診療の中で効率よく行うことができるよう検討を進めている．

当科は，肥満・糖尿病内分泌センターとして糖尿病・減量外科，栄養管理科，リハビリテーション科と強固な連携があり，肥満症の外来・手術件数も順調に増加している．

今後も，千船病院肥満・糖尿病内分泌センターのこれらの特徴を学会や研究会でアピールすることで，地域との連携や，関西の主要病院との連携，さらに神戸大学との連携を深めていく．

糖尿病・減量外科（肥満・糖尿病内分泌センター）

スタッフ紹介

北浜誠一（センター長/部長，2002年卒）
減量チームコアメンバー
・糖尿病内分泌内科　中島進介，岡　亜希子，影山智子，小林基子，羽鳥広隆
・呼吸器内科　住谷充弘
・栄養管理科　田中理恵子，奥村あゆ
・リハビリテーション科　村田尚寛，住平　望
・医事科　平井麻衣子，住所美沙季
・広報部・医療通訳　伊藤マユミ

当センターの理念
「11疾患を引き起こす高度肥満症に対し“All 千船”で横断的に質の高い医療を提供し，早期退院プログラムの考え方を徹底することで術後合併症を極めて少なくコントロールし患者さんから選ばれる病院になる」

診療内容

・2022年の外来診療体制では，月曜日午前の減量術後外来，午後の減量外来，金曜日の外科外来枠（担当北浜）の92%が減量若しくはGERD患者であり，計4単位を減量・GERD関連の外来としている．
・減量外来では，栄養指導，運動療法，内服加療を行いながら手術適応のスクリーニングを行い，術後は体重の推移や栄養状態について長期にわたるフォローアップを行っている．
・糖尿病内分泌内科専門医により2次性肥満の否定及び糖尿病薬の調整を行い，術前血糖コントロールが必要な症例やBMI＞50の超重症肥満例，高度の腎障害を伴う症例，遠方に在住の場合などには積極的に教育入院を行っている．
・睡眠時無呼吸症候群に関しては自宅での簡易検査で全例スクリーニングを行い，睡眠加療を専門とする呼吸器内科医と連携し，必要に応じて入院でのPSG検査や圧調整目的の入院，また，難病指定である肥満低換気症候群の診断を行っている．
・精神，心理面でのフォローを必要とする状況が疑われる場合には精神科医及び臨床心理士と密に連携を行っている．チームスタッフで速やかに情報共有することで早めの判断が可能となっている．
・減量チームコアメンバーによる減量カンファレンスを毎週1時間，ICUとのカンファレンスは外科と合同で週1回行っている．高度肥満症に伴う11の合併疾患に対し関連各科や減量チームスタッフ，看護部の協力を得て“All 千船”で診療に当たっている．中でも減量コーディネーターは2名体制で患者・スタッフ間の連携役として大きな役割を担っている．
・医師の働き方改革に伴うタスク・シフトの流れで臨床工学技師（ME）によるスコピスト業務が可能となった．本年より新たにMEが減量チームに加わることで手術がより円滑となり，研修医への技術教育も担当している．
・当科では外国人患者の割合が多いが，医療通訳が積極的に関わることで患者満足度の向上に貢献している．
・内科的治療抵抗性の胃食道逆流症に対し，粘膜障害の明らかでないNERDにおいては特に診断が遅くなることが多いが，当院では積極的に24時間pHインピーダンスモニタリングを行い，済生会中津病院・神戸大学病院と連携し食道内圧検査を実施することで総合的に手術適応を判断している．

2022年のトピックス・実績

①手術件数，在院日数削減の試み
手術件数は修正手術を含め99件（前年比106％）と増加し，これまでの減量・代謝改善手術件数の総数は442例となった．肥満を伴わないGERDに対する手術件数は6件であった．外来延べ人数は2,144名（前年比102％）と増加した．当科では一般に手術リスクの高い患者を診療しており，当院のICU全入室患者数のうち，減量手術患者の割合は17％であった．周術期の安全性を最大限に高めるよう早期退院プログラム（ERAS）を導入しており，当院での減量術後平均在院日数は2.3日と極めて短期間での退院が可能となっている．術前よりチーム医療で介入し，できるだけコンディションのよい状態で手術に臨むことで合併症を低率に保つことができており，仕事や育児などの都合で術後早期に退院を希望される患者のニーズに対応できている．
栄養指導実施件数は2021年に25％の著明な増加があったため，2022年は1,811例と昨年並であったが，新入職員の教育を行いながら，個々の患者の病態に応じた細かい対応を行った．週1回自費での減量カウンセリングについては89例と例年並であったが，術後リバウンドの際などメンタル面でのフォローに貢献度が高かった．

初診から術後まで経過を通してチーム医療の円滑化に対応すべく減量コーディネーターが患者連絡の窓口となり予約の調整や初診の聴取など多岐にわたる業務を担っているが，働き方改革を念頭に置いたタスクシフトの最前線で診療介助事務員の育成及び業務効率の改善にもよく取り組んだ.

②大学病院への手術導入支援

減量・代謝改善手術の導入にあたり3大学病院より協力要請があり，手術見学の受け入れ，オンラインでのレクチャー，手術導入支援を行った．いずれの病院も合併症を認めず安全な導入が可能となっている.

1）神戸大学　5月19日，7月21日，8月18日　手術指導．肥満症治療について海外で短期臨床実習を希望する医学生との面談を行った.

2）京都大学　8月9日に第2回目の手術指導

3）奈良県立医科大学　5月18日に当院での手術見学．8月25日にはチームビルディングについて，外科・内科医師，病棟看護師，栄養士対象にオンラインでの講義を行った．講義終了後に1例目の症例検討会を行い，9月22日に1例目の腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を行った.

③学術業績

・2022年当センターからの学術発表件数は計49件と前期34件より大幅に（44％）増加し，これまでの6年間で最多となった．特に肥満関連では日本で最も大規模の学会である日本肥満学会JASSO・日本肥満症治療学会JSTO合同学会では，ここ数年で外科治療の報告が急速に増加している．当院は毎年多くの報告を行い学会を盛り上げているが，減量チームのメンバーも増加しこれまでで最多演題数となった．2021年の会が延期となり春と冬に2回開催されたが，合わせて20演題と全国トップクラスの発表演題数となった.

・2月には高BMIの手術症例を紹介いただいている岡山大学より「肥満症治療を考える会」へ招待され，「高度肥満症・糖尿病に対する多職種チームアプローチの実際」と題した講演で当院の減量チーム医療を紹介した.

・3月のJASSO/JSTOでは，第一会場で朝一番の合同シンポジウム「肥満症に対するチームビルディング－その実際と課題－」において北浜が座長を務めたが，当院の特徴である減量コーディネーターの取り組みについて平井より，精神科 山本誉磨医師より，当院における精神科診療の実際について報告を行った．2日目には当院で先駆けて施行している腹腔鏡下修正RY胃バイパスの短期成績についても報告した.

・5月に幕張で行われた日本肥満症治療学会公認の肥満症総合治療セミナーでは，講師として術後リバウンドに対する対応，サポートグループの導入についてのレクチャーを行った.

・10月に当院の麻酔科主催で法人内の高槻病院・明石医療センターと合同のセミナーがあり，麻酔科，外科，呼吸器内科から減量・代謝改善手術の実際について講演を行った.

・11月にフィリピンのマニラで開催された第7回国際肥満代謝外科学会アジア太平洋支部会議IFSO-APCのシンポジウムに北浜が講師として招かれ，超重症肥満に対する減量・代謝改善手術の日本での現状，当院の手術成績，当院の治療アルゴリズムについて概説した.

・12月に沖縄で開催されたJASSO/JSTOは，那覇空港からモノレールで15分の「文化芸術劇場なはーと」で行われた.

初日の朝一番のシンポジウムでは，今年から新しく減量チームのメンバーに加わったMEの松尾より当院で先駆けて行っているスコピスト業務について報告した．厚生労働大臣が指定する研修を受け資格を得るまでの道のりや，手術時間が短縮されたことを報告した．また，減量コーディネーターの住所より，新しい取り組みである「WEB問診を用いた診療支援」について報告した．減量・代謝改善手術後には肥満に関わる病気が大幅に改善することが多く，様々な研究で生活の質（クオリティ・オブ・ライフ）が改善することが知られている．日本でも近年減量手術の件数は順調に増加しているが，欧米はもちろんほかのアジア諸国と比べてもまだ圧倒的に少ないため，生活の質の向上を数値化し評価，発信していくことが当院の重要な役割と考えている．このような取り組みに関わる事務的な負担は大きいが，アンケート用紙を電子化したWEB問診票を用いることで集計する作業と用紙の削減ができ，記入漏れが減少し医師がスピーディーに正確な情報を得られるようになったことについて報告した.

ランチョンセミナーは会場満員の中，北浜より消化管バイパス手術の適応や手術方法の実際について動画を用いて紹介した．現在はスリーブ状胃切除術のみが保険適応であるが，多施設で協力してバイパス系手術を保険適応にし，病態に即した手術が受けられるように取り組んでいく必要がある，と締めくくった.

チーム医療を促進するために考案されたセッションで，医師と栄養士がそれぞれの立場から交互に意見を述べるという形で北浜と管理栄養士の田中より発表を行った．術後にフォーミュラ食をしっかりと摂取することで栄養素欠乏を全く認めずに術前の46%と極めて良好な減量を得られた症例について報告した.

また，北浜が減量・代謝改善手術フェローとしてア

メリカへの臨床留学を行うことになった経緯やその方法について講演を行い，帰国後10年経過しようやく当院でも減量フェローを受け入れる体制ができたことについて報告した．若手医師へのメッセージとして，今しかできないことに取り組むとよいこと，実際に足を運び自分の目で確かめること，国境にとらわれないグローバルな医療を目指して取り組んでほしい，と締めくくった．

・これまで日本ではGERDや，高位までの逆流を特徴とする咽喉頭逆流症（LPRD）の診断から治療までを体系的に記した教科書が存在しなかったが，6年前より当院へ技術支援を頂いている北方敏敬先生が編者となる「PPIが効かない！その時にどうする？　胃食道逆流症（GERD）・咽喉頭逆流症（LPRD）の診かた」が本年7月に発刊され，GERDの内視鏡的治療の章について北浜が執筆した．LPRDは症状が多彩であり診断に至るまで耳鼻科や呼吸器内科へ受診されることが多いが，現在では上記教科書を患者が読んで遠方から受診されるケースが増えている．24時間pHインピーダンスモニタリングや，高解像度マノメトリを用いた正確な診断や治療法について，更なる啓蒙活動の余地が大きいと考えている．

・医療通訳の伊藤はメディカルイラストレーターの技能もあり，スリーブバイパスの手術について一般の方にもわかりやすく図解し，論文化した．

・その他，消化器内科よりNASHの改善効果やブラジルで受けた減量術後合併症に対し内視鏡的な加療を行った症例報告，泌尿器科より減量術前後の排尿について，腎臓内科より減量術後肥満関連腎症の改善について報告した．

④内視鏡的スリーブ状胃形成術（ESG）の準備状況について5月にバンコクで行われた内視鏡縫合のハンズオンセミナーへ参加し，北浜が縫合デバイスを使用するための認定を受けた．ESGの際などに一般の内視鏡に密着させ用いるOverstitchというデバイスで，今後日本での販売承認が期待されている．

⑤ロボット手術

世界中で多くの外科手術がロボット手術へ移行しているが，特に腹壁が厚い症例や縫合を多用する減量・代謝改善手術においてもロボット支援手術の有用性が示唆されている．当科でも北浜が6月にDavinci certificateを取得し，保険適応のある胃がんや大腸がんに対するロボット支援手術を開始した．減量・代謝改善手術の開始へ向け段階的に準備を進めている．

12月に名古屋で行われたアジア太平洋ロボット手術学会（ACRLS2022）でdisscussantとして招待され，「Is Robotic surgery useful for bariatic treatment?（減量手術にロボット手術は有用か？）」という設問に対し英語でのディスカッションを行った．ロボット手術では3D画像でより拡大された視野が得られるだけでなく，3本目の鉗子を扱えることで助手に依存していた動作の再現性・正確性が高まることがメリットの一つと考えていることを述べた．

今後の展望

減量・代謝改善手術の分野は日進月歩であり，新しいIFSOガイドラインでは，手術適応が大幅に広くなった．国際的には新たな治療方法として内視鏡的，ロボット支援下での減量治療が開始され，急速に広まっている．このように目まぐるしく変化する状況の中，新たな治療モダリティへの準備を行いつつ，学術発表の件数を飛躍的に伸ばし手術件数の増加を維持できたことは大変喜ばしいことである．

学術発表件数の増加は症例が積み重なりチームが成熟してきたことも大きいが，肥満症に関わる合併症が11と多く，ほとんどの科と連携して研究が可能であることも理由として挙げられる．今後は更に院内他科との連携を強めながら，手術導入支援などの対外教育活動を通じ，国内外の肥満・糖尿病のチーム医療の普及に貢献していきたい．国際学会での発表や交流を通じ，知識をupdateしつつ手術成績を高め，国際水準の集学的医療を行っていくことが当センターの責務と考えている．来期は当院で減量・代謝改善手術の研修を希望する非常勤医の参画を見込んでいるが，常勤のフェローやInternational fellowの受け入れについても募集を開始する予定である．

腎臓内科

スタッフ紹介

中西昌平：日本透析医学会専門医・指導医，日本腎臓学会専門医・指導医，日本内科学会認定医・総合内科専門医（2022年3月退職）

服部英明：日本透析医学会専門医，日本腎臓学会専門医・指導医，日本内科学会認定医・総合内科専門医，腎代替療法専門指導士

堂﨑良太：日本専門医機構内科専門医

川崎　創：日本専門医機構内科専門医（2022年4月～）

高橋哲也：日本糖尿病学会専門医・指導医，日本内分泌学会専門医・指導医，日本病態栄養学会専門医・指導医，日本内科学会認定医・総合内科専門医，千船クリニック所長

診療内容

腎炎・ネフローゼ症候群，電解質異常，急性腎障害，慢性腎臓病，維持透析の合併症，急性血液浄化などを中心に入院加療を行っている．

血液透析室では入院・外来患者の血液透析や，腹膜透析血液透析併用患者の血液透析，腹水濃縮再還流療法，顆粒球除去療法などを行っている．ICUと隣接している利点を生かし，重症患者はICUにて血液透析を行っている．

腎センター外来では，腹膜透析患者，腎移植患者やドナー，内シャント造設準備中の患者などの診療を，腎臓内科と泌尿器科が共同で行っている．

腎センター専属看護師にて血液透析・腹膜透析や腎移植外来の介助を行っている．腎看護外来（腎不全保存期の患者の生活指導，透析療法選択，透析導入のサポート，腎移植の紹介）や腹膜透析導入患者の退院前・退院後家庭訪問を行っている．

2021年10月金所長の急逝によりシャントPTAを一時中断していたが，2022年度より泌尿器科・樋口副院長によりシャントPTAが再開された．

2022年のトピックス・実績

2022年6月，第65回日本腎臓学会学術総会にて「高度肥満症の減量手術による尿蛋白減少効果の検討」を堂﨑良太が発表した．

服部英明が日本腎臓学会指導医，腎代替療法専門指導士を，川崎創が日本専門医機構内科専門医を取得した．

今後の展望

腎炎・ネフローゼ症候群に対し，診断確定や適切な治療方針決定目的に，積極的に腎生検を行っていく．

腎センター外来にて，腎代替療法選択外来を積極的に行い，血液透析，腹膜透析などの積極的導入や，生体腎移植，献腎移植登録を進めていく．

表１．入院実績　（単位：件）

	2020年	2021年	2022年
CKDとその合併症	62	37	36
腎炎・ネフローゼ症候群	44	21	26
電解質異常	4	19	27
教育入院	0	1	2
膠原病	2	0	2
血管炎とその合併症	7	4	5
血液透析導入	24	19	17
血液透析の合併症	50	41	27
腹膜透析導入	6	2	3
腹膜透析の合併症	3	3	7
腎生検	15	11	15
PET検査	5	2	0
PTA	59	29	2
内シャント造設術	18	4	7
腹膜透析カテーテル留置	3	0	2

表２．血液透析実績

	2021年	2022年
総透析回数（回）	1,697	1,766
透析回数月平均（回）	141	147
導入患者数（人）	22	17
死亡患者数（人）	5	6

	2021年	2022年
持続血液濾過（回）	4	2
エンドトキシン吸着療法（回）	0	0
顆粒球吸着療法（回）	5	35
血漿交換（回）	0	3
腹水濾過濃縮再静注療法（回）	35	64

救急診療部

スタッフ紹介

主任部長：林　敏雅
　救急科専門医
医長：山下公子
　救急科専門医
　産婦人科専門医，社会医学系専門医
　日本DMAT隊員，JICA国際緊急援助隊隊員

診療内容

2011年4月に救急診療部として診療が始まった．2012年1月には救急科専門医指定施設に認定された．同年4月からは救急医2名による診療体制となったが，2016年には再び救急医1名となり，2018年より救急医2名による診療となった．院内にはもう1名救急専門医がおり，院内の常勤の救急専門医は3名となる．主たる診療は，日勤帯の救急搬送，外傷，一般外来受診予定であった患者が外来で緊急性が高いと判断された場合の対応，院内の急変への対応も行っている．院内救急体制の一部であるRRT（rapid response team）の一端も担っている．救急センターはER方式で行っており当科で初療を行った後に専門医の加療，若しくは入院加療が必要な場合には該当科への引き継ぎを行っている．

救急医は平日日勤での対応が主となっており，夜間帯は各科からの当直医師による診療となっているが，内科医師，整形外科医師，脳外科医師，外科系医師，産婦人科医師，小児科医師の強力な協力体制による救急受け入れを行っている．

2022年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の流行に伴って，減少していた搬送件数も徐々に増加している．大阪市全体の搬送件数の変化にも影響されているものと思われる．一方で，今年は救急搬送からの入院割合に関しては約30％と前年と比較すると低下した状態となった．救急センターでは，救急搬送を対応可能な限り受け入れを行っており，重症や軽症を選択して受け入れしているわけではないため，昨年ほどの入院割合には到らなかったものと思われる．一方で，一時期，新型コロナウイルス感染症の流行により，搬送件数は減少したが，それでも5,000件/年を下回ることはなく，その後は年々増加傾向にある．昨年は一次脳卒中センターの開設により，急激な増加が見られたが，今年は新型コロナウイルス感染症の影響か脳卒中の搬送はやや減少していた．

今後の展望

新型コロナウイルス感染症の流行は変わらずと思われるが，徐々に大阪市の搬送件数も増加傾向にある．一般外来での受診と異なり，救急を受診する患者は，緊急的な対応が必要となることが多い．多くの受診を望むことは不適切なことではあるが，地域のニーズに合わせて，今後も積極的な受け入れを行っていきたい．

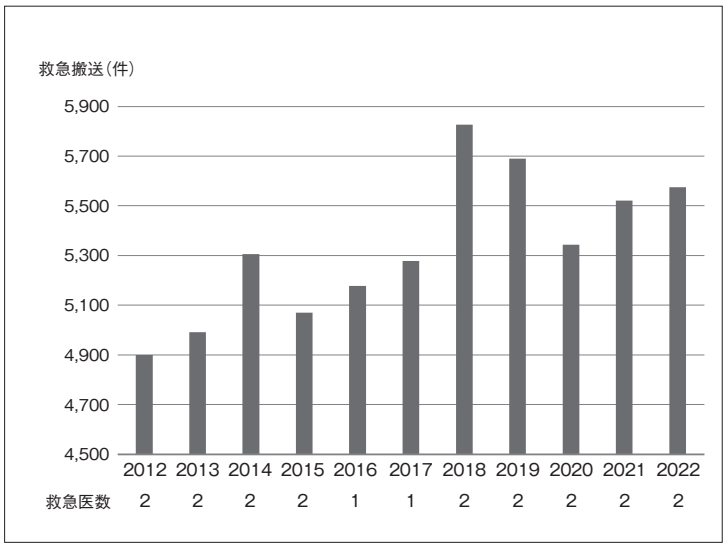


図１．救急搬送件数の推移

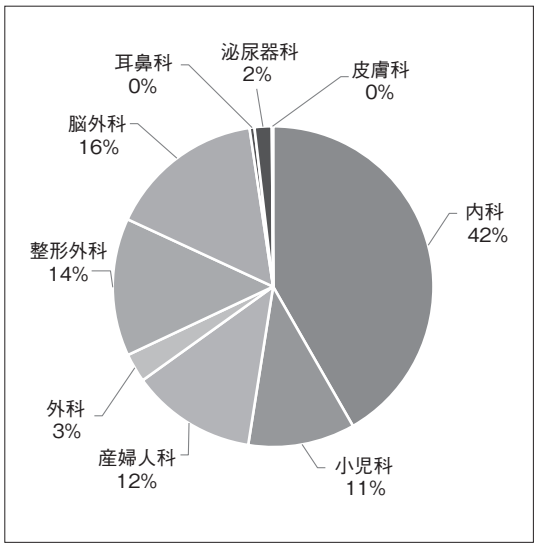


図２．搬送科別割合

外 科

スタッフ紹介

向井友一郎（副院長）
山元康義（主任部長）
北浜誠一（部長）
大浦康宏（部長）
桃野鉄平（医長）（～2022年3月）
三原俊彦（医員）
今村清隆（非常勤）

診療体制又は活動内容

桃野医師の退職により32年間維持してきた24時間救急応需体制の維持が困難となった.

鏡視下ヘルニア手術の今村医師が非常勤ではあるが赴任し，ヘルニア手術はほぼ鏡視下で行うようになった.

2022年のトピックス・実績

血管外科，緊急手術症例の減少により残念ながら手術症例数は減少した.

da Vinci手術を10例に施行した．今年は直腸のみならず大腸にも適応を拡大し導入を行った．da Vinci手術の増加により他科との有効利用を行い症例数の増加に努めている.

鏡視下手術は順調に件数が増えているが，手術時間が長くなることにより，行える件数が頭打ちになる傾向もあり，このことも手術症例数の減少につながっているが，症例数をこなすことによるrunning curveから手術時間短縮を目指している．実際にこの結果，現在では肥満減量手術は縦一列から1日2例が標準的に行われるようになっている．これにより順調に症例を積み重ね西日本では症例数1位をkeepし北浜は奈良県立医科大学などへ本術式の導入指導も行った.

学会発表も消化器外科学会，外科系連合学会，肥満学会などの全国学会での発表を積極的に行い，2編の論文発表も行った.

今後の展望

本年度は三原が外科専門医を取得した.

da Vinci手術の導入は順調に行われ症例を積んでいる．大腸癌でも行えたが，残念ながら胃癌症例でのda Vinci手術開始は次の年の目標となった.

これらを増加することで悪性疾患手術症例の増加に努めたい．また今村はda Vinci手術でのヘルニア手術の導入に向け意欲的に活動を行っている.

働き方改革により勤務時間の限界があり，今までボランティア的に行ってきた勤務体系の維持は困難となっている．人材の確保が今後の外科の生き残りの最大のポイントとなると考えられるため最大の目標は人材確保である.

表．4年間の手術症例数の推移

（単位：件）

	呼吸器	血管外科	消化器・一般	乳腺	小児外科	合計
2019年度NCD登録症例数	16	112	565	33	31	757
2020年NCD登録症例数	13	76	606	32	39	766
2021年NCD登録症例数	11	13	614	49	22	709
2022年NCD登録症例数	9	1	580	43	16	649

※2020年以降年報の対象期間が1月1日～12月31日

整形外科・関節センター

スタッフ紹介

常勤医師
・松田　茂（1997年卒　リハビリテーション科部長）
・鄭　克真（2002年卒　整形外科部長, 関節センター長）
・蓑田正也（2007年卒　医長）（2022年3月退職）
・荒木祥太郎（2016年卒　後期レジデント）（2022年3月退職）
・尾上雲花（2019年卒　後期レジデント）（2022年3月退職）
・原田義文（2007年卒　医長）（2022年4月着任）
・前田琢磨（2016年卒　医員）（2022年4月着任）
・横田和斗（2018年卒　後期レジデント）（2022年4月着任）
非常勤医師
・和田健佑（2015年卒　神戸大学大学院）

それぞれの専門分野を活かして専門外来診療を設定し，地域医療に尽力している．2022年4月より，手の外科専門医資格を持つ原田義文医師が赴任した．後期レジデントは十分な臨床の経験と知識・技術を研鑽できるような環境を整備し，臨床研究と発表を行うように指導している．

診療内容

①外来診療

初診を含め全て予約制としている．紹介患者専用予約枠を確保し，地域の医療機関からの患者紹介を円滑に行えるよう努めている．紹介患者数も順調に増加している．また，各スタッフの専門性を活用し，関節センター（鄭医師），小児整形外科（蓑田医師），リウマチ（松田医師）の専門外来を行い地域への浸透が進んでいる．2022年4月より，原田医師が手の外科専門外来を開始した．

②手術

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い，外傷疾患の入院の受け入れだけでなく人工関節手術を含めた待機的手術も延期や中止を余儀なくされ，2021年では644件と減少した（2020年：798件）．しかし，大腿骨近位部骨折などの外傷疾患の受け入れをはじめ，地域医療の貢献を心掛け，人工関節手術症例の紹介など徐々に復調し，2022年は778件と新型コロナウイルス感染症拡大前（2019年：738件）に比べて増加した．2022年4月より赴任した原田医師の手の外科領域の外来手術が加わったことも増加の要因となっている．人工関節手術に関してナビゲーションシステムを導入し精度の高い手術を提供するよう心掛けている．月に1回整形外科領域の手術について手術室看護師向けに勉強会を開催し，患者へのより高度な技術を持った手術を提供するように精進している．

③病棟診療

主に7階東病棟を利用し，毎日医師数名による回診を行っている．担当する理学療法士と定期的なディスカッションを行い，患者個別の治療計画を立てている．また，月に1回の頻度で整形外科医師より勉強会を開催し，病棟看護師は整形外科患者が持つ特有の病識や病態を理解し看護に努めている．

2022年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の感染拡大や寛解を繰り返し，その対応に追われる年であった．入院受け入れを制限される中，緊急事態宣言が発出された際には外傷の受け入れの制限と人工関節を含めた待機的手術を中止せざるを得ない状況であった．

そんな中，蓑田医師が2022年3月に退職し，4月に原田義文医師が赴任した．手の外科専門医とは，生活習慣や災害，スポーツ活動によって発生する上肢全般，特に手に関する疾患と障害の発生予防・診療に関して，整形外科専門医資格を取得した後に指定医療機関で特別な研修を受け，日本手外科学会が認定した資格であり，全国でも1,000人程度しかいない．サブスペシャリティの能力を基に，最新の地域医療を提供し，地域住民の運動器の健康維持に貢献することに努めている．

①人工関節手術

コンピュータを用いたナビゲーションシステムの利用により医者の勘に頼らない高い精度の手術提供に努めるとともに，術中の様々な条件でのデータ収集が可能であり，臨床研究や学会発表に繋がっている．上述のとおり2021年は新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い手術希望の紹介を含めた受診は低迷した（2011年：64件，2013年：92件，2015年：97件，2017年：103件，2018年：130件，2019年：134件，2020年：134件，2021年：76件）が，ウィズコロナとして入院中の対策（入院時検査，健康状態確認の徹底，感染患者や外来患者との分離，術後入院リハビリプログラムの短縮化）を行い，ご紹介いただく近隣の医療機関への周知活動をもって手術件数が回復した（2022年116件）．例年行っている人工関

節置換術後患者で構成する患者会（健歩の会）のレクリエーションは前年に引き続き中止せざるを得なかった．多くのコメディカルの協力の下，手術患者向けのしおりを作成活用し，病棟でのビデオリハビリ時間を設けるなど，今後に繋がる手術術後ケアに注力し満足度向上を目的とした活動に努めた．また，webを用いた地域医療機関への講演会開催や，ウェブテレビや動画などの広報活動を行い，人工関節手術を中心とした業務の拡充活動に尽力している．

②大腿骨近位部骨折に対する院内外の連携

当院では大腿骨近位部骨折を「高齢者の単なる骨折」としてではなく，「骨折を有している高齢患者の一疾患」であるという概念の下，多職種連携アプローチに取り組んできた．2018年度より本格始動し，手術待機平均日数の短縮，入院日数の短縮に繋がっている．当科では平均待機日数は1.5日未満を維持している．

大腿骨近位部骨折患者を「骨折を有している高齢患者の一疾患」として捉え，院内の内科医師との連携強化をより一層行う．本骨折を罹患した高齢者において約3～4割に何らかの術後合併症を発症するといわれている．2020年の入院以降より総合内科医師の協力が得られ，全身管理介入を依頼することで，より術後合併症の軽減に努めている．

一方，2019年より開始した「地域連携パス」を活用している．当院での骨折に対する加療と併行した骨粗鬆症治療の開始と転院先での加療継続により対側の近位部骨折やほかの骨粗鬆症性骨折の予防に努めている．術後の日常生活動作など必要な情報を連携する医療機関へ提供し地域近隣医療機関との連携，病診・病病連携を強化した．回復期リハビリ病院への転院を円滑に行い，術後の急性期入院期間の短縮が実現できている．

③研修医への指導

初期研修医への教育指導の一環として，「スキルアッププログラム」と称し当科主導で研修医の指導を月に1度行っている．診療材料メーカー協力の下，模擬皮膚を用いた縫合の練習や整形外科手術のワークショップを行うことで初期研修医の技術向上の一助となるだけでなくコミュニケーションの向上となるよう努めている．

整形外科志望の研修医には外来診療からIC，手術業務まで後期研修に向けた実臨床の研鑽を積めるように指導した．加えて学術活動も併行して行い，日本人工関節学会での発表に繋がった．

今後の展望

①整形外科における専門性の向上

整形外科は専門分野が細分化されており，紹介する医療機関も紹介先の専門分野を知った上で紹介いただくことが多い．近隣の医療機関より当院へ名指しでご紹介いただけるような新たな専門分野の獲得と，拡大を目指す．

②近隣医療機関や院内職員との連携強化

人工関節手術業務の拡充はひとえに近隣医療機関からのご紹介や当院で手術を受けた患者の高い満足による口コミによると考えている．当科ではICTを用いた病診連携システムを構築し，近隣医療機関と患者相談や情報の共有が可能である．今後，院内外での科を超えた患者の紹介・逆紹介を更に積極的に行い大阪市内での病病連携の拡充を目指したい．

加えて，各部署の看護師や理学療法士に向けて勉強会を毎週行っている．院内職員間での当科の業務内容を共有することで，人に勧められるような自信「Chibune PRIDE」を持ったブランディング医療の提供を目指す．

③初期研修医，後期レジデントの教育

初期研修医への教育指導の更なる充実はもとより，当科の魅力を紹介しリクルートも積極的に行いたい．慢性期疾患を基礎として，急性期疾患に十分対応できるように指導したい．その上で学術活動を支援し，大学関連病院の一関連施設として教育機関の役割も果たしていきたい．

表．2022年手術実績

（単位：件）

手術名			件　数					
			2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
関節センター手術	人工関節置換術（116）	TKA（人工膝関節）	103	97	110	111	59	101
		THA（人工股関節）		33	24	23	17	15
	関節鏡視下手術，スポーツ手術		33	21	39	36	42	33
大腿骨近位部骨折（HF）（155）	大腿骨頚部骨折	人工骨頭置換術	53	46	49	43	57	65
		骨折観血的手術	−	75	93	111	100	90
	大腿骨転子部骨折	骨折観血的手術						
		外傷手術（HF以外）	298	232	334	343	292	324
		上肢手術	−	0	−	51	33	77
		リウマチ	−	0	2	0	0	0
		下肢手術	−	0	−	34	22	36
		小児	−	0	31	32	4	26
		その他	129	147	56	14	18	11
合計			616	651	738	798	644	778

リハビリテーション科

スタッフ紹介

【医師】
松田　茂　住谷充弘
【理学療法士】
村田尚寛　坂口勇貴　竹井夕華　成原智子　藤井真央
椎葉勇生　白岩梨紗　小宗英貴　竹内　紬　住平　望
中村愛依　大久保和哉　芝　将希　藤井萌佳
松井美南　永尾智哉　氏内康友　久保宏弥　佐伯静香
橋口鈴香（～2022年10月）
【作業療法士】
畑　祐子　岩崎梨那　藤山美佳　前田紘伸　川崎美来
中西ひかる　水野紀恵（～2022年4月）
【言語聴覚士】
加納瑞恵　池内洋子　瀬崎加絵　稲田一花　小西茉里奈

業務内容

1. 理学療法業務

当院の理学療法の対象は，整形外科疾患が最も多い．その他では，脳血管疾患を中心とした脳外科疾患，内科では糖尿病，慢性呼吸不全，急性心筋梗塞後，外科では術後の呼吸リハやADLの改善にも取り組んでいる．TKAと減量外科に関しては午前中の手術である場合，状態に合わせて術当日夕方からの離床を開始するなど，症例に応じ超早期からの介入を開始している．

退院に際しては，患者が円滑に日常生活を送れるよう退院時指導を行っており，引き続きリハビリテーションが必要な患者には，外来にてフォローを行っている．

2. 作業療法業務

入院患者では，主に脳血管疾患の急性期，上肢骨折などの整形外科疾患を中心に作業療法を実施している．認知症患者に対する評価や精神賦活，また，長期臥床後の廃用症候群などについても退院に向けてのADL訓練に積極的に介入している．外来患者では主に手の骨折などの整形外科疾患を中心に作業療法を実施している．

3. 言語療法業務

言語療法は，主に呼吸器内科，内科，脳神経外科からの依頼をもとに失語症・構音障害・音声障害・嚥下障害などの言語聴覚療法を行っている．また，嚥下回診や物忘れ外来，外来小児の言語発達検査等にも取り組んでいる．

4. 訪問リハビリテーション

訪問看護ステーションほほえみから訪問リハビリテーションを行っている．また，当院を退院された患者で必要なケースについては訪問リハビリテーションと連携し，退院後スムーズに在宅生活が送れるように取り組んでいる．

5. 地域事業

2022年度より地域の健康関連イベントやウォーキングイベントを開催．西淀川区主催イベントにてサルコペニア・認知症をテーマにブースを設置（年2回）．千船病院主催イベントにてウォーキングイベントを実施（年2回）．その他，関連企業や団体とのイベントで健康ブースを設置（年2回）．今後も継続して地域への取り組みを行う．

2022年のトピックス・実績

2022年活動実績を表示する（図表1～2）．

周術期の介入に対して取り組みを実施．泌尿器領域や小児領域でのリハの拡充を図った．また新型コロナウイルス感染症に対する理学療法・言語聴覚療法の介入も開始した．学会発表は第72回日本病院学会，第28回日本心臓リハビリテーション学術集会にて演題発表を行った．また臨床チーム（整形外科・肥満糖尿病・認知症・心大血管・ウィメンズヘルス）では当院でのエビデンスの確立や研究発表に取り組んだ．

今後の展望

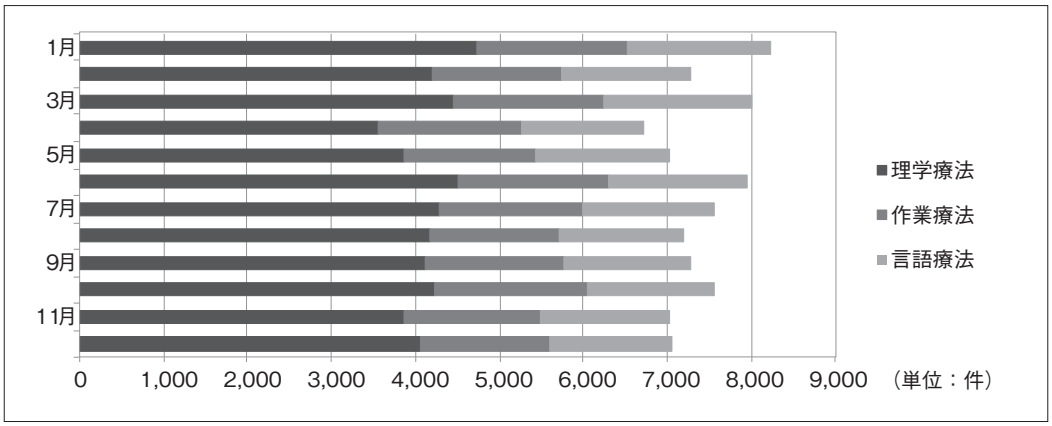
急性期病院のリハビリテーション科の役割として，今まで以上に早期介入，早期退院への取り組みが必要とされている．理学療法・作業療法・言語聴覚療法の3職種がチームとしての活動と臨床チームをより発展させ，早期退院や退院後の生活の安定に繋げていきたい．また，急性期から在宅へ幅広いニーズに対応できるよう，それぞれの専門性を高め，技術の向上や地域事業への参画をすすめる．

【各種学会認定取得者】
がん患者リハビリテーション料研修修了者　7名
認定理学療法士
（脳卒中）2名　（管理・運営）1名　（補装具）1名
心臓リハビリテーション指導士　1名
3学会合同呼吸療法認定士　3名

図表１．リハビリテーション科活動実績

（単位：件）

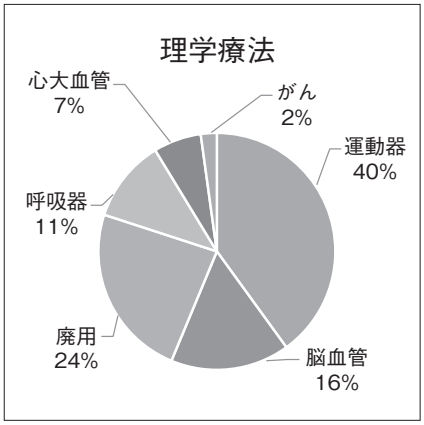
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
理学療法	4,746	4,203	4,463	3,564	3,868	4,508	4,286	4,174	4,127	4,239	3,866	4,056	4,175
作業療法	1,783	1,534	1,793	1,689	1,578	1,781	1,719	1,540	1,634	1,799	1,621	1,532	1,667
言語療法	1,694	1,552	1,748	1,477	1,592	1,663	1,559	1,481	1,522	1,528	1,538	1,482	1,570
合計	8,223	7,289	8,004	6,730	7,038	7,952	7,564	7,195	7,283	7,566	7,025	7,070	7,412

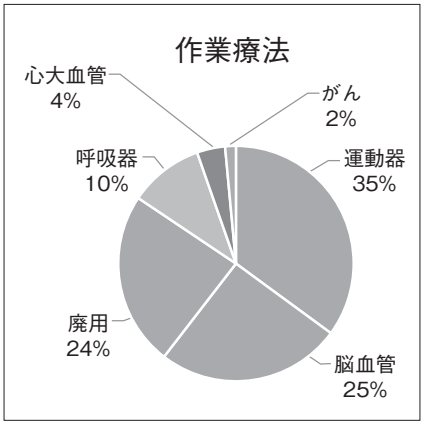


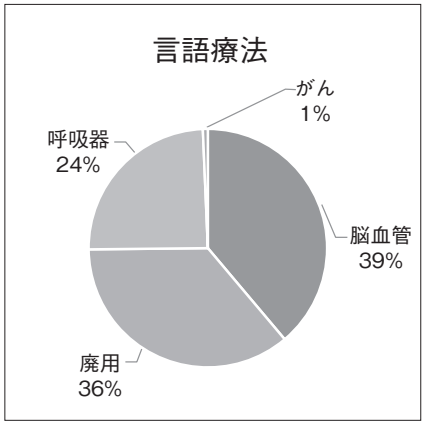
図表２．疾患別リハビリテーション内訳

（単位：件）

	運動器	脳血管	廃用	呼吸器	心大血管	がん
理学療法	12,896	5,237	7,650	3,636	2,102	704
作業療法	4,809	3,483	3,282	1,405	531	203
言語療法	—	4,334	4,014	2,732	—	75







泌尿器科

スタッフ紹介

常勤医師　川口理作（1979年卒，部長）
樋口喜英（1997年卒，副院長）
花咲　毅（2010年卒，医長）
新開康弘（2013年卒，医員）

非常勤医師　野島道生
新開裕佳子

診療内容

腹腔鏡手術数（副腎腫瘍，腎癌，腎盂尿管癌，尿膜管摘除）は手術入院制限の影響もあり例年より少なかった．経尿道的膀胱腫瘍手術は38例と減少したが，ロボット支援腎部分切除2症例，ロボット支援下前立腺全摘術25例などロボット支援悪性腫瘍手術は軽度の減少にとどまった．排尿障害に対する手術治療（経尿道的レーザー前立腺蒸散術）や小児泌尿器科領域，尿路結石症などの良性疾患についても減少した．しかしながら地域における尿路結石性感染症に対するニーズは多く，救急診療や入院対応は素早く行っており治療結果は良好である．腎移植を含めた腎代替療法の相談は増えており，腎不全外科領域のシャント手術及び経皮的シャント拡張術の適応症例は徐々に増えており，腎センター業務のうち，内科治療と透析管理以外を泌尿器科が請け負っている．

2022年のトピックス・実績

腎センター：シャント閉塞に対する血管内治療（VAIVT）は27例で，紹介患者は増加傾向．

腹腔鏡下膀胱全摘術及び尿路変向術：自診療科による腸管利用手術実施で合併症は認めていない．

接触式前立腺レーザー蒸散術：安全性を確保維持し症例を重ねている．肥満患者の排尿機能に関する学会発表なども行っている．

放射線科TV室におけるステント交換や逆行性尿路造影検査の症例数が増加している．

今後の展望

- 透析シャントの機能維持：透析クリニックとの連携による経皮的シャント拡張術の迅速な実施と症例数増加
- 適応疾患への実施による腹腔鏡手術件数の増加
- ロボット支援手術の適応術式拡大による症例数増加
- 尿路結石に対するレーザー治療の利便性の向上
- 近隣医療施設からの救急要請への対応力増強

表．主要手術実績　（単位：件）

手術症例数	2022年
生体腎移植術	1
腹膜透析カテーテル留置	3
ブラッドアクセス造設術	21
経皮的シャント拡張術	27
腹腔鏡下副腎摘出術	1
腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	9
ロボット支援下腹腔鏡下腎部分切除術	2
膀胱全摘・尿路変向術	1
経尿道的膀胱腫瘍切除術	38
ロボット支援下前立腺全摘除術	25
経尿道的前立腺レーザー蒸散術	10
体外衝撃波破砕術	11
経尿道的尿管砕石術	59
経尿道的膀胱結石砕石術	10
陰嚢水腫根治術	8
停留精巣固定術	6
精巣捻転手術	2
腹腔鏡下尿膜管摘除術	2
尿道下裂形成手術	2

脳神経外科

スタッフ紹介

部　長　朝田雅博（1973年卒）
　　日本脳神経外科学会専門医・指導医
部　長　榊原史啓（2006年卒）（～2022年3月）
　　日本脳神経外科学会専門医・指導医，脳卒中学会専門医・指導医，脳神経血管内治療学会専門医
　　岡田崇志（2010年卒）（2022年4月～）
医　員　澤村　壮（2017年卒）（～2022年3月）
　　千田大樹（2015年卒）（2022年4月～）
非常勤　清水嘉偉（2019年卒）（2022年7月～）

診療内容

2021年4月から脳神経外科の常勤医は3名体制（以前は2名）となっている．兵庫医科大学脳神経外科からの応援を得て，当直は週5日（土日はオンコール）行っており，専門外来についてはそれぞれ，脊椎外科を陰山博人先生（火曜日），小児脳神経外科・脳腫瘍を阪本大輔先生（水曜日）に，大学より出向で担当いただいている．

急性期脳主幹動脈閉塞症例については，平日であれば当院でも血栓回収療法を行える体制を確立している．また脊椎手術についても，当院で実施できる体制にある．

2022年のトピックス・実績

救命医師や内科医師の方々にご協力いただき，脳卒中症例を24時間体制で受け入れている．2021年度からは，日本脳卒中学会より一次脳卒中センターの認定を受け，それに伴い脳卒中ホットラインも開設した．

手術件数は75件（2021年109件）と減少したが，顕微鏡手術は31件（2021年31件），脳血管内治療は14件（2021年21件）と，ほぼ変わらない件数を維持している．また，脳血管内治療に関しては，兵庫医科大学より指導医である蔵本要二先生をお呼びし，緊急での対応も行っている．

今後の展望

西淀川区唯一の総合病院脳神経外科として，外来診療及び救急医療を通して，患者さん一人ひとりに対して質が高く優しい医療を提供し，地域医療に貢献していく．また，24時間365日脳卒中患者さんを受け入れ，t-PA静注療法及び血栓回収療法を含む急性期診療を行える一次脳卒中センターとして，西大阪の脳卒中医療を支えていく．院外では引き続き兵庫医科大学脳神経外科と緊密に連携を取り，院内ではほかの診療科や看護師，リハビリスタッフといった多くの職種と円滑なチームワークを形成し，脳卒中診療体制を築いていく．

これまでに当科で初期研修を積んだ医師が数名，兵庫医科大学脳神経外科に入局した実績もあり，今後も大学と連携しながら，若手医師へ脳神経外科入局の勧誘を行っていく．また，今後彼らが千船病院脳神経外科へスタッフとして戻りたいと思えるような，やりがいのある職場を作っていきたい．

表．2022年実績

（単位：件）

		2022年
脳血管障害	脳内出血	7
	くも膜下出血	7
	未破裂脳動脈瘤	0
	頸動脈内膜剥離術	6
	バイパス術	0
	血管内手術	14
脳腫瘍	髄膜腫	3
	神経膠腫	0
	転移性脳腫瘍	3
	海綿状血管腫	0
脊髄脊椎	頸椎前方固定	3
	頸椎椎弓形成術	1
	腰椎椎弓切除術	1
機能外科	水頭症	3
	神経血管減圧術	0
頭部外傷	急性硬膜下出血	5
	急性硬膜外出血	1
	慢性硬膜下血腫	18
その他		3
合計		75

皮 膚 科

スタッフ紹介

常勤医師：松本いづみ

診療内容

外来診療：
・皮膚科一般
・病棟依頼診察
・褥瘡回診
・ダーモスコピーによる非侵襲的検査・診断
・男性型脱毛症に対するプロペシア（自費）の処方
入院診療：
・帯状疱疹，蜂窩織炎，褥瘡など
　集学的治療の必要な悪性疾患，紫外線照射装置による検査・治療が必要な場合は，他院へ紹介している．

2022年のトピックス・実績

9月から千船クリニックの訪問診療に参加している．

今後の展望

千船病院での外来診療，千船クリニックでの訪問診療ともに地域医療に貢献するよう努めたい．

眼 科

スタッフ紹介

主任部長　中村礼恵
非 常 勤　中村　誠，今井尚徳，松宮　亘，長井隆行，高野史生

診療内容

外来では，一般眼科，小児眼科の診療を主に行っている．また，月に一度緑内障，神経眼科の専門外来も行っている．

手術は，白内障手術を中心に，硝子体手術，緑内障手術，外眼部手術を行っている．

また，全身麻酔下にて小児の霰粒腫などの手術も行っている．さらに抗VEGF薬の硝子体注射も施行している．

今後の展望

白内障手術，硝子体手術のできる環境を少しずつ整えて，手術件数を増やしていきたい．また，緑内障外来を充実させ，緑内障手術を増やしていきたい．

表．手術件数

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
白内障手術	10	14	12	17	18	19	15	21	11	20	19	17	193
緑内障＋白内障手術	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	3
硝子体＋白内障手術	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
外眼部手術	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4

耳鼻咽喉科

スタッフ紹介

常勤医師　伊集院隆宏
　　奥西真帆
　　鞆津匡宏

診療内容

耳鼻咽喉科外来担当医表参照（表1）.

活動内容

診療体制は昨年と特に変わっていない．伊集院，鞆津が外来及び病棟・手術などの診療を，奥西は外来診療を主に行っている.

新型コロナウイルスの感染流行も報告されることがあるが重症化は落ち着いている印象がある.

今後は新型コロナウイルス感染症流行前の状態により近づけるよう徐々に手術適応を広げていく方針である.

今後の展望

引き続き近隣の開業医及び高次機能病院とのより丁寧な病診連携を行っていきたいと考えている.

表1．外来担当医表

	月	火	水	木	金
午前	伊集院	伊集院	奥西・手術	伊集院	奥西
	奥西	鞆津		奥西	鞆津
午後	検査・外来手術 （完全予約制） 補聴器外来	検査・外来手術 （完全予約制） 補聴器外来	手術	検査・外来手術 （完全予約制）	検査・外来手術 （完全予約制）

表2．手術状況（2022年1月1日～2022年12月31日）

手術名		件数	手術名		件数
耳科領域	鼓膜チューブ留置	9	喉頭・気管・食道領域	喉頭良性腫瘍摘出術	0
	その他	1		音声機能改善手術	0
鼻・副鼻腔領域	鼻中隔矯正術	4		気管切開術	0
	内視鏡下鼻副鼻腔手術	4		その他	0
	下鼻甲介手術	4	顔面・頸部領域	甲状腺良性腫瘍摘出術	0
	内視鏡下鼻腔腫瘍摘出術	2		耳下腺良性腫瘍摘出術	0
	その他	1		頸部良性腫瘍・嚢胞摘出術	1
口腔・咽頭領域	口蓋扁桃摘出術（含むアデノイド切除術）	51		その他（リンパ節生検含む）	2
	舌、口腔・咽頭腫瘍摘出術	3			
	その他	2	合計（件）		84

小児科

スタッフ紹介

2022年の人事異動では，近藤瑠乃医師，池田茂生医師，森脇彩賀医師が当院の小児科後期研修プログラムにて，神戸大学病院のプログラムでの研修として上地高志医師が4月に，兵庫医科大学病院のプログラムでの研修として堀部拓哉医師が2月にスタッフとして加わった．横山陽子医師，桝田千晶医師，山本香織医師，福田祥直医師は，各自の小児科後期研修プログラムに沿い，関連施設での研修のため，異動された．甲斐智彦医師は，阪南中央病院へ異動された．2022年のスタッフは，吉井勝彦（昭和59年卒），西野昌光（昭和53年卒），牟禮岳男（平成14年卒），横田知之（平成16年卒），水野洋介（平成18年卒），木原沙紀（平成19年卒），藤坂方葉（平成21年卒），榎本真由子（平成23年卒），古林真佐美（平成25年卒），井上翔太（平成25年卒），住吉倫卓（平成26年卒），英賀真二郎（平成29年卒），堀部拓哉（平成30年卒），国本一輝（平成31年卒），野間瑞希（平成31年卒），石村怜子（平成31年卒），上地高志（令和2年卒），近藤瑠乃（令和2年卒），池田茂生（令和2年卒），森脇彩賀（令和2年卒）の20名であった．

診療内容

1. 外来診療

午前は一般診察を行い，午後は一般診察に併行して，予防接種，乳児健診，神経外来，発達外来，腎外来，アレルギー外来，心臓外来，内分泌代謝外来，肥満外来などの特殊専門外来を実施した．表1に月別1日平均外来数，表2に月別時間外外来総患者数を示す．

2. 新生児センター

当院の分娩数は過去3年間，2,074，2,368，2,062例であり，新型コロナウイルス感染症の流行のため，分娩制限が必要となり，減少を認めた．新生児センターへの入院数や2,500 g 未満の低出生体重児の収容数もそれを反映して，それぞれ1,235，1,322，1,340例，225，280，249例と横這いで推移した．死亡例は2例であった．超低出生体重児として出生された児と正期産で出生された児で，両児共に出生時に重症仮死の状態であり，一時蘇生に反応し心拍の再開を認めたが，その後，有効血圧が得られず，間もなく死亡された．表3に2022年の新生児センターの保育成績を示す．地域周産期医療の啓蒙活動として，近隣の産科施設も参加可能な新生児蘇生講習会を定期的に行った．

3. 一般病棟

表4に一般病棟の疾患別入院数を示す．入院数は過去3年間386，585，565例であった．いまだ新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けており，外来・入院数は横這いで推移している．徐々に外来患者数も増加してきているが，今後も推移に注意する必要がある．外来，救急搬送，紹介として入院経路を過去3年間で比較したが，入院経路は同様の傾向であった．本年は死亡症例はなかった．

4. レスパイト事業

大阪市より依頼があり，2019年4月より大阪市重症心身障がい児者等医療型短期入所事業の実施機関として，重症児の短期入所対応を開始した．新型コロナウイルス感染症流行下で，一時入所制限を要したが，2022年は延べ13名の短期入所を受け入れた．

2022年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症流行下であるが，本年も感染対策を行った上で神戸大学医学部5年次，6年次，兵庫医科大学6年次の病院実習を受け入れた．病院実習の経験から初期研修病院で当院を選択する学生も多く，今後も丁寧な対応を行っていく．また，当院は新専門医制度での小児科専門研修プログラムの基幹病院に認定されており，小児科専攻医1年目，2年目の医師を各3名ずつ受け入れた．後期研修医が小児科を専攻する場合，小児科専門医を取得することは勿論であるが，その後はsubspeciality としての専門医取得も推奨している．当院ではsubspeciality分野として，新生児領域のほか，アレルギー領域の研修教育施設や小児神経領域の研修関連施設（研修認定施設 神戸大学附属病院の関連施設）の認定を取得しており，将来のsubspecialityを考えることのできる環境を作っている．臨床カンファランスでは，死亡例も含めリアルタイムでの症例検討を行っているが，前方視的な臨床研究検討も行い学会活動に繋げていきたい．本年度も，日本小児科学会兵庫県地方会，日本周産期新生児医学会，日本新生児成育医学会などでの学会活動を行った．地域での小児医療の研鑽として，西淀小児科懇話会で話題提供を行った．

▽カンファランス

周産期検討会　資料回覧のみ

症 例 検 討 会　火，水曜日　午前8時30分～9時

今後の展望

小児科研修を志す初期研修医も多く，症例確保が重要な課題となるため，スタッフ数を維持し，精力的な医療活動を行っていきたい．小児科の研修施設として，教育に当たる指導医の充実を図ることも重要である．加えて，小児科専門医研修プログラムでは，論文の作成が必須であるため，学術活動の幅を広げていくことが必要と考えられる．一方，スタッフが多くなれば，医療的知識だけでなく，スタッフ間の意思疎通の不備も見られてくる．回診時に，患者情報の共有を徹底し，スタッフ全員が同様の方針を確認できるよう配慮していく．

表１．月別1日平均外来患者数（2022年1月～2022年12月）

（単位：名）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
患者数	82	95	82	75	85	85	106	88	84	83	91	84

表２．月別時間外外来総患者数（2022年1月～2022年12月）

（単位：名）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
患者数	112	63	74	95	134	126	190	111	112	125	129	103

表３．新生児センター入院数（2022年1月～2022年12月）

（単位：件）

出生体重（g）	入院数	院内出生	緊急母体搬送	院外出生	人工換気数	転院数	死亡数	死亡率(%)
～499	3	3	0	0	3	0	0	0
500～999	15	15	2	0	15	4	1	6.7
1,000～1,499	11	11	5	0	11	0	0	0
1,500～1,999	38	35	10	3	19	1	0	0
2,000～2,499	182	182	7	0	35	4	0	0
2,500～	1,091	1,080	8	11	103	5	1	0.1
計	1,340	1,326	32	14	186	14	2	0.1

表４．一般病棟入院数（2022年1月～2022年12月）

（単位：件）

呼吸器疾患		感染症	
気管支炎（このうち RSV 28，hMPV 7）	69	手足口病・ヘルパンギーナ	6
		突発性発疹	3
肺炎・気管支肺炎（このうち RSV 25, hMPV 2, インフルエンザ菌 3，肺炎球菌 2）	43	伝染性単核球症	1
		インフルエンザ	1
		COVID-19	24
細気管支炎・喘息性気管支炎（このうち RSV 30）	40	新生児・乳児発熱	23
		蜂窩織炎	6
気管支喘息	41	菌血症	2
クループ症候群	5	深頸部膿瘍・化膿性リンパ節炎	3
急性扁桃炎・咽頭炎（このうちアデノウイルス 7）	21	化膿性耳下腺炎	1
		新生児臍炎	1
急性中耳炎	11	腎泌尿器疾患	
急性上気道炎	13	尿路感染症	12
喉頭軟化症	1	ネフローゼ症候群	2
消化器疾患		急性尿閉	2
感染性胃腸炎（このうちノロウイルス 1，アデノウイルス 12）	36	その他	
		川崎病	18
回腸末端炎・腸管膜リンパ節炎	6	アナフィラキシー	20
腸重積症	2	免疫性血小板減少性紫斑病	1
ヒルシュスプルング病	1	若年性特発性関節炎	1
神経疾患		急性リウマチ熱	1
熱性けいれん	52	骨折	1
てんかん・無熱性痙攣	14	異物誤飲	5
胃腸炎関連痙攣	4	急性薬物中毒	2
頭部外傷	1	熱中症	1
意識消失発作	2	血液・固形腫瘍	1
West 症候群	1	在宅移行目的	1
顔面神経麻痺	1	予防接種副反応	4
転換性障害	1	新生児黄疸	1
新生児けいれん	1	口内炎	1
代謝・内分泌疾患		哺乳不良	3
周期性嘔吐症	2	検査	
ケトン性低血糖症	3	成長ホルモン負荷試験	7
１型糖尿病	1	食物負荷試験	34
横紋筋融解症	2	検査鎮静後	2
		合計	565

産婦人科

スタッフ紹介

本山　覚　1977年卒，名誉院長
・専門：婦人科腫瘍，周産期，性感染症，女性漢方
吉田茂樹　1990年卒，副院長・部長
・専門：婦人科悪性腫瘍，内視鏡技術認定医，骨盤臓器脱，周産期，日本がん治療認定医機構・がん治療認定医，同機構・暫定指導医
岡田十三　1994年卒，周産期センター長・主任部長
・専門：周産期，産婦人科，産婦人科救急，子宮鏡手術
村越　誉　1996年卒，先端医療分野主任部長
・専門：婦人科悪性腫瘍，周産期，胎児超音波検査，子宮筋腫，内視鏡技術認定医，がん治療認定医
稲垣美恵子　1997年卒，女性科主任部長
・専門：生殖内分泌，内視鏡技術認定医，周産期，日本頭痛学会認定専門医，がん治療認定医
安田立子　1998年卒，産科主任部長
・専門：周産期，婦人科一般，骨盤臓器脱，腹腔鏡手術，マンモグラフィー読影，がん治療認定医
大木規義　1998年卒，婦人科主任部長
・専門：婦人科悪性腫瘍，内視鏡技術認定医，周産期，がん治療認定医
城　道久　2006年卒，医長
・専門：周産期医療，内視鏡技術認定医，超音波専門医，がん治療認定医

以下　専門：周産期，婦人科一般　各病院に6か月派遣
京本　萌　2015年卒，医員（～2022.3月）
北井沙和　2017年卒，医員
北口智美　2017年卒，医員
小倉直子　2017年卒，専攻医
三木玲奈　2017年卒，専攻医
河谷春那　2018年卒，専攻医　高槻病院
北　采加　2018年卒，専攻医
苔原つばさ　2019年卒，専攻医　明石医療センター　高槻病院
徳永詩音　2019年卒，専攻医
二木ひとみ　2019年卒，専攻医　高槻病院　明石医療センター
荒木裕子　2019年卒，専攻医　大阪母子医療センター　高槻病院
胡　脩平　2019年卒，専攻医
小川史子　2019年卒，専攻医
瀧川　若　2019年卒，専攻医　明石医療センター
大和奈津子　2020年卒，専攻医　甲南総合医療センター
伊賀川奨大　2020年卒，専攻医　明石医療センター
清瀬ますみ　2020年卒，専攻医　兵庫県がんセンター
米田圭明　2020年卒，専攻医　加古川中央市民病院
田島史保子　2020年卒，専攻医　大阪母子医療センター
中村達矢　2020年卒，専攻医　淀川キリスト教病院
福田大輔　2020年卒，専攻医　淀川キリスト教病院
光岡真優香　2020年卒，専攻医　兵庫県がんセンター
吉武壮生舜　2020年卒，専攻医　高槻病院
濱田一磨　2020年卒，専攻医
三浦穂乃香　2020年卒，専攻医

診療体制並びに活動目標

連携施設出向中の後期研修医を除き，産婦人科医師20名（名誉院長1名，部長6名，医長1名，医員2名，後期研修医10名）の体制で，産科・婦人科の全領域をカバーしている．大阪府地域周産期母子医療センター指定により，活発に同センター運営を行い母体搬送に対応するとともに，大阪府産婦人科一次救急医療ネットワークにおいて府下産婦人科一次救急（年間約1,100台）の半数を超える約650台の救急車を受け入れ，地域産婦人科救急の要として日々努力している（厚生労働省HP産婦人科救急DPC患者数 全国2位：1位は鹿児島市民病院）．

2022年のトピックス・実績

2019年，当院の年間分娩数は1,846件と過去最高を記録し，小阪産院を抜き大阪府下で分娩取扱い件数1位を達成した．さらに24時間対応の無痛分娩を開始したことから，これを上回るペースで増加し，年間分娩数は，2020年2,122件，2021年2,373件と急速な勢いで増加した．2022年はこの急激な分娩件数増に対し病床並びに人員が間に合わなかったことから，異例の分娩数制限を行ったにもかかわらず，年間分娩件数は2,323件と，ほぼ前年並みを維持することができた．また24時間対応無痛分娩は，2021年766件，2022年722件と，2年連続年間700件を超えた【図1】．

一方，産科婦人科合わせた手術実績は，新型コロナウイルス感染症による手術数制限にもかかわらず，手術点数ベースで更に増加し，10年連続増収で，過去最高の実績（2019年3,846万点→2020年4,047万点→2021年4,592万点→2022年4,671万点）を達成した【図2】．5名の産婦人科内視鏡技術認定医が中心となり，鏡視下手術件数（2019年565件→2020年647件→2021年698件→2022年706

件)が今期も増加したことが大きく寄与したものと考える.

特に婦人科領域において，より先進的な医療への取り組みを継続しており，da Vinci Xiを用いた婦人科ロボット手術件数（良性）は，大阪市立総合医療センターに次いで大阪府下第2位，全国第7位となった.

また当院産婦人科は,『新専門医制度・産婦人科研修プログラムにおける基幹施設』に認定されており，新たに8名の産婦人科後期研修医を採用したが，この採用人数は全国13位であった（表1）．過去6年間で合計45名の後期研修医を採用し（表2），これら多数の後期研修医採用を背景に，明石医療センター，高槻病院などの愛仁会系列病院はもとより，阪神間における多数の施設に後期研修医を派遣し，地域の産婦人科診療に多大なる貢献を行っている.

臨床成果の学術成果への記録活動も積極的に行っており，これら多数の専攻医の学会発表も積極的に行っている.

今後の展望

24時間対応可能な無痛分娩の導入により，大阪府における無痛分娩のメッカとなることを目指し，年間分娩数2,400件を目標に，更なる分娩数増加を目指す.

一方婦人科領域では，5名の内視鏡技術認定医を中心に，最新型「da Vinci Xi」を用いたロボット手術を積極的に行い，今後更なる婦人科手術件数の増加に貢献できるものと考えられる.

産婦人科救急医療，産科分娩件数，da Vinci Xiを含めた婦人科手術件数，並びに新専門医制度における基幹施設としての研修医獲得人数，これら産婦人科の全ての分野において全国10指に入る病院を目指す.

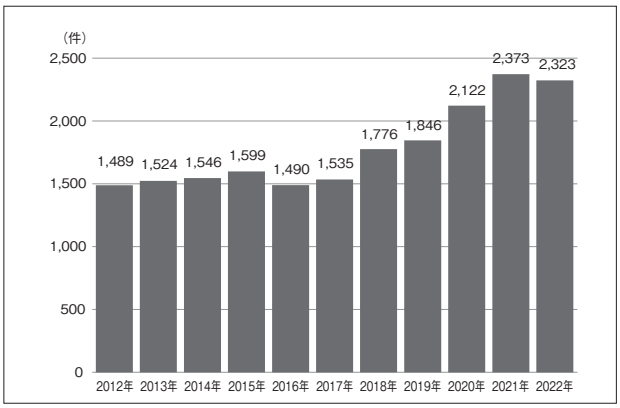


図1．千船病院産婦人科　年間分娩件数の推移

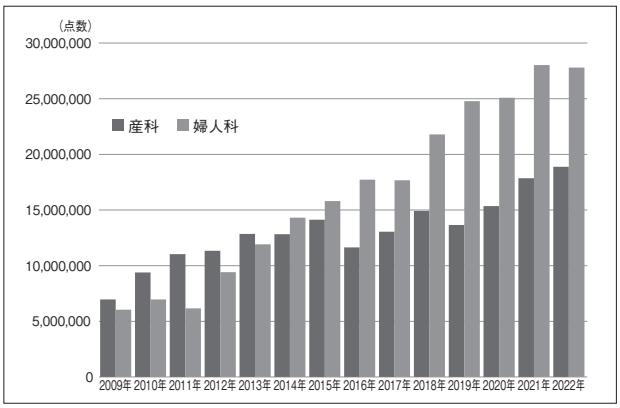


図2．千船病院産婦人科　手術実績（手術点数）の年次推移

表1．千船病院産婦人科　後期研修医採用実績　全国順位

（単位：%）

順位(位)	プログラム名	募集人数	採用人数	充足率
1	東京大学専門	35	33	94
2	東京慈恵会医科大学産婦人科	20	20	100
3	名古屋大学産婦人科	25	15	60
4	昭和大学産婦人科	15	12	80
	WIND北海道大学産婦人科	20	12	60
6	日本医科大学産婦人科	12	11	92
	東京医科歯科大学産婦人科	12	11	92
8	大阪大学産婦人科	18	10	56
	慶應義塾大学産婦人科	15	10	67
10	名古屋市立大学産婦人科	24	9	38
	東北大学産婦人科	20	9	45
	横浜市立大学附属病院産婦人科	10	9	90
13	千船病院産婦人科	8	8	100
	順天堂大学産科婦人科	15	8	53
	九州大学産婦人科	20	8	40
	横浜市立大学附属市民総合医療センター	8	8	100

表2．千船病院産婦人科　後期研修医採用数の年次推移

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	合計
定　員	8（人）	8（人）	8（人）	8（人）	8（人）	8（人）	48（人）
採用数	8（人）	5（人）	8（人）	8（人）	8（人）	8（人）	45（人）
充足率	100（%）	62.5（%）	100（%）	100（%）	100（%）	100（%）	95.8（%）

麻酔科

スタッフ紹介

1. 常勤医
   主任部長　水谷　光（1993年卒，専門医・指導医）
   部長　河野克彬（1967年卒，専門医・指導医）
   部長　奥谷　龍（1979年卒，専門医・指導医）
   2022年4月入職
   医員　藤田和子（1989年卒，専門医・指導医）
   2022年4月入職
   部長　魚川礼子（1998年卒，専門医・指導医）
   医長　角　千里（2005年卒，専門医・指導医）
   医長　星野和夫（2007年卒，専門医・指導医）
   医長　大山泰幸（2008年卒，専門医）
   医員　村松　愛（2009年卒）
   2022年7月入職
   非常勤　仲野有紀（2014年卒）
   2022年4月入職9月退職
   医員　安藝裕子（2012年卒，専門医）
   2022年3月退職
   専攻医　藤間凡未（2018年卒）
   2022年7月入職12月退職
   大阪医科大学麻酔科専門研修プログラム
   専攻医　宮井真唯子（2018年卒）
   2022年3月退職
2. 非常勤医
   八木俊浩（認定医）
   ほか

診療内容

手術麻酔　麻酔科管理 3,932例/年
（うち全身麻酔 2,126例/年，帝王切開 702例/年）
無痛分娩　808例/年
ICU管理
術前外来：月曜日から金曜日の午前
無痛分娩外来：2022年3月まで月曜日と木曜日の午後
2022年4月から月曜日と水曜日の午後
ペインクリニック外来：2022年3月まで水曜日の午後
2022年4月から木曜日の午後
手術症例カンファレンス：毎朝
M&Mカンファレンス：月曜日の朝
抄読会：2022年3月まで金曜日の朝
2022年4月から火曜日の朝

2022年のトピックス・実績

奥谷龍が赴任し，初期研修医の教育を受け持ち始めた．藤田和子は，手術麻酔だけでなく無痛分娩にも参加している．無痛分娩や帝王切開を含む産科麻酔に特化した研修として，村松愛や仲野有紀を迎えた．藤間凡未は，広く産科麻酔と手術麻酔の全般について研修した．手術件数，全身麻酔件数，無痛分娩の全ての件数が増加した．それだけでなく，大きな事故がなく業務を続けられていることが何よりの誇りである．麻酔診療において安全は最優先事項であり，そのためには人的資源が欠かせない．ぎりぎりの人数ではとても安全は確保できず，余裕を持った人員配置が必要である．それは安全確保のためだけでなく，人員確保の条件としても必要である．増員を目指すためにも，現職員が余裕をもって業務に当たっていないといけない．

今後の展望

これまでどおり，安全で快適で無駄のない麻酔診療を目指す．手術を行うには，麻酔科医と手術部看護師が必要である．現在は業務量に比して常勤麻酔科医が少ないので増員が必要だが，そのためには現職麻酔科医が幸せでなければならない．また，薬剤師らへ業務移行を進めたい．術後患者の安全と手術室の効率化のためにPACU（post-anesthesia care unit回復室）を開設したい．

無痛分娩についても，これまでどおりの安全で快適で無駄のない鎮痛を提供したい．そのためにも，手術部で使っている部門システムを産科病棟へ拡張し，薬剤師らへ業務移行を進めたい．

帝王切開や無痛分娩，つまり産科麻酔の研修を外部医療施設から受け入れている．期間は6か月以上で，専門医取得の前でも後でも経験は問わない．

初期研修医や専攻医への教育についても，更に充実させたい．名取病院から歯科医の麻酔科研修も受け入れている．

画 像 診 断 科

スタッフ紹介

常勤医師　主任部長　田中　豊
　　部　　長　前田哲雄
非常勤医師　放射線科医師　2名
　　（水曜日，金曜日午後，土曜日あるいは日曜日に交代で2名が隔週で読影）

診療体制

2022年は田中豊部長，前田哲雄部長の常勤医師2名と非常勤医師4名の診療体制になった．

活動内容

Ⅰ．読影

CT，MRI，RI，消化管透視などの読影を行っている．ドック胃透視・胸部の読影

Ⅱ．血管造影，IVR

肝癌のTACE，子宮出血のUAEなどのIVRを行っている．

Ⅲ．外科とのマンモグラフィーカンファレンス，産婦人科・病理診断科との婦人科病理

今後の展望

新病院移転後，CTとMRI装置が各々2台体制になり，予約待ちの短縮や迅速な緊急検査に対応できている．また，MRI検査，CT検査は前年比較で微減している．

RI検査数は昨年との比較で減少している．経時的にも減少傾向である．

オープン検査に関しては，病診連携を強化し，地域の画像センターとしての役割を果たして行かなくてはならない．CT・MRIは以前と同様に土曜日にオープン検査のために対応している．

表１．診療体制

	月	火	水	木	金
午前	読影 血管造影	読影	読影	読影	読影 血管造影
午後	読影	読影	読影	読影	読影

表２．過去4年の主な検査件数

（単位：件）

検査名	年　度	総件数
MRI	2022年	6,585
	2021年	7,301
	2020年	6,571
	2019年	6,671
CT	2022年	14,190
	2021年	15,253
	2020年	14,847
	2019年	13,972
腹部血管造影検査	2022年	12
	2021年	24
	2020年	36
	2019年	28
核医学検査	2022年	417
	2021年	495
	2020年	494
	2019年	581

病理診断科

スタッフ紹介

医師：
主任部長　名方保夫
（病理専門医，1980年卒，2004年7月着任）
部長　八十嶋　仁
（病理専門医，1979年卒，2014年4月着任）
医長　渡邊隆弘
（病理専門医，2009年卒，2019年4月着任）
臨床検査技師：常勤5名
伏見翔一郎（国際細胞検査士），
佐藤　圭（国際細胞検査士），
木下佳乃（細胞検査士），
玉岡紗矢佳（国際細胞検査士），
井上弘規（細胞検査士）

診療内容

病理診断科（病理検査室）の主たる業務は，病理組織診断，術中迅速病理組織診断，細胞診断，術中迅速細胞診断及び病理解剖である．病理組織診は，生検及び手術標本診断に分類される．生検では腫瘍性か非腫瘍性か，良性か悪性かの判定が，今後の患者の治療方針決定に重要である．手術標本診断は，腫瘍（特に悪性）において重要であり，その組織型の最終診断，切除標本における深達度，脈管侵襲の有無，切除断端における腫瘍細胞の有無及びリンパ節転移の有無などが，今後の治療方針決定の一助となり得る．術中迅速病理診断は，良性あるいは悪性の判定，リンパ節転移の有無及び切除断端の決定を短時間で標本を作製診断し，術中における治療方針決定の一助となり得る．さらに細胞診断及び術中迅速細胞診断は，組織診断との併用や，組織採取が困難な部位（穿刺細胞診）あるいは体腔液診断に重要な場合が多い．病理解剖は，医師の卒前及び卒後の医学教育や今後の臨床医学の発展に多大な貢献をもたらすものであり，当科の業務としては極めて重要な位置付けにある．なお，CPCは原則として月に1度，午後5時15分より開催され，活発な論議も展開され，特に臨床研修医の卒後医学教育に役立っている．

2022年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症がまん延していることにより病床の制限や職員の休職が相次ぐ中，臨床各診療科，臨床検査部門，事務部門，看護部門の多大な支援協力により，病理組織診断及び細胞診件数は例年の水準を維持し（各項目の2022年実績は，図表1～3を参照），2022年病理診断科及び病理検査室の業務は円滑に遂行された．剖検数はやや減少に転じたが，初期臨床研修医に必要な症例数は維持された．新型コロナウイルス感染症の流行期においてもカンファレンス，CPCは万全の感染対策を施し，かつ感染状況を見極めた上で滞りなく開催された．

今後の展望

当院では，新型コロナウイルス感染症流行の収束，将来的な病床数の増加に伴い，病理組織・細胞診断数の増加が予想されるので，迅速かつ正確な病理組織診断，病理細胞診断が遂行されるよう，臨床検査技師スタッフと協力して更に努力を重ねたい．

これからも田中智洋検査科科長の下，臨床検査部門とも密に連携しながら，迅速な業務の遂行に努めたい．

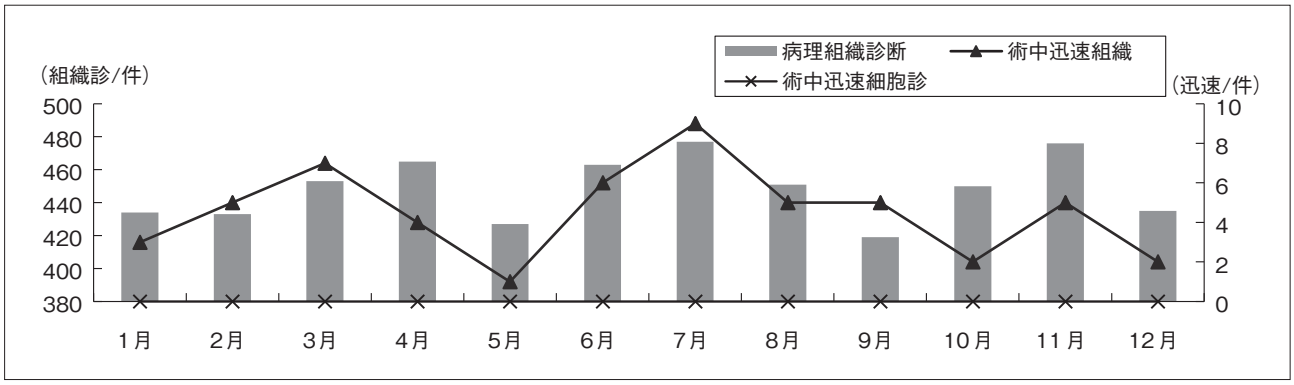
兵庫医科大学病院病理診断科（主任教授：廣田誠一先生）からは引き続き，和田沙由理先生に非常勤医師として，毎週火曜日午前に診療いただいている．活発な人的交流による，更なる病理組織・細胞診断の精度向上が期待される．

最後に，卒前卒後の医学教育及び今後の臨床医学の発展のために，病理解剖を承諾された御遺族の御篤志に深甚なる敬意を表するとともに，多忙な臨床の場において病理解剖の承諾を得るべく努力された診療部スタッフに謝意を述べたい．

図表１．病理組織診断・術中迅速診断件数

（単位：件）

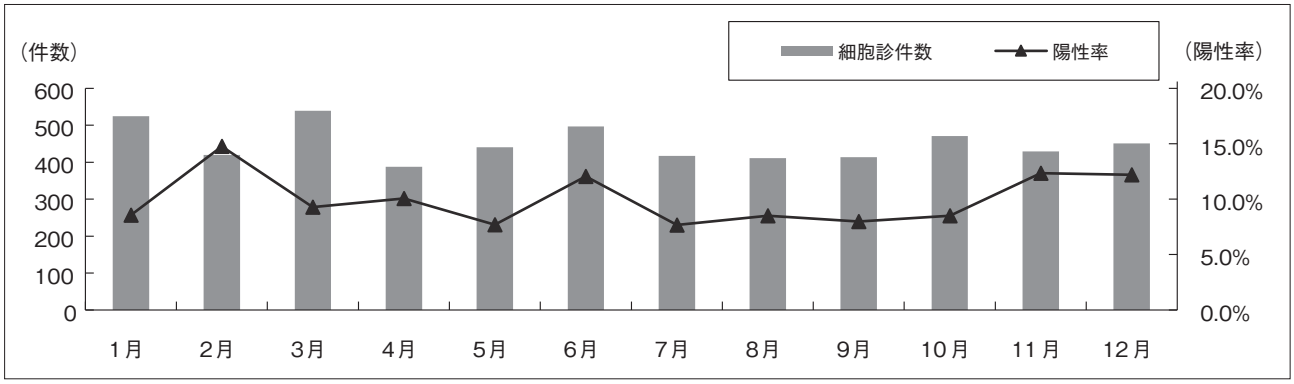
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
病理組織診断	434	433	453	465	427	463	477	451	419	450	476	435
術中迅速組織	3	5	7	4	1	6	9	5	5	2	5	2
術中迅速細胞診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



図表２．細胞診件数と陽性率

（単位：件・%）

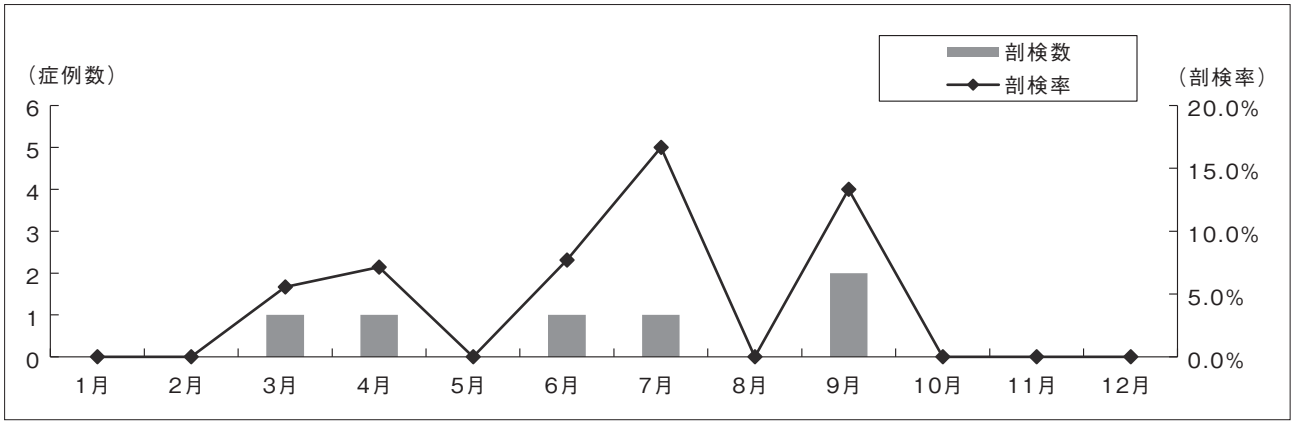
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
細胞診件数	525	420	539	388	441	497	41	444	414	471	429	451
陽性数	45	62	50	39	34	60	32	35	33	40	53	55
陽性率	8.6%	14.8%	9.3%	10.1%	7.7%	12.1%	7.7%	8.5%	8.0%	8.5%	12.4%	12.2%



図表３．病理解剖数と剖検率

（単位：件・%）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
剖検数	0	0	1	1	0	1	1	0	2	0	0	0
剖検率	0.0%	0.0%	5.6%	7.1%	0.0%	7.7%	16.5%	0.0%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%



千船クリニック（透析室）

スタッフ紹介

髙橋哲也：千船クリニック所長
日本糖尿病学会専門医・指導医，日本内科学会認定医・総合内科専門医，日本内分泌学会専門医・指導医，日本病態栄養学会専門医・指導医

非常勤医師
神戸大学医学部附属病院腎臓内科医師ほか，計5名

診療内容

透析室
・対象：慢性腎臓病（CKD）の初期から末期（透析患者）
・診察室（2室）：主として透析未導入の慢性腎臓病
・透析ベッド40床＋隔離用個室3床：4クールの血液透析治療（血液透析濾過治療を含む）
・看護師外来：透析治療法選択時の情報提供，食事療法の食材など説明

2022年のトピックス・実績

①維持透析患者（血液透析HD）：維持透析患者数は2022年平均患者数でHD（含HDF）130名（前年140），年間総HD回数20,163回（前年21,288回）で前年から減となっている．
②栄養指導：栄養科の協力で，維持透析患者のベッドサイド栄養指導を継続．

今後の展望

透析部門は佃地域の中で比較的順調に業績を伸ばしてきたが，2022年は問題点が明確となった年でもあった．新型コロナウイルス感染症がまん延している中，透析患者の高齢化により様々な合併症の併発による急な入院，転院や死亡例の増加により患者数が減少し，実績面では大きくマイナスの影響を及ぼした．一方，これまでになく千船病院本体や井上病院からブラッドアクセス管理，急変時のスムーズな入院などの支援をいただけたことは大きなプラスとなった．

今後，不確実性が増す時代の中ではあるが，人材確保と教育，千船病院を中心とした関連施設との連携強化，透析機器の更新，そして必要利益の確保を最重要課題としてそれらの問題を一つずつ解決し，慢性透析医療の患者の生活を支える医療の発展を今後も目指す．

Ⅱ

尼崎だいもつ病院

回復期リハビリテーション病棟
地域包括ケア病棟
障がい者病棟
全199床

〒660-0828
兵庫県尼崎市東大物町1丁目1番1号
TEL.06-6482-0001

院長　松森良信

診療部総括（病棟，外来）

スタッフ紹介

松森良信（リハビリテーション科，消化器内科，院長），竹中和弘（呼吸器内科，副院長），瀧本　裕（総合診療科），加東　武（整形外科），中村道三（神経内科），大東陽治（脳神経外科），飯野莉和（リハビリテーション科），村上昌宏（リハビリテーション科），荒川鉄雄（循環器内科），中田秀史（消化器内科），山鳥嘉樹（循環器内科），嶋　聡子（リハビリテーション科），濱浪嘉登（リハビリテーション科，専攻医）で診療を行った．

診療内容

病棟構成とベッド数としては3階障害者病棟29床，4階地域包括ケア病棟50床，5階回復期病棟60床，6階回復期病棟60床で運用．急性期を脱しても，まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者に対して，多職種がチームを組んで集中的なリハビリテーションを実施し，心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくために入院医療を展開した．脳血管疾患や大腿骨頸部骨折患者に加え，切断患者，パーキンソン病やALSなど神経難病の患者も積極的にリハビリテーションを行い，退院後も通院リハビリテーション，併設老健施設，訪問看護ステーションと協力し地域医療・介護の一翼を担った．

外来部門としては内科，呼吸器内科，消化器内科，循環器内科，糖尿病内分泌内科，神経内科，整形外科を標榜し，毎日2～3診体制で外来診療を行った．2022年11月からは救急外来の運用を開始し，さらに12月千船病院の支援の下に，小児科・産婦人科外来も開始した．

2022年のトピックス・実績

2018年12月に中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症のパンデミック，感染者の増加を受け，当院でも感染者用の病室，外来発熱患者の診察場所，各種マニュアルの整備など対策を行っていたが，クラスター発生など認め感染管理の困難さを痛感した．

1年間の退院患者は1,209名であり，平均在院日数は54.4日であった（表1）．

主病名のICD-10による疾患大分類では，3階障害者病棟では，パーキンソン病，ALS，脊髄小脳変性症，進行性核上性麻痺，多系統萎縮症などの神経難病が117名/150名と大部分を占めた．4階地域包括ケア病棟では，回復期病棟でのリハビリテーションが困難な骨折・脳血管障害，感染症治療後の廃用症候群の患者が多く，循環器系の疾患が84名（18.7%），整形外科疾患が43名（9.6%）を占めた．5階，6階回復期病棟では，脳血管障害を中心とした循環器系の疾患が227名（37.2%），大腿骨頸部骨折など骨折患者を含む損傷，中毒及びその他の外因の影響が197名（32.2%）であった（表2）．

外来部門としては，2022年11月から運用開始した救急外来だが，2か月で延べ患者数31名であった．また12月から開始した小児科は1か月で延べ患者数9名，産婦人科延べ患者数は7名であった（表3）．

紹介元は病院設立の経緯もあり，尼崎総合医療センターが39%を占めたが，50%を割り比率は低下してきている．尼崎市内の他病院が34.6%，兵庫県内（尼崎市外）が10.9%，大阪府が10.2%であった（表4）．

退院時の転帰は自宅退院が66.1%，病状悪化による急性期病院，療養病院など他病院への転院は15.7%，施設入所が15.1%と自宅退院が減少，転院施設入所が増加している．新型コロナウイルス感染症拡大に伴い外出自粛による転倒など受傷機会の減少，急性期病院での予定手術の減少，病院面会制限による急性期病院からの自宅退院増加など患者動向が変化，受け入れ患者の重症度，認知症比率の増加など患者層の変化の影響が大きいと考える．36名（3%）の患者がお亡くなりになった（表5）．

診療報酬から計算した在宅復帰率は，障害者病棟で72.9%，回復期病棟で79.4%（5階），78%（6階），地域包括ケア病棟では受け入れ患者層の変化により70%維持に苦労したが76.8%であり，いずれも診療報酬上の施設基準を満たした（表6）．

また，近隣急性期病院などで加療後すぐ自宅に帰れない患者を転院で受け入れ，ADL評価や心臓リハビリテーションを積極的に行っており、退院後も通院可能な方には外来心臓リハビリテーションを継続している．

今後の展望

今後の診療報酬改定により厳しくなると予想される地域包括ケア病棟1の施設基準，回復期リハビリ病棟1の施設基準を堅持しつつ満床に近い利用を達成する．

また，地域への医療の提供として外来機能充実及びリハビリテーション医療の外来・地域展開，新たなエビデ

ンス構築など，新型コロナウイルス感染症がまん延している中の影響で手薄になっていた取り組みにも改めて着手していく．

表1．病棟別・退院患者数，平均在院日数

病棟名	退院患者（名）	平均在院（日）
3階障害者病棟	150	72.4
4階地域包括病棟	449	38.0
5階回復期リハ病棟	300	72.5
6階回復期リハ病棟	310	68.2
総計	1,209	54.4

表2．疾患大分類（ICD-10）別・病棟別　退院患者数

（単位：名）

	3階障害者病棟	4階地域包括病棟	5階回復期病棟	6階回復期病棟	総計
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	0	7	2	1	10
Ⅱ．新生物	8	31	6	4	49
Ⅲ．血液及び造血器の疾患	0	3	0	1	4
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	2	20	2	0	24
Ⅴ．精神及び行動の障害	0	4	0	0	4
Ⅵ．神経系の疾患	117	55	3	4	179
Ⅶ．眼及び付属器疾患	0	0	0	0	0
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	0	0	0	0	0
Ⅸ．循環器系の疾患	3	84	109	118	314
Ⅹ．呼吸器系の疾患	1	29	0	0	30
ⅩⅠ．消化器系の疾患	0	34	0	0	34
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	0	6	0	0	6
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	9	43	78	73	203
ⅩⅣ．尿路性器系の疾患	1	18	0	0	19
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産褥期疾患	0	0	0	0	0
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	0	0	0	0	0
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	0	0	0	0	0
ⅩⅧ．症状，徴候，異常検査所見	2	11	0	0	13
ⅩⅨ．損傷，中毒，外因の影響	7	98	96	101	302
ⅩⅩ．傷病及び死亡の外因	0	0	0	0	0
ⅩⅩⅠ．健康状態への影響要因	0	0	0	0	0
ⅩⅩⅡ．特殊目的コード	0	6	4	8	18
総計	150	449	300	310	1,209

表3．救急外来，患者数

（単位：名）

※2022/11より救急開始

診療年月	入外区分	科名	延べ患者数	実患者数
2022/11	外来	内科	8	8
	外来	整形外科	3	3
2022/12	外来	内科	18	16
		消化器内科	1	1
	外来	整形外科	1	1
合計			31	29

※2022/12より診療開始

12月活動最終				
診療年月	入外区分	科名	延べ患者数	実患者数
2022/12	外来	小児科	9	8

※2022/12より診療開始

12月活動最終				
診療年月	入外区分	科名	延べ患者数	実患者数
2022/12	外来	産婦人科	7	7

表4．紹介元医療機関（入院患者）

（単位：名）

紹介元医療機関	紹介数	比率
尼崎総合医療センター・難病センター	450	39.0%
（　うち　尼崎総合医療センター　）	405	35.1%
（　うち　難病センター　）	45	3.9%
尼崎市内	399	34.6%
兵庫県（尼崎市外）	126	10.9%
大阪府	118	10.2%
他都道府県	7	0.6%
当院外来	17	1.5%
ケアプランセンターだいもつ	20	1.7%
だいもつ訪問診療	16	1.4%
合計	1,153	100.00%

表5．退院時の転帰

（単位：名）

	退院数	
自宅退院	799	66.1%
転院	160	15.7%
うち　尼崎総合医療センター	65	5.4%
転所	212	15.1%
うち　老健施設	103	8.5%
死亡退院	36	3.0%
合計	1,207	

表6．在宅復帰率

（単位：名）

		3階障害者病棟	4階地域包括病棟	5階回復期病棟	6階回復期病棟	総計
①	対象退院患者数	154	446	300	307	1,207
1	居宅(自宅･特養･サ高住など)	105	329	236	238	908
	再掲：自宅	83	275	219	222	799
	再掲：特別養護老人ホーム	4	5	3	7	19
	再掲：有料老人ホーム	8	18	7	3	36
	再掲：サービス付き高齢者住宅	6	16	1	2	25
	再計：ほか	4	15	6	4	29
2	老健	11	40	26	26	103
3	転院					
	急性期病院	20	38	21	34	113
	慢性期病院	9	18	14	6	47
	転棟	1	1	0	0	2
(参照)	死亡	9	22	3	2	36
②	①のうち,退院先が居宅などであった	105	325	236	238	904
③	在宅復帰率対象患者	144	423	297	305	1,169
④	居宅など復帰率（%）100×②/③	72.92%	76.83%	79.46%	78.03%	77.33%

Ⅲ

高　槻　病　院

7:1急性期病院
総合周産期母子医療センター
小児救命救急センター
地域医療支援病院
JMIP（外国人患者受入れ医療機関認証制度）認証医療機関
大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関
ICU·PICU·SCU/MFICU·NICU·GCU
全477床

〒569-1192
大阪府高槻市古曽部町1丁目3番13号
TEL.072-681-3801

院長　髙岡秀幸

総合内科

スタッフ紹介（2022年12月31日現在）

主任部長：筒泉貴彦
医　　長：濵田　治，笹木　晋，世戸博之
医　　員：恒光綾子，堀田亘馬，中村真崇
専　攻　医：山田真博，加藤裕紀子
診療看護師：向井拓也，小林達也，猪熊咲子

診療内容

外来：

総合内科は高槻病院の初診外来を担当しており，種々の症状を呈する患者の初期評価を行っている．病態や疾病に合わせて総合内科での対応を継続して行うか，あるいは専門医の評価及び加療が必要であるかを判断する．再診外来では主に初診外来で対応した患者の加療が短期間である際のフォローアップ，あるいは総合内科に入院されていた患者の退院後の複数回のフォローアップに利用している．いずれも病態が安定した際は極力かかりつけ医に患者をお返しするようにしており，急性期病院と開業医との良好な関係を維持できるように努力している．すなわち開業医からのご紹介に対しては依頼内容に対して真摯に対応し，問題が解決したら患者をお返しすることで高槻市の中枢病院としての役割を果たすことを目指している．

入院：

一般外来及び救急外来からの急性期疾患が入院患者の多くを占めている．高齢者において頻度の高い誤嚥性肺炎，尿路感染症，複数の病態が関与する食欲不振や衰弱（Failure to thrive）症例が多いが，不明熱，多関節炎などの診断に難渋する症例も相談されるケースが増加している．基本的に入院依頼のあった症例については特殊な理由がない限り全例受け入れており，必要に応じて専門科と協力の上診療を行う．予定入院とは異なり，緊急性を伴う病態が多いが柔軟な対応を心掛けている．入院チームは科内2チームで構成されており，日替わりで入院の対応を行っている．各チームは1名の指導医，2名の後期研修医，初期研修医1～2名及び診療看護師で構成されている．診療看護師も診療に関与しており，看護師としての側面から患者の診療の質の向上に大きく役立っている．初年度に引き続き，高齢患者の種々の病態の対応を行っていることに加えて非高齢患者の重症例や膠原病疾患の頻度も増加してきている．2018年度より整形外科疾患である大腿骨近位部骨折及び椎体骨折に対する診療を，当科を主科として整形外科と協力して行うことが開始されている．欧米ではOrthopedic Co-Management（OCM）と呼ばれており，整形外科の病態以外の種々の内科疾患，周術期管理，安全な退院のための準備などを包括的に診療することで患者への診療の質の向上を目指して行っている．高齢患者のニーズに即しているためか，1年を通じた入院患者数は1,000名以上と年々増加傾向であり，昨年度同様，他科の外来及び入院患者のコンサルテーションも随時行っている．

教育：

若手医師及び看護師への教育面においても役立つべく，毎朝のカンファレンスや回診時の教育セッション，看護師勉強会において尽力している．

2022年のトピックス・実績

訪問診療：

高齢社会に伴い外来受診が困難な症例，終の棲家として自宅を選択するも依然として医療のニーズがある症例に対して総合内科主体の訪問診療を2020年度より愛仁会しんあいクリニックで始動しており患者数は順調に増加している．更なる拡大を目指していく．

教育：

院内の若手医師への教育のみならず院外における森ノ宮医療大学での診療看護師卒前教育，同法人内の特定看護に係る看護師への教育に活躍の場を広げている．

今後の展望

高齢社会である本邦においてはますます種々の病態をバランスよく診療する総合内科医にニーズが高まることが予想される．高槻病院，訪問診療での診療を継続的に行っていき，社会への貢献を行う．また総合内科のニーズや功績，臨床研究を通じて発表することも引き続き積極的に行っていく．

呼吸器内科

スタッフ紹介

船田泰弘　1995年卒，主任部長
中村美保　2002年卒，医長
松村佳乃子　2009年卒，医長
岩坪重彰　2010年卒，医長
岩本夏彦　2015年卒，医員（～2022年3月）
岡本真理子　2015年卒，専攻医（～2022年3月）
大内愛子　2016年卒，専攻医（～2022年3月）
山岡貴志　2016年卒，専攻医
村上翔子　2016年卒，専攻医（2022年4月～）
日詰健太郎　2019年卒，専攻医（2022年4月～）
＊西村春佳　2009年卒（非常勤）

診療内容

肺炎，喘息，COPDなどのcommon diseaseを始め，肺癌の集学的治療，重症呼吸不全患者の集学的治療，チーム医療で取り組む慢性呼吸器疾患など幅広い診療を行っている．診療体制は従来どおり屋根瓦方式のチーム制（2チーム制）で診療及び初期研修医・専攻医の指導を行った．

2022年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の入院患者は60名と昨年90名より減少したが，当科以外の内科系診療科と分担して入院患者を受け入れる体制になったためと考えられる．

入院患者数は延べ810名（昨年754名）と増加した．入院患者の内訳は，新型コロナウイルス感染症60，肺炎・気管支肺炎87，誤嚥性肺炎47，結核2，肺膿瘍6，膿胸11，胸部悪性腫瘍235（非小細胞肺癌149，小細胞肺癌77，悪性胸膜中皮腫4など），気管支喘息21，COPD増悪31，間質性肺疾患76，気胸62，血痰・喀血5，胸水貯留17，などであった．肺炎（誤嚥性肺炎含む）と肺癌で半数近くを占める点は昨年までと同様であるが，2022年は気胸と間質性肺疾患が多かった．死亡退院は69例であった．入院検査は終夜睡眠ポリグラフィ（PSG）が84（昨年49）と増加したが，不整脈内科からの検査依頼が増えたことによる．入院での気管支鏡検査は18件（外来検査105件；総計123件）とやや減少したが新型コロナウイルス感染症の影響があったものと考えられる．なお，今年も呼吸器内科・外科・放射線治療科・病理診断科・メディカルスタッフが参加する肺癌キャンサーボード及び，骨転移ボードを毎月開催した．

今後の展望

2022年は新型コロナウイルス感染症に対応しながら，昨年以上の入院患者を受け入れ，活発な活動を行うことができた．2023年は新型コロナウイルス感染症の推移を見極めながら，2019年より以前の水準までできるだけ早く活動を回復させ，更に実績を伸ばしたい．

表．2022年の延べ入院患者数と転帰（　）内は昨年

（単位：名）

	患者数	死亡		患者数	死亡
呼吸器感染症			呼吸器悪性腫瘍		
新型コロナウイルス感染症	60(92)	7(5)	非小細胞肺癌	149(164)	17(14)
肺炎・気管支肺炎			小細胞肺癌	77(79)	4(3)
細菌性肺炎	77(66)	8(4)	悪性胸膜中皮腫/胸腺癌/その他	4(3)/1(0)/4(0)	0(2)/0(0)/0(0)
ニューモシスチス肺炎	5(0)	1(0)	閉塞性肺疾患		
レジオネラ肺炎	4(3)		気管支喘息	21(16)	
肺真菌症(アスペルギルス症)	1(6)		COPD増悪	31(24)	4(5)
誤嚥性肺炎	47(45)	2(10)	その他		
結核/非結核性抗酸菌症	2(4)/5(5)	1(2)	気胸	62(27)【手術22(11)】	1(0)
肺膿瘍	6(10)	0(1)	胸水	17(14)	2(1)
膿胸	11(2)		気管支拡張症	4(1)	
間質性肺疾患			血痰・喀血	5(3)	
肺線維症・非特異性間質性肺炎	57(29)	18(4)	血管炎・肺胞出血	2(3)	
特発性器質化肺炎	2(5)		肺塞栓症	1(0)	
過敏性肺臓炎	4(2)		その他	36(48)	4(10)
薬剤性肺炎	2(4)		検査入院		
放射線肺臓炎	4(5)		終夜睡眠ポリグラフィ検査	84(49)	
好酸球性肺炎	4(1)		気管支鏡検査	18(37)【入外合計123(140)】	
膠原病関連間質性肺炎	3(4)	0(2)	＊局所麻酔下胸腔鏡検査(胸水入院)	4(5)	

循環器内科

スタッフ紹介

髙岡秀幸　（1986年卒）
中島健爾　（2002年卒）
松寺　亮　（2006年卒）
佐野浩之　（2008年卒）
湯口　賢　（2010年卒）
谷村幸亮　（2012年卒）
田中悠介　（2013年卒）
片平龍太郎（2017年卒）
佐久間大輝（2017年卒）
山田真博　（2019年卒）（2022年4月～）
神末真由　（2016年卒）（2022年4月～）　計11名

診療内容

入院患者は，主に救急外来からの直接入院や近隣医療機関からの外来紹介である．治療内容は，冠動脈インターベンション（PCI），下肢動脈形成術（EVT），救急心不全加療を主軸にしている．3年前に開始した心臓ホットラインは引き続き継続しており，24時間体制で開業医から直接電話を受けられるように対応している．また，平日は従来の内科当直に加えて循環器内科当直を立てて，夜間救急患者の受け入れを強化している．

2022年のトピックス・実績

これまで主軸であった待機的PCIは手術適応（機能的な虚血の証明が必須）などから引き続き全国的に減少することが予想される．当院においても昨年235件と減少傾向であったが，心臓ホットラインが浸透し，緊急を要する患者の紹介数増加や，救急隊員への啓蒙により，急性冠症候群（ACS）に対する緊急PCI症例が増加した．それに伴いPCI総数も上昇傾向である（表1）．

ロータブレーター，ダイヤモンドバック，エキシマレーザーなど高度石灰化病変をデバルク（削り取る）する機器を使用しているが，昨年と同様に術後合併症は少なく安全に治療が行えており，入院日数減少にも寄与している．

末梢動脈インターベンションに関しては，年々増加傾向であるが，特に下肢EVTは専門性を持ち複雑病変に対しても行うようになり飛躍的に増加した（表2）．

また，心エコー図検査による診断・治療のプロセス，カテーテル手技を通して若手医師の育成にも力を入れ，昨年に引き続き，当院循環器内科への入職を希望する若手医師の数は安定している．学会発表や論文投稿にも力を入れており定期的に症例報告ができている．

今後の展望

今後も重点を置かれるのは急性冠症候群であり，引き続き心臓ホットラインの拡充を行い，近隣開業医はもちろんのこと，茨木周辺の医療機関とも連携を図り症例数を確保したい．末梢動脈疾患に関してもよりいっそうアピールしていきたい．これからも心臓血管外科，不整脈内科とともにハートチームとして相互関係強化を図り，患者の共有化を目指していきたいと考えている．

表1．実績　（単位：件）

	2021年	2022年
PCI総数（件）	235	245
緊急PCI（件）	74	106

表2．実績　（単位：件）

	2021年	2022年
EVT（件）	48	88
シャントPTA（件）	92	98

消化器内科

スタッフ紹介

大須賀達也（1997年卒　主任部長）
角山沙織　（2004年卒　医長）
澤井寛明　（2005年卒　医長）
小川浩史　（2007年卒　医長）
鍋嶋克敏　（2010年卒　医長）
谷本直紀　（2012年卒　医員）
池内愛実　（2013年卒　医員）
石田亮介　（2016年卒　専攻医）（～2022年3月）
南條　望　（2017年卒　医員）
石原美﨑　（2018年卒　専攻医
2021年10月～2022年3月まで千船病院へ）
金丸薫子　（2018年卒　専攻医
2021年10月～2022年3月まで明石医療センターへ）
増田祥子　（2018年卒　専攻医）（2022年10月～）
伊藤裕貴　（2018年卒　専攻医）（～2022年3月）
安部恵里佳（2019年卒　専攻医）（2022年4月～）
岩本陽菜　（2019年卒　専攻医）（～2022年3月）
影山達也　（2019年卒　専攻医）
関口尚人　（2020年卒　専攻医）（2022年4月～）

診療内容

消化管や肝胆膵の良性・悪性疾患など多岐にわたる消化器領域の疾患に対し，弱点の少ない診療体制を構築している．消化器内科スタッフが専門性を生かし，救急外来や地域の医療機関と密接に連携し，オープン検査など内視鏡検査の積極的な受け入れを行い，質の高い医療の提供を目指している．

2022年のトピックス・実績

消化器内科外来の担当医を午前午後に配し，当日紹介患者にも柔軟に対応できる体制にした．診療実績を下記の表にまとめた．入院は，診療パスの利用やMSW，入退院支援，リハビリの早期介入，病棟カンファレンスを行い，近年平均在院日数は短縮し，入院平均単価は上昇傾向である．一方で，新入院数は減少した．外来延べ患者数は減少したが，外来化学療法の割合がさらに増加し，外来平均単価は上昇傾向である．

内視鏡関連では，新型コロナウイルス感染症流行が続く状況の中，感染予防対策や件数の維持が課題であった．飛沫対策を講じながら，検査枠をほぼ制限することなく実施できた．内視鏡を標榜するクリニックが増加する中，件数を維持するため，胃がん検診枠の継続とEGDフォローアップシステムを導入した．また学会発表など学術活動も精力的に行った．

今後の展望

2023年4月より南條望が大正病院に異動し，安部恵里佳が明石医療センターに，関口尚人が千船病院に異動する．一方，2023年4月より，専攻医1年目として瀬底翼（沖縄南部医療センター・こども医療センターで初期研修），専攻医3年目として岩本陽菜（千船病院から）と影山達也（明石医療センターから）が赴任する．日本専門医機構からのシーリング制度の影響は小さくなく，人材の確保には大学病院や連携病院との協力が引き続き必要となるだろう．化学療法の入院から通院加療への移行，内視鏡治療の外来治療への移行，入院期間の短縮化に加え，新型コロナウイルス感染症流行での受診控えなどの影響で総入院数は減少傾向にある．また内視鏡を標榜するクリニックは増加しており検査数を維持・増加させることは容易ではなくなっており，引き続き1次2次検診にも力を入れていきたい．ポストコロナへの対応も含め，消化器疾患の新規患者の集患が引き続き重要であろう．高度急性期病院ならではの専門的かつ迅速な診療を必要とする症例や，併存疾患，問題点を有する症例にも幅広く対応し，質の高い消化器診療を行うことで地域医療に貢献していきたい．

表1. 診療活動実績

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
新入院(人)	1,504	1,456	1,486	1,456	1,357
入院平均単価(円)	51,539	51,000	58,196	59,657	59,785
平均在院日数(日)	11	11	11	10	10
外来延べ患者数(月平均)(人)	1,478	1,537	1,431	1,442	1,363
平均単価(円)	23,089	24,208	26,452	27,320	28,152
化学療法(外来)(件)	902	986	1,109	1,429	1,432
化学療法(入院)(件)	229	190	119	102	99

※2020年以降年報の対象期間が1月1日～12月31日

表2. 内視鏡活動実績

(単位：件)

	2018年度	2019年度	2020年	2021年	2022年
総数(うち治療)	6,385(1,303)	6,501(1,367)	6,189(1,381)	6,143(1,477)	6,108(1,503)
上部(うち治療)	3,567(268)	3,537(249)	3,355(313)	3,411(252)	3,269(301)
下部(うち治療)	2,410(804)	2,484(855)	2,301(839)	2,203(967)	2,376(962)
ERCP関連(うち治療)	239(231)	281(263)	352(229)	342(258)	273(240)
超音波内視鏡(EUS-FNA)	166(33)	188(35)	170(43)	185(45)	180(24)
小腸内視鏡	3	11	11	2	10
ESD(食道・胃・大腸)	88	73	78	60	66

※2020年以降年報の対象期間が1月1日～12月31日

糖尿病内分泌内科

スタッフ紹介

陳　慶祥（1995年卒　主任部長），吉田健一（2007年卒　医長），三浦　洋（2010年卒　医長），平賀千尋（2013年卒　医員）の4名である．

診療内容

糖尿病及び内分泌全般を主な対象としている．陳は外来及び科全体のマネージメントに徹している．吉田，三浦，平賀は病棟での患者対応及び初期研修医の指導，他科からの血糖及び内分泌のコンサルトを引き受けている．吉田は内分泌専門医として内分泌負荷試験入院のマネージメント及びNST回診も行っている．外来では腎移植患者の糖尿病診療や産婦人科との連携での妊娠糖尿病や糖尿病合併妊娠の管理も行っている．1型糖尿病患者においてインスリン強化療法でコントロール困難な患者に積極的にCSII（持続インスリン皮下注入）療法及びSAP（センサー付きインスリンポンプ療法）を導入している．血糖変動の激しい患者はFGM（Flash Glucose Monitoring）を用いてインスリンの微調整を行っている．NST委員会の下部組織である医師，看護師，栄養士，薬剤師，臨床検査技師，理学療法士，事務員からなる「糖尿病ケアチーム」が2か月に1回糖尿病教育入院，外来糖尿病患者に関するミーティングを行っている．山下みどり糖尿病看護認定看護師が，糖尿病看護外来にて，糖尿病性腎症進展予防の指導，妊娠関連の糖尿病患者の指導，外来インスリン導入，CSII及びSAP患者の療養指導，FGMの導入指導などを行っている．糖尿病足病変の患者の拾い上げを行い，「フットケア外来」にて，足のケアや療養指導を行っている．診療支援科が中心となって糖尿病患者友の会（よもぎの会）のサポートを行っているが，新型コロナウイルス感染症の影響で，よもぎの会は休会となっており，会員向けに定期的に会報を作成している．内分泌疾患が疑われる患者は，入院にて内分泌負荷試験を行い，詳細な病態解析を行っている．

2022年のトピックス・実績

学会発表は4題で，そのうち2題は研修医による発表であった．

また，実績の数字には表せないが，外科系や産婦人科の血糖コントロールの併診も当科が引き受けており，周術期の血糖管理に貢献している．

糖尿病専門医数は4名（指導医2名），内分泌専門医数2名（指導医2名）である．

今後の展望

4名体制となって2年が経過したと同時に新型コロナウイルス感染症が流行して2年経過した．新型コロナウイルス感染症が落ち着きつつある中，他院からの紹介患者も増えつつある．

引き続き当地域の糖尿病及び内分泌の拠点であることを院内外にアピールし，地域からの紹介患者の受け入れ，病院全体からの血糖コントロール及び内分泌疾患のコンサルトを積極的に受ける．

同時に地域連携のため，血糖コントロールの安定した患者の逆紹介を更に進め，入院の必要な患者の紹介を増やし，入院患者増に繋げたい．

産婦人科との連携による妊娠糖尿病，糖尿病合併妊娠，妊娠合併甲状腺疾患診療の強化，糖尿病患者の定期的な合併症精査による血管病変の早期発見により，虚血性心疾患，脳血管疾患，下肢閉塞性動脈硬化性疾患の新規患者の掘り起こしにも努め，他科との連携を強めたい．また学会発表の件数を増加させ，研修医にも積極的に学会発表をさせたい．

表．実績（2022年1-12月）　（単位：名）

外　来	
外来インスリン症例数	703
外来インスリンポンプ使用者数	53

入　院	
糖尿病内分泌科の入院患者数	205
糖尿病の入院患者数	139
教育入院数（パス入院）	60

内分泌疾患入院患者数	
間脳・下垂体疾患	5
甲状腺疾患	4
副甲状腺疾患	1
カルシウム代謝異常	0
副腎疾患	8
性腺疾患	0

検査件数	
甲状腺穿刺又は針生検	67
副腎静脈サンプリング	1

腎臓内科・人工透析科（高槻腎センター）

スタッフ紹介

髙橋利和（1994年卒）：
日本腎臓学会腎臓専門医・指導医
日本透析医学会透析専門医・指導医
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医
徳島大学臨床教授，大阪医科薬科大学臨床教育教授
辻本吉広（1995年卒）：
日本腎臓学会腎臓専門医・指導医
日本透析医学会透析専門医・指導医
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医
日本腹膜透析医学会認定医
黒川直基（2017年卒）：
後期研修医

診療内容

腎炎・ネフローゼ，透析導入などの入院受け入れを随時行っている．腎生検は検査日を火曜日午後とした．

人工透析科：2017年6月より高槻病院3階へ移転．25床で運用している．

重症患者に対してはICUにて血液透析や特殊血液浄化を行った．

2022年のトピックス・実績

1）腎炎，ネフローゼを中心とした腎疾患の治療と末期腎不全の加療が入院患者の中心であった．

2）末期腎不全・透析に至る前の慢性腎臓病の段階での生活指導や病気に対する理解を深めることを目的とした腎臓病教育指導外来を2011年より開始．対象患者をCKDstageIIからとし，今年は計63件行った．新型コロナウイルス感染症の影響はあったが昨年より増加した．また，腎臓病療法指導士の資格取得のための研修施設に今期も指定された．

3）各教育・施設認定に関する活動

2011年度より髙橋が徳島大学臨床教授となり，徳島大学学生の学外教育の受け入れを行っている．また，2015年度より大阪医科薬科大学臨床教育教授となり，大阪医科大学6年生の学外実習も行うようになった．

4）透析室としての活動

通常の維持透析や透析導入に加え，LDLアフェレーシス，LCAP，PMAなどの特殊血液浄化も昨年同様積極的に行っている（表参照）．

2022年は37名の透析導入を行った．新型コロナウイルス感染症の影響は軽微であった．

また，急性期病院の透析室としての活動に力を入れ，2022年は延べ273名の入院透析を行った，昨年よりも111％の件数であったが，入院透析依頼に関しての応需率は100％を達成した．

5）外来透析患者に対する腎臓リハビリテーション

リハビリテーション病院透析室であった頃から，リハビリテーション科の協力の下，外来透析患者のADLの維持を目的に，透析中の床上でのリハビリテーションに力を入れてきた．高槻病院へ移転した後も，リハビリテーションセンターの協力で，積極的に継続できた．2022年は透析中のリハビリテーションが保険収載され，延べ1,550件行った．

6）地域での活動

慢性腎臓病の啓発及びCKDネットワークの構築のため大阪医科薬科大学と協力し各方面へのWeb形式を中心に講演活動を行った．

今後の展望

当医療圏での末期腎不全に対する腎代替療法の導入の需要は増加しており，当科での導入件数も増加の一途である．今後も積極的に地域の需要に応えていきたい．

また，透析患者の予後の改善や高齢化のため，入院の件数も増えている．三島医療圏における透析クリニックとは有機的に連携がとれており，今後更に深化させていきたい．

腎リハビリテーションに関しては，2022年から保険収載され，我々の活動がようやく認められたとの感がある．腎リハビリテーションの先駆的なユニットとして，今後も積極的な活動を行っていきたい．

表．特殊血液浄化件数　（単位：件）

GMA	LDL吸着	CRRT	CART	PE
51	19	100	7	3

不整脈センター

スタッフ紹介

山城荒平：副院長，不整脈センター長
田中友望
吉田雅晴
坂田憲祐（～2022年2月）
黒田奈巳：非常勤

診療内容

不整脈専門外来を月・火・水・金曜日の午前及び木曜日午後に行っている．月・水曜日は山城が担当し，火曜日は黒田，木曜日は田中，金曜日は吉田が担当している．また，水曜日にデバイスチェックの外来を行っている．

不整脈に対するカテーテルアブレーション治療を月曜日から金曜日に，ペースメーカーなどデバイスの植え込みを適宜行っている．

2022年のトピックス・実績

持続性心房細動に対して洞調律中に多極カテーテルで心房細動基質を調べ，Non-PV triggerを検出する方法で良好な成績を上げている．

下大静脈欠損のため通常の方法でアブレーションできない症例に対して，上大静脈から心房中隔穿刺を行い，リモートマグネティックナビゲーションシステムを用いて治療する方法を確立し，全国から患者を紹介いただいている．ブルガダ症候群に対する心外膜アブレーションや，先天性心疾患術後に伴う頻脈に対してのアブレーションなど，他院で取り組むのが困難な症例に対してカテーテルアブレーションを施行している．

リモートマグネティックナビゲーションシステム（米国，ステレオタキシス社製）を有するため，今まで不可能であったカテーテル操作が可能になり，他院のアブレーション不成功例に対して不整脈の根治に成功している．

ホームページをリニューアルし，我々の施行可能な医療を伝えている．YouTube上で不整脈センターちゃんねるの動画を公開し，新型コロナウイルス感染症がまん延している中でも多くの方に情報が伝わるように工夫している．オンライン相談や心電図相談をリモートで施行している．

今後の展望

あらゆる不整脈に対応できる利点を活かして，より遠方からの紹介患者が増えるように広報活動を行う．

大阪高槻心房細動アブレーションライブは新型コロナウイルス感染症禍でも継続でき，市民講座，シンポジウム，ライブデモを一体として当院で開催している．市民講座などを通じて，アブレーション治療の有用性を今後も広めていく．

血液内科

スタッフ紹介

岡本雅司（1993年卒）
　日本血液学会認定血液専門医
　日本内科学会総合内科専門医

診療内容

火曜日
　血液内科専門外来
月～金曜日
　骨髄穿刺・生検
　化学療法
　病棟回診・処置

2022年のトピックス・実績

腫瘍性疾患（白血病・悪性リンパ腫・骨髄腫・骨髄異形成症候群・骨髄増殖性疾患など），免疫性疾患（再生不良性貧血・免疫性血小板減少性紫斑病など），血栓・出血性疾患（血友病・抗リン脂質抗体症候群など）といった幅広い領域の血液疾患を診療している．造血幹細胞移植や若年者の急性白血病など，当院の設備上の問題で高度な無菌管理を要する疾患の治療はできないため，これらの患者に対しては，整備の整った施設を紹介している．高齢の患者が多くなっていることと，疾患の専門性の高さから，他院への転院に時間が掛かり，どうしても入院日数が長くなる傾向にある．

今後の展望

可能であれば造血幹細胞移植を施行したいと考えている．自家末梢血幹細胞移植が施行可能になると，より若年の患者を診ることができ，患者数が増加することが見込める．非専門的な疾患から造血幹細胞移植まで幅広い血管疾患を診療してきた．その経験を活かしていきたい．

脳神経内科

スタッフ紹介

松下達生（1990年卒　主任部長）
　日本内科学会　　認定内科医・指導医
　日本神経学会　　専門医・指導医・代議員
　日本頭痛学会　　専門医
立花久嗣（2006年卒　医長）
　日本内科学会　　認定内科医・総合内科専門医
　日本神経学会　　専門医・指導医
　日本脳卒中学会　専門医
　日本認知症学会　専門医・指導医
山形大志（2017年卒　専攻医）（2022年4月～）

診療内容

専門医2名，専攻医１名の体制で，月曜日から金曜日まで火曜日を除き午前は初診，紹介及び再診外来（月・水・金曜日：松下，木曜日：立花），午後は週4日（月・水・金曜日：松下，木曜日：立花，金曜日：山形）の再診外来，また水・木曜日午前は神戸大学脳神経内科からの非常勤医の応援を得て2診体制での診療を行っている．基本的に予約外来だが当日来院も可及的に応需している．立花は第2，4火曜日午後に認知症専門外来を，松下は第3火曜日午後に千船病院での外来診療を行っている．また神経救急については救急部からの要請に常時対応している．

針筋電図など侵襲検査を主に火・木曜日午後に行い，火曜日午前は病棟カンファレンスと全体回診，午後にはリハビリテーション科とともに臨床カンファレンスを行っている．

2022年のトピックス・実績

スタッフ数は3名を継続，外来患者数は初診507名，再診5,978名の計6,485名であった．入院患者数は224名，延べ5,237名で，主な疾患では脳血管障害143，てんかん関連66，神経感染症28，筋・末梢神経疾患27，ギランバレーや多発性硬化症など神経免疫疾患20，パーキンソン病や多系統萎縮症，認知症など変性疾患17などであった．

脳血管障害については，超急性期のt-PA治療を含めた急性期治療はSCUで行い，慢性期は地域連携パスにのっとりかかりつけ医での継続加療を依頼しているが，ハイリスクや合併症など複雑な例や当院他科併診例については当科外来にて一次・二次予防治療を継続し，また機能障害について適宜リハビリテーション科と連携し経時評価しつつ治療を行い，頸動脈高度狭窄など観血治療適応症例は脳神経外科へ血管内治療等を依頼している．医師会主導型脳卒中地域連携パスの利用件数も維持している．パーキンソン病300例超を中心とした神経変性疾患，特に特定疾患対象患者の外来患者数は，高槻市で27.7%と大阪府平均よりも高い地域高齢化の現状を反映し，また75万人の三島二次医療圏に脳神経内科医常勤の急性期病院が少ないことからも引き続き増加傾向にあり，エリア内の多くを担当し三島地区の基幹施設として活動対応している．当科と大阪医科薬科大学脳神経内科，藍野病院及び近隣四医師会，歯科医師会，薬剤師会と保健所，地域包括センターなどによる三島圏域難病医療ネットワークにおいて，パーキンソン病類縁疾患やALSほか指定難病に対する基幹施設としても地域連携を進めている．また愛仁会リハビリテーション病院と連携したパーキンソン病入院リハビリプログラムがあり，今後も利用者数を増やしていきたい．てんかん患者は近年社会的注目度が高いが，近隣に担当科が少なく，神戸大学脳神経内科からのてんかん専門医の応援もあり，他地域からの紹介や小児科からのcarry over例などを含めて救急からの入院，外来数とも多数あり，検査部生理検査部門の迅速な対応を得て診療に当たっている．立花による認知症専門外来では治験も行っており，認知症は当地域も高齢化とともにAD始めDLB，SD，VDなど増加傾向にあるため，更に需要は高まると予想される．パーキンソニズムを呈する例については，PD，DLBなどの鑑別診断にRI検査が有用視され診断基準にも組み込まれているが，当院で設備がなく行えないものは近隣施設での協力を得て，診断・治療により専門性を発揮できるよう努めている．松下は頭痛学会専門医でネット上サイトを見ての片頭痛来院者も引き続き増加している．

今後の展望

学会専門医2名体制で，引き続き日本神経学会准教育施設認定を維持しており，神経疾患の診療，教育に努める．また脳血管障害急性期治療や，新ガイドラインの下，新規薬剤や治療法の選択肢が増えてきているパーキンソン病始め神経変性疾患，てんかん，免疫性・感染性神経疾患，片頭痛などの担当領域において，更に専門

性，先端性を高めて最良の治療を提供していく．三島圏域に脳神経内科常勤の急性期病院が依然少なく，特に高齢化に伴い増加していく変性疾患など，専門的治療を要する分野では今後も基幹施設として当圏域での診療の中心的役割を求められ，応需し得るべく引き続き努めていく．また生活習慣病の増加から脳血管疾患の増加，特にtPA症例の更なる増加も見込まれ，地域連携パスを通じ病診連携による近隣地域への逆紹介数の増加を目指したい．

総合救急医療センター（救急科）

スタッフ紹介

センター長：秋元　寛（1983年卒）（2019年4月着任）
主任部長（副院長）：稲本真也（1992年卒）
（2019年4月着任）
医長：増田　茂（2000年卒）（2020年4月着任）
医員：豊島千絵（2012年卒）（2020年5月着任）
初期研修医：2名

診療内容

高槻病院総合救急医療センターは小児救命救急センター，成人の内因性救急である救急総合診療部門，外因性救急である急性期外科部門，の3つの診療の柱を持っている．また当センターは研修医の救急研修の場として重要な位置を占めており，常に2名の研修医が交代で在籍している．

小児救命救急センターは小児科，小児外科，小児脳神経外科が主に担当，成人救急は救急科が担当し，院内の各診療科と連携し，迅速な対応を行っている．脳卒中，急性冠症候群，急性腹症，消化管出血，外傷など重症救急にも対応できるよう，院内体制を整えている．脳出血，くも膜下出血，脳梗塞など脳卒中については一次脳卒中センターとして認定されており，2022年11月より脳卒中専用のホットライン「ブレインコール」を設置した．また心筋梗塞，狭心症などについては迅速に循環器内科が対応できるように「心臓ホットライン」を設置している．

2022年のトピックス・実績

過去5年間の救急件数を示す（図1）．2019年までは救急搬送，直接来院や紹介来院，病院車での搬送など救急車以外の来院数とも年々増加していたが，2020年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い約1,100件減少した．

2021年は発熱患者に対応する院内体制を整え，救急センター内の隔離可能な診療ベッドをフル回転させながら「断らない救急」の維持に努め，ほぼ新型コロナウイルス感染症流行前の2019年同等まで回復した．さらに2022年は救急車以外の搬送はむしろ減少したものの，救急搬送件数は9,591件と初の9,000件超えとなり，救急患者総数も18,000件を超えた．成人と小児の救急搬送件数をみると，成人が70.2%，小児が29.8%とほぼ1/3が小児救急を占めており，当センターの特徴の一つとなっている（図2）．一方で，救急搬送依頼を断る件数が急増した（図3）．特に1月，8月，12月の新型コロナウイルス感染症流行の第6波，第7波，第8波に一致して不応需が極端に多くなった．不応需率も2月には43.1%とほぼ半数を断らざるを得ない数字となった．しかしその時期でも677件の救急搬送を受け入れており，いかに地域の救急搬送がひっ迫していたかがよくわかる．年間を通しての不応需率は20.3%で，2021年とほぼ同様であった．

2022年の救急搬送患者数は9,591件で，高槻消防からの搬入が63.9%となっていた（図4）．新型コロナウイルス感染症流行による救急搬送ひっ迫の影響もあり，三島医療圏以外からの救急搬送も14.4%と増加した．

年代部別救急患者数を示す（図5）．当センターは小児救命救急センターでもあるので，小児と高齢者に大きな山があるのが特徴である．成人に限ると救急搬送患者のうち57.6%が70歳以上の高齢者であった（図6）．

救急患者の転帰を図7に示す．31.7%の患者は入院となり，67.7%は治療後帰宅となっている．

当センターの救急患者の疾患別救急患者を示す（図8）．75.4%が内因性救急であり，高齢者の内因性が多いという我が国の救急医療の現状をそのまま表している．

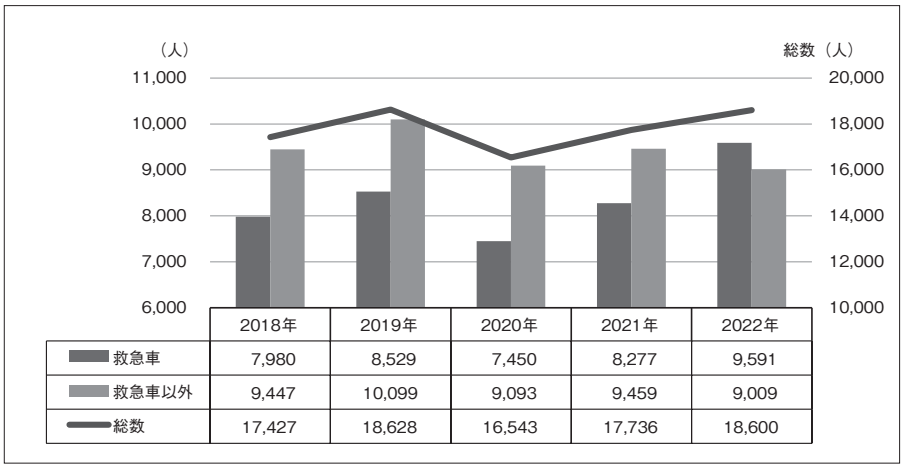
当センターの救急患者の看護ケア度から見た重症度を図9に示す．治療後帰宅可能な軽症患者は63.5%，入院が必要な中等症が33.0%，バイタルサインが不安定な重症・重篤患者が3.6%であった．緊急手術，緊急カテーテル治療，ICU・SCU管理が必要な重症・重篤患者は3.3%で，徐々に中等症～重症患者の搬入が増えている．救急搬送患者の重症度を年齢別に見ると，成人では43.8%が入院の必要な中等症以上の患者であった（図10）のに対し，小児では約80.4%の患者が帰宅可能な軽症患者であり（図11），新型コロナウイルス感染症流行の影響もあるが，救急車適正利用に向けての課題となっている．

当院は救急隊の搬送実施基準で脳卒中，急性冠症候群，吐下血，急性腹症，外傷などの特定病態対応医療機関となっており，大阪府情報収集システム（ORION）に従い特定病態別に搬入された患者を図12に示す．

今後の展望

新型コロナウイルス感染症流行に振り回され，地域の救急医療が完全にひっ迫した2022年であった．新型コロナウイルス感染症の終息は見えないが，2023年5月

に感染症5類に分類されたころには「ウィズコロナ」あるいは「アフターコロナ」の体制を新たに構築しなおさなければならない．地域の行政，消防本部，医療機関と連携しながら救急医療体制を崩すことなく，円滑な救急医療の提供に寄与したい．



	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
救急車	7,980	8,529	7,450	8,277	9,591
救急車以外	9,447	10,099	9,093	9,459	9,009
総数	17,427	18,628	16,543	17,736	18,600

図1．救急患者の推移

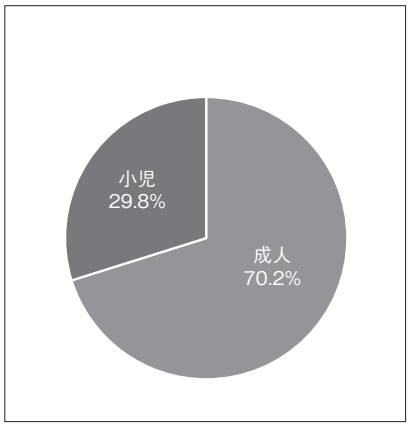
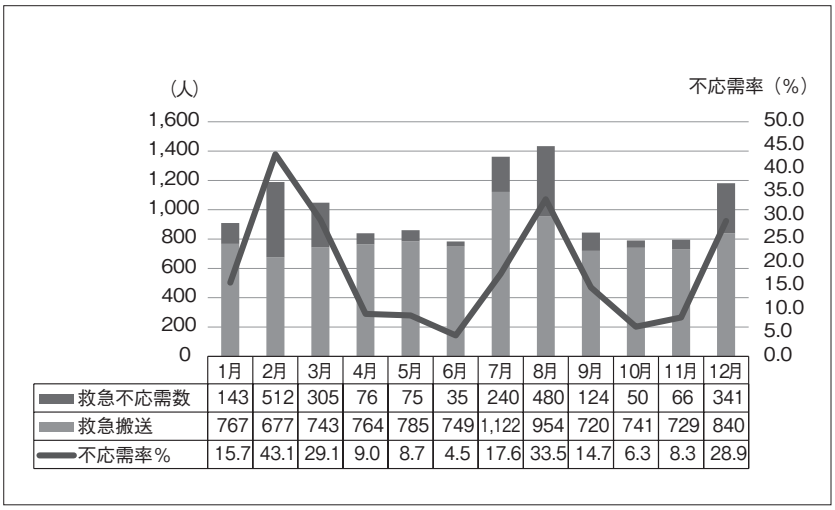


図2．救急搬送内訳



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
救急不応需数	143	512	305	76	75	35	240	480	124	50	66	341
救急搬送	767	677	743	764	785	749	1,122	954	720	741	729	840
不応需率%	15.7	43.1	29.1	9.0	8.7	4.5	17.6	33.5	14.7	6.3	8.3	28.9

図3．月別不応需症例

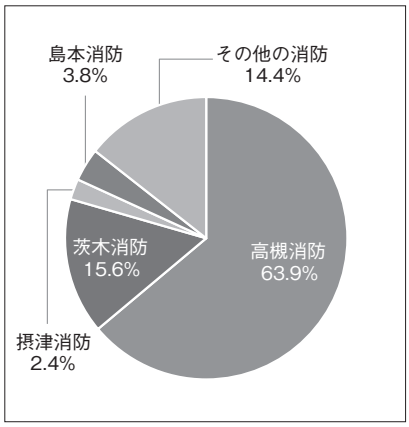


図4．消防本部別救急搬送件数

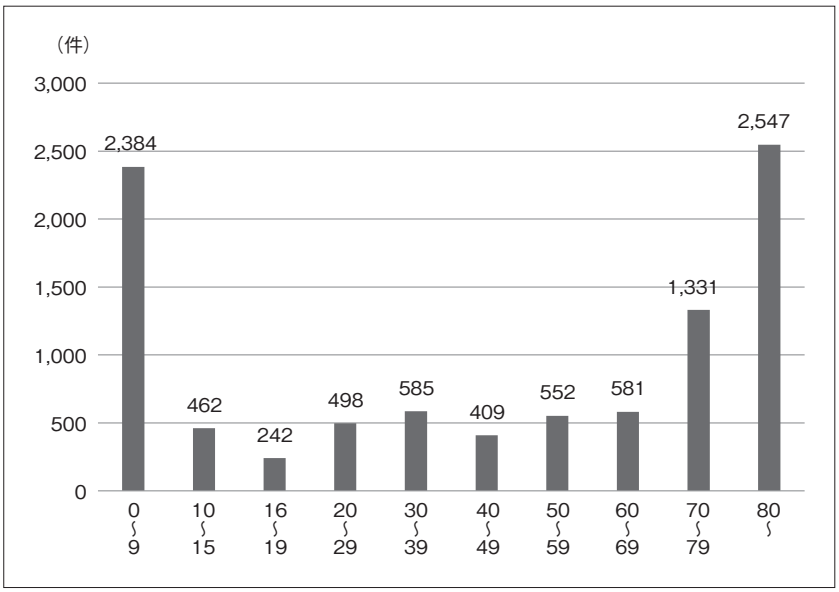


図5．年代別救急搬送件数

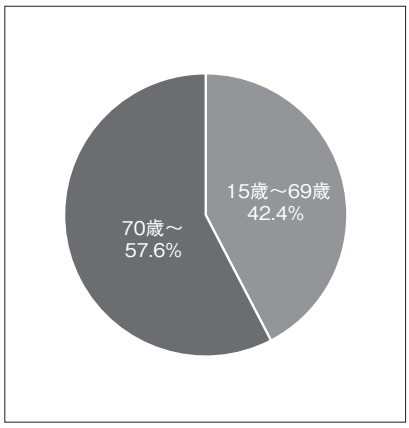


図6. 成人救急搬送患者の高齢者率

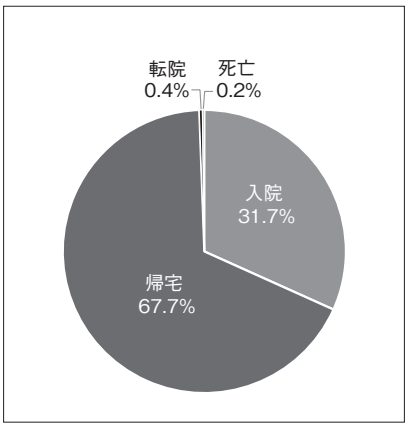


図7. 救急患者の転帰

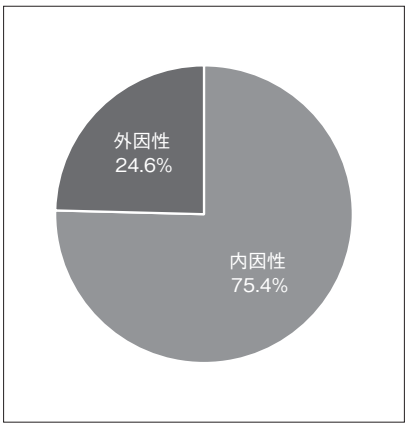


図8. 疾患別救急患者数

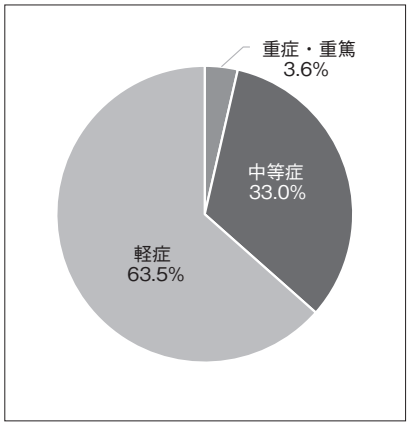


図9. 重症度別救急患者数

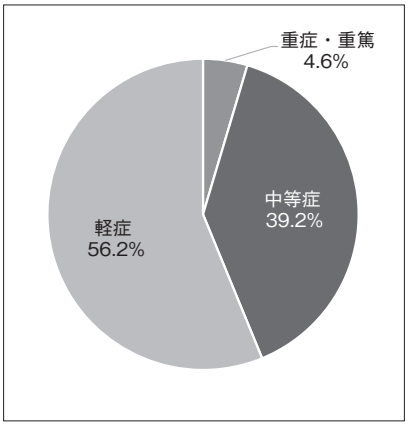


図10. 重症度別救急搬送患者数（成人）

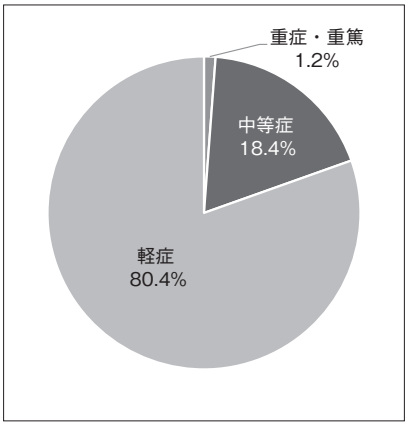


図11. 重症度別救急搬送患者数（小児）

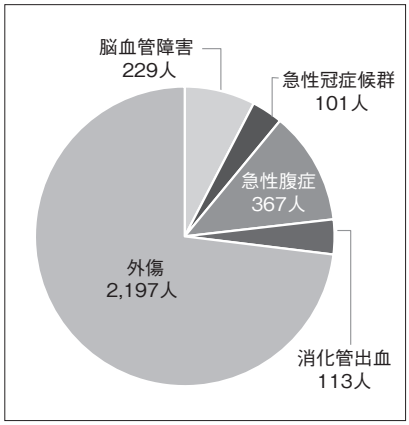


図12. 救急隊による特定病態救急患者数（ORIONデータより）

精神科

スタッフ紹介

2022年のスタッフは，杉林 稔主任部長，伊藤晴子医長，井上由香医長，家田麻紗医長，島田　稔医師（週半日非常勤）.

公認心理師は常勤6名（小寺智子，鈴木佳子，山本百合子，河島千佳，福島　茜，水谷晴香）.

診療内容

(1) 外来診療の継続.
(2) コンサルテーション・リエゾン活動の継続.
(3) 精神科リエゾンチームの継続的活動.
(4) 認知症ケアチームの活動開始.
(5) 緩和ケアチームへの継続的参加.
(6) 関連施設（ケーアイ）への週に1回の出向を継続.
(7) 高槻市の認知症対策連携強化事業の嘱託医を継続.
(8) 医師卒後研修における精神科の必修化に伴い，当院所属の臨床研修医全員に1か月，若しくはそれ以上の精神科研修指導.

2022年のトピックス・実績

・外来

2022年の初診患者数（院内他科からの紹介を含む）は486名［前年532名］であった．そのうち，院内他科からの紹介患者数は267名（54.9%）［前年313名（58.8%）］であった.

他病院・医院からの紹介患者は205名（42.2%）［前年196名（36.8%）］であった.

疾患別の患者数は，表1のとおりである.

・入院

精神科主科での入院治療は行っていない.

身体疾患を持つ患者に対する心理的ケアについて，他科の医師や看護スタッフの相談に乗り，連携して治療に当たるコンサルテーション・リエゾン活動を随時行い，精神科リエゾンチームによる介入を積極的に行った.

・認知症ケアチーム活動

週1回の定期回診により各病棟での認知症ケアの向上に努めている.

・その他

精神科リエゾンチームと臨床研修医指導については，家田医長を中心として常勤スタッフにて活動した.

緩和ケアチームについては，チーム員として伊藤医長が参加した.

認知症については，通常の精神科外来での対応に加えて，介護老人保健施設ケーアイでのコンサルテーション・リエゾン活動，高槻市の認知症対策連携強化事業の嘱託医を井上医長が担当した.

・心理療法，心理検査

2022年の公認心理師による心理療法は1,137件［前年1,011件］，心理検査は7件［前年33件］であった．患者の様々な心理的問題に対し，カウンセリングなどを行った．NICU，周産期センター，小児センターでの心理ケアにも取り組み，心理士による訪床と随時カンファレンス，発達検査を行った（表2～4）.

今後の展望

今後も他科との連携を深めながら，活発な臨床活動を展開していきたい.

表1. 精神科外来新患疾患分布

（単位：名）

	2020年	2021年	2022年
器質性症状性精神障害			
認知症（アルツハイマー型,血管型,等）	117	135	112
軽度認知障害	29	36	40
せん妄	68	61	56
器質性精神障害	15	15	12
症状性精神障害	0	0	1
その他	0	8	0
精神作用物質使用による精神及び行動の障害			
アルコール依存症	8	5	6
薬物依存症	1	2	0
統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害			
統合失調症（近縁疾患を含む）	11	14	17
妄想性障害	5	3	2
気分（感情）障害			
単極性うつ病	39	31	45
双極性障害（そううつ病）	7	5	3
単極性そう病	0	1	0
神経症性，ストレス関連性及び身体表現性障害			
不安神経症（パニック障害）	16	36	27
社会不安障害	20	0	3
恐怖症	1	1	0
心気症	1	1	2
強迫神経症	0	1	2
心因反応・適応障害	77	89	90
解離性障害	4	9	3
身体表現性障害（不定愁訴群を含む）	11	14	8
摂食障害	3	4	2
睡眠障害	20	27	23
人格障害	3	2	0
小児科領域			
発達障害	6	11	11
注意及び破壊的行動障害	4	1	2
摂食障害	0	0	0
心因反応，神経症	0	0	0
その他	5	0	0
その他			
心身症	0	0	1
その他	10	8	0
相談のみ（認知症を心配して受診した例含む）	1	3	0
精神疾患なし（同上）	17	9	18
合計	499	532	486

表3. 精神科外来・心理新規ケース

（単位：件）

	2020年	2021年	2022年
精神作用物質使用による精神及び行動の障害			
アルコール依存	1	1	0
薬物依存	0	0	0
大量服薬後	0	0	0
統合失調症型障害	1	3	2
気分・感情障害			
単極性うつ病	2	5	7
単極性うつ病（産褥）	1	0	0
双極性障害	7	7	4
神経症性,ストレス関連障害及び身体表現性障害			
不安神経症	5	4	7
強迫神経症	0	0	0
心因反応・適応障害	16	19	30
解離性障害	1	1	0
身体表現性障害	1	1	4
摂食障害	2	1	0
人格障害	0	2	2
発達障害	2	2	2
知的障害	1	2	1
脳機能不全	0	1	1
小児科領域			
神経症	0	2	0
心身症	0	0	0
心因反応	1	1	1
発達障害（疑い）	0	0	0
知的障害	0	0	0
不登校・引きこもり	1	0	1
非行	0	0	0
抜毛	0	0	0
吃音	0	0	0
緘黙	0	0	0
大量服薬後	0	0	0
家族相談	0	0	0
計（うち再初回）	42(0)	52(7)	62(7)

表2. 臨床心理活動報

（単位：件）

	新規ケース	精神科カウンセリング	心理検査	オープン検査	小児科発達検査	小児カウンセリング	小児脳外三角頭蓋心理検査
1月	4	131	1	0	23	3	1
2月	7	107	1	0	25	1	0
3月	5	132	0	0	30	2	6
4月	4	118	0	0	28	2	2
5月	7	115	1	0	26	0	1
6月	5	145	2	0	28	5	6
7月	7	123	1	0	19	0	4
8月	3	121	1	0	34	0	4
9月	7	130	1	0	32	3	4
10月	3	128	1	0	25	1	4
11月	5	133	0	0	25	4	5
12月	5	124	0	0	23	1	4
合計	62	1,137	7	0	240	16	34

その他

- 千船病院出向（小寺/毎月曜日）明石医療センター出向（河島／毎月・水・金曜日）
- 精神科リエゾンチーム回診参加（毎火曜日15時～16時）
- プレネイタルサポートチーム会議参加（第1木曜日13時）
- NICU/GCU退院調整カンファレンス（隔週火曜日11時）
- 小児在宅支援チーム会議（毎金曜日13時～14時）
- 実習生受け入れ(5月～橘大学大学院　毎週木曜日（集中実習7月）全17日／5月～奈良女子大学大学院　週2日　全15日）
- 法人内ケース相談　第3火曜日15時及び随時
- 小児科自費カウンセリング2,000円/30分　2021年1月～
- サミティベート「オンライン心の健康相談」2022年2月～
- 緩和ケア研修会修了（小寺・鈴木・山本）
- 三島医療圏発達障がいネットワーク「発達障害の臨床を考える」事例発表
- PICU Awareness Week in Japan「小児集中治療室での面会について考える」発表
- with NEO 重なり合う支援のかたち～周産期心理士のメッセージ～　執筆

表4. 周産期センター面接延べ件数

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
産科/N/G	56	66	76	64	66	74	71	50	81	90	80	115	889
小児病棟	15	15	23	3	5	14	13	18	38	17	19	6	186
合計	71	81	99	67	71	88	84	68	119	107	99	121	1,075

病理診断科

スタッフ紹介

常勤医師：3名
　伊倉義弘　（病理専門医研修指導医，細胞診指導医）
　大久保貴子（病理専門医研修指導医，細胞診指導医）
　岩井泰博　（病理専門医研修指導医，細胞診指導医）
非常勤医師：4名（全員が病理専門医）
検査技師：6名（うちサイトスクリーナー5名）
事務職員：1名

診療内容

病理科の業務は組織・細胞標本の診断と剖検とで構成される．主に病理標本の顕微鏡観察所見に基づいて，患者様の治療方針を決定する重要な病理診断を行っている．患者様が不幸にして亡くなられた場合には剖検を行い，臨床診断と治療が適切であったか否かを検証する．いずれも病院が提供する医療の質の維持に関わる重要な業務であり，スタッフはその重責に応えるべく，外部評価機関のサーベイへの参加などを通じて日々研鑽を積んでいる．

常勤医師3名に加え，4名の非常勤医師と，サイトスクリーナー5名を含む6名の病理検査技師で構成される診断チームが，迅速かつ質の高い病理・細胞診断，病理解剖症例の詳細な検討，臨床科カンファレンスへの参加，積極的な研究活動支援を目標に掲げ，精力的に取り組んでいる．

また当科は，新専門医制度の病理研修基幹・連携施設に指定され，独自の専門研修プログラムを持つ一方で，大学病院をはじめとする複数施設の病理診断科と協力し，病理医育成にも取り組んでいる．

2022年のトピックス・実績

1）組織診断件数：5,174件
2）術中迅速診断件数：132件
3）細胞診断件数：5,958件
4）剖検数（剖検率）：3例（0.7%）

3年に及ぶ新型コロナウイルス感染症がまん延している中に，病理検体数は大きくその影響を受け，いずれも軒並み減少し，特に病理解剖が院内症例3例と大幅に減少した．当院の診療・教育の質の低下が危惧される事態となっている．CPCについては，生検例や手術例を題材とした症例検討や，過去の提示症例を再検討するなど工夫を凝らし，この事態に対処してきた．新型コロナウイルス感染症の5類感染症への分類移行により，剖検数の回復を期待したい．

今後の展望

新型コロナウイルス感染症を脱しても，検体数の減少傾向は今後も続くと見込まれ，病理に求められる業務内容は変化すると予想される．例えば病理検体を用いた遺伝子検査は，既に日常的なものとなったが，ほとんど全てを外注に頼っているため，所要時間を短縮できない．大きな課題となっており，これを解消すべく，FISHなどについてはイン・ハウス化を図るなど，病理診断科のありようを，能動的に変容させていくことを目指したい．

小児科・新生児小児科（外来・小児病棟）

診療内容

外来は午前一般診療を3～4診体制で行い，午後は専門外来，乳児健診，予防接種を主に行っている．専門外来は当院スタッフのみならず他大学・施設スタッフとの連携を行い，アレルギー外来，心臓外来，神経外来，腎臓外来，内分泌・代謝外来，発達相談外来，在宅ケア外来を開設している．時間外，救急診療では，外傷も含めた二次，三次救急疾患の受け入れを断ることなく対応する体制を整えている．

小児病棟は初期研修医・後期研修医・指導医で構成する主治医グループ制をとり，日々の診療のみならず，プレゼンテーション，学会発表，論文作成などの教育も精力的に行っている．研修医の指導を目的とした朝，夕のカンファレンスや，部長・医長病棟回診，週1回の長期入院患者のカンファレンスを行い情報共有を行っている．その他看護師向けの勉強会や研修医向けの勉強会，英文論文の抄読会も定期的に開催している．当科は医学生の見学者も多く，熱心に対応している．

2022年のトピックス・実績

外来延べ患者数は31,579名であり，時間外患者は4,111名であった．入院患者数は4,276名で，日勤帯の入院患者数は3,412名，時間外入院患者数は864名であった．他院からの紹介患者数は2,434名であり，そのうち入院した患者数は677名であった．2021年に比べ新型コロナウイルス感染症の入院患児の増加がみられた．経口免疫療法を含めたアレルギー負荷試験を入院管理としたため入院疾患最多となった．

今後の展望

2017年度より小児センター（病棟），小児科外来は新病院での運営が始まった．小児センターでは個室が増加し，感染隔離も徹底して行えるようになった．モニター設備もより一層充実し，厳密な管理を要する重症患者も併設するPICUと連携して受け入れ可能である．

感染症を中心とした入院以外にも，アレルギー・内分泌負荷試験，心臓・腹部超音波検査，心臓カテーテル検査，腎生検，排尿時膀胱造影検査，MRI，ビデオ脳波検査といった専門性の高い疾患に対する入院検査の更なる充実も図っていく．

表．主な入院主病名

（2022/1/1～2022/12/31退院患者）

主な入院疾患名	2022年件数
アレルギー負荷試験	1,500
COVID-19	167
咽頭炎/上気道炎/副鼻腔炎/中耳炎	118
腎炎/腎盂腎炎	117
RSウイルス肺炎	107
ウイルス性肺炎/細菌性肺炎	103
ウイルス性腸炎/細菌性腸炎	99
川崎病	86
てんかん発作/重積	73
痙攣	46
呼吸不全	38
頭部打撲/頭部外傷/脳振盪	36
頭部以外の骨折/外傷	34
頭蓋骨骨折/頭蓋内出血	33
新生児黄疸	30
IgA血管炎/紫斑病	29
低身長症	22
心疾患（心臓カテーテル検査・治療を含む）	22
腸重積症	22
アナフィラキシー	19
ケトン血性嘔吐症	17
脳炎/脳症	16
急性/慢性腎不全	14
低血糖	12
虫垂炎	11
熱傷	11
小児喘息	9
急性薬物中毒	9
消化管アレルギー	9
腎尿路系の先天奇形	9
突発性発疹症	9
睡眠時無呼吸	5
リンパ節炎	5
蜂窩織炎	5
哺乳不全	5
気道内/消化管異物	5

NICU・GCU

スタッフ紹介

2022年の新生児専任医師は9名，後期研修医3～4名，初期研修医1～2名である．専任医師は全員小児科学会専門医を取得しており，更に上級医は周産期新生児専門医も取得している．専任スタッフはそれぞれが何らかのサブスペシャリティーを持っており，総合的な新生児医療のスキルUPはもちろんであるが，それぞれのサブスペシャリティーをいかしたより高度な新生児医療を提供できるように研鑽を積んでいる．後期研修医には将来新生児医療の道に積極的に進みたいと思ってもらえるような経験やサポートを行って，未来の新生児医療の担い手の育成を行っている．

診療内容

現在NICU21床，GCU27床で運営している．当直は2名体制で行っており，院内出生児のみならず，院外からの搬送入院に対しても，迅速に対応できるような態勢をとっている．朝の回診は看護師や理学療法士，臨床心理士，NICU，薬剤師などコメディカルとともに患者の情報共有や，治療方針についてディスカッションを行い，夕方は主にNICUの重症児について医師のみの回診を行っている．またあらゆる新生児疾患に対応すべく，小児外科・小児脳神経外科疾患・先天性心疾患についても常時即応体制にあり，PICUとの連携により，ECMOや血液浄化・透析などが必要な症例の受け入れも行っている．また近年，胎児診断技術の向上によって，様々な疾患が胎児期よりわかるようになってきた．このような胎児診断がされた胎児・両親を病院の総力を挙げてサポートするために，2012年より産科・新生児科・小児外科・小児脳神経外科による診療部と各部門の看護師，SW，心理士，理学療法士などによる多職種によって構成された「プレネイタルサポートチーム」が発足し活発な活動を行っている．

2022年のトピックス・実績

2022年を振り返ると，実績面では729名と過去最多の入院数であった．うち出生体重が1,000g未満の超低出生体重児は26名，1,500g未満の極低出生体重児は45名と，どちらもこの数年で最多であった（図1）．入院経路は緊急母体搬送からの入院数が133名，新生児搬送数も110名でともにこの数年で最多であった（図2）．死亡症例は7名であったが，5名は重症の新生児仮死の症例や極めて重症の症例で生存が望めない症例であった．残りの2症例は重度の慢性肺疾患のために遠隔期に死亡しており，今後このような重症慢性肺疾患の症例をいかに救命していくのかが当院の課題の一つであるといえる．

今後の展望

周産期医療の発展に伴い，合併症なく退院できる重症例が増加している．しかし入院中の母子分離がその後の発達へ影響を与えることや，NICU退院児に対する虐待などの問題が生じてきている．そのような問題に対応すべく，完全個室管理を行える11床の病床を利用して，家族が自宅で過ごせるような環境で安全に集中治療を提供できるようになってきた．今後も集中治療の質を落とすことなく，家族が家族として過ごすことができるような環境の提供と家族全体のサポートを更に実践してゆく必要がある．また入院数増加に伴って，ベッドコントロールが難しくなってきているが，バックトランスファーや院内での入院調整のシステムなどを構築し，地域からの紹介をお断りすることなく，北摂地域の周産期医療の中核を担っていく病院として，今後も責務を果たしていく必要がある．

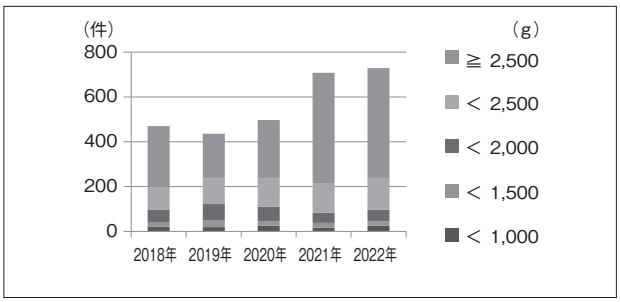


図1．出生体重別入院数の変化

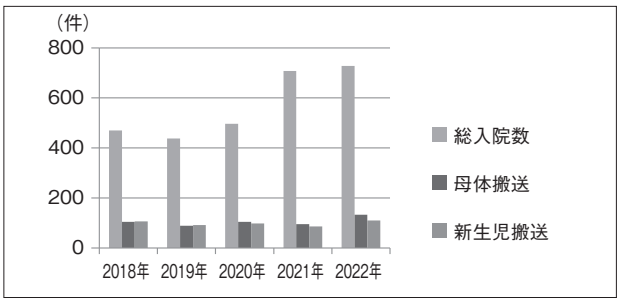


図2．経路別入院数の変化

PICU

スタッフ紹介

起塚，大西，篠本が専従医として原則的にPICU内に常駐している．

業務内容

重症小児の集中治療を内因性/外因性にかかわらず対応している．

2022年のトピックス・実績

2022年の入室者は525例で昨年度の352例と比較すると173例の増加となった．増加の内訳ではその他が31例から179例に，ERからの緊急入室が92例から130例に増加していたのが特徴であった．その他の多くはMRI撮影や熱傷処置などの鎮静目的の入室が主であった．術後管理は108例から111例で大きな変化はなかった．入室理由では術後管理以外では肺炎などの呼吸器疾患106例（20%），痙攣重積・急性脳症などの神経疾患が91例（17%）であった．これらの症例のうちNIPPV，気管挿管などの人工呼吸管理を137例，脳平温療法などの脳保護療法を16例，血液浄化療法を1例に提供しており例年と同じ傾向にあった．459例（87%）は手術室やERなど院内からの入室で，66例（12.5%）はドクターカーによる迎え搬送などで他院から転院してきた症例であった．大阪府内はもちろんのこと，京都府や滋賀県からも症例を受け入れていた．患者減少の影響は少子化傾向に加えて，新型コロナウイルス感染症の大流行が大きく影響したものと推察している．

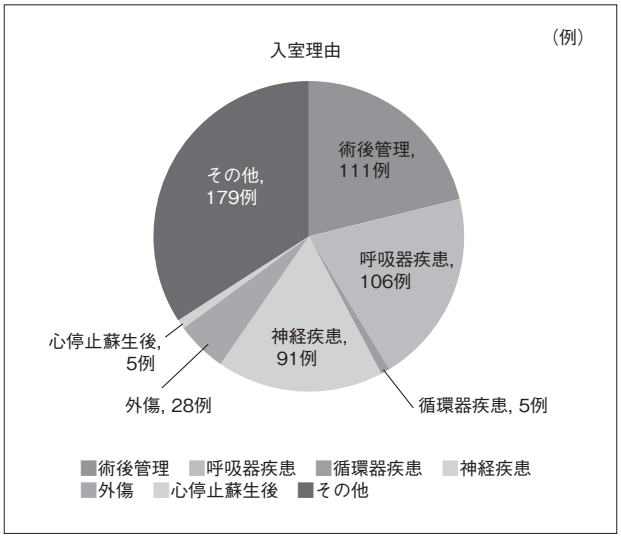
当科では大阪府下の新型コロナウイルス感染症関連の重症小児を2例受けることを前提に準備をしたが，多くは軽症であった．しかし，3例は急性脳症を発症し激烈な経過で死亡退院した最重症例を経験した．それら以外ではこれまで同様に中等症症例や看護度の高い症例を積極的に受け入れる結果となった．

振り返ると入室患者数の増加，重症度の上昇を認め，地域医療への貢献を実感した1年間であった．

今後の展望

引き続き，地域のPICUとしての役割を遂行していく．

さらに京滋地域からの患者集約をより進めていきたい．



図．入室内訳

表1．治療内容　（単位：例）

人工呼吸管理	137
脳低温・平温療法	16
血液浄化	1

表2．搬送手段　（単位：例）

院内	459
術後	111
ER	130
一般病棟	200
外来	18
転院搬送	66
大阪	60
京都	3
滋賀	2
兵庫	1

小児外科

スタッフ紹介

2022年の小児外科は小児外科主任部長 津川二郎（日本小児外科学会指導医・専門医），小児外科部長 久松千恵子（日本小児外科学会指導医・専門医），小児外科医長 服部健吾（日本小児外科学会専門医）のスタッフ3名と後期研修医 口分田哲の4名体制で診療を行った．非常勤医師として小児外科部長 西島栄治が週2回の診療を行った．服部は，小児鏡視下手術の勉強のため2021年7月から2022年3月まで埼玉県立小児医療センター小児外科に長期国内留学し4月から復職した．

診療内容

日本小児外科学会認定施設であり，小児外科医療における高次医療機関として365日24時間小児外科患者を受け入れ，診療を行っている．診療内容は小児の胸部（肺・横隔膜・胸壁）や腹部（消化管・肝胆膵・腹壁）疾患，泌尿生殖器疾患，新生児外科疾患，気道外科疾患，固形腫瘍など多岐にわたり，その他外傷や異物誤嚥・誤飲などの救急疾患についても対応している．

外来診療はスタッフを中心に交代で月曜日，水曜日，木曜日，金曜日の午前診を，水曜日，木曜日，金曜日は午後にも学童を中心とした外来診療を行っている．金曜日の午前診では西島部長が小児排泄・便秘外来を行っている．この外来では皮膚・排泄ケア認定看護師とともに習慣性慢性便秘症や二分脊椎症に伴う管理困難な便秘に対して排泄管理・指導を行っている．病棟では毎朝8時からPICUでの小児科，小児脳神経外科，小児麻酔科との合同カンファレンスを行い，その後に小児センター，NICU，GCUの総回診を行っている．入院症例の定期手術日は月曜日，火曜日，木曜日，金曜日で，日帰り手術を火曜日，木曜日，金曜日の午前に行っている．診療時間外は2名体制で24時間オンコール体制をとっており，常時患者の受け入れ及び緊急手術が施行できる体制となっている．

2022年のトピックス・実績

表に2022年の手術症例，新生児手術症例の内容を示す．総手術数は2021年と比べて少し減少した．新生児症例は，変わらなかった．鼠径ヘルニア根治術は80例で2021年と比べ同程度であった．ほかの胸部・腹部疾患に対しても鏡視下手術や臍などを利用した傷跡が目立たない整容性を意識した手術の導入に積極的に取り組み，患者の早期回復や疼痛の緩和に繋がっている．急性虫垂炎は17例で，2021年と比べ大きく減少した．新生児外科手術は13例で，2021年より減少しなかったが増加はせず，近年の出生数の低下が続いている影響は当科にとっても大きな問題である．小児泌尿器科疾患である膀胱尿管逆流症に対する外科的治療（内視鏡下Deflux注入療法，Cohen手術）を行い，手術症例数も増えつつある．Cohen手術は従来開腹手術であったが，低侵襲手術として腹腔鏡下（気膀胱下）手術が開発され，当科でも導入した．また重症心身障害児（者）に対する医療にも取り組み，気管切開や胃瘻造設術，誤嚥性肺炎に対する喉頭気管分離術などの手術件数は増加傾向にある．小児のみならず，成人診療科からの紹介症例に対しても喉頭気管分離術を行い，いずれもQOLの向上に繋がっている．

当科では開設当初から小児気道疾患に対する検査や治療に力を入れており他府県からの紹介も多い．近年では声門下腔狭窄症の難治症例に対するpartial cricotracheal resection（PCTR）手術に取り組み，気管切開カニューレの抜管困難症の治療に成功している．2022年は1例のPCTR手術を行った．

今後の展望

当院は小児医療に強く，小児関連診療科（小児科，新生児科，小児集中治療科，小児外科，小児脳神経外科，小児麻酔科）や多職種がチーム一体となって治療に取り組んでいるのが強みだと思われる．小児医療の充実を院外にアピールして新生児・小児外科症例の増加に繋げたい．2022年は，緊急手術の症例も減っており，特に急性虫垂炎の手術症例は減少していた．「断らない診療」を掲げ，高槻・三島医療圏以外からも紹介患者を増やし，手術症例の増加を目指したい．手術症例については治療対象となるこどもの苦痛や負担の軽減を図るべく，今後も低侵襲手術や創部が目立たない術式の可能性を追究していきたい．小児気道疾患についても引き続き積極的に治療に取り組んでいく．特に声門下腔狭窄症に関しては治療のゴールである気管切開からの抜管を目指したい．

日本小児外科学会認定施設として豊富な症例を生かして小児外科専門医の育成に力を入れており，初期・後期研修医の研修や小児外科に興味がある医学生の見学を積極的に受け入れていく方針である．

表．2022年手術症例

（単位：例）

手術	手術症例数	新生児手術症例数
横隔膜ヘルニア，弛緩症手術	3	
膿胸手術	1	
気胸手術	2	
肺葉切除術	1	
気管形成術（喉頭気管形成術含む）	1	
動脈管開存症手術	4	2
漏斗胸手術	0	
喉頭気管分離術	7	
喉頭気管食道裂手術	0	
腕頭動脈離断術	2	
気管切開術	5	
食道閉鎖症根治術	1	1
噴門形成術	2	
幽門筋切開術	2	1
十二指腸閉鎖症手術	2	2
腸閉鎖症手術	3	2
腸回転異常症手術	3	
新生児消化管穿孔，壊死性腸炎手術	0	
イレウス手術	8	
小腸切除術	3	1
メッケル憩室切除術	0	1
人工肛門造設術	5	
胃・腸瘻造設術	5	1
胃瘻・腸瘻・人工肛門閉鎖術	3	
腸重積症（観血的整復）	1	
虫垂切除術	17	
Hirschsprung病根治術	0	
直腸生検術	0	
中間位・高位鎖肛手術	0	
低位鎖肛手術	3	1
痔瘻・痔核手術	1	
胆道閉鎖症手術	0	
胆道拡張症手術	3	
鼠径ヘルニア手術	80	
卵巣腫瘍核出,摘出手術	1	
停留精巣手術	17	
精巣捻転手術	6	
精巣静脈瘤手術	5	
包茎手術	4	
膀胱尿管逆流症手術	6	
尿膜管遺残症手術	1	
臍帯ヘルニア・腹壁破裂手術	0	
腹壁瘢痕ヘルニア手術	0	
臍ヘルニア手術	24	
仙尾部奇形腫摘出術	1	
リンパ管腫硬化療法	2	
リンパ管腫摘出術	0	
副耳切除術	1	
耳前瘻孔摘出手術	2	
舌小帯切離手術	1	
気管支鏡検査，処置	79	2
消化管内視鏡（上部・下部）検査，処置	14	1
ブロビアックカテーテル挿入・抜去術	8	
その他	24	1
総症例数	364	16

ICU

スタッフ紹介

部長：岡　隆紀

心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構），日本外科学会指導医，日本胸部外科学会認定医

部長：林田恭子

集中治療専門医（日本集中治療医学会），心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構），日本外科学会専門医

診療内容

毎日（土日祝日除く）：ICU回診・カンファレンス

2022年のトピックス・実績

待望の常勤専門医　林田恭子先生が入職された．

ICU，医療安全管理室等他職種が連携したRRS（Rapid Response System）を立ち上げ，急変する前のハイリスク患者を早期に抽出し，病棟への情報共有を行うことによって院内コードブルーの件数を激減させている．

毎朝8時半から医師（髙岡院長・欅先生・大北心・大血管センター長も含め）・看護師・臨床工学技士・理学療法士・薬剤師・栄養士・事務職員で回診を行い，患者の治療方針について検討を行っている．

現体制も9年目を迎え，“高槻病院の最後の砦”の役割も十分果たしている．大阪北部の各種重症例も対応し，レベルの高い集中治療を提供できるようになっている．スタッフのモチベーションも高く，all for the patientを合言葉に日々研鑽している．

今後の展望

スタッフ教育，特に日本集中治療学会総会への参加・発表，研修医・新人看護師の教育の充実を図りたい．

呼吸器外科

スタッフ紹介

主任部長：椎名祥隆（1986年卒）
　日本外科学会専門医
　日本外科学会指導医
　胸部外科学会指導医
　日本呼吸器外科学会専門医
医長：金　泰雄（2013年卒）
　日本外科学会専門医
　日本呼吸器外科学会専門医
専攻医：櫻井真倫（2019年卒）（2022年4月～）

診療体制

日本呼吸器外科学会認定施設修練施設
外来：月曜日（午後）椎名・金
　　水曜日（午前）椎名・金
手術：予定手術は火曜日と木曜日に行い，緊急手術は随時行っている．
病棟：呼吸器外科病棟は7階南病棟で，症例によってはICUで術後管理を行った．

2022年のトピックス・実績

近畿大学外科研修プログラムとの連携により，2022年から上記・櫻井先生が当科で後期研修を行っている．3人体制となり，気胸や膿胸の緊急手術と緊急処置への対応が更に早くなった．気胸・膿胸の患者が呼吸器内科に入院すると，ほぼ全例の患者情報が当科と共有され一緒に治療方針を決めている．また，難易度の高いドレナージは呼吸器外科医も立ち会って一緒に施行している．

術前から顕著な呼吸機能低下を伴う肺癌手術症例には，入院前から呼吸リハビリを開始している．その結果，周術期における呼吸器合併症が減少している．

以前は神戸大学医学部附属病院へ紹介していた重症な症例に対しては，昨年も神戸大学の連携施設である住友病院や済生会中津病院の医師の手術応援により，当院で手術している．

呼吸器・縦隔領域の悪性腫瘍に対しては，今後も大阪府がん診療拠点病院として呼吸器内科・呼吸器外科・放射線腫瘍科がこれまで以上に良好に連携し，効率的で専門化された治療を行う．

今後の展望

今後も重度の心疾患や呼吸機能低下を伴う手術症例があると考える．とりわけ高齢者症例には多くの併存疾患がある．そのため，術前に口腔状況・栄養・PS・呼吸機能・心機能などを精査・評価し，他科と連携して術前からの併存疾患の管理・治療が必須と考えている．

高齢者手術の基本方針
(1) 低侵襲手術
昨年も手術の9割以上を胸腔鏡手術で施行している．また，耐術能低下症例では積極的に肺切除量の少ない縮小手術を施行している．
(2) 包括的なリハビリ
肺切除後に呼吸機能は更に低下する上に，術前から併存疾患を有する症例が多いので外科手術のみでは良好な成績を出すことはできない．したがって，呼吸器外科領域でも呼吸だけでなく包括的なリハビリが重要かつ有用である．

低侵襲手術と有効性の高いリハビリを今後も継続していく必要があると考えている．

表．手術数　（単位：例）

疾患名	例数
肺悪性腫瘍手術	34
自然気胸	36
巨大肺嚢胞	1
血胸	0
外傷性血胸	0
縦隔腫瘍	4
胸壁腫瘍	0
膿胸	3
胸腔鏡下生検	0
外傷	1
その他	7
合計	86

心臓血管外科

スタッフ紹介

心臓大血管センター　センター長：大北　裕

日本外科学会専門医，日本胸部外科学会理事長，日本外科学会指導医，代議員，日本循環器学会専門医，評議員，日本脈管学会特別会員，日本血管外科学会名誉会員，日本心臓血管外科学会特別会員，日本心臓血管外科専門医認定機構委員，日本冠動脈外科学会評議員，日本心臓血管外科手術データベース機構委員，The Society of Thoracic Surgeon: Member（1996-），The European Association for Cardio - Thoracic Surgery: Member（1996-），The International Society of Cardiovascular Surgery: Member（1994-），American Heart Association Fellow in the Council in Cardiovascular Surgery（2002-），American Association for Thoracic Surgery: Member（1999-），Asian Society for Cardio-Thoracic Surgery: Council （2011-）

主任部長：岡　隆紀

心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構），日本外科学会指導医・認定医，日本胸部外科学会認定医，日本外科学会外科専門医，ヨーロッパ胸部外科学会正会員

部長：常深孝太郎

心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構・修練指導者），日本外科学会外科専門医，日本外科学会指導医・認定医，日本心臓リハビリテーション学会指導士，日本脈管学会専門医，日本血管外科学会血管内治療医

医長：大村篤史（2022年10月から）

心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構・修練指導者），日本外科学会外科専門医，日本外科学会指導医

専攻医：久保沙羅

林　裕之（～2022年3月）

吉谷信幸（～2022年3月）

田中　綾（2022年4月～）

診療内容

成人心臓疾患・大血管（胸～腹部の動脈）疾患・末梢血管（手足の動脈）疾患・静脈疾患など.

2022年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症がまん延している中で手術件数の減少が見られた.

しかしながら大北センター長の下に日本全国から難易度の高い手術依頼は一定数あり，存在感は発揮できたかと思われる.

特に大動脈弁の自己弁温存手術・ROSS手術は日本トップクラスの症例数・成績を誇っている.

今後の展望

心臓血管疾患をオールラウンドにこなしていき，地域の方のニーズと期待に応えていきたい.

研修医教育にも力を注ぎたい.

消化器外科

スタッフ紹介

主任部長：岡﨑太郎
医　　長：細野雅義，大和田善之
医　　員：池田太郎（2022年4月～）
　　常城宗生（2022年10月～）
専 攻 医：徳原佳織（～2022年9月），立花崇明
非 常 勤：家永徹也（常務理事）

診療内容

外来：月曜日から金曜日は午前診，火曜日と木曜日は午後診も行っている．
病棟：6階東病棟の21床が割り当てられている．毎朝8時40分から申し送り，毎週火曜日の16時から多職種を交えた術後カンファレンス，その後に術前カンファレンスを行っている．
手術：予定手術は毎日行っている．時間外緊急手術は毎日2名のオンコール・24時間体制で対応している．

2022年のトピックス・実績

手術件数は637件と前年以上を確保することができた．そのうち，腹腔鏡手術は410件と過去最高であった．積極的に腹腔鏡手術を導入し，身体への負担がより少ない治療を目指している．

原則，診療ガイドラインに準拠して治療方針を決定し，消化器内科，放射線科，病理診断科と連携をとり，横断的な診療を行っている．

早期胃癌及び一部の進行胃癌に対して積極的に腹腔鏡手術を行っている．高度進行胃癌に対しては消化器内科と連携の下，術後に化学療法を併用した集学的治療を行っている．大腸癌は大部分の症例が腹腔鏡手術で行っており，肛門近傍の下部直腸癌に対しては症例により肛門温存手術を行っている．最初は切除不能でも消化器内科，放射線科などと連携をとって集学的治療を行い，切除可能となった段階で外科的切除を行っている．また，他臓器転移や再発があっても治癒切除が可能であれば積極的に外科的切除を行っている．

肝細胞癌は肝切除を第一の治療法と考えており，状況に応じてラジオ波，TACE，薬物療法，放射線治療を併用した集学的治療を行い，肝内胆管癌や転移性肝癌も積極的に腹腔鏡手術を行っている．そして区域切除，葉切除では腹腔鏡補助下肝切除（ハイブリッド手術）も行う．膵臓癌は切除可能症例は原則術前化学療法を行った後に外科手術を行い，症例によっては術後も化学療法を行っている．また，ほかの消化器癌同様切除不能症例で集学的治療によって切除可能となれば積極的に外科的切除を行っている．胆道癌（肝外・肝門部胆管癌，胆嚢癌，十二指腸乳頭部癌）は消化器内科や放射線科と協力して質の高い診断を行った上で各疾患に応じて治療方針を決定し，手術適応や切除範囲を決定している．

今後の展望

地域医療支援病院，がん診療拠点病院である当院は救急診療，がん診療を担う要であり，三島医療圏での確固たる地位確立を目指し，地域医療の基幹病院としての責務を果たす必要がある．当院で実践している医療を積極的に地域へ発信し，社会に広げていく必要がある．心に届く安心できる病院を目指し，常に患者の病状，生活環境に応じた最善の手術，医療を心掛ける．消化器外科は緊急手術対応において万全の体制をとっておりこれを維持し，手術・治療成績，在宅復帰率の向上に努めていきたい．また，肝胆膵領域において高難度手術の実績を伸ばしていきたい．

表．手術実績　（単位：件）

項目		小計
消化管領域	食道悪性腫瘍	1（0）
	胃悪性腫瘍	36（22）
	結腸悪性腫瘍	76（63）
	直腸悪性腫瘍	19（18）
	小腸悪性腫瘍	3（2）
肝臓・胆道・膵臓領域	肝切除	10（5）
	胆道悪性腫瘍	1（0）
	膵頭十二指腸切除	5（0）
	膵体尾部切除	2（0）
	膵全摘	0（0）
	胆嚢摘出	119（114）
その他	虫垂切除	65（64）
	ヘルニア	123（110）
	消化管穿孔	14（3）
	腸閉塞	35（7）
	肛門疾患	23
	CVポート造設	38

（　）内：腹腔鏡手術

乳腺外科

スタッフ紹介

常 勤 医：三成善光，吉川勝広
非常勤医：家永徹也，下山京子

診療体制又は活動目標

週2日（月曜日/午前，火曜日/午前・午後）を手術日とし，週3～4例の乳癌手術を行う体制を整えている．さらに週1～3日（水曜日，木曜日，金曜日　いずれも午前中），局所麻酔手術（良性腫瘍切除，CVポート造設，抜去など）を行っている．

週1回（木曜日午後）を乳腺生検検査日に充て，ステレオタクティック吸引式針生検（マンモトーム生検），針生検（VAB，CNB），吸引細胞診を行っている．

外来は常勤医による週5日・8コマの外来，非常勤医による週3日・3コマの外来を行っている．

活動内容及びトピックス

当科では乳腺疾患全般に対して診療を行っている．乳癌については検診から検診精査，乳癌の診断，初期治療，再発治療，及び緩和ケアを行っている．医療の質の向上，医療の均てん化が重要であり，データやエビデンスに基づく標準的な診療を行うよう心掛けている．

乳癌の診断については，デジタルマンモグラフィー（トモグラフィー）装置，乳房超音波検査，MRIやCTなどの画像検査や，穿刺吸引細胞診，CNB，エコーガイド下VAB，ステレオタクティックマンモトーム生検装置などの生検デバイスを用いて，的確に病変部を描出，把握し，低侵襲に確定診断までができるようにしている．乳癌治療においては診断時に得られた腫瘍の情報（大きさ，リンパ節転移の有無，臨床病理学的な検索による癌の悪性度，Intrinsic subtype）から，より有効な治療法を検討している．症例によっては術前療法を行い，腫瘍の縮小，down stagingを行ってから，根治手術を行う．

乳癌手術については整容性，低侵襲性も考慮した乳房温存手術はもとより，cN0症例に対してはセンチネルリンパ節生検により腋窩郭清省略を行い，さらに非浸潤癌症例では腋窩手術そのものの省略も行い，術後の腕のリンパ浮腫の発生の低減を図っている．昨年は全乳癌手術症例106例中，79例にセンチネルリンパ節生検を行った．近年では乳房切除術を必要とする症例でも，整容性も考慮し，患者の要望によっては乳房全切除後にブレスト・インプラントを用いた乳房再建を検討している．乳房切除後乳房再建が適切にできるように，形成外科と協力している．さらに早期の乳癌に対しては，二次再建だけでなく一次（同時）再建も行える体制を整えている．

術後の補助療法については，手術標本から得られた情報をもとにホルモン療法，化学療法，及び分子標的療法の薬物療法と放射線療法を適切に行えるようにしている．再発治療においては多数の新薬（分子標的薬，免疫チェックポイント阻害薬など）が登場し，治療が多様化，複雑化してきた．加えて，患者と医療者の協働意思決定（Shared decision making）が求められるようになってきており，患者が適切な治療法を選択できるようにデータやエビデンスを情報提供し，患者の状況や腫瘍の状態，悪性度を考慮して，より良い治療法を提案できるよう心掛けている．

乳癌診療において様々に変化する診療に対して，多職種の参画によるチーム医療が重要となってきている．当科でも多職種からなる高槻乳癌臨床支援チームで定期的な乳腺カンファレンスを行い，症例検討を行っている．近年のがん診療では，通常の診療に加え，がんリハビリテーションや，心のケア（サイコオンコロジー）などが求められてきており，外科医，放射線科医，形成外科医，精神科医，薬剤師，看護師，理学療法士，臨床心理士などの多くの専門職との連携を図っている．

来期方針・抱負又は将来展望

乳癌の治療成績の向上に加えて，より侵襲の少ない手術，患者のQOLを重視した治療を行うよう努める．来期以降に早期乳癌のラジオ波焼却術が保険適応になると見込まれ，当院でも実施できるように検討する．また，若年齢層の乳癌患者に対しては，若年女性の抱える社会的な要因（妊孕性保持，授乳期乳癌，就労支援）に対しても配慮していく．

また，がんゲノム医療が徐々に普及してきており，今後，がん遺伝子に関わる診療が重要性を増してきている．乳癌領域では遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）が知られているが，当院は遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設の施設認定を取得しているが，さらに連携施設の認定を目指す．遺伝診療センターと協力し，遺伝性乳癌卵巣癌症候群の診療に当たる．また，保険適応となってい

る遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）の乳癌既発症者の予防的乳房切除術は行っているが，今後は乳癌未発症者の予防的乳房切除術（自費）も行えるよう検討する．

地域連携は診療を幅広く行うために重要で，地域診療所との連携が必要である．従来，乳癌患者に対して地域連携パスを用いて診療連携を行ってきたが，さらに，病院，診療所間の連続したきめの細かい診療を行えるよう，地域診療所とのWEBを用いた診療情報交換，WEBカンファレンスなどの実現に取り組んでいく．

表．乳腺外科手術件数

（単位：件）

術式		症例数
乳房悪性腫瘍手術	乳房温存手術	42
	乳房切除術	64
	小計 （うちセンチネルリンパ節生検）	106 （79）
乳房良性腫瘍手術	乳房腫瘍切除術	11
CVポート造設・抜去術		69
その他（リンパ節生検など）		9
手術合計		195

脳神経外科

スタッフ紹介

前野和重
福屋章悟（2022年9月退職）
角野喜則（2022年10月入職）
川本早希（2022年3月退職）
豊田佐織（2022年4月入職）
和田雄樹（2022年9月退職）
倉本仁美（2022年10月入職）

診療内容

外　　来　月曜日～金曜日・午前
専門外来　木曜日・午前　脳血管内専門外来
　　木曜日・午後　脳腫瘍専門外来
検　　査　月曜日・木曜日
手　　術　木曜日
病　　棟　8階東病棟　SCU

2022年のトピックス・実績

2022年も引き続き2人の後期研修医を大阪大学から受け入れることができた．川本先生が4月から異動となり，新しく入職した豊田先生に脳外科の中心的な後期研修医として働いてもらった．10月からは和田先生が異動となり，倉本先生が小児脳外科を担当することとなった．指導医として角野先生が福屋先生と交代となり勤務してもらうこととなった．今年も新型コロナウイルス感染症の影響が持続したが，救急患者の受入制限や手術制限はなく手術件数を増やすことができた．2022年手術件数は小児脳外科と合わせて224件であった．脳卒中患者も増加している．これも地域から当院への信頼を得ることができたためと考えている．日本脳卒中学会から一次脳卒中センターに認定されたことが実績に繋がったと判断している．引き続き臨床成績を上げていきたい．残念なことは脊椎脊髄外来が閉鎖となったことだ．今後は脳血管内，脳腫瘍の専門外来とSCU（脳卒中専門ケアセンター）について地域の人達へ更なるアピールを続けていく．

今後の展望

現在，当科の臨床診療は安定期に入ったと思われる．更なる発展のために教育・研究に力を入れていきたい．研修医・看護師の教育を積極的に行い，未来に向けた活気ある診療体制を構築しなければならない．同時に学会発表，論文投稿を行い社会的に認知も広めていく必要がある．さらに周囲からの期待・信頼を勝ち得るためにも，確実に診療実績を積み上げることが必要である．周囲の急性期病院を取り巻く環境は厳しくなっており高槻病院も生き残りをかけるため，これまで以上に積極的に脳卒中・頭部外傷などの脳外科救急に取り組み，地域医療の充実に貢献したい．今後は重症意識障害の患者の受け入れ件数を増やしていきたい．24時間体制での診察加療を継続して急性期高度専門病院として体制を整えていく．

表．手術実績　（単位：件）

主な項目	手術数
脳腫瘍	15
開頭クリッピング術	4
脳血管内手術	13
ステント留置術	9
開頭血腫除去術	5
慢性硬膜下血腫洗浄ドレナージ術	32

総手術件数	132

小児脳神経外科

スタッフ紹介

原田敦子（1996年新潟大学医学部卒業）
和田雄樹（2018年大阪大学医学部卒業）
（2022年9月退職，脳神経外科と併任）
倉本仁美（2018年関西医科大学医学部卒業）
（2022年10月着任，脳神経外科と併任）

診療内容

脳神経外科の中で，子どもの中枢性疾患全てを取り扱う診療科であるが，日本で小児神経外科を標榜する医療機関は子ども病院を除くとまだ数か所しかない．当院は大阪府最大の総合周産期母子医療センターであり，全国でもトップクラスの周産期医療を担っている．また小児救急にも力を入れており，PICUを有し，小児救命救急センターにも認定されている．そうした中，小児脳神経外科は2012年4月に開設され，2023年3月で11年が経過する．開設当初より，頭部脊髄疾患の新生児搬送や頭部救急患者の受け入れを新生児科・小児科と連携して24時間体制で行ってきた．新型コロナウイルス感染症がまん延している中においても救急患者を断ることなく受け入れている．

救急疾患以外では，水頭症，二分脊椎症，頭蓋骨縫合早期癒合症などの先天性中枢神経疾患を主に扱っている．

2022年のトピックス・実績

2021年8月より月に1回二分脊椎外来を開始した．二分脊椎症は整形外科，泌尿器科，小児外科と連携して長期にわたって経過を見る必要のある疾患であり，以前から二分脊椎外来の開設が望まれていた．二分脊椎外来開設に伴い二分脊椎症の手術症例も増加しており，2022年は18件の手術を行った．

2015年に開設した「赤ちゃんの頭の形外来」の受診者数は年々増加しており，2022年は112例の頭位性頭蓋変形に対してヘルメット治療を行った．それに伴い，頭蓋骨縫合早期癒合症の手術症例も増加しており，2022年は28件の手術加療を行った．頭蓋骨縫合早期癒合症の症例の中には，顔面や手指の疾患を合併することが多いため，大阪医科薬科大学形成外科 上田晃一教授，市立奈良病院再建形成外科 久徳茂雄先生の協力体制の下，治療に当たっている．

北摂，京滋での小児脳神経外科の拠点病院としての役割を果たすだけでなく，臨床的・学術的な質の向上にも努めており，2022年は7編の論文を作成した．また，脳神経外科とともに大阪大学脳神経外科の研修プログラムに在籍する後期研修医を2名受け入れ，指導を行った．高槻病院は多くの初期研修医を受け入れているため，初期研修医の指導も行っている．

今後の展望

地域の救急医療に貢献しつつ，専門性のある高度医療を提供していきたい．

表．手術実績内訳

先天性疾患	術　式	件数
水頭症・くも膜嚢胞	シャント再建・抜去術	18
	脳室腹腔シャント術	4
	脳室ドレナージ術	1
	内視鏡手術	6
二分脊椎症・二分頭蓋	脊髄脂肪腫摘出術	11
	係留解除術	2
	先天性皮膚洞摘出術	2
	脊髄髄膜瘤修復術	2
	脊髄嚢胞開窓術	1
頭蓋骨縫合早期癒合症	頭蓋形成術	18
	内視鏡支援下縫合切除術	8
	脳圧センサー設置術	2
外傷	術　式	件数
硬膜下血腫	硬膜下腹腔シャント術	1
	硬膜下シャント抜去術	2
	開頭血腫除去術	2
硬膜外血腫	開頭血腫除去術	4
陥没骨折	陥没骨折修復術	1
血管障害	術　式	件数
動静脈瘻・奇形	血管内手術	1
	動静脈奇形摘出術	3
	脳室ドレナージ術	1
その他	術　式	件数
	脊髄硬膜外血腫除去術	1
	頭皮下腫瘍摘出術	1
計		92

整形外科・関節センター

スタッフ紹介

コンサルタント（スタッフ医師）4名
平中崇文（1988年卒主任部長）人工膝関節・関節鏡
岡本剛治（1992年卒部長）脊椎外科
藤代高明（1997年卒部長）人工股関節
小出　基（2012年卒医員）膝関節鏡・スポーツ医学
レジデント（研修医）5名
栖田慶仁（2015年卒），斎藤　亮（2016年卒），田中惇貴（2017年卒），有本章彦（2018年卒）が神戸大学卒後研修として2022年3月まで勤務．2022年4月から蒲地正宗（2018年卒），林　卓磨（2020年卒），井上諒真（2021年卒），牟田口由紀子（2022年卒）（2022年9月退職），荻野壮太（2019年卒）が神戸大学卒後研修として勤務した．

診療内容

1. 人工膝関節（関節センター）
総手術症例数，部分人工関節手術症例数ともに国内トップクラスの症例数である．昨年は年間477例を達成した．
2. 人工股関節（関節センター）
手術数が増加しており，年間症例数は100例を超えた．人工股関節の手術数は近隣地域では最多である．
3. 脊椎外科
手術症例数は，年間約80例に到達した．高槻の診療圏では最大の入院患者数となっている．
4. 再生細胞
脂肪組織由来再生幹細胞治療（ADRC）を用いた膝軟骨再生医療を2017年10月以来行っている．本年度末には培養系の細胞治療も認可が得られる予定．
5. 医工連携
新しい骨接合材料である，トレスロックや，DSC IIを開発して使用した．

2022年のトピックス・実績

1. YouTubeチャンネル開設
関節センターのYouTubeチャンネルを開設した．現在まで登録者数1,700名，合計15万ビューと好評である．また動画がきっかけで受診する方が多いばかりでなく，紹介受診でも動画を視聴している方が多く，今後注力すべき部分であると実感している．
2. 海外交流
新型コロナウイルス感染症流行のため海外交流の機会はほぼないが，台湾向けにWEBでの講演を行った．また，現地での講演も再開しており，シンガポール，ベトナムで講演を行った．ベトナムでは，愛仁会のプロジェクトとも合流して今後の協力体制を確立していく．
3. 学術活動
新型コロナウイルス感染症のために，学会活動は減少している．しかし，近年は，学会発表より英文雑誌投稿に注力している．2022年は合計20編の英文論文がpublishされた．今後も手術数と英語論文数にはこだわっていく．
4. 総合内科との共同治療
大腿骨近位部骨折，脊椎圧迫骨折を，総合内科主治医の全身管理，整形外科医執刀とお互いの特徴を生かした取り組みを行っていたが，今回更に進めて大腿骨近位部骨折の骨折リエゾンサービス体制を確立した．これにより加算を取れるとともに，二次骨折予防のシームレスな対応を行う．

今後の展望

1. 脊椎外科センターの充実
年々増加しつつある脊椎外科を，内外にアピールし確固たるものとし，更に脊椎変形の特殊外来も初めて扱える疾患の幅を持たせたい．
2. 人工関節の発展
人工関節数を膝関節400例半ば，股関節100例超えを最低ノルマとして，近隣に対する数的優位を保つ．またロボットや患者アプリの活用によりDX化を目指す．さらに，国内外の研修医を多く受け入れて指導的立場を堅持する．
3. 外国人患者の受け入れ
年末にベトナムを訪問した際に，再生医療を中心としたメディカルツーリズムについて具体的な話となった．院内体制を整えるとともに，来年中に一例目を行いたい．
4. 外国人医師の研修受け入れ
当院は外国人医師修練施設に認定されている．海外からの研修医を積極的に受け入れる予定である．既に数人のオファーがあり，実現に向けて手続き中である．

泌尿器科

スタッフ紹介

・主任部長　西田　剛
　出身大学：大阪医科大学（2000年卒）
　専門分野：泌尿器科一般・癌治療・排尿機能
　学会など：日本泌尿器科学会　専門医・指導医
　　日本がん治療認定医機構がん治療認定医
　　日本透析医学会透析専門医
　　大阪医科大学泌尿器科教育准教授
・専 攻 医　高倉一平（2022年3月退職）
　出身大学：大阪医科大学（2017年卒）
・専 攻 医　佐々木翔平（2022年3月退職）
　出身大学：大阪医科大学（2018年卒）
・専 攻 医　内本泰三（2021年4月着任）
　出身大学：大阪医科大学（2011年卒）
・専 攻 医　西尾恭介（2021年4月着任　9月退職）
　出身大学：大阪医科大学（2019年卒）
・専 攻 医　田中幹人（2021年10月着任）
　出身大学：大阪医科大学（2019年卒）
・非常勤医師　右梅貴信
・非常勤医師　濱田修史
・非常勤医師　小山耕平
・非常勤医師　枝川　右
・非常勤医師　反田直希

診療内容

泌尿器科では，泌尿器科領域でのがん治療，尿路結石治療，排尿障害及び尿路感染の治療を行っている．外来診療はこれまでと同様，毎日（月～金曜日）診療を行い，予約なしの患者や緊急対応が必要な症例も可能な限り対応している．入院診療においては患者に負担の少ない治療を積極的に取り入れ，早期の回復を目指して診療を行っている．

尿路結石に関しては，負担の少ない体外衝撃波結石破砕と内視鏡下破砕術（結石除去効果が高いレーザー結石破砕装置を使用）を使い分けることで，より適切な加療を行っている．

また，大阪医科大学泌尿器科と連携を取り，より高度な先端医療を提供している．

2022年のトピックス・実績

表在性膀胱癌に対して，5-ALA（アミノレブリン酸）を使用した光線力学診断を行い，肉眼では判別しづらい癌組織を光らせることにより，取り残しが少ない経尿道的手術を行っている．

尿失禁を伴う神経因性膀胱や過活動膀胱に対して，膀胱壁内ボトックス注入療法を施行し，難治性患者に対しての治療法が拡大した．

尿路結石手術（体外衝撃波結石破砕，内視鏡下結石破砕）の件数は高い水準で依然推移している．

今後の展望

患者のニーズが多様化する状況で，丁寧な診療を心掛けながら，期待に応えられるようにする．また丁寧な説明と適切な治療を提供し実施するよう心掛けている．

表．診療実績　（単位：件）

術式	件数	術式	件数
経尿道的膀胱悪性腫瘍手術	120	経直腸的前立腺生検	90
経尿道的前立腺切除術	22	尿管ステント留置，抜去	315
f-TUL	68	経皮的腎瘻造設術	9
経尿道的膀胱結石摘出術	17	膀胱瘻造設術	2
体外衝波腎・尿管結石破砕	105	腹腔鏡下副腎摘除術	2
精巣摘出術	3	腎（尿管）悪性腫瘍摘除術	2
陰嚢水腫根治術	4	腹腔鏡下腎（尿管）腫瘍手術	3
精巣上体摘出術	1	膀胱悪性腫瘍手術（尿路変更あり）	5
包茎手術	4	膀胱憩室切除術	2
外尿道腫瘍切除術	4	尿失禁手術(ボツリヌス毒素)	4

腎移植科

スタッフ紹介

客野宮治

腎移植医，1979年大阪大学医学部医学科卒業，泌尿器科専門医，同指導医，日本移植学会移植認定医，日本臨床腎移植学会認定医

診療内容

現在，週5日1診の腎移植患者対象の外来診療を客野，高原史郎（関西メディカル病院），今村亮一（大阪大学），中澤成晃（大阪大学）が行っている．

また，腎移植患者の検査入院，急性疾患発病時の入院治療を担当している．

表．2022年1月～12月　実績　（単位：件）

1日平均外来数	9.7
年間入院数	45
年間手術件数	40

2022年のトピックス・実績

現在，外来にてレシピエント190名とそのドナーの方の腎機能維持並びに健康管理を担当している．

この1年間の平均外来人数は9.7名/日であった．

昨年1年間で大阪大学泌尿器科より12名の移植後の新患を受け入れた．

死亡された方は0名で，透析再導入になった方は1名であった．

残りの患者数の変化は転居・転院に伴うものである．

今後の展望

当院での腎移植開始を目指している．

皮 膚 科

スタッフ紹介

山本哲久	1999年卒	（2022年3月退職）
福満祥子	2017年卒	（2022年4月入職）
中村　彩	2014年卒	（2022年4月退職）
髙橋甲介	2017年卒	（2022年5月入職）
瀬戸英伸	1984年卒	（1993年7月入職）

診療内容

【外来】

1日平均外来患者数：52人←52人（2021）←50人（2020）

紹介患者数：745人←691人（2021）←638人（2020）

生物学的製剤導入：26人←18人（2021）←14人（2020）

JAK導入：4件←3件（2021）

アレルギー検査：37件←33件（2021）←30件（2020）

【入院】

入院患者数：70人←100人（2021）←84人（2020）

病棟依頼：1,095件←1,093件（2021）←1,075件（2020）

往診：304人←284人（2021）←379件（2020）

褥瘡回診：335件←346件（2021）（毎週月曜日）

【手術】

手術件数（手術室）：

163件←159件（2021）←167件（2020）

手術総件数（手術室＋外来処置室）：

393件←295件（2021）←357件（2020）

悪性腫瘍摘出術：29件←17件（2021）←40件（2020）

有茎皮弁・植皮術：6件←3件（2021）←9件（2020）

全身麻酔：7件←18件（2021）←4件（2020）

2022年のトピックス・実績

アトピー性皮膚炎のステロイド以外の外用治療薬として，プロトピック軟膏（免疫抑制剤），コレクチム軟膏（JAK阻害薬）に続いて，モイゼルト軟膏（PDE4阻害薬）が使用できるようになった．また，デュピクセント以来となる生物学的製剤としてミチーガ（抗IL-31抗体製剤）も使用できるようになり，アトピー性皮膚炎治療の選択肢が更に増えた．

・入院患者内訳（表1）
・皮膚科の手術（表2）
・皮膚良性腫瘍（表3）
・皮膚悪性腫瘍（表4）
・炎症性皮膚疾患（表5）

今後の展望

基底細胞癌を中心とした皮膚癌，足壊疽に遭遇する機会が明らかに増えている．引き続き皮膚外科的分野に力を入れたい．また，入院患者の獲得にも力を注ぎたい．

表1．入院患者内訳　（単位：人）

細菌感染症	
蜂窩織炎	14
丹毒	0
壊死性筋膜炎	0
ウイルス感染症	
帯状疱疹	18
水痘	1
カポジ水痘様発疹症	0
皮膚良性腫瘍	5
皮膚悪性腫瘍	8
中毒疹・薬疹	6
皮膚潰瘍・褥瘡・足壊疽	6
天疱瘡・類天疱瘡	4
湿疹皮膚炎	2
蕁麻疹・アナフィラキシー	0
紅斑症（EEM EN）	4
血管炎	0
乾癬等	0
円形脱毛症	2
合　計	70

表2．皮膚科の手術　（単位：件）

良性腫瘍摘出術	132
悪性腫瘍摘出術	29
皮膚生検術	208
有茎皮弁作成術	1
遊離植皮術	5
デブリードマン	3
フェノール法	11
足指切断術	3
毛巣洞手術	1
合　計	393

表3．皮膚良性腫瘍　（単位：件）

母斑細胞性母斑など	24
粉瘤など	43
脂漏性角化症	37
線維腫など	13
皮膚付属器腫瘍	14
脂肪腫など	15
血管腫など	4
日光角化症	15
その他	23
合　計	188

表4．皮膚悪性腫瘍　（単位：件）

基底細胞癌	28
有棘細胞癌	10
ボーエン病	7
パジェット病	0
悪性黒色腫	2
転移性皮膚癌	3
その他	2
合　計	52

表5．炎症性皮膚疾患（生検施行）

（単位：件）

水疱症	12
血管炎	10
肉芽腫	19
脂肪織炎	3
膿皮症など	6
炎症性角化症	6
その他皮膚炎	33
その他	22
合　計	111

形成外科

スタッフ紹介

常勤医：黒川憲史
　　出口　大

診療内容

常勤医2名で診察を行っている．外来は，月・火・木・金曜日の午前中，水曜日は午後に初診を受け入れている．手術は，月曜日午後に主に全身麻酔を要するもの，水曜日午前中に局所麻酔を要するものを行っている．

2022年のトピックス・実績

2022年の実績を表1，2に示す．また，大阪医科薬科大学形成外科教育連携施設となっている．

今後の展望

従前どおり，適切な形成外科的な治療や手術を提供し，必要に応じて関連施設との連携をとり，良好な協力体制を維持していく．

表1．形成外科新患者数・入院患者数・手術件数

形成外科新患者数	635名	形成外科手術件数	入院手術	全身麻酔	59件
形成外科入院患者数（重複入院は除く）	121名			腰麻・伝達麻酔	0件
				局所麻酔・その他*	67件
			外来手術	全身麻酔	0件
				腰麻・伝達麻酔	0件
				局所麻酔・その他*	131件

＊その他：無麻酔や分類不明

表2．手術内容区分

（単位：件）

疾患大分類手技数	入院手術			外来手術			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	17		12			45	74
先天異常	14		0			5	19
腫瘍	16		43			71	130
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	9		1			3	13
難治性潰瘍	2		9			6	17
炎症・変性疾患	1		1			1	3
美容（手術）	0		0			0	0
その他	0		1			0	1
Extra レーザー治療	0		0			0	0
大分類計	59	0	67	0	0	131	257

産 科

スタッフ紹介

小辻文和　：1971年卒　部長
大石哲也　：1983年卒　部長
中後　聡　：1988年卒　主任部長　総合周産期母子医療センター長
加藤大樹　：2005年卒　医長
徳田妃里　：2007年卒　医長
柴田貴司　：2007年卒　医長
細野佐代子：2008年卒　医員
西川茂樹　：2011年卒　医員
福岡泰教　：2012年卒　医員
飯塚徳昭　：2013年卒　医員
菅田佳奈　：2014年卒　医員（～2022年3月）
河谷春那　：2017年卒　医員（2022年4月～）
新田勇人　：2019年卒　専攻医
伊藤弘樹　：2020年卒　専攻医（2022年4月～）
森本　始　：2020年卒　専攻医（2022年4月～）
産婦人科の常勤スタッフは以上14名であった．

千船病院からのローテート研修医は以下の6名であった．
1月~3月：荒木裕子(2018年卒)，苔原つばさ(2018年卒)
4月~9月：中村達也(2019年卒)，津田洋之助(2020年卒)
10月~12月：光岡真優香(2019年卒)，根来柚衣(2020年卒)

診療内容

入院病床はMFICU6床を含め計54床で運用し，OGCS基幹病院，大阪北地区の産婦人科一次救急体制の中心である．大阪府の依頼でMFICU2床を新型コロナウイルス感染症妊婦専用病床として運用し，多数の患者を受け入れている．通常の帝王切開は全てMFICU内に設置された産科専用手術室で行い，緊急時は病院到着後20分以内に児を出産できる．外来は専門外来制とし，業務を効率化して午前3診，午後2診体制とした．病棟は，2チームによるチーム診療制を採用し，円滑な運営のみならず教育面でも効果を発揮している．

2022年のトピックス・実績

本年も大阪府内の緊急母体搬送の受入数は1位で，286件と昨年（234件）よりも増加した．一方，近隣施設へのback transferは86件と昨年と同数で，引き続き周囲の医療施設から大きな信頼を勝ち得ている．スタッフの尽力により，大きなクラスターを起こすことなく，新型コロナウイルス感染症妊婦受け入れと緊急母体搬送受け入れを両立した．

産科超音波技師エコーチームの活躍により，胎児異常症例の診断レベルが著しく向上した．さらに，胎児エコー診断で有名な川瀧元良先生（前県立神奈川こども医療センター部長）を顧問に迎え，遠隔診断だけでなく，毎月第3金曜日に遠隔エコーカンファレンスでご指導いただき，技術の向上を図っている．

遺伝部門の全面的な協力を得て，当院が出生前診断（NIPT）認定医療機関（基幹施設）に認定され，当院でNIPTを実施できるようになった．当院の患者だけではなく，近隣医療機関からの検査依頼に対応している．

本年より，当院所属の専攻医が新たに2名誕生した．来年も当科で研修希望する初期研修医を，専攻医として採用を予定している．また，昨年同様に千船病院所属の医師が2名，6か月交替で定期的に勤務いただけたことは，当科の円滑な活動を支える大きな力となった．千船病院関係者のご尽力に，この紙面をお借りして，心より感謝を申し述べたい．

今後の展望

高い胎児エコー診断レベルを確立し，基幹施設としてNIPTによる出生前診断を実施できることで，当科は総合周産期母子医療センターにふさわしい出生前診断体制を構築できたといえる．今後，出生前診断センターを確立し，近隣施設の信頼を得て，更なる飛躍を遂げたい．また，新たに当院所属の専攻医増加をにらみ，医師教育に更に力を注ぎたい．

表．実績

（単位：件）

項目	件数
分娩件数（母の数，死産を含む）	983
帝王切開数（帝王切開率40%）	390
緊急帝王切開	194
腹膜外帝王切開	20
子宮底部横切開	16
妊娠子宮全摘数（産褥期を含む）	2
子宮頸管縫縮術数	69
緊急母体搬送数	286
Back transfer症例数	86
妊娠28週未満の早産	28
胎児異常	28
FGR	42
多胎	46
切迫早産（当院分娩例）	108
前置胎盤	19
常位胎盤早期剥離	6
妊娠高血圧症候群	89
糖尿病合併妊娠（妊娠糖尿病含む）	84

婦人科

スタッフ紹介

産科とは区別せず千船病院から後期研修医2～3名の応援を受けて13~14名で業務にあたった.

2022年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の影響により，症例数の減少を心配したが全体としてほぼ例年並みの婦人科症例数となった．高齢者の骨盤臓器脱症例は明らかに新型コロナウイルス感染症による受診控えにより減少していたが，増加に転じた.

①良性疾患含めた手術数は横ばい.

②悪性疾患，特に卵巣癌症例が減少した.

③産科母体搬送は例年通り多くそれに伴い，婦人科症例も重症例や手術困難例が増加した．悪性腫瘍では高齢化と重症化により手術症例より放射線治療例が増加している.

今後の展望・目標

腹腔鏡専門医取得が喫緊の課題である.

多くのスタッフが精度の高い手術手技を持つに至り，全体にレベルアップした．研修医にも正確に伝承していくことを目指す.

骨盤臓器脱手術で培った技術を生かし，腟式手術を増やし，腹腔鏡手術とともに低侵襲手術を増加させることにより手術数の回復を目指す.

婦人科腫瘍専門医（現在1名），細胞診専門医（3名），がん治療認定医（7名）取得を継続して努力する.

表1．良性疾患手術　（単位：件）

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
腹式単純子宮全摘術	53	53	64	59	45	49
開腹子宮筋腫核出術	18	21	11	15	17	12
開腹良性卵巣腫瘍手術	22	26	17	20	26	33
開腹子宮外妊娠手術・卵管切除術	7	7	8	8	4	5
骨盤臓器脱手術	56	50	40	41	23	40
腹腔鏡手術	98	104	96	98	126	125
TCR	20	15	23	30	42	36
その他	7	6	6	7	5	10
計	281	282	265	278	288	310

表2．内視鏡手術　（単位：件）

		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
腹腔鏡	卵巣腫瘍手術	83	65	64	41	49	85	83
	子宮筋腫核出術	3	3	2	1	0	0	0
	子宮外妊娠	19	10	15	15	15	13	16
	TLH	23	20	23	39	34	28	26
TCR		13	20	15	23	30	42	36

表3．悪性腫瘍関連手術　（単位：件）

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮腟部円錐切除（LEEP）	44	32	38	26	38	40	37
子宮頚がん手術	8	6	6	6	7	2	3
子宮体がん手術	12	13	16	18	13	16	14
卵巣がん手術	16	14	21	25	18	22	11
その他	2	2	2	1	2	4	4
計	82	67	83	76	78	84	69

表4．婦人科悪性腫瘍　（単位：件）

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
子宮頚癌							
CIN3･AIS	35	27	43	25	35	40	36
Ⅰ期	9	14	7	3	7	2	2
Ⅱ	1	2	2	3	2	2	1
Ⅲ	0	1	1	4	2	0	2
Ⅳ	0	1	1	1	2	1	2
計	45	45	54	36	48	45	43
子宮体癌							
AEH	1	0	2	1	2	1	1
Ⅰ期	5	8	9	15	11	14	11
Ⅱ	3	0	2	2	1	1	2
Ⅲ	1	4	6	2	1	2	2
Ⅳ	3	1	2	0	0	1	1
計	13	13	21	20	15	19	17
卵巣癌							
Ⅰ期	7	9	6	13	11	12	6
Ⅱ	1	0	4	0	0	0	2
Ⅲ	6	6	7	9	7	8	2
Ⅳ	2	5	3	4	3	4	2
計	16	20	20	26	21	24	12

眼 科

スタッフ紹介

医　　師：清水一弘・宮本麻起子・
　　奥田吉隆（2022年3月退職）
　　長嶋泰志・富畑智子（2022年4月赴任）
ORT（視能訓練士）：長田（2022年10月赴任）・秋田・
　　松原
検 査 員：山本
看 護 師：吉川・藤野・小柴・松原
小児外来：渡邊浩子
角膜外来：吉川大和

診療内容

一般外来：月～金曜日
小児外来：木曜日午後
検　　査：月～金曜日午後
手　　術：月曜日午前・火曜日終日・木曜日終日

2022年のトピックス・実績

2022年4月　富畑智子先生赴任

今後の展望

次年度は眼科手術件数の増加と小児眼科の充実を目標としている．抗VEGFに代表される硝子体注射は糖尿病網膜症による黄斑浮腫や加齢黄斑変性，網膜静脈分子閉塞症による黄斑浮腫などに著しい効能があり，今後も増加が期待できる．更なる発展には高解像度の網膜断層撮影装置の導入が不可欠で，未熟児網膜症への適応拡大にも対応していきたい．

新型コロナウイルス感染症がまん延していた中においても外来患者数は増加した．近隣のクリニックに眼科の特徴をアピールし，救急疾患も積極的に受け入れてきた結果と思われる．現在では手術室の時間割り振りを見直し，手術室稼働率の向上を目指している．これから高齢化社会となり手術適応例は増加に転じるようになると思われる．白内障手術用機器はセンチュリオン，手術用顕微鏡はサージカルガイダンス付きで，乱視矯正の精度も上がり，北摂地域では最も優れた機種で手術ができる環境が整っているため，高槻病院で行われている白内障手術が秀でた手術であることをアピールしていきたい．

多焦点眼内レンズも複数の種類を用意し，患者からの要望に応えている．2.2mmの極小切開や精度の高い乱視矯正は近隣の大学病院でも行われていない技術でLASIK眼や円錐角膜眼への眼内レンズ挿入も行っている．

新たな手術分野として眼形成を取り入れ，眼瞼下垂手術にも取り組んで行く予定である．

近年，斜視や弱視など小児眼科を専門とする眼科医が減少する傾向にある．当院では未熟児網膜症や眼科小児奇形などにも対応できる小児眼科専門医が診療に当たっており，3名の国家資格を持った視能訓練士とともに診療の充実を図っている．

大学病院にも設置されていない機器が導入され，眼科地域医療をリードし，貢献できる眼科を目指している．

表．診療実績（2022年1月～2022年12月）　（単位：件）

項目名		件数
外来総数	一般外来	12,750
検査総数	蛍光造影検査	16
	視野	797
	光干渉断層計	4,397
手術総数	白内障手術	717
	（再掲）ECCE	2
	（再掲）IOL縫着	3
	強膜内固定	0
	緑内障手術	0
	麦粒腫切開術	1
	霰粒腫切除術	3
	翼状片切除術	7
	腫瘍切除術	0
	斜視手術	0
	内反症手術	0
	眼瞼下垂	5
	硝子体切除術	13
	ケナコルトテノン嚢下注射	10
	硝子体注射	91
	YAGレーザー後嚢切開術	100
	部分・汎網膜光凝固術	52
	未熟児網膜症光凝固術	0

耳鼻いんこう科

スタッフ紹介

常 勤 医　星島秀昭
非常勤医　綾仁祐介
　　森山　興

診療内容

昨年同様常勤医師1名と大阪医科大学耳鼻咽喉科からの応援医師2名とともに外来診療を実施している．外来について月曜日は原則初診患者のみの1診体制，火曜日と木曜日は非常勤医師とともに，2診体制で外来及び入院患者の診療に当たっている，火曜日は綾仁医師，木曜日は森山医師が外来診療に当たっている．水曜日は手術日となっており，午後に関しては月曜日に外来手術若しくは検査，火，木，金曜日はエコーガイド下の細胞診検査，内視鏡下生検，声音と時間を要する特殊聴覚機能検査及び術後の処置などを行っている．入院については，糖尿病など基礎疾患を有する突発性難聴や顔面神経麻痺症例，扁桃炎や扁桃周囲膿瘍など，緊急に気道確保を要しない咽喉頭領域の急性上気道感染症患者の治療を行っており，悪性腫瘍や頸部膿瘍及び中等度以上の喉頭蓋炎や喉頭浮腫など気道狭窄例，外科的治療及び癌治療を必要とする疾患は，大阪医科薬科大学などのより専門性の高い医療機関に治療をお願いしている．

2022年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の鎮静化に伴い，他科と同様，感染を懸念しての受診控えが収まりつつあり，以前の状況に復しつつある．また選定療養費の制度化に伴い，紹介状を持参しない飛び込みの受診患者数が激減した一方で，院外，院内の紹介患者数の急激な増加がみられていることにより更に増加するであろう事務的業務が，今後日常診療に影響を与えないよう注意を払っていく必要がある．

今後の展望

新型コロナウイルス感染症流行の再燃に注意しつつ，引き続き過不足なき感染予防対策を敷いた上での診療を行っていく．

放射線診断科

スタッフ紹介

部長　清水雅史
部長　横川修作
医員　中森美和
医員　林　和宏
非常勤医師　6名
部長　髙橋　哲（イメージングリサーチセンター）

診療内容

血管造影・IVR，CT・MRIの件数と内訳はそれぞれ表の如くである．CTとMRIの検査件数は順調に増加している．血管造影・IVR件数はほぼ同様である．

2022年のトピックス・実績

2022年10月から，レポーティングシステムの更新に伴い，注意喚起コメントを新設した．偶発的に見つかった病変に対し，検査依頼医や主治医との情報共有をより密にするためのものである．医療安全の観点から画像診断報告書の確認不足による医療事故を防ぐため，今後も注意喚起コメントの有効的な運用を目指していきたい．

表1．血管造影・IVR内訳

（単位：件）

部位		IVR	合計
肝	肝癌	26（TAE）	26
腎	出血	1（止血）	1
膵	出血	2（止血）	2
大腿	出血	1（止血）	1
子宮	産褥出血	5（止血）	5
副腎サンプリング		1	1
総計		36	36

今後の展望

CTは2021年に80列Primeを導入した．従来の320列Aquilion ONE，64列Aquilionと16列治療用CTの4台体制で，特に心臓CTの件数は増加している．

MRIはSiemens社製3TMRI Skyraと1.5TMRI Aeraの2台体制で，心臓MRIの撮像も試みている．

腹部血管造影は，CT-like imageを用いて高精度の塞栓術を施行している．

今後とも，病診連携を強化し，地域の画像センター，放射線治療センターとしての役割を務めていかなければならない．

表2. CT検査件数

（単位：件）

	2022-01	2022-02	2022-03	2022-04	2022-05	2022-06	2022-07	2022-08	2022-09	2022-10	2022-11	2022-12	合計
脳	365	338	356	389	380	383	354	348	310	310	339	417	4,289
眼窩	2	1	1	0	2	4	1	0	1	0	2	0	14
副鼻腔	6	4	9	4	7	6	6	1	9	7	5	2	66
中・内耳	3	4	0	2	0	1	2	2	6	4	3	4	31
上中咽頭	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	4
頭部その他	5	3	5	6	1	2	0	1	0	2	5	3	33
頭部小児（外傷）	32	22	41	32	40	40	34	15	21	27	38	33	375
鼻-Ⅲ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
耳-Ⅲ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
頭部小児	32	22	39	23	23	20	27	32	22	22	24	33	319
頭部CTA	4	3	4	7	5	3	4	8	5	5	5	3	56
頭部～頸部CTA	3	1	2	1	1	2	1	2	1	1	6	4	25
耳下腺・顎下腺	2	0	1	3	0	5	0	0	2	1	2	1	17
甲状腺	1	0	2	0	0	1	0	0	0	1	0	1	6
頸部その他	2	4	3	4	3	5	3	5	2	3	4	1	39
下咽頭・喉頭	1	2	1	3	3	1	1	3	1	1	3	1	21
頸部小児	2	1	0	0	1	2	0	2	0	1	0	1	10
頸部CTA	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3
胸部	203	228	264	212	201	244	240	234	267	240	253	279	2,865
肩	17	14	14	13	14	12	9	6	14	12	7	14	146
肩アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胸部その他	1	1	3	2	0	3	2	0	1	1	0	1	15
CT下肺生検	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
頸部上腹部	1	2	1	0	1	1	1	0	1	1	1	2	12
胸部上腹部	16	18	22	20	23	24	16	23	20	16	20	18	236
胸部小児	2	3	2	4	0	3	2	1	6	3	6	4	36
心臓	44	31	39	34	45	48	40	39	39	43	47	45	494
胸部CTA	0	0	0	1	2	1	1	0	1	0	0	0	6
心臓-大動脈	0	5	2	5	2	2	5	2	3	0	2	8	36
Ablation	35	16	30	28	27	25	26	23	23	26	32	31	322
Ablation＋冠動脈	2	2	1	3	3	5	6	5	4	0	3	2	36
肺塞栓	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
肺塞栓＋深部静脈血栓	4	3	4	6	2	5	1	7	1	2	1	3	39
肝臓～腎臓	12	14	27	18	21	16	26	29	15	26	22	18	244
肝臓～骨盤	286	253	316	284	263	322	287	283	318	333	311	301	3,557
肝臓	11	2	10	14	13	12	15	9	4	16	9	10	125
胆嚢	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
DIC-CT	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
膵臓	3	3	3	0	3	8	4	2	0	3	3	5	37
腎臓	0	1	3	0	0	0	2	0	2	2	1	2	13
腹部その他	1	1	2	5	2	1	3	2	2	1	1	2	23
腹部小児	2	2	2	0	4	0	1	4	1	0	2	1	19
腹部CTA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Colonography	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨盤部	11	9	7	9	5	7	5	9	10	14	8	9	103
骨盤オリーブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右股関節	6	8	7	4	5	7	5	6	2	5	4	6	65
左股関節	8	8	7	8	1	7	4	7	3	4	6	11	74
両股関節	54	49	49	62	35	41	52	34	35	57	42	61	571
骨盤部その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
股関節アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨盤小児	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
骨盤CTA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右上腕部	0	2	1	2	0	3	4	0	5	0	0	0	17
左上腕部	1	2	0	0	2	0	1	2	2	3	4	2	19
両上腕部	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
右肘関節	3	2	5	2	2	1	0	3	1	1	3	1	24
左肘関節	2	2	5	2	4	3	4	2	2	2	2	2	32
両肘関節	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
右前腕部	0	0	1	0	3	0	2	1	1	0	1	1	10
左前腕部	0	2	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	7
両前腕部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右手関節	2	5	3	4	4	3	2	5	5	2	2	5	42
左手関節	4	5	4	2	5	6	6	6	4	3	1	13	59
両手関節	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	3
右手部	1	6	4	6	2	0	2	1	2	0	3	1	28
左手部	2	0	2	1	0	1	0	0	3	2	2	0	13
両手部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右上肢アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左上肢アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
両上肢アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右上肢小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左上肢小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
両上肢小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右上肢CTA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左上肢CTA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
両上肢CTA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
右大腿部	1	5	0	3	4	5	1	0	0	0	1	2	22
左大腿部	3	0	4	2	1	3	1	3	1	1	0	2	21
両大腿部	1	3	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	8
右膝部	5	4	4	2	3	6	4	3	6	3	2	8	50
左膝部	8	5	5	4	4	4	10	2	4	4	6	11	67
両膝部	35	23	29	24	41	32	32	39	15	18	37	28	353

	2022-01	2022-02	2022-03	2022-04	2022-05	2022-06	2022-07	2022-08	2022-09	2022-10	2022-11	2022-12	合計
右下腿部	0	3	1	0	3	6	0	2	1	1	2	1	20
左下腿部	1	1	1	1	3	3	0	2	2	3	2	2	21
両下腿部	0	3	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	7
右足関節	3	7	2	7	5	1	4	3	2	4	2	2	42
左足関節	0	6	3	1	3	2	2	3	3	4	2	7	36
両足関節	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
右足部	4	1	3	1	1	2	8	1	4	2	0	3	30
左足部	5	1	2	1	1	3	4	2	2	2	4	2	29
両足部	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3
右下肢アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左下肢アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
両下肢アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右下肢小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左下肢小児	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
両下肢小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右下肢CTA	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
左下肢CTA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
両下肢CTA	9	4	8	10	7	11	10	11	12	10	8	12	112
右下肢（骨盤～下腿）	2	3	1	1	2	1	2	1	2	3	2	2	22
左下肢（骨盤～下腿）	0	1	1	3	1	2	4	0	0	3	2	4	21
両下肢（骨盤～下腿）	24	31	36	25	28	38	36	40	31	26	30	24	369
頚椎	3	8	6	6	9	7	6	4	6	12	7	11	85
胸椎	1	1	3	2	1	5	4	2	1	6	5	4	35
腰椎	30	39	46	28	32	40	42	36	37	32	37	41	440
仙椎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脊椎小児	2	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	6
胸部～骨盤	562	506	676	594	584	581	549	536	549	601	545	540	6,823
大動脈（胸部～骨盤）	93	57	87	105	109	94	80	74	66	89	93	102	1,049
大動脈（骨盤～下腿）	3	5	5	4	3	7	5	4	3	4	3	6	52
頚部～骨盤	48	55	75	79	61	60	53	70	57	60	61	56	735
広範囲小児	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	5
広範囲CTA	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	4
静脈（骨盤～下腿）	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
広範囲 肺塞栓	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
広範囲 肺塞栓＋深部静脈血栓	10	6	3	8	11	10	9	6	8	7	5	8	91
下肢急性閉塞（胸部～下肢）	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	1	1	6
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2,047	1,885	2,313	2,140	2,083	2,215	2,079	2,012	1,997	2,105	2,096	2,247	25,219

表3. MRI検査件数

（単位：件）

	2022-01	2022-02	2022-03	2022-04	2022-05	2022-06	2022-07	2022-08	2022-09	2022-10	2022-11	2022-12	合計
脳＋脳MRA	229	233	292	311	269	298	274	260	285	304	291	286	3,332
下垂体	1	6	7	6	9	15	8	14	12	8	5	14	105
小脳橋角部	2	2	0	0	1	1	1	0	2	2	0	1	12
上中咽頭	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
副鼻腔	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
右眼窩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左眼窩	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
顎関節	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
舌・唾液腺	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
頭部MRA	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	5
脳・眼窩	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	3
頭部その他	1	2	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	7
脳ドック	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	0	5
脳	51	40	57	43	36	41	46	65	37	41	38	57	552
脳・小脳橋角部	4	3	4	1	2	4	1	0	3	2	3	2	29
脳・2方向	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内耳	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	4
脳幹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
耳下腺	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
海馬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳梗塞急性期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児脳	48	38	60	46	50	50	44	43	32	26	39	43	519
ドック	16	10	15	7	13	12	11	10	16	15	12	15	152
脳VSRAD	15	25	19	17	15	20	14	17	16	12	12	16	198
脳＋脳MRA（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頭部MRA（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳ドック（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ドック（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児脳（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下垂体（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳幹（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児脳＋脊椎（鎮静下）	4	5	4	3	0	2	3	3	1	3	2	2	32
新生児脳（NICU・GCU）	6	6	11	5	13	7	6	9	12	7	10	5	97
甲状腺・副甲状腺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下咽頭・喉頭	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
頚部その他	0	1	1	0	3	0	1	2	1	0	0	1	10
頚部MRA	3	0	0	1	0	0	2	0	1	1	1	6	15
小児頚部	0	0	1	1	0	1	1	1	0	1	0	0	6
頚部MRA（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

	2022-01	2022-02	2022-03	2022-04	2022-05	2022-06	2022-07	2022-08	2022-09	2022-10	2022-11	2022-12	合計
縦隔	2	3	4	0	3	2	2	3	1	3	3	1	27
右乳房	2	3	2	1	3	4	3	3	3	1	6	2	33
左乳房	2	5	2	0	2	1	5	4	3	4	6	6	40
胸部MRA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胸部その他	1	1	2	0	4	1	7	2	3	0	0	2	23
AORTA・胸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児胸部	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
CORONARY	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
心筋	5	4	1	3	3	6	3	4	5	2	5	3	44
肝臓	4	5	1	3	5	2	4	3	0	3	3	2	35
胆嚢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
膵臓	0	0	1	0	0	2	0	0	2	0	1	1	7
腎臓	4	3	3	1	3	4	2	3	0	1	2	3	29
副腎	1	1	0	2	0	1	2	0	1	1	1	1	11
MRUrography	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	4
腹部MRA	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
腹部その他	1	0	2	0	1	0	3	2	1	0	0	3	13
小児腹部	0	1	1	0	0	1	0	2	2	0	1	0	8
MRCP	64	57	86	56	71	83	69	63	77	82	67	73	848
肝SPIO	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
AORTA・腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上腹部	3	0	3	2	3	4	3	0	1	2	3	1	25
肝EOB	8	6	6	5	4	5	6	4	7	3	4	4	62
子宮卵巣部	56	49	82	52	57	87	65	74	57	69	65	60	773
膀胱部	1	2	2	3	3	3	5	1	5	6	4	5	40
前立腺	32	22	28	24	24	28	16	22	15	29	34	24	298
骨盤部MRA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨盤部その他	5	6	3	5	2	5	5	7	8	6	5	6	63
小児骨盤部	2	0	0	0	2	2	1	0	0	0	0	0	7
骨盤部・CE-MRA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頚椎	44	35	34	34	36	27	31	47	38	45	34	44	449
胸椎	3	6	5	6	2	4	2	4	9	4	4	4	53
胸腰椎移行部	9	5	5	4	1	7	9	3	2	7	5	5	62
腰椎	87	102	111	115	119	123	107	112	92	100	114	105	1,287
仙椎	5	4	3	5	2	2	1	6	3	1	2	1	35
脊椎その他	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	5
全脊椎	3	3	9	8	4	4	4	9	12	9	9	6	80
脊椎・ミエロ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頚椎（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腰椎（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児脊椎	10	14	11	10	10	14	7	13	6	10	14	17	136
右肩関節	7	9	7	3	5	6	10	2	7	4	3	10	73
左肩関節	3	6	4	3	6	4	4	2	2	4	6	6	50
右肘関節	0	1	1	1	1	0	1	1	0	1	0	1	8
左肘関節	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	7
右手関節	1	0	2	2	2	1	3	2	2	0	0	1	16
左手関節	1	1	0	0	2	2	2	1	2	2	0	2	15
右上腕部	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3
左上腕部	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	5
右前腕部	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
左前腕部	0	0	0	0	0	1	0	2	0	4	0	0	7
右手部	2	1	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	9
左手部	0	0	2	2	0	0	0	1	2	1	2	1	11
上肢・CE-MRA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右上肢その他	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	5
左上肢その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	3
右小児上肢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左小児上肢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右大腿部	2	1	3	3	3	4	1	1	2	0	3	3	26
左大腿部	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	3
右下腿部	2	3	0	1	0	2	0	0	1	1	0	1	11
左下腿部	1	3	1	0	0	0	0	1	0	1	1	1	9
右足部	0	0	1	3	3	5	6	3	1	1	1	0	24
左足部	0	4	2	1	3	2	3	2	3	3	1	1	25
右股関節	5	4	5	9	3	7	4	6	11	9	6	10	79
左股関節	4	2	4	5	6	1	2	3	1	4	3	2	37
右膝関節	50	36	30	54	44	45	58	45	53	32	32	29	508
左膝関節	46	32	46	41	36	49	41	58	42	29	51	27	498
右足関節	3	2	2	1	1	1	2	1	1	2	0	1	17
左足関節	4	1	0	0	1	2	2	0	1	2	2	0	15
下肢・MRA	0	1	1	2	0	1	0	0	1	1	1	1	9
右下肢その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左下肢その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
右膝関節（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左膝関節（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右小児下肢	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	4
左小児下肢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大動脈	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
胸部大動脈	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腹部大動脈	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全下肢動脈	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	873	818	998	917	898	1,012	921	953	910	919	926	934	11,079

放射線治療科

スタッフ紹介

放射線治療医：常　勤　2名
　　非常勤　2名
放射線治療技師：9名
　うち，放射線治療専門放射線技師　2名
　うち，放射線治療品質管理士　3名
　うち，医学物理師　1名
看護師：4名
　うち，専従　1名

診療内容

放射線治療の主な疾患
　乳がん，肺がん，前立腺がん，脳転移，骨転移など

2022年のトピックス・実績

2022年の実績は表を参照されたい．

新しい放射線治療計画装置レイステーションが2022年3月に導入された．この装置により，正常組織への線量低減をすることができ，より安全な治療計画を可能とした．また前立腺がんに対する放射線治療で用いることが多い強度変調回転照射（VMAT）の治療計画が容易となった．

今後の展望

VMATは前立腺がんの治療で行っているが，今後ほかのがん治療において積極的に適応を図る．

表．治療内訳　（単位：名・件）

件数	2020年	2021年	2022年
新患者数	174	186	155
放射線治療部位数	238	242	186
総照射件数	4,051	4,651	3,576

新患原発部位別患者数			（単位：名）
脳・脊髄	1	3	4
頭頸部	0	0	1
肺・気管・縦隔	59	54	50
食道	2	2	5
胃・十二指腸・小腸	1	1	2
大腸・直腸・肛門	4	4	2
肝・胆・膵	2	0	2
乳腺	73	82	55
泌尿器（含　前立腺）	14	25	23
子宮	8	13	7
その他女性生殖器	7	0	0
骨・軟部腫瘍	1	0	1
悪性リンパ腫	1	2	3
その他造血器	0	0	0
原発不明癌	0	0	0
良性疾患	0	0	0
小児	0	0	0
その他	1	0	0
計	174	186	155

麻酔科

スタッフ紹介

主任部長　西田隆也
部　　長　中島正順
理 事 長　内藤嘉之
医　　長　棚田和子
医　　長　丸山祐子
医　　員　井川大輝
医　　員　小池紗季（2022年4月～2022年9月）

部　　長　土居ゆみ
（小児周術期センター　センター長）

診療内容

手術室及び手術室外で全身麻酔管理症例を担当．それ以外に，リスクの高い患者の区域麻酔，局所麻酔管理を担当した．麻酔科術前外来を，水曜日，木曜日の午前，及び金曜日の午後に行った．

ICU患者に対して，担当科と協力して管理を行い，難易度の高い挿管やライン確保に協力した．また，新型コロナウイルス感染症陽性患者及び疑い患者の挿管を主として担当した．

従来の麻酔科から独立して2020年度より小児周術期センターを発足した．より小児の周術期に特化した医療及び環境を提供している．

2022年のトピックス・実績

本年も，新型コロナウイルス感染症の波が定期的に発生したが，環境に順応するに従い症例数に大きな波ができることは少なかった．年間累計では全体的な手術件数は変わらないものの，全身麻酔症例が増加したことにより麻酔科管理症例が3,054例から3,167例まで改善した．

4月から，明石医療センターより小池医師が異動となり，同年9月に退職した．

4月に，前川麻酔看護師が診療看護師（Nurse Practitioner：NP）の資格を取得するため，森ノ宮医療大学大学院進学となった．

今後の展望

2023年4月に周術期看護師1名が退職するが，1名が新たに入職することにより変わらず4名となる．また，信川麻酔看護師がNPの資格を取得するため，森ノ宮医療大学大学院進学となる．

日本麻酔科学会より「麻酔関連業務における特定行為研修終了看護師の安全管理指針」が示されたことにより，指針に遵守しながら麻酔看護師へのタスクシフトを行う．

新型コロナウイルス感染症は5類に移行するものの，依然として手術室運営やICU管理に影響を及ぼすと考えられる．新型コロナウイルス感染症対応経験の維持，5類移行に伴う手術室運営の新たな調整を行う必要がある．

診療報酬改定に伴う急性期充実体制加算新設により，全身麻酔での緊急手術の依頼が増加している．今後も，年間400例の全身麻酔による緊急手術を目標として，麻酔科医及び関連スタッフの教育，及び医師確保に努める．

また，引き続き，心臓血管麻酔専門医や集中治療医などの育成に尽力し，周術期看護師の育成，地域連携に協力する．

リハビリテーション科

スタッフ紹介

欅　　篤

1979年　名古屋大学医学部卒
1986年　京都大学医学部大学院卒
京都大学医学博士
リハビリテーションセンター長
リハビリテーション科　主任部長
リハビリテーション科専門医・指導医・認定臨床医
脳神経外科専門医
認知症専門医・指導医
認知症サポート医
摂食嚥下リハビリテーション認定士
心臓リハビリテーション指導士
初級・呼吸ケアリハビリテーション指導士
サルコペニア・フレイル学会　指導士
日本医師会認定　産業医・健康スポーツ医
日本リハビリテーション学会　代議員
同　近畿支部　幹事
日本脳神経外科学会近畿地方会　評議員
日本認知症学会　代議員
日本脳神経外科認知症学会　理事・総務委員長
関西脳神経外科認知症研究会　副代表世話人

診療内容

あらゆる急性期疾患に対応するリハビリテーション医療を行うべく，隣接する愛仁会リハビリテーション病院の回復期病棟，障害児（者）病棟，在宅部門と密接な連携を取り，新生児から高齢者が，急性期から生活期まで連続したリハビリテーションを行う最初の窓口として機能できるように努めている．

脳卒中をはじめとする脳神経疾患などのリハビリテーション，整形外科の人工関節や脊椎・脊髄疾患にはクリニカルパスを運用した運動器リハビリテーションを，また循環器内科や心臓血管外科，呼吸器外科・内科とも連携し心大血管疾患，呼吸器リハビリテーションを行っている．また2012年秋から“がん患者リハビリテーション料”も算定実施できるようになった．大阪府のがん診療連携拠点病院として，がん患者に外科手術前後のみでなく，化学療法や放射線治療中も機能障害，能力低下を来すことなく治療が受けられるようにリハビリテーション医療を提供している．

活動内容

激増する高齢者の誤嚥性肺炎の原因となる嚥下機能障害に積極的に取り組み，入院直後の絶食期間中から鼻咽喉頭ファイバーによりベッドサイドで言語聴覚士や管理栄養士，看護師と嚥下機能の初期評価を行い，栄養提供方法を検討し間接あるいは直接嚥下機能訓練を開始している．頚部嚥下関連筋である舌骨上筋への電気刺激装置も導入され積極的に使用している．認知症に対してはリハビリテーションの視点から“認知症予防・初期もの忘れ外来”として特色のある診療を行っている．リハビリテーション科医師が診察を行い，リハビリテーション専門職（理学療法士，作業療法士，言語聴覚士）が神経心理検査のみでなく基本運動能力に加え体組成評価や口腔嚥下機能評価も同時に行う．これは認知症が高齢者の抱えるフレイル，ロコモ，サルコペニアといった運動器障害や誤嚥性肺炎の原因となる摂食嚥下機能障害と密接に関連していることにある．運動機能や摂食嚥下機能が低下すると認知症は確実に進行する．また認知症の進行に伴い運動機能が低下し転倒の危険性が高まり，嚥下機能の低下により誤嚥性肺炎を併発しやすくなるといった負のサイクルに陥る．それぞれの障害を早期に発見し訓練・指導を行うことにより，国民病となっている認知症の発症並びに進行抑制に寄与したいと考えている．

摂食嚥下支援チームを結成し，ST，OT，PTなどリハビリテーション専門職のみでなく看護師や管理栄養士，薬剤師も加わり，ベッドサイドでの嚥下内視鏡検査を行い，読影カンファレンスも行っている．

2022年のトピックス・実績

昨年度に引き続き，当科においても新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが，昨年度の経験を踏まえ，“正しく恐れる”姿勢で対応してきた．リハビリテーションを必要とされる新型コロナウイルス感染症の患者には可能な範囲でリハビリテーションが提供できたと思われる．産休明けのスタッフが加わりマンパワー不足は解消されてきた．

実績は表1～3を参照．

今後の展望

十分なリハビリテーション実施単位数を提供すると同時に，高い治療の質も維持していきたい．

表1．理学療法処方件数

（単位：件）

	処方件数	%		処方件数	%
整形外科	814	14.9%	耳鼻咽喉科	0	0.0%
脳神経外科	302	5.5%	皮膚科	9	0.2%
小児外科	9	0.2%	産婦人科	276	5.0%
消化器・一般外科	204	3.7%	泌尿器科	83	1.5%
心臓血管外科	167	3.1%	神経科	2	0.0%
呼吸器外科	87	1.6%	放射線治療科	0	0.0%
糖尿病内分泌代謝内科	38	0.7%	形成外科	24	0.4%
呼吸器内科	488	18.0%	リハビリテーション科	0	0.0%
消化器内科	566	10.4%	小児脳神経外科	275	5.0%
循環器内科	533	9.7%	眼科	0	0.0%
腎臓内科	12	0.2%	腎移植科	1	0.0%
脳神経内科	139	2.5%	乳腺外科	14	0.3%
血液内科	32	0.6%	不整脈内科	17	0.3%
小児科	226	4.1%	総合内科	1,073	19.6%
新生児科	69	1.3%	救急センター	7	0.1%
			合計	5,468	100.0%

表2．作業療法処方件数

（単位：件）

	処方件数	%		処方件数	%
整形外科	153	8.4%	耳鼻咽喉科	0	0.0%
脳神経外科	277	15.3%	皮膚科	0	0.0%
小児外科	4	0.2%	産婦人科	4	0.2%
消化器・一般外科	36	2.0%	泌尿器科	11	0.6%
心臓血管外科	64	3.5%	神経科	1	0.1%
呼吸器外科	3	0.2%	放射線治療科	0	0.0%
糖尿病内分泌代謝内科	31	1.7%	形成外科	4	0.2%
呼吸器内科	228	12.6%	リハビリテーション科	0	0.0%
消化器内科	119	6.6%	小児脳神経外科	0	0.0%
循環器内科	199	11.0%	眼科	0	0.0%
腎臓内科	6	0.3%	腎移植科	0	0.0%
脳神経内科	110	6.1%	乳腺外科	1	0.1%
血液内科	0	0.0%	不整脈内科	2	0.1%
小児科	5	0.3%	総合内科	554	30.6%
新生児科	0	0.0%	救急センター	2	0.1%
			合計	1,812	100.0%

表3．言語療法処方件数

（単位：件）

	処方件数	%		処方件数	%
整形外科	15	0.8%	耳鼻咽喉科	0	0.0%
脳神経外科	261	13.1%	皮膚科	1	0.1%
小児外科	7	0.4%	産婦人科	1	0.1%
消化器・一般外科	21	1.1%	泌尿器科	19	1.0%
心臓血管外科	39	2.0%	神経科	2	0.1%
呼吸器外科	6	0.3%	放射線治療科	0	0.0%
糖尿病内分泌代謝内科	17	0.9%	形成外科	6	0.3%
呼吸器内科	185	9.3%	リハビリテーション科	0	0.0%
消化器内科	193	9.7%	小児脳神経外科	43	2.2%
循環器内科	114	5.7%	眼科	0	0.0%
腎臓内科	5	0.3%	腎移植科	0	0.0%
脳神経内科	128	6.4%	乳腺外科	1	0.1%
血液内科	1	0.1%	不整脈内科	5	0.3%
小児科	38	1.9%	総合内科	879	44.0%
新生児科	13	0.7%	救急センター	2	0.1%
			合計	2,000	100.0%

Ⅳ

愛仁会リハビリテーション病院

回復期リハビリテーション病棟
障がい者病棟
全269床（うち障がい者54床）
訪問リハビリテーション

〒569-1116
大阪府高槻市白梅町5番7号
TEL.072-683-1212

院長　吉田和也

診療部総括

スタッフ紹介

2022年初めのリハビリテーション科は，全てのスタッフが何らかの専門医を保持しており，日本リハビリ医学会専門医を12名，同医学会指導医を5名擁している．吉田和也（日本整形外科学会専門医，院長），礒島さおり（日本内科学会総合内科専門医，副院長），兒島正裕（日本脳神経外科学会専門医，副院長），清水洋志（日本循環器学会循環器専門医，副院長），越智文雄（日本リハビリ医学会専門医，副院長），砂田一郎（日本脳神経外科学会専門医），李　容桂（日本小児科学会専門医），清水富男（日本整形外科学会専門医），住田幹男（日本リハビリ医学会専門医），城戸﨑裕介（日本脳神経外科学会専門医），湯川弘之（日本脳神経外科学会専門医），福田和浩（日本神経学会神経内科専門医），和田佳子（日本小児科学会専門医），松岡美保子（日本リハビリ医学会専門医），藤井優子（日本リハビリ医学会専門医），磯山浩孝（日本リハビリ医学会専門医），寺田明佳（日本小児科学会専門医），中島敦史（日本神経学会神経内科専門医），水野佐枝（日本内科学会総合内科専門医），及び北垣次郎太（日本歯科保存学会専門医，歯科医師）の陣容で診療活動を行った(資格は代表1つのみ提示，リハビリはリハビリテーションの略．以下も同じ)．

診療内容

年初めから回復期リハビリ5病棟215床，障がい者病棟1病棟54床（重症心身障がい児病床を含む）にて入院診療を開始した．回復期リハビリ5病棟は，回復期リハビリ病棟入院基本料1と病棟専従医による体制強化加算を堅持した．外来診療は入院相談外来に加え，専門外来として脊損外来，装具外来，痙縮治療外来，心大血管疾患リハビリ外来（心リハ外来），骨粗鬆症外来，書類外来，通院リハビリ，及び歯科診療を継続し，新たに摂食嚥下外来を開設した．チーム医療の一環としては，栄養サポートチーム（NST），褥瘡，認知症ケア，脊髄損傷，排尿自立支援，整形外科，摂食機能の各専門チームによる回診を実施した．

また併設する高槻在宅サービスセンターでのケアプラン作成や訪問看護・訪問介護・訪問リハビリを通じて，また当院のみなし事業としての訪問リハビリを通じて，在宅退院後の患者が質の高い豊かな生活を送れるように医療・介護サービスの提供を行っている．加えて三島圏域地域リハビリ地域支援センターや大阪府重度心身障がい児地域生活支援センターの責務も担っており，日本リハビリ医学会の研修施設として専門医の養成にも携わっている．ただ新型コロナウイルス感染症は依然収束に至らず，残念ながら入院・外来診療を一部休止・制限せざるを得なかった．

2022年のトピックス・実績

2022年も第6波・第7波・第8波と新型コロナウイルス感染症の大きな流行があり，昨年に引き続き徹底した感染対策を施しながら，事業継続計画（BCP）を進め，診療実績の維持に努めた．退院患者数は1,802名（2021年は1,800名）と前年と変わりなく，平均在院期間は50.6日（2021年は52.4日）と前年より短縮している（表1）．主病名のICD-10による疾患大分類では，脳血管疾患を含む循環器疾患が25.4%（前年28%），大腿骨頚部骨折など骨折患者を含む損傷・中毒外因疾患が36%（前年34.7%）と，損傷・中毒外因疾患が増加に転じたものの，循環器疾患が昨年に引き続いて減少していた（表2）．紹介元では，高槻病院は31.1%（前年35.1%）である一方，高槻市内の他医療機関は41.3%（前年39.3%），大阪府下（高槻市外）の医療機関が23%（前年21.3%），大阪府外の医療機関が4.6%（前年4.1%）と，新型コロナウイルス感染症の影響から少なくなっていた遠方の医療圏からの受け入れが再び増加した．退院後の転帰は自宅退院が80.5%，手術目的や病状悪化による急性期病院への転院は9%であった（表3）．診療報酬から計算した居宅等復帰率は92.7%（前年90.6%）と前年より高い比率となった（表4）．学会活動としては，筆頭演者として日本リハビリ医学会総会などに11演題の発表を行い，学会での座長を1件務めた．また3編の論文の投稿を行っており，新型コロナウイルス感染症がまん延している中でも活発な学術活動を行うことができた．

今後の展望

2022年は一昨年，昨年と同様，新型コロナウイルス感染症がまん延している中の影響で，外来診療・入院診療とも制限を行わざるを得ず，引き続き従来の診療体制の維持に努めた１年となった．その流行の勢いはいくぶん収まりつつあるものの，2023年も油断することなく，

当院の基本理念である「再びその人らしい生活に」を堅持しながら，引き続き日本一のリハビリ専門病院を目指していく．入院診療に関しては，従来どおり回復期リハビリ5病棟の入院基本料1，体制強化加算を堅持するとともに，障がい者病棟のより有効な病床利用法の検討を進めていく．また「リハビリ難民」を作り出すことのないように，特に脳血管疾患に対してシームレスなリハビリサービスを提供できるような体制を構築するため，高槻エリア内に脳血管疾患連携強化チームを立ち上げる．さらに法人内での初めての試みとして，2023年春より公的保険外リハビリテーションを開始する予定としている．

表1．診療科別・在院期間　退院患者数

（単位：名）

診療科	退院患者	平均在院(日)
リハビリテーション科（回復期）	1,188	62.3
リハビリテーション科（障害成人）	304	33.1
リハビリテーション科（小児）	232	12.7
リハビリテーション科（その他）	78	54.3
計	1,802	50.6

表2．疾患大分類（ICD-10）別・診療科別　退院患者数

（単位：名）

	回復期	障害	小児	その他	総計
Ⅰ 感染症及び寄生虫症	3	3	0	0	6
Ⅱ 新生物	12	2	0	0	14
Ⅲ 血液造血器疾患及び免疫疾患	0	0	0	0	0
Ⅳ 内分泌栄養代謝疾患	2	6	3	1	12
Ⅴ 精神及び行動疾患	1	0	2	0	3
Ⅵ 神経系疾患	24	89	152	2	267
Ⅶ 眼及び附属器疾患	1	0	2	0	3
Ⅷ 耳及び乳様突起疾患	0	0	0	0	0
Ⅸ 循環器疾患	376	63	0	19	458
Ⅹ 呼吸器疾患	1	1	0	0	2
ⅩⅠ 消化器疾患	0	0	0	0	0
ⅩⅡ 皮膚皮下組織疾患	0	0	0	0	0
ⅩⅢ 筋骨格結合織疾患	145	8	0	15	168
ⅩⅣ 泌尿生殖器疾患	0	0	0	0	0
ⅩⅤ 妊娠分娩産褥期疾患	0	0	0	0	0
ⅩⅥ 周産期疾患	0	1	6	0	7
ⅩⅦ 先天奇形･染色体異常	3	16	56	0	75
ⅩⅧ 症状･徴候・検査異常	0	13	0	1	14
ⅩⅨ 損傷・中毒外因性疾患	507	99	11	32	649
ⅩⅩ 傷病・死亡の外因	0	0	0	0	0
ⅩⅩⅠ 健康状態の影響要因	105	2	0	2	109
ⅩⅩⅡ その他の特殊目的用コード	8	1	0	6	15
計	1,188	304	232	78	1,802

表3．紹介元医療機関・退院時の転帰

（単位：名）

紹介元医療機関	紹介数	
高槻病院	555名	31.1%
高槻市内	738名	41.3%
大阪府下（高槻市外）	410名	23.0%
大阪府外	82名	4.6%
当院外来	0名	0.0%
計	1,785名	100.0%

転帰先	退院数	
自宅退院	1,462名	80.5%
転院	164名	9.0%
うち　高槻病院	75名	4.1%
転所	188名	10.3%
うち　老健施設	67名	3.7%
死亡退院	3名	0.2%

表4．在宅復帰率

（単位：名）

①対象退院患者数		1,203名
	1．居宅	900名
	2．介護老人福祉施設	22名
	3．介護老人保健施設	63名
	4．他の回復期リハ病棟	1名
	5．4を除く病院，有床診療所	15名
	転棟	15名
	高槻病院	51名
	その他	48名
	6．その他（有料老人ホーム等）	80名
	7．再入院	8名
②	上記①のうち，退院先が居宅等であった	1,002名
③	居宅等復帰率　100×②/①	92.70%

V

愛仁会しんあいクリニック

〒569-1123
大阪府高槻市芥川町2丁目3番5号
TEL.072-681-5533

院長　家永徹也

診療部総括

スタッフ紹介

常勤医師
外　　科：家永徹也（1981年卒・院長）
整形外科：辻　充男（1980年卒・部長）
内　　科：前納一三（1979年卒・部長）

診療内容

地域の人々の生活に密着した「身近なかかりつけ医」として，「患者さま本位の心安らぐ医療の提供」を理念に，患者さんの生活やご家族の思いに寄り添った外来診療（内科・外科・整形外科・リハビリテーション科），各種健診や予防接種，訪問診療を行っている．

2022年のトピックス・実績

2021年10月の開院当初より，「かかりつけ医としての機能強化」と「訪問診療の拡充」を目標に掲げ，経営改善に取り組んでいる．

「かかりつけ医としての機能強化」では，「患者が住み慣れた地域で安心して健康に過ごしていただく」ため，地域包括診療と骨粗鬆症予防・治療の取り組みを行った．地域包括診療は，同意者数が前期9名であったが，12月には23名となった．骨粗鬆症予防と治療の取り組みでは，今期，骨塩定量測定装置を更新したこともあり，整形外科・外科で行っていた取り組みを内科患者に拡大した結果，骨塩定量検査数は，前期710件に対し，今期1,134件と大幅に増加した．

また，かかりつけ医として予防医療を行うことも大切であり，新型コロナウイルスワクチンやインフルエンザワクチンを中心に3,547件の予防接種を行った．健康診断についても，その重要性を説明し，勧奨したことにより健診数は1,243件（前期1,178件）となった．

「訪問診療の拡充」では，非常勤医1名と診療看護師（NP）1名が加わり，さらに訪問診療の体制が整ったことで，訪問診療件数は，1,182件（前期710件）と大幅に増加した．また，今期より高槻病院の小児在宅ケア外来からオーバーエイジ患者の受入を開始したことも件数アップに繋がる要因であった．

広報活動としては，集患や情報発信などを目的に，様々なデバイスに対応可能なホームページへリニューアルを行った．また，当院を高槻市民により広く知ってもらうため，高槻市営バスの車内放送広告を行った．さらに，当院かかりつけの患者への情報発信として，2022年4月より偶数月に「しんあい便り」を発行している．それを高槻市居宅介護支援事業所へ送付したことで，訪問診療の新規問い合わせが増加している．

その他の活動として，新型コロナウイルス感染症の国産ワクチン（DS-5670a）について，高槻エリア各施設に協力いただきながら約300例の治験を行っている．

以上の取り組みにより，外来医療収入は279,049,893円となり，月平均23,254千円（前期22,488千円）となった．

今後の展望

上記の取り組みにより，患者1人当たりの平均単価アップとなっているものの，目標とする延べ患者数には達していない．そのため，来期は高槻病院の逆紹介を連携して行うよう取り組み，当院への紹介はもとより，高槻エリア内の連携強化により法人内での患者確保を目指す．

また，建物が老朽化しているため，建て替えなどについても検討していく．

表1．活動状況

（単位：人，円）

		（1）延べ患者数		（2）平均単価	（3）医業収入	
入外区分	診療科	対象期間実績（延べ数）	1日平均	対象期間実績	実績金額	構成比
外来	内科	16,876	58	8,748	176,519,255	63.3%
	小児科	961	3	6,601	6,137,520	2.2%
	外科	5,642	18	5,027	28,541,446	10.2%
	整形外科	8,619	30	6,877	59,945,417	21.5%
	その他医業収入				7,906,255	2.8%
合計		32,098	109	7,548	279,049,893	

表2．訪問診療件数と骨塩定量検査件数

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
訪問診療件数	76	79	86	82	93	104	97	97	90	113	128	137	1,182
骨塩定量検査件数	43	69	77	68	82	72	100	114	132	145	126	106	1,134

Ⅵ

明石医療センター

7:1急性期病院
地域周産期母子医療センター
地域医療支援病院
ICU･HCU/NICU･GCU
全382床

〒674-0063
兵庫県明石市大久保町八木743番33号
TEL.078-936-1101

院長　大西 尚

総合内科

スタッフ紹介

主任部長：木南佐織
部　　長：坂本　丞，石丸直人
医　　長：中島隆弘，官澤洋平，大西　潤
医　　員：水木真平
専 攻 医：鶴田慧司郎，長　陽二郎，稲田有作，新宮資央（他科研修又は連携病院出向：尾本仁那，田口涼子，山崎　健，坂田尚哉，藤井真理，廣瀬光基）
診療看護師：渡部秀悟

診療内容

外来：内科初診外来は，総合内科指導医と研修中の専攻医が中心となって担当し，プライマリケアの実践を行っている．再診外来は，生活習慣病などの慢性疾患や膠原病，精神疾患，難病に至るまで幅広く診療を行っている．初期研修医の外来は指導医が立ち合い，きめ細かく指導している．

入院：2～3チーム制でチーム医療を行っている．各チーム指導医2～3名，専攻医2～3名，初期研修医1～2名の構成で，屋根瓦式のチーム医療を行い，毎日カンファレンス・回診を行っている．また，多職種とのカンファレンスを定期的に開催している．幅広い内科疾患の対応及び入院患者のマネージメントを行っている．病歴聴取や身体診察を重視し，適切な検査を行い，総合的な診断・診療を実践し，全人的な医療を行っている．入院診療では，チーム医療による安全で質の高い医療を提供できるよう努めている．また外科系診療科の内科的マネージメントも積極的に併診している．

2022年のトピックス・実績

入院診療に関して，整形外科領域の診療としては，2020年から大腿骨近位部骨折患者は全例総合内科が入院を担当し，Hip fracture templateを用いた周術期の全身管理を総合内科医が行い，術後の合併症の軽減，入院期間の短縮に寄与している．毎週，整形外科と合同でHip fractureカンファレンスを行い，周術期マネージメントから骨折予防を脆弱性骨折リエゾンサービスの一環として行っている．また高齢者を中心に心不全診療を担い，心不全の初期治療から，アドバンス・ケア・プランニング（ACP）までトータルケアに力を入れている．毎週循環器内科と合同で心不全カンファレンスを行い，治療方針を決定している．ACPの実践に注力し，総合内科スタッフが中心となり，病院全体研修会にてACP実践の普及・啓発活動を行った．

医学教育・医師育成も当科の重要な役割であり，指導医・専攻医によるレクチャーや，初期研修医による症例提示，臨床的疑問を解決するClinical question，コンピテンシー（医師としての特性や能力）のレクチャー，グラム染色勉強会，英語論文を批判的吟味しながら読み解くジャーナルクラブ，専攻医によるClinical jazz形式での新患外来症例の振り返り検討を定期的に開催している．また，総合内科・プライマリケア領域の医学雑誌（ホスピタリストやMedicinaなど）の分担執筆を当院指導医・専攻医が担当した．

臨床研究は，医療統計の講師として和歌山県立医科大学下川敏雄教授，英文抄録・論文の作成法や英文校閲・査読の講師としてBen Phillis先生を定期的に招聘し，症例報告や臨床研究のサポートを継続して受けている．2022年は，英文医学誌に臨床研究原著論文2編，英文症例報告5編（3編は初期研修医・専攻医が作成）が収載された．

今後の展望

【診療の充実】

救急科との連携により，効率よく，幅広い疾患を受け入れ，心不全診療は循環器内科と連携しながら質の高い診療の充実を図っていく．また高齢者患者が増加しており，地域や多職種連携を密にし，高齢者診療に力を入れていく．

【資格，キャリアパス】

内科専門研修プログラム・総合診療専門医養成プログラムの基幹病院として専攻医が研修している．内科専攻医は必ず総合内科をローテートすることで，専門医プログラムの必要症例の多くをカバーでき，幅広く診療のできる専攻医育成に繋げていく．当院で経験を積んだ医師が，まだ総合内科医の活躍が十分でない法人内外の医療機関にて総合内科指導医として活躍できるようなジェネラリスト育成を目指す．

【学術活動，臨床研究の推進】

大腿骨近位部骨折を内科医が整形外科医と共に診療す

ることの臨床アウトカムについての研究，総合内科医の心不全診療についての研究など，複数の論文を作成・投稿中である．また指導医のサポートの下，今後も初期研修医・専攻医も英文の症例報告や臨床研究など発表・論文作成を実践していく．

表．総合内科入院内訳

（単位：名）

入院患者（延べ人数）	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
感染症	213	249	254	278	262
呼吸器疾患	210	240	193	207	243
循環器疾患	127	165	347	300	189
消化器疾患	76	86	81	96	84
糖尿病・内分泌疾患	124	76	55	75	51
膠原病・アレルギー	66	74	79	73	73
血液疾患	27	29	28	21	19
脳・神経疾患	65	80	91	135	101
腎・泌尿器系疾患	70	95	120	136	165
整形疾患（大腿骨近位部骨折）			176	294	243
その他	153	204	195	197	190
合計（延べ人数）	1,131	1,298	1,619	1,812	1,620

救 急 科

スタッフ紹介

救急科（2名）
医長：井上　彰　救急科専門医，集中治療専門医
医長：蛯名正智　救急科専門医，集中治療専門医

診療内容

＜救急外来＞
平日日中の救急外来受診患者の初療を担当．初期研修医と共に診療し，救急診療を通してのプライマリケア・救急医学の教育も行っている．
＜その他＞
消防事後検証委員会・MC協議会などへの参加，明石ICLSコースの開催，各種教育カンファレンスなどを開催している．

2022年のトピックス・実績

2019年度より新規に救急科を開設．前期までは研修医が中心となり救急患者の対応が行われていたが，救急科開設に伴い平日日中の救急患者対応を救急科が初期診療を担当する体制となった．救急車の受け入れ件数は増加しており，開設前に比べ約20%増加した（図参照）．新型コロナウイルス感染症がまん延している中においても感染対策を行いながら新型コロナウイルス感染症感染患者も含めて救急患者の応需を継続しており，高い応需率を維持している．

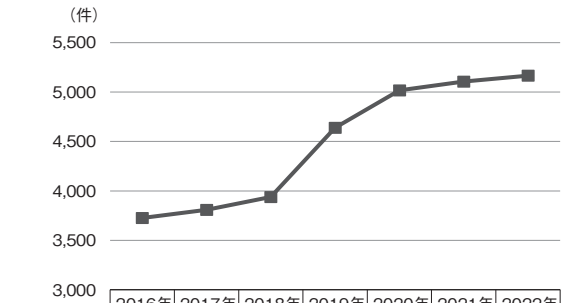
救急診療は教育も重要な役目であり，研修医教育にも力を入れている．2019年度から初期研修医の救急科ブロック研修を開始し，内科外科を問わず救急対応を行いながらエビデンスに基づいた標準診療の実践を通して教育を行っている．また，2021年度より内科後期研修医の救急研修も行っている．

消防MC体制への参画や消防事後検証委員会への参加などを通じて地域の消防体制の向上へも貢献しており，明石消防を中心とした地域の消防組織との連携も強化した．

明石ICLSコース，明石MCLSコースなど，各種コースや勉強会への参加も多数行っている．

今後の展望

【診療の充実】
地域の救急医療の基幹病院として，更なる救急診療の質向上やより適切な応需体制の構築を進めていく．
【救急教育】
救急診療を通して初期研修医をはじめとした様々な立場への教育を実践していく．
【地域連携】
近隣施設との救急医療体制を通した連携や，明石消防を中心に当該地域における病院前診療体制の向上を目指す．
【その他】
・集中治療科と連携した集中治療診療への参画
・各種教育コースへの参画
・災害医療体制の構築



	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
救急車	3,726	3,808	3,939	4,639	5,018	5,107	5,166

図．救急車受け入れ件数の推移

呼吸器内科

スタッフ紹介

院　長：大西　尚
部　長：岡村佳代子，畠山由記久
医　員：池田美穂
専攻医：松尾健二郎，山崎菜々美，藤本葉月，
　　榎本隆則（甲南医療センターより6か月間出向）

診療内容

外来：

明石市で唯一の呼吸器内科のある病院（癌専門病院を除く）として毎日呼吸器内科医による外来を行っている．2013年8月新病棟開設に合わせて呼吸器内科外来も1診体制から2診体制に増え，より多くの紹介患者に対応できるようになった．

入院：

呼吸器内科は本館5階病棟を主体に入院診療を行っている．入院診療は上記スタッフを中心になされるが，臨床研修制度のため卒後1～2年目の研修医も病棟診療に加わる．

2006年度から当院は後期研修医を募集しているが，2022年には呼吸器内科に2名の後期研修医が新たに加わった．今年は当院内科専門研修プログラムより1名，甲南医療センターより1名が連携病院として当院で研修を行った．

週2回（月，金曜日）チャートカンファレンスで各症例のプレゼンテーション，ディスカッションを行い，その後に病棟を回診している．また水曜日は後期研修医向けのレクチャー兼カンファレンスを行い，相談症例の検討や情報共有を行っている．

2022年のトピックス・実績

今までは内科・呼吸器内科として内科を全般的に診療していたが，2015年4月より総合内科が新設されたため，より専門性をもって診療していくことが求められるようになった．しかし今後も専門性を伸ばしながらも特化しすぎず，「患者から学べ」をモットーにベッドサイド診療の重要性を指導し，患者に起こっている事実や事象・本質を見抜くことを重要視し，現場での最適解を常に模索することを常に努力し呼吸器内科医として幅広く診療を行うことを心掛けていく．

診療対象疾患としては，①肺炎を始めとする呼吸器感染症，②肺癌の診断・治療，③びまん性肺疾患の診断と治療，④気管支喘息発作，COPD急性増悪や気胸など呼吸不全に対する急性期治療，⑤肺気腫，間質性肺炎等による慢性呼吸不全に対する呼吸器リハビリテーション，在宅酸素療法の導入や在宅人工呼吸器療法の導入，⑥睡眠時無呼吸症候群に対するPSG検査（2014年度から入院でのCPAP導入は中止）などが挙げられる．

2022年新型コロナウイルス感染症の影響はあったが，徐々にウィズコロナとしての対応を柔軟に行い，気管支鏡検査数や入院患者数は前期並みの活動性を確保した．

近隣の地域連携を更に強化し顔が見えるつながりを重視するため近隣のクリニック，医院，病院への紹介状作成の強化，密な情報提供を心掛けており，地域密着型医療を更に実践していく．

2020年から医長以上のスタッフが3名体制となっていたが，2022年度から4名と増加した．また専攻医のリクルートもしっかり行っている．呼吸器専門医研修を踏まえて今後も神戸大学呼吸器内科との連携を図りながら更なる診療体制の強化に取り組む予定である．

今後の展望

明石医療センター呼吸器内科は，明石市・加古川市を含む東播磨地域で唯一の呼吸器疾患全般を診療可能な科であり，今後更に地域医療機関との連携が重要と考えている．近隣医院からより信頼されるよう絶え間ない診療を目指し，軽症から重症まで幅広く診療することを心掛けている．呼吸器中核病院として，また呼吸器内科を目指す後期研修医の教育・研鑽の場として今後もますます努力し，魅力的な呼吸器内科を目指していく．

循環器内科

スタッフ紹介

主任部長：民田浩一
部　　長：平山恭孝　衣笠允雄
医　　長：平石真奈　松尾真典　野田　翼　西川達哉
　　石橋健太　平井暁男
専 攻 医：山田真博　門原響生

診療内容

2022年4月より衣笠医長，平石医長，西川医長が赴任し，9名の新体制となった．循環器急性期診療の充実を図るため24時間循環器ホットラインの活用，循環器当直体制を導入し維持している．医局員増員に伴い虚血性心疾患や末梢血管疾患におけるカテーテル治療，不整脈アブレーション，デバイス治療の更なる充実を図った．大動脈弁狭窄症に対する順行性経皮的大動脈弁バルーン拡張術を定期的に施行している．心不全診療については，総合内科と合同カンファレンスや多職種カンファレンスを開催し，外来心臓リハビリテーションへ移行など多職種連携心不全診療の基盤を作り，心不全診療の充実，再入院率の低下などを目標に体制を構築した．

2022年のトピックス・実績

ECPRシミュレーション　月1回開催
総合内科との心不全合同カンファレンス　週1回開催
心不全多職種ワーキング　月1回開催

今後の展望

2023年4月から専攻医が2名医局員に加わる．オンコール体制バックアップなど循環器当直体制を強化する．弁膜疾患に対するカテーテル治療（TAVI，Mitraclip）を導入するための準備を行っていく．心不全疾病管理のため多職種と協働で外来心臓リハビリテーション及び心不全看護外来の充実を行う．

研修医・後期研修医，メディカルスタッフの指導・教育を充実することで院内の循環器診療の底上げを図りたい．

心不全多職種ワーキングを中心に多職種で院内外に心不全診療の啓蒙を進める．

消化器内科

スタッフ紹介

名誉院長：澤井繁明
主任部長：中島卓利
部　　長：吉田俊一，門　卓生，石田　司
医　　長：古松恵介，當銘成友，松岡晃生，
　　ベンスレイマン・ヤハヤ（～9月）
医　　員：益子由佳子（育休　9月から復職），
　　田中太郎，大西紘平
専 攻 医：瀧本　将
　　法貴真也，川瀬雄太，金丸薫子，橋本宏之，
　　安部恵里佳（～3月）
　　塩屋暁子，中村碩孝，岡田真治，影山達也，
　　井上　築，朝原総一朗，長谷川貴久（4月～）

診療内容

4月の体制が変更後，スタッフ10名，専攻医8名で再スタートした．途中，ヤハヤ医長の退職，益子医員の復職などあったが，外来の3診体制，入院診療は専攻医と指導医での2人主治医体制を維持した．外来診療，入院診療，救急診療は堅調に推移し，消化管及び胆膵領域の内視鏡検査及び治療も質量とも地域の基幹病院にふさわしいレベルを維持できた．新入院患者カンファレンス，内視鏡治療カンファレンス，部長回診などを通じて，診療科として，また外科との合同カンファレンスなどを通じて，病院として患者の診療情報の共有に努めた．

2022年のトピックス・実績

新入院数は前期を上回り，当科の特徴である高度な内視鏡検査及び治療も質量とも十分な実績であった．

2021年5月に全国で3番目に先進医療Aの認定を受けた胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡的全層切除術（EFTR）を先進医療として開始した．

今後の展望

胆膵診療をけん引してきた古松医長が，大学人事のため4月に異動となる．さらに，消化管内視鏡治療や炎症性腸疾患の診療をけん引してきた石田部長が実家継承のため，9月に退職予定であり，当科にとって2023年は大きな過渡期になる．

専門医カリキュラム上，短期間で入れ替わる専攻医が希望するような診療内容及び体制の維持が必須である．外来入院診療，内視鏡診療，救急受け入れ態勢，緊急検査治療態勢などの維持，更なる向上には，専攻医を含めた充実したスタッフが必要であるため，神戸大学消化器内科医局との密接な連携，交流が不可欠である．

より高度な専門的でかつ迅速な診療に加えて，多くの併存疾患，問題点を有した症例にも幅広く対応し，一般的な消化器診療に加え，質の高い診療を行うことを目指すことで，診療科及び医師としてのステップアップに繋げ，地域医療に貢献していきたい．

表．主な内視鏡検査・治療件数　（単位：件）

	2020年	2021年	2022年
新入院数	1,970	1,997	2,076
上部消化管総数	6,266	6,516	6,345
食道・胃ESD	100	101	113
止血術	85	107	114
食道静脈瘤治療	42	44	19
胃瘻造設	12	16	20
嚥下内視鏡	71	72	91
下部消化管総数	3,130	3,317	3,154
ポリペクトミー・EMR	1,143	1,283	1,176
大腸ESD	54	63	63
止血術	47	95	84
胆膵内視鏡総数	554	576	523
超音波内視鏡	309	316	315
EUS-FNA	40	36	50
小腸カプセル内視鏡	30	31	31
バルーン内視鏡	13	13	20

腎臓内科

スタッフ紹介

【常勤医師】

主任部長　米倉由利子（2003年卒）

総合内科専門医，日本透析医学会専門医，日本腎臓学会専門医・指導医，日本腹膜透析医学会認定医，腎代替療法専門指導士

医長　大田健人（2012年卒）

内科認定医，日本腎臓学会専門医，日本透析医学会専門医

医員　金銅研吾（2017年卒）

内科専門医

医員　高木泰尚（2017年卒）

内科専門医

【非常勤医師】

西　愼一：神戸大学医学部腎臓内科　教授

河野圭志：神戸大学医学部腎臓内科　助教

錦　恵那

診療内容

1）腎炎検査・治療

①経皮的腎生検

経年的に経皮的腎生検を実施する症例の年齢層が高くなる傾向がある．要因の一つは，全身状態が良く検査侵襲に耐容可能と考えられる症例が増えていることである．加えて，近年慢性腎臓病（CKD）の病態解明，治療戦略が拡大しているため，CKDの原疾患同定，組織学的変化（動脈硬化の程度など）の詳細な評価の持つ利点が大きくなったことも一因であろう（例：慢性腎炎における急性病変の有無のみならず，糸球体過剰ろ過所見の程度，動脈硬化の性状など）．

②腎炎治療

・IgA腎症

ステロイドパルス連続3クール，又はステロイドパルス2か月間隔3クール（Pozzi方式）の二つの治療プロトコルを用いているが，Pozzi方式を選択する症例が多い．Pozzi方式では，週末を利用した短期入院治療が可能であり，学業や従業への影響が少ないためであるが，病床の効率的な利用にも有意義である．ステロイド以外の治療薬（エンドセリン受容体拮抗薬，抗APRIL治療，補体制御薬）について国際的に臨床研究が進行しているため，ステロイド治療のリスクが高い高齢症例であっても，可能であれば腎生検での組織診断を勧めるようにしている．

・ANCA関連血管炎（顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症）

2022年に診断されたANCA関連血管炎による急速進行性糸球体腎炎症例は，ANCA共陽性，抗GBM抗体共陽性，強皮症合併など特殊な病態の症例が目立った．これらの症例においては，主病態を見極めた上での治療強度の設定が重要であり，ステロイド薬，免疫抑制剤，血漿交換，リツキシマブ投与を含めた集学的治療が必要になる．入院が長期化したことは否めないが，透析離脱し得た例も含めて救命，社会復帰した例も多く，意義深い経験になった．顕微鏡的多発血管炎の重症例，再発例に対するリツキシマブ治療は既に一般化しているが，寛解導入治療だけでなく維持治療としても有用（ステロイド増量の回避）であり，当科でも複数例に対してリツキシマブによる維持治療を実施している．

2）慢性腎臓病診療

CKD教育入院，透析看護科看護師によるCKD外来，看護師・管理栄養士による糖尿病透析予防外来など，患者の病態，社会性，要望に応じて多職種アプローチを行っている．多職種介入を継続することにより，患者の日常生活管理，病態理解が向上して腎機能保持に繋がっていることを，多くの症例の診療において実感する．当院の多職種介入の実績を資料として提供した多機関臨床研究の結果，多職種介入が腎予後改善に有用であることが確認された（研究責任者により論文投稿中）．

2022年も新型コロナウイルス感染症の流行下であったため，患者教室（「いきいき腎臓病教室」）は集合開催を見合わせて患者教育資料の作成，配布を行った．

3）腎代替療法（Renal replacement therapy : RRT）

【血液透析】

維持血液透析患者の死亡離脱が多く，患者の高齢化，合併症の増加・複雑化が課題である．血液透析治療中の運動療法（医師の指示の下，看護師が指導して運動機能評価，ストレッチ指導，可変式エルゴメーターでの有酸素運動実施）を行う症例が増えている．2022年から算定可能になった透析時運動指導等加算は90日間に限定されたものであるが，当院の透析室では期間を限定せず日常的な運動療法として長期継続している．

【腹膜透析】

新規導入1名，腹膜透析から血液透析への移行3名と入れ替わりがあった．新たな試みとして，従来は腹膜透析治療開始後に行っていた手技指導を，腹膜透析カテーテル挿入後，外来通院時に開始することとした．この結果，腹膜透析導入時の入院日数を短縮することができた．当初は新型コロナウイルス感染症拡大期に入院が困難になる可能性を想定した対応であったが，患者指導の充実，入院日数の削減にも有用であり，今後も継続していく方針である．

【腎移植希望症例】

先行的腎移植希望者2名，そのうち1名は先行的腎移植を実施し，2021年度に紹介していた患者1名も2022年に先行的腎移植を実施し，両者共に生着を得た．献腎移植登録者は2名のみと少ない．移植希望症例が多くないことは当院におけるCKD診療の課題である．患者の年齢や基礎疾患による制約もあるが，腎移植の選択肢を適切かつ充分に提示していきたい．

【保存的腎臓療法（Conservative Kidney Management: CKM）】

腎代替療法を希望しない場合の選択肢として，CKMという治療選択肢が周知されるようになっている．CKMを選択した場合の治療について，生活環境，診療体制（訪問診療，訪問看護を含め）の調整，症状緩和も含めた投薬治療を十分に行うことが必要であり，地域の開業医の先生方のご尽力をいただいている．このような症例の連携について，情報共有やフィードバックをお願いするなど，病診連携を深めたい．

【入院透析，特殊血液浄化，アフェレシス治療】

他院通院透析患者の入院を遅滞なく，制限なく受け入れる方針を続けている．入院透析症例も高齢化，合併症の複雑化が顕著であり，術後や長期入院時には，食事摂取量の減退，痩せが問題になる．ビタミン・微量元素欠乏が少なからず発生していることが明らかになってきているため，積極的に病態評価，食事調整や投薬の提案を行っている．

難治性腹水に対する腹水ろ過濃縮再静注療法，炎症性腸疾患に対する顆粒球吸着療法は，例年どおり多くの症例で依頼いただいている．

持続血液透析（CHD）/持続血液ろ過透析（CHDF）の症例は例年どおり多く，ICU，HCUの双方で実施している．

2022年のトピックス・実績

【SARS-CoV-2 mRNAワクチンと肉眼的血尿症例についての検討】

SARS-CoV-2 mRNAワクチン接種後の肉眼的血尿と腎炎の関連について国際的に検討されている．当院でもこのような症例を複数経験しており，その検討結果を，大田医長が第64回日本腎臓学会学術総会において発表し，CEN Case Reportsにおいて症例報告論文を発表した．

【保存的腎臓療法希望者についての解析】

2016年から参加している多機関共同臨床研究REACH-J-コホート研究の二次研究として米倉主任部長が「日本の進行期CKD患者における保存的腎臓療法希望者の実態」を解析し，第64回日本腎臓学会総会で発表した．当院でのCKM診療の参考にもなる研究であり，今後論文化を予定している．

【新型コロナウイルス感染症への対応】

当院の感染対策と同時に，日本透析医会・日本透析医学会・日本腎臓学会　新型コロナウイルス感染対策合同委員会から発信される透析患者における感染状況を踏まえて対策を講じた．2022年7月の第7波以降は，透析患者の入院治療を当院で行った．疑似症例及び陽性症例は病棟個室を利用した個室出張透析を実施（空間的隔離）し，個室を利用できない場合には，全ての患者が退室した後に透析室での透析を実施した症例（時間的隔離）．

患者の体調把握，患者・家族との連絡，入院病床調整，病棟との連携において，透析看護科科長以下全ての職員の尽力により，透析診療を大きく縮小することなく維持できたことを特記し，深謝したい．今後国全体としての感染対策の変化はあっても慢性腎臓病患者，特に透析患者が易感染性，重症化リスクを有した状態であること，透析室が一度に多数の患者の診療を行う場であることは変わりがないことを念頭に置き，通常診療の中で柔軟かつ十分な対策を行っていきたい．

今後の展望

① 腎不全診療の強化
　（ア）通院維持透析患者数増加．
　　栄養管理・サルコペニア対策の充実．
　（イ）腹膜透析患者数増加（高齢者への拡充）．
　（ウ）腎移植の啓蒙．
② 腎炎，ネフローゼ症候群診療の充実
　（ア）早期患者紹介の啓蒙．
　（イ）寛解導入率の向上，ハイリスク症例診療の充実（抗体製剤，アフェレシス治療など集学的治療により）．
③ 学術活動
　　学会発表，論文執筆の活性化．

表1．入院症例内訳　（単位：件）

	入院目的	2019年度	2020年度	2021年	2022年
慢性腎臓病関連	慢性腎臓病教育入院（パス）	21	16	39	16
	その他（治療内容調整，急性増悪，感染症など）	102	83	84	85
血液透析関連	血液透析新規導入	38	43	48	51
	合併症入院（うっ血性心不全，感染症など）	19	31	28	20
	ブラッドアクセストラブル（閉塞，感染）	1	3	3	4
腹膜透析関連	腹膜透析新規導入	0	2	1	1
	PD関連感染症（腹膜炎，出口部・トンネル感染）	2	5	4	1
	治療調整，その他	1	3	3	2
腎炎治療	IgA腎症	27	27	33	22
	一次性ネフローゼ症候群	6	9	15	12
	ANCA関連血管炎	8	6	3	7
	ループス腎炎	1	0	1	0
	紫斑病性腎炎	0	5	4	1
	その他の急速進行性糸球体腎炎	0	1	3	1
	IgG４関連腎疾患	0	0	0	1
	尿細管間質性腎炎	0	0	1	1
その他	急性腎傷害（腎後性腎不全含む）	7	10	8	9
	電解質異常	データ集計なし	7	12	9
	腎生検入院	32	20	24	28

（一部病態の重複あり）

表2．特殊治療　（単位：件）

	2019年度	2020年度	2021年	2022年
LDL吸着療法	7	0	6	0
血漿交換療法	0	7	13	24
エンドトキシン吸着療法	15	4	3	1
顆粒吸着療法	28	2	32	34
腹水ろ過濃縮再灌流法	24	53	47	26

※2020年以降，エンドトキシン吸着はAN69-ST膜を用いたサイトカインコントロール治療で代替している症例が多い

表3．腎代替療法導入数，腎生検症例数　（単：件）

	2019年度	2020年度	2021年	2022年
血液透析新規導入数*	38	43	48	51
腹膜透析新規導入数	0	2	1	1
血液透析延べ回数	4,304	4,772	4,328	4,228
経皮的腎生検件数	39	25	31	35

*自科症例のみ

表4．腎生検実施年齢　（単位：歳）

	2019年度	2020年度	2021年	2022年
年齢（平均）	43.8	45.7	47.5	51.1
年齢（中央値）	41	48	53	54
範囲	16～79	18～76	19～78	16～87

表5．腎病理診断　（単位：件）

	病理診断	2019年度	2020年度	2021年	2022年
一次性糸球体疾患	IgA腎症	17	13	15	14
	微小変化型ネフローゼ症候群	5	0	1	1
	膜性腎症	3	0	1	5
	膜性増殖性糸球体腎炎	1	4	1	0
	菲薄基底膜病	1	0	0	4
	巣状分節性糸球体硬化症	1	2	1	0
二次性腎疾患	アミロイドーシス	0	0	0	0
	ANCA関連血管炎	2	1	1	1
	紫斑病性腎炎（IgA血管炎）	0	4	3	0
	ループス腎炎	1	1	2	0
	肥満関連腎症	1	0	0	0
	糖尿病性腎症	2	0	2	3
血管病変	良性腎硬化症	1	0	0	2
	悪性腎硬化症	0	0	0	0
	血栓性微小血管症	0	0	0	0
間質性病変	尿細管間質性腎炎	0	0	1	1
その他	微小糸球体変化	2	1	2	1
	oligomeganephronia	2	0	0	0

（一部病態の重複あり）

糖尿病・内分泌内科

スタッフ紹介

千原和夫（主任部長　1945年卒）
中村友昭（医長　2006年卒）
新井尚樹（医員　2017年卒）
宮部祥花（医員　2017年卒）（2022年4月～）

診療内容

当科は2017年4月新規の診療科として開設されたので，2022年12月末で5年9か月になる．診療に携わる医師の人事は神戸大学糖尿病・内分泌内科との連携で行われてきており，2019年3月までは大学からの外来診療医師派遣もお願いして細々と診療を行っていたが，2019年4月より医師3名体制となり，大学からの外来診療応援なしで診療ができるようになった．さらに2022年4月からは追加の医師派遣があり4名体制となり，より充実した陣容となった．当科は2017年10月1日より日本糖尿病学会専門医制度規則に基づく認定教育施設（I）の認定を受け，また2018年4月1日より日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度における認定教育施設の認定も受けた．両方の施設認定を受けた医療機関はまだ少ないこと，また日本専門医機構が進める新しい内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医制度では，内分泌疾患の診療実績が必須となることから，糖尿病患者だけではなく内分泌疾患患者が多く受診される当院への入職を希望する専門医資格取得前の若手医師が増えることが推測される．外来診療ブースは開設当初，週2枠しかなかったが，現在は月曜日から金曜日の週5日で毎日1枠（水曜日は2枠）の外来専門診療枠を有しており，専門医資格取得を目指す若手医師にできるだけ多くの紹介新規患者の診療を経験できるように外来診療ブースを割り振っている．一方，患者には最高水準の診療が提供できるように，若手医師の外来診察中，千原は電子カルテが直ぐ見れる場所に待機し，彼らが判断に困ったときにはリアルタイムで電子カルテを閲覧し，スマートフォンで話しながら診断・診療上の指導を行ってきている．また，入院患者の診療も主治医として自ら考え，診断や治療方針を作成できるように彼らの主体性を重んじながら，日々彼らの記載した診療録を常にチェックし，気付いた点はその時点で連絡をとり，患者にとって最良の医療を提供できるように熱い会話を重ねてきた．外来及び入院患者に対するリアルタイムの個別指導は彼らの専門医としての実力を養う上で最良の手段であるだけでなく，当院の糖尿病及び内分泌疾患の診療レベルの向上，ひいては近隣の医療機関からの信頼を得る上でも重要と考えており，今後も続けていきたい．当科新設以降，毎年増加していた糖尿病及び内分泌疾患の外来患者数は，新型コロナウイルス感染症蔓延下の2022年に初めて足踏み状態となったが，入院患者数はほぼ横這い状態であった．当科の診療患者数には計上されないが，院内他診療科からの紹介やコンサルテーションが増え，特に外科系診療科から周術期の血糖管理依頼件数や妊娠中及び周産期の甲状腺疾患の管理件数が増えている．

2022年のトピックス・実績

学会活動は，日本糖尿病学会年次学術集会及び近畿地方会，日本内分泌学会学術総会，臨床内分泌代謝updateに合計6演題を発表した．中でも第32回臨床内分泌代謝Updateで新井医師が発表した「下垂体茎障害を来した下垂体ゴナドトロフ腫瘍症例」で観察した視床下部-下垂体-副腎皮質系の検査所見は，下垂体茎障害の急性期に見られる特徴的所見として，かつて報告の無い新奇な所見の可能性があり，学会等で他の内分泌学専門医の高い評価を得た．現在，この所見の普遍性を確認すべく大学病院とも連携して症例数を増やしているところであるが，この症例は1症例報告として愛仁会医学研究誌に掲載していただいた．診療実績は表に示す．

今後の展望

多職種で構成された糖尿病ケアチーム（Diabetes Care Team：DCT）の活動が新型コロナウイルス感染症まん延下で対面の情報共有や意見交換が困難であったが，ウィズコロナ時代への移行に伴って，新しい活動を取り込み展開させていきたい．特に，医療分野で急速に進むDX化の波に乗り遅れないように，アンテナを高く上げ最新の情報を入手しながら，新時代におけるチーム医療体制を模索していきたい．具体的な第1歩として，明石地区を対象とした「糖尿病患者の会」の立ち上げを検討中である．

表．診療実績（患者数）　（単位：人）

疾患分野	2020年	2021年	2022年
糖尿病			
外来診療	1,716	1,814	1,785
入院患者	327	347	350
甲状腺疾患	465	548	613
副腎疾患	129	144	107
下垂体疾患	37	49	26
副甲状腺・Ca代謝疾患	59	64	48

小 児 科

スタッフ紹介

副院長，主任部長：横山直樹（1988年卒）
部長：梁川裕司（1990年卒）
医長：藤原安曇（2006年卒）（2022年12月～）
医長：大西徳子（2007年卒）（～2022年3月）
医長：藤井順子（2012年卒）
医員：大山正平（2011年卒）（2022年4月～）
医員：吉本啓修（2016年卒）（～2022年10月）
専攻医：平場裕美（～2022年3月）
専攻医：上杉裕紀（2022年4月～9月）
専攻医：吉岡慶太（2022年10月～）
非常勤医師他：藤井栄一（神経外来），吉川徳茂（腎外来），亀井直哉（心臓外来：兵庫県立こども病院），河島千佳（臨床心理士）

診療内容

専門外来：1か月健診，シナジス外来，心臓外来，腎外来，神経外来，アレルギー外来，予防接種，発達検査，心理相談
小児入院：小児10床
新生児入院：NICU6床，GCU10床
新生児特定集中治療室管理料2
救急外来：東播磨臨海小児二次救急輪番体制
院外：明石市乳幼児健診，明石こどもセンター（児童相談所）検診，学校心臓検診，就学相談

2022年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた小児紹介患者数・小児入院数は一昨年より回復してきた．また，分娩数の増加に伴い新生児入院数は増加した。

＜診療実績（表1～3）＞
・患児紹介受け入れ件数：昨年より減少（1,189→1,102）
・一般小児入院数：昨年度より減少（717→647）
・新生児入院数：昨年度より増加（593→624）
・院外新生児搬送入院数：昨年並み（60→59）
・早産児，低出生体重児の入院数：在胎35週未満（36→32），出生体重2,000g未満（33→32）
・人工呼吸管理件数：（36→40）
・発達検査31件，心理療法43件
・心理士訪問：NICU129件，産科0件，小児科1件

＜トピックス＞
・院内子ども虐待対応体制の構築
・アレルギー診療の拡充（アレルギー専門医2名）
　食物負荷試験入院の増加（164→186）

＜教育＞
・初期研修医：院内ローテ研修10名（各1か月）指導
・後期研修医：神戸大学小児科専門医研修プログラム2名指導
・家庭医研修：総合内科医師4名指導

＜地域に向けて開催＞
・第5回新生児蘇生法Sコース講習会　2022年1月29日
　インストラクター：竹田，相田，神足，三上，横山
・第6回新生児蘇生法Ｓコース講習会　2022年6月25日
　インストラクター：相田，西川，神足，梁川，横山
・第7回新生児蘇生法Ｓコース講習会　2022年12月10日
　インストラクター：西川，神足，三上，小島，梁川，横山
・第360回東播小児臨床談話会　2022年12月22日

今後の展望

○一般小児
・時間外入院受け入れ対応の強化
・アレルギー診療の質の向上
○周産期医療の拡充
・分娩数増加のための小児科により母子支援強化
・地域周産期母子医療センターとして，ハイリスク分娩・新生児に対する受け入れ強化
○地域貢献
・明石こども子育て応援メッセ，子育てステーション企画医療・育児面での情報提供など，現地開催以外の新たな方法を検討
○小児科専門医の育成
・複数の専門医研修プログラムの連携施設として，ローテ後期研修医を積極的に教育，指導し，当院で活躍できる次世代の人材を育てる

表1．一般小児入院（疾患別）

（単位：件）

領域	主な疾患	件数
呼吸器系感染症	肺炎，気管支炎，RSV感染症，クループ症候群，急性上気道炎，咽頭扁桃炎	214
消化器系感染症	感染性胃腸炎，ノロウイルス感染症，細菌性腸炎，急性虫垂炎	42
その他の感染症	中耳炎，化膿性リンパ節炎，蜂窩織炎，副鼻腔炎，熱源不明発熱	30
アレルギー・血管炎関連	気管支喘息，川崎病，アナフィラキシー，IgA血管炎	70
神経関連	熱性けいれん，てんかん，ギランバレー症候群	16
消化器関連	腸重積症，メレナ，肝機能障害，十二指腸潰瘍	6
内分泌・代謝関連	アセトン血性嘔吐症，脱水症，ケトン性低血糖症，糖尿病，肥満症	16
腎・泌尿器関連	尿路感染症，ネフローゼ症候群など	20
新生児関連	新生児黄疸，体重増加不良など	6
食物経口負荷試験		186
成長ホルモン分泌刺激試験		14
新型コロナウイルス感染症		7
その他		20
合計		647

表2．新生児入院（週数・体重別）

（単位：件）

入院児病名	件数
30-31週	0
32-34週	32
35-36週	45
37週-	547
計	624

（単位：件）

出生体重（g）	件数
-1,499	5
1,500-1,999	27
2,000-2,499	97
2,500-3,999	487
4,000-	8
計	624

表3．新生児入院（疾患別）

（単位：件）

主傷病名	件数
新生児一過性多呼吸	137
帝切児症候群	96
新生児黄疸	76
前期破水母体児	48
低出生体重児	40
早産児	37
新生児嘔吐	35
妊娠糖尿母体	21
双胎	20
水腎症	13
無呼吸発作	9
新生児感染症	9
糖尿病母体児	7
過体重児	7
新型コロナウイルス感染母体児	6
新生児呼吸窮迫症候群	6
新生児メレナ	6
極低出生体重児	5
気胸	5
頭血腫・帽状腱膜下血腫	5
Rh不適合	5
胎便吸引症候群	4
軽症新生児仮死	4
バセドウ病母体児	4
向精神薬服用母体児	3
梅毒母体児	3
チアノーゼ型先天性心疾患	3
巨大児	3
重症新生児仮死	2
口蓋裂	2
橋本病母体児	2
消化管アレルギー	2
その他	15
合計	640

放射線科

スタッフ紹介

主任部長　鷲尾哲郎
部　　長　小泉　正（2022年5月～）
非 常 勤　山口雅人　神戸大学放射線科特任教授

診療内容

CT，MRI，RIの読影が主である，至急読影，他院からの検査依頼も積極的に対応している．

IVRは肝癌の治療（TACE），止血術（消化管出血，喀血），CTガイド下生検，ドレナージ，心臓血管外科の依頼にて大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術などの血管系処置を行っている．

2022年のトピックス・実績

2022年5月より常勤医師2名体制となった．読影件数は増加しており，余裕はない状態である．

IVRは血管系が増加している．TACEの減少は全国的な傾向である．

今後の展望

常勤医2名ではこれ以上の実績を上げることは事実上不可能であるため，大学の医局に引き続き人員増を要望する．

表1．読影件数　（単位：件）

項目	件数
消化管透視	256
CT	21,986
MRI	5,696
RI	189

表2．IVR件数　（単位：件）

項目	件数
血管系（ステントグラフトなど）	92
TACE	21
止血（消化管出血，喀血）	9
BRTO	2
CTガイド下生検，ドレナージ	18
その他	4
計	146

病理診断科

スタッフ紹介

部　　長：佐野暢哉（病理専門医，分子病理専門医，細胞診専門医，細胞診教育･研究指導医）
非常勤医：5名（全員病理専門医，細胞診専門医，うち3名分子病理専門医）
細胞検査士：小段敦美（主任），ほか4名
臨床検査士：2名
非常勤細胞検査士：1名

診療内容

組織診断：診断所要時間短縮，画像所見提示を目的として，Day Pathologyの実施，主要な免疫組織化学染色の院内処理，術中迅速診断，電子カルテ・病理診断システムに支援されたデジタル画像の提示を実施している．

専門性の異なった習熟度の高い非常勤病理医を確保し，診断精度，速度共に高いレベルで維持されている．

また，腎生検，膵生検，EBUS実施時，技師によるベッドサイドサポート（ROSE）を行っている．

細胞診断：後述のダブルチェック体制をとり，疑陽性以上の症例の細胞像を電子カルテ上に提示している．

Liquid Based Cytologyを導入し，検体処理・診断所要時間の短縮，診断再現性の向上，DNA遺伝子検査，個別化医療への対応を図っている．

病理解剖：全例CPCにて提示し，研修医など，医療スタッフ教育に貢献している．

他科研修医教育：上記CPCに加えて，個々の症例のコンサルテーション，報告を通じて病理，細胞診断に関する教育を行っている．

精度管理：組織診断はほぼ全例，細胞診断は全科疑陽性以上の全例，婦人科材料以外の陰性全例に対し指導医によるダブルチェックを行っている．診断困難例，疑問例については，高槻病院，兵庫県立がんセンター，神戸大学，徳島大学，姫路はりま総合医療センターなどにコンサルテーションを行っている．

2022年のトピックス・実績

・組織診断：5,468件，細胞診断：6,638件，病理解剖：4件

今後の展望

・FISH法，DNA解析など，新規診断手技の導入，検体取扱手技の習得を目指す．

表．組織診断数，細胞診断数，解剖数の年別推移　（単位：件）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
組織診断	5,595	5,337	5,585	5,786	5,757	5,773	6,045	5,612	5,608	5,468
細胞診断	6,129	6,382	6,890	6,921	6,636	6,481	6,618	6,352	6,551	6,638
解剖件数	11	7	12	14	8	9	8	12	9	4

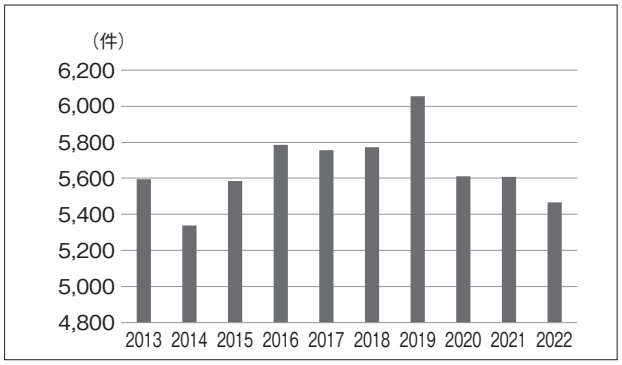


図1．組織診断数年次別推移

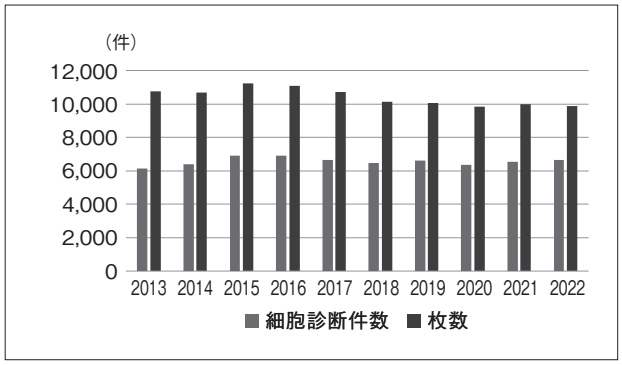


図2．細胞診断数年次別推移

外 科

スタッフ紹介

外科主任部長　豊川晃弘
外科部長　常見幸三，　外科部長　芦谷博史，
外科医長　水田憲利，　外科医長　大坪　出，
外科医長　福田善之，　外科医員　草野俊亮，
外科医員　菊地拓也，　外科専攻医　宮崎隼人

診療内容

2001年開院初年度の全手術件数は230件であったが，以後は順調に増加し2016年度には1,000件を超えた．しかし加古川中央の開設と2018年度に乳腺科が廃止となり手術件数は漸減していたが，スタッフの強化により，2019年度の全手術件数は前年の800件から約900件まで回復した．2020年度は新型コロナウイルス感染症がまん延している中にもかかわらず全手術件数は前年から増加し938件になった．2021年度は新型コロナウイルス感染症がまん延している中の爆発的流行により，手術件数はやや減少の873件となったが，2022年度は新型コロナウイルス感染症がまん延している中から回復し，951件と消化器外科としては過去最高となった．

当科は常時緊急手術に対応しており2021年度の緊急手術件数は245件あり全体の26%であった．

2022年のトピックス・実績

2019年より，豊川が外科責任者となるとともに，ロボット手術・低侵襲手術支援センター長，がん診療支援センター長を務めている．医局人事で芦谷医師（H8年卒），大坪医師（H17年卒），草野医師（H25年卒），宮崎医師（R3年卒）が派遣されてきた．大坪医師は内視鏡外科技術認定（胃）取得者で，芦谷医師，水田医師が2021年度に同技術認定医（大腸）を取得し，豊川を含め計4名の技術認定医で指導体制を組み腹腔鏡手術に当たっている．

病院として低侵襲手術に取り組んでおり，近年，外科でも腹腔鏡下手術が徐々に増加していたが，2019年度から急増し2022年は，切除ができた大腸癌138例のうち，110例（80%）が腹腔鏡下手術症例であった．また，ロボット支援下手術も2020年より直腸がんで開始し，2022年度は16件，結腸癌4件，累計49件となった．その他胃癌，膵癌，ヘルニア，急性虫垂炎やイレウスなどの手術にも適応を広げている．学術面においては豊川，水田，大坪，菊池が国内学会，研究会，講演会で20件の発表・司会を行い，2編の論文を発表した．また，研修医藤田に全国学会での発表を行わせた．

今後の展望

近年，低侵襲手術がほぼ標準術式と考えられるようになっており，消化器外科の領域でも腹腔鏡下手術の適応拡大は欠かせない課題である．現在，内視鏡外科の技術認定は4名であるが，取得者増加に向けて外科として取り組んでいる．並行してロボット支援手術の増加を図っていくとともに，がん手術件数の増加を図りたい．

表．外科手術実績（2022年1月1日～2022年12月31日施術分内訳）

（単位：件）

食道	食道癌	（胸腔鏡）		0
		（ロボット支援）		0
		（縦隔鏡）		0
		（開胸）		0
	食道腫瘍	（鏡視下）		0
		（開胸）		0
	その他	（鏡視下）		0
		（開胸）		3
	二期再建			1

胃	胃癌	（腹腔鏡）	胃全摘	1
			噴門側胃切除	1
			幽門側胃切除	23
			その他	0
		（ロボット支援）	胃全摘	0
			噴門側胃切除	0
			幽門側胃切除	0
		（開腹）	胃全摘	7
			噴門側胃切除	2
			幽門側胃切除	11
			その他	7
	胃腫瘍	（鏡視下）		2
		（開腹）		4
	その他	（鏡視下）		0
		（開腹）		2
	十二指腸腫瘍（早期癌・腺腫）			1

小腸	小腸腫瘍	（鏡視下）	1
		（開腹）	3
	イレウス	（鏡視下）	8
		（開腹）	28
	その他	（鏡視下）	3
		（開腹）	13

大腸	結腸癌	(腹腔鏡)		74
		(ロボット支援)		4
		（開腹）		25
	結腸 その他	（鏡視下）		4
		（開腹）		11
	直腸癌	（腹腔鏡）	前方切除術	12
			直腸切断術	2
			ハルトマン手術	1
		（ロボット支援）	直腸切除術	15
			直腸切断術	1
		（開腹）	前方切除術	0
			直腸切断術	0
			ハルトマン手術	1
		その他		3
	人工肛門造設術			13
	虫垂炎	（鏡視下）		91
		（開腹）		3
	その他			10

肛門	痔核	1
	痔瘻・肛門膿瘍	0
	その他	0

肝臓	肝切除術 ・肝細胞癌 ・肝内胆管癌 ・転移性肝癌 ・その他	開腹	2区域以上切除	0
			区域切除	1
			亜区域切除	0
			部分切除	10
		鏡視下	2区域以上切除	0
			区域切除	0
			亜区域切除	0
			部分切除	1
	術中RFA・MCT			1
	肝嚢胞開窓術			1
	経皮的肝灌流化学療法			0
	その他			1

胆道	胆道癌手術 ・肝門部領域 ・胆嚢癌 ・遠位胆管癌 ・乳頭部癌	肝切除＋胆道再建	0
		膵頭十二指腸切除	6
		胆嚢床切除（±胆道再建）	2
		胆管切除	0
		その他	1
	胆嚢摘出術 ・胆石，胆嚢炎 ・その他	開腹	17
		鏡視下	203
		単孔式	0
	総胆管 結石症手術	開腹	0
		鏡視下	0
	合流異常症手術		1
	その他		1

膵臓・脾臓	膵切除術 ・膵癌 （通常型） ・膵腫瘍 ・その他 （膵炎切除例含む）	開腹	膵頭十二指腸切除	3
			膵体尾部切除	2
			膵全摘	0
			膵中央切除	0
			膵核出	0
		鏡視下	膵頭十二指腸切除	0
			膵体尾部切除	1
	膵炎手術	膵管減圧術		0
		その他		0
	脾摘術	開腹		0
		鏡視下		1
	その他			2

臓器移植	肝移植術（生体・脳死）	0
	脳死膵移植術（膵腎同時）	0

腹壁・その他	鼠径ヘルニア	（鏡視下）	87
		（直達）	69
	腹壁瘢痕ヘルニア	（鏡視下）	8
		（直達）	12
	上部消化管穿孔手術		12
	下部消化管穿孔手術		17
	審査腹腔鏡		2
	スペーサー留置術		0
	中心静脈ポート留置術		59
	その他		38

消化器外科手術件数合計	951

心臓血管外科

スタッフ紹介

主任部長：林　太郎（心臓疾患，血管外科担当）
部　　長：三里卓也（心臓疾患，血管外科担当）
医　　長：安　健太（心臓疾患，血管外科担当）
専　攻　医：吉谷信幸（心臓疾患，血管外科担当）
後期研修医：林　裕之（心臓疾患，血管外科担当）

診療内容

心臓疾患：虚血性心疾患，弁膜症（大動脈弁，僧帽弁，三尖弁），不整脈（心房細動 等），先天性心疾患　など
大動脈疾患：急性・慢性大動脈解離，胸部及び腹部大動脈瘤
末梢血管疾患：急性・慢性動脈閉塞，閉塞性動脈硬化症，末梢動脈瘤，下肢静脈瘤，透析患者におけるシャント作製・シャントトラブル　など

2022年のトピックス・実績

2022年の手術件数は，心大血管領域124例，血管外科領域308例であった．近隣病院や開業医からの緊急手術依頼は，積極的に受け入れている．各症例で見ると，冠動脈疾患や大動脈解離や大動脈瘤といった大動脈疾患が増加している．院内紹介も増加している．

大動脈疾患では，解剖学的条件が合えば，胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術を，frailtyやリスクの高い症例で積極的に取り入れている．また，心房中隔欠損症・僧帽弁・三尖弁などの心臓弁膜症症例に対しては，複合疾患など難易度の高い症例が増えており胸骨正中切開症例の割合が増加しているが，適応症例があれば，低侵襲を目指し，右小開胸下手術を行っている．

また大動脈弁狭窄症に対する外科的大動脈弁置換術ではスーチャーレス人工弁を導入し，単独大動脈弁置換術や大動脈弁置換を必要とする複合手術においても低侵襲化を進めている．

血管外科においては，急性動脈閉塞などの緊急手術症例，シャント作成症例やシャントトラブル症例が多いのも当科の特徴である．

今後の展望

・近隣の病院や開業医などの近隣医療機関との地域連携を強化する．
・心臓大血管手術においても，適応があれば低侵襲手術を積極的に取り入れていく．
・冠動脈バイパス術では，内視鏡下での大伏在静脈採取を取り入れていく．

表. 手術症例数

心臓外科　（単位:件）

先天性心疾患	
ASD	0
ASD+PS	0
ASD+PAPVR	0
VSD	0
VSD+PS	0
VSD+AR	0
VSD+MR	0
VSD+2ch.RV	0
PDA	0
ECD	0
CoA complex	0
IAA complex	0
T/F	0
PA with VSD	0
PA with IVS	0
DORV	0
Taussig-Bing	0
TGA	0
TAPVR	0
Single Ventricle	0
Tricuspid atresia	0
Mitral atresia	0
HLHS	0
AS and/or AR	0
MS and/or MR	0
Rupt.aneurysm of	0
Sinus Valsalva	0
Others（cyanotic）	0
Others（non-cyanotic）	0
計	0

（単位：件）

後天性心疾患・胸部大動脈瘤その他				
弁膜症		総数	弁形成	CABG 併設
	Aortic	16	1	3
	Mitral	9	4	1
	Tricuspid	0	0	0
	A+M	2	0	0
	A+T	2	0	0
	M+T	4	1	0
	A+M+T	6	4	4
	その他（Pなど）	0	0	0

虚血性心疾患		総数	off pump CABG	動脈グラフト使用例
	単独CABG	36	4	36
	心筋梗塞合併症に対する手術			
	aneurysmectomy・左室形成術	3		
	VSP	3		
	cardiac rupture	2		
	MR（乳頭筋断裂・虚血性）	0		
	その他	0		

不整脈に対する手術（Mazeなど）	9	
収縮性心膜炎に対する手術	0	
心臓腫瘍（粘液腫など）	0	
その他の開心術	1	

胸部大動脈瘤		
解離性	Stanford A 急性期	20
	慢性期	8
	Stanford B 急性期	1
	慢性期	3
非解離	上行	0
	基部置換術	1
	弓部	4
	基部＋上行＋弓部	0
	弓部＋下行	0
	下行	1
	胸腹部	2

肺塞栓症	2	
ペースメーカー留置	0	
計	124	

血管外科　（単位：件）

疾患名と術式	大動脈													末梢動脈																		
	非解離	解離性												末梢動脈瘤	急性動脈閉塞	閉塞性動脈硬化症など								下肢静脈瘤					内シャント	その他	計
		上行	弓部	下行	胸腹	腹部	ステント留置		Stanford A 急性期（2週以内）	慢性期	Stanford B 急性期（2週以内）	慢性期	ステント留置			血栓除去	血行再建術	その他・切断	血行再建	交感神経切除	ステント・拡張	その他・切断	動静脈瘻		血管内焼灼術	ストリッピング	結紮術	深部静脈血栓症			
	91	0	2	1	0	58	30	16	0	2	1	5	8	11	14	13	1	0	20	13	0	7	0	0	33	27	0	6	0	74	49	308

呼吸器外科

スタッフ紹介

田内俊輔（主任部長）
大橋千裕（専攻医）（～2023年3月）
本田貴裕（専攻医）（2022年7月～）

診療内容

原発性肺癌，転移性肺腫瘍などの腫瘍性疾患，気胸，膿胸などの胸腔内病変，縦隔・胸壁疾患等に対して主に手術療法を行う．

2022年のトピックス・実績

2020年8月より開始したロボット支援胸腔鏡手術も順調に症例を伸ばしている．今後も適応を検討しながら通常の胸腔鏡下手術との使い分けを行っていく．また気胸に対するReduced Port Surgeryを行い，より低侵襲な手術を心掛けている．

今後の展望

ロボット支援手術を含めた胸腔鏡手術を含む低侵襲手術から，心臓血管外科をはじめとした他科との連携を含む拡大手術まで行っている．また気胸，膿胸，外傷など急性期病院ならでは準緊急的に手術が必要な症例も積極的に受け入れていく．今後も幅広い患者層の受け入れを行っていくため地域との連携を密に行い症例数の確保に努めたい．

表．手術実績（2020年以降，年報の対象期間が1月1日～12月31日）　（単位：件）

	2018年度	2019年度	2020年	2021年	2022年
原発性肺癌	52	62	58	59	67
（うち胸腔鏡下/ロボット支援手術）	(42)	(57)	(39/15)	(14/37)	(12/48)
転移性肺腫瘍	5	7	10	11	3
縦隔腫瘍，胸膜・胸壁腫瘍	8	13	7	12	8
気胸	47	39	38	29	49
感染性疾患（膿胸など）	14	7	7	21	11
その他	11	23	23	6	11
計	137	151	143	138	149

2020年からはロボット支援手術（ダヴィンチ症例）と分けています

整形外科

スタッフ紹介

整形外科スタッフとしては，松島リハビリ主任部長，伊藤整形外科主任部長，矢野整形外科部長，脇整形外科医長の4名は昨年度と変わらず．レジデント（専攻医）は，1月～3月末までは昨年度から引き続き，卒後6年目大澤医師，後期2年目北村医師の2名で，4月以降は卒後6年目福本医師，卒後5年目高見医師の2名で，1年間を6名の診療体制で行った．松島は関節疾患，伊藤・矢野は脊椎疾患，脇は外傷～救急，専攻医は外傷～救急を中心に診療に当たった．

診療内容

1）外来　整形外科としては，月・水・金曜日の初再診，木曜日の紹介初診という体制で臨んだ．救急科の対応により，手術中などでの人手不足時の診療断りが今年も大幅に減少した．救急科とは密に連携して，外来診療から入院への引継ぎを行った．

2）手術　2022年（1月1日～12月31日）の手術件数は773件で，新型コロナウイルス感染症流行による影響を受け，前年からの大幅な減少となった．手術の内訳は外傷が中心であるが，脊椎外科，関節外科，手の外科，小児に至るまで症例は満遍なく，かつ豊富である．緊急度の高い感染症例，麻痺症例，開放骨折や脱臼に加え，小児の骨折や高齢者の大腿骨近位部骨折も準緊急として，可能な限り搬送当日の手術を行うように対応した．外傷手術が救急受け入れの数に応じて増加しており，手術内容も高度になってきている．

　症例によっては，指導医を他機関より招聘して行い，更なるレベルアップを試みている．

　内科的合併症を有する患者の手術への対応が引き続き必要とされており，近隣医療施設からの紹介も多い．全身状態が悪いケースが多く，患者管理の難易度も高くなっているが，総合内科・麻酔科の強いバックアップと連携で対処している．大腿骨近位部骨折に対しては，2019年以降はヒップフラクチャーセンターとして対応している．

2022年のトピックス・実績

ヒップフラクチャーセンターの運用が3年目となり，大腿骨近位部骨折の対応についての初療は救急科と連携し，入院が決定すれば総合内科と連携しながらの診療がスムーズに行えるようになった．

骨折リエゾンサービス（FLS：FractureLiaisonService）の立ち上げ以前より，高齢者の症例に対しては，手術を行うと同時に骨粗鬆症加療を施行してきた．

高齢者の骨折は生活機能を低下させ，生命予後にまで大きな影響を及ぼす．脊椎圧迫骨折や，大腿骨近位部骨折に代表される整形外科疾患を生じた高齢者は，骨強度が低下しており，二次性脆弱性骨折を起こしやすい状態である．骨折治療を受けた患者の二次骨折再発を未然に防止することは，本人のみならず，家族や，地域社会，さらには医療経済の面からも重要となる．

当院では多職種協働でFLSを2022年度に立ち上げた．脆弱性骨折患者がFLSの恩恵を享受，二次骨折を回避，QOLを維持し，可能な限り多くの病院・医院において二次骨折予防の取り組みを効率的に行えるよう指標を提供することを目的としている．

昨年同様，新型コロナウイルス感染症がまん延している中で周囲の基幹病院が新型コロナウイルス感染症対応に追われる中，当科としては整形外科疾患の地域救急医療を担う形となった．しかしながら，整形外科主病棟での新型コロナウイルス感染症クラスターによる病棟一時閉鎖や救急受け入れ制限を余儀なくされた．年度後半は限られたスタッフ数での診療体制で，ウィズコロナにて診療の縮小を回避した．

今後の展望

『医師の働き方改革』もあり，以前に行っていた長期休暇中の手術加療や，時間を問わない救急対応は今後も敢行するのは難しい状況である．限られた時間の中での対応を目指し，ヒップフラクチャーセンターからさらに骨折リエゾンサービスへと質向上を行うことで，実績維持・増加を目指したい．また，新たな治療選択として脊椎領域でも経皮的椎体形成術（BKP）治療の導入を予定している．

表．2022年手術実績

【2022年1月1日～12月31日】　（単位：件）

手術名	件数
脊椎外科	70
人工関節手術（股関節・膝関節）	45（12・33）
人工骨頭置換	88
外傷（上肢・下肢・手部足部）	429（136・234・59）
スポーツ	18
上肢・手	63
小児（主に外傷）	14
腫瘍（良性腫瘍）	11
合計	773

産婦人科

スタッフ紹介

副院長，主任部長：宮原義也（1996年卒）婦人科手術，婦人科化学療法，周産期管理
部長：細谷俊光（1996年卒）婦人科手術，周産期管理
部長，ロボット手術・低侵襲手術支援センター　副センター長：松岡正造（1998年卒）婦人科低侵襲手術，周産期管理
医長：林田恭子（2003年卒）腹腔鏡手術，周産期管理
医長：江島有香（2010年卒）腹腔鏡手術，周産期管理
医長：山崎　亮（2013年卒）腹腔鏡手術，周産期管理
医員：下川　航（2014年卒）腹腔鏡手術，産婦人科全般
医員：嶋村卓人（2016年卒）腹腔鏡手術，産婦人科全般
医員：三木玲奈（2017年卒）腹腔鏡手術，産婦人科全般
後期研修医：伊賀川奨大（2019年卒）産婦人科全般
後期研修医：二木ひとみ（2019年卒）産婦人科全般

診療内容

現在常勤11名で外来，病棟，手術，救急診療を行っている．そのうち産婦人科専門医：10名，指導医：3名，産婦人科内視鏡技術認定医：2名，婦人科腫瘍専門医：1名，周産期新生児学会専門医：2名である．神戸大学，千船病院及び高槻病院研修プログラムに属しており常時1-2名の後期研修医を受け入れている．

外来は婦人科及び初診は担当医制，産科はフレキシブルな対応が可能な交代制としている．午前3診，午後1診で1日平均100-120名の患者の診察に当たっている．

2022年のトピックス・実績

【実績】

2022年の分娩実績を表1に示す．総分娩数は824件であり前年比110%であった．

2022年の手術実績を表2に，低侵襲手術件数（腹腔鏡手術＋ロボット手術＋子宮鏡手術）を図1に示す．総手術件数は812件であり前年比101%であった．中でもロボット支援下手術が44件と前年7件に比し大幅に増加した．また開腹手術は年々減少しているがこれは腹腔鏡などの低侵襲手術へと移行したためと考えられた．

2022年の紹介実績を図2に示す．紹介元である医療機関は主に明石市内であるが，姫路，加古川，高砂から神戸まで非常に広範囲から初診紹介を受けており，2022年は1,208件であり，年々増加傾向である．

【トピックス①】

2022年4月より松岡正造医師が順天堂大学練馬病院より当院のロボット手術・低侵襲手術支援センター　副センター長として赴任し，新しくロボット支援下仙骨膣固定術を開始した．当院はこれまでも年間300件以上の内視鏡手術を行っており今後更に増加することが見込まれる．

【トピックス②】

2022年9月より産婦人科医ではなく麻酔科専門医が行う無痛分娩を開始した．無痛分娩外来を設置し危険性について説明した上で行っている．2022年12月までに11症例に対し無痛分娩を行ったが帝王切開への移行は1例のみ（9%）であり，合併症もほとんどなかった．

今後の展望

①分娩数増加に向けた取り組みとして24時間対応の無痛分娩をできるだけ早く導入する．
現在は計画無痛分娩のみであるが，できるだけ早期に24時間対応の無痛分娩を開始したい．これにより更なる分娩数増加が期待できる．

②ロボット支援下子宮全摘術手術の件数増加
子宮筋腫や骨盤臓器脱といった良性疾患だけでなく，子宮体癌などの悪性腫瘍に対するロボット支援下子宮全摘術手術も導入したい．

③悪性腫瘍手術の増加により日本婦人科腫瘍学会認定研修施設を目指す．

④分娩数増加及び外来患者数増加に対応するためセミオープンによる妊婦検診システムの早期導入
以上を今後の目標としたい．

表1. 分娩実績

（単位：件）

	2022年
総分娩件数	824
分娩様式	
自然	349
誘発	66
促進	92
吸引	59
緊急帝王切開	98
予定帝王切開	145
死産	11
体重別（件）	
～999g	12
1,000～1,499g	5
1,500～1,999g	20
2,000～2,499g	85
2,500～3,999g	721
4,000g～	6

	2022年
週数別（件）	
～21	10
22～29	1
30～31	0
32～34	25
35～36	31
37～41	755
42～	1
多胎（件）	25
無痛分娩	11
院内助産（件）	142

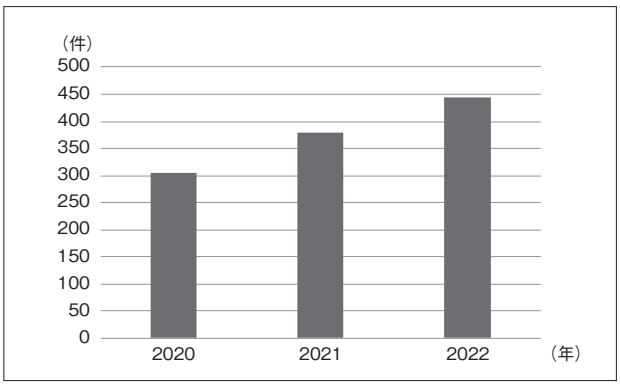


図1. 低侵襲手術件数

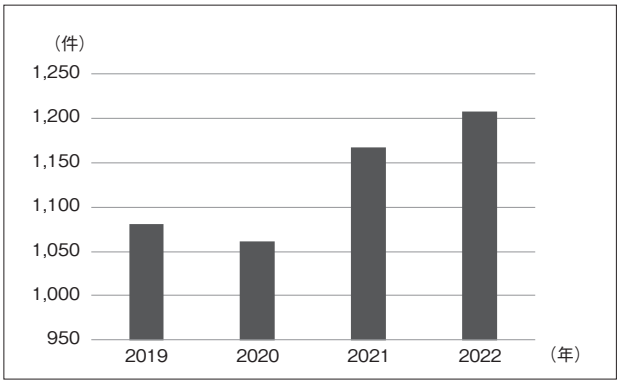


図2. 紹介実績

表2. 手術実績

（単位：件）

		2020年	2021年	2022年
開腹手術				
	単純子宮全摘術	55	30	11
	附属器摘出術	11	1	3
	子宮筋腫核出術	8	14	10
	悪性腫瘍手術	34	37	19
	異所性妊娠手術	2	0	1
	その他	19	19	23
	合計	129	101	67
腹腔鏡手術				
	子宮全摘術	101	153	158
	卵巣腫瘍摘出術	120	118	131
	子宮筋腫核出術	8	26	29
	ロボット手術	7	7	44
	異所性妊娠手術	13	13	15
	仙骨膣固定術	0	0	11
	その他	0	7	10
	合計	249	324	398

		2020年	2021年	2022年
経腟手術				
	円錐切除術	39	33	39
	子宮鏡	52	54	45
	腟式子宮全摘術	9	17	2
	その他	18	28	18
	合計	118	132	104
帝王切開術				
	予定	114	140	145
	緊急	81	104	98
	合計	195	244	243

総合計	691件	801件	812件

麻 酔 科

スタッフ紹介

主任部長　三宅隆一郎
部　　長　岡本健志
医　　長　藤島佳世子
　　松尾佳代子
医　　員　濵﨑　豊
　　山崎翔太
　　米田優美（育児休暇中）
　　田中　舞（2022年4月まで育児休暇）
専 攻 医　森本優佳子（2022年1月：千船病院，4月～6月：兵庫県立加古川医療センター救急救命センターにて出向研修）
　　菅野　睦（2022年5月まで神戸市立医療センター集中治療科にて出向研修）
　　山田真士（2022年3月まで大阪市総合医療センター，10月より神戸市立医療センターにて出向研修）
　　小池紗季（2022年4月～9月：高槻病院にて研修）
　　松本あい（2022年10月より大阪市総合医療センターにて出向研修）
　　江田哲信（2022年4月～6月）
　　滝西史麻（2022年10月～）

診療内容

○手術室・アンギオ室・内視鏡室・LDRでの麻酔業務を行った.
○夜間当直帯のICU業務と緊急麻酔を行った.
○入退院支援での麻酔科術前診察を行って，御家族を含めた麻酔の術前説明・周術期歯科連携の充実を図った.

2022年のトピックス・実績

○麻酔業務の実績を別表に示す.
○連携施設の兵庫県立加古川医療センター救急救命センター所属の江田哲信医師と大阪市総合医療センター麻酔科より滝西史麻医師を麻酔研修として受け入れた.
○新たに当院の麻酔科後期研修プログラムに甲斐専攻医が登録し大阪市総合医療センター麻酔科にて研修を開始した.
○研修プログラム所属の井川専攻医は高槻病院にて，西専攻医は大阪市総合医療センターにて研修を継続している.
○神戸麻酔アソシエイツの心臓血管外科麻酔を専門とする麻酔科医を週1回招聘した.
○明石市消防局所属の救命士の挿管実習を行った.
○森本専攻医が千船病院にて無痛分娩の麻酔研修を行った.

今後の展望

日本麻酔科学会と日本心臓血管麻酔学会の専門医修練施設であり，幅広い知識と必要な情報・経験を得られるよう麻酔研修プログラムを作成して，全国から麻酔科専攻医を受け入れている．連携施設から専攻医の研修を受け入れて，相互連携を強めている．また，日本集中治療医学会の専門医研修指定病院でもあり，サブスペシャリティとして集中治療領域の知識向上を図って周術期の安全に役立てている.

手術室と南2階LDRにて新型コロナウイルス感染症妊婦の帝王切開を行った.

松尾医師を中心として麻酔科医による安全かつ満足度の高いlabor analgesiaを提供することで地域における無痛分娩のニーズに対応している．今後も周産期麻酔の件数と分娩件数の更なる増加を目指していく.

例年通り，緊急手術が653件と全体の2割以上を占めている．今後も外科医と協力して手術が必要となれば適切に対応し，東播地区の救急医療を支えていきたい.

充実した研修を通して麻酔科医の確保と，愛仁会麻酔科の連携を強化して急性期医療を行う医療機関としての向上を目指していく.

表. 麻酔科実績

【合　　計】　（単位：件）

手　術　件　数	3,113	（うち手術室内　2,914，手術室外　219）
提供停止症例数	0	

【ASA　PS】　（単位：件）

予定 1	2	3	4	5	6（臓器摘出を受ける脳死患者が対象）	合　計
276	1,510	656	36	2	0	2,480
緊急 1E	2E	3E	4E	5E	6E（臓器摘出を受ける脳死患者が対象）	合　計
65	307	241	37	3	0	653
						3,113

【手術部位】　（単位：件）

a. 脳神経・脳血管	0	h. 頭頸部・咽喉部	7
b. 胸腔・縦隔	169	k. 胸壁・腹壁・会陰	202
c. 心臓・血管	486	m. 脊椎	66
d. 胸腔＋腹部	1	n. 股関節・四肢（含：末梢神経）	683
e. 上腹部内臓	329	p. 検査	0
f. 下腹部内臓	893	x. その他	42
g. 帝王切開	255	合　計	3,133

【麻 酔 法】　（単位：件）

A. 全身麻酔（吸入）	540	F. 硬膜外麻酔	0
B. 全身麻酔（TIVA）	375	G. 脊髄くも膜下麻酔	547
C. 全身麻酔（吸入）+硬・脊，伝麻	872	H. 伝達麻酔	1
D. 全身麻酔（TIVA）+硬・脊，伝麻	677	X. その他	16
E. 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔（CSEA）	105	合　計	3,133

【年齢構成】　（単位：件）

	男性	女性	合計
A. ～1か月	0	0	0
B. ～12か月	0	0	0
C. ～5歳	0	3	3
D. ～19歳	40	19	59
E. ～65歳	451	971	1,422
F. ～85歳	779	612	1,391
G. 86歳～	65	193	258
合　計	1,335	1,798	3,133

【体　　位】　（単位：件）

1. 仰臥位	2,220
2. 腹臥位	84
3. 側臥位	297
4. 切石位	413
5. 坐　位	12
6. その他	107
合　計	3,133

【性　　別】　（単位：件）

男　性	1,335
女　性	1,798
合　計	3,133

【偶発症例】　（単位：件）

A. 危機的偶発症	1
B. 神経系偶発症（脳・脊髄）	4
C. その他の神経系偶発症	0
D. その他	0
合　計	5

【経験必要症例】　（単位：件）

胸部外科	143
脳神経外科	0
心臓血管外科（1群）	126
心臓血管外科（2群）	263
帝王切開	242
小児（6歳未満）	2
合　計	776

集中治療科

スタッフ紹介

多田羅康章
小阪真之

診療内容

・集中治療室における患者管理
・ICU入室予定の緊急手術対応（麻酔科対応困難時）
・入退院支援室での周術期外来
・無痛分娩担当麻酔科医不在時の対応
・術後患者疼痛管理及びAPS回診

2022年のトピックス・実績

・内科後期研修プログラム医師の研修
・他施設の認定看護師・特定行為研修の受け入れ

今後の展望

・特定行為・認定看護師増加による人工呼吸器管理のタスクシェア
・内科後期研修プログラム医師の研修増加
・NPプログラムを含めた看護師特定行為資格者の増加に向けた研修先の提供
・術後患者疼痛管理の強化
・集中治療加算1取得に向けた施設設備面以外での準備
・早期離床リハビリ・早期栄養加算の獲得

Ⅶ

井　上　病　院

10:1急性期病院
地域包括ケア病棟
慢性維持透析
訪問診療/訪問看護
全127床
外来透析200床

〒564-0053
大阪府吹田市江の木町16番17号
TEL.06-6385-8651

院長　右梅貴信

腎臓内科

スタッフ紹介

藤原木綿子：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医，日本透析医学会透析専門医・指導医，日本腎臓学会専門医・指導医，PKD認定医

一居　充　：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医，日本透析医学会透析専門医・指導医，日本腎臓学会専門医・指導医，日本医師会認定産業医

前田忠昭　：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医，日本腎臓学会専門医，日本透析医学会専門医

福永　慎　：日本内科学会認定内科医，日本透析医学会透析専門医・指導医，日本腎臓学会専門医，日本透析アクセス医学会VA血管内治療認定医

奥手祐治郎：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医，日本腎臓学会専門医

山口聖良　：日本内科学会認定内科医，日本腎臓学会専門医

診療内容

（入院病棟）

・対象疾患：腎炎・ネフローゼ症候群（腎生検を含む），急性・慢性腎不全，血液透析や腹膜透析の導入，透析患者の合併症管理

（腎専門外来）月曜－土曜日，専門医による腎専門外来・対象：糸球体腎炎，多発性のう胞腎，慢性腎臓病

2022年のトピックス・実績

腎炎，ネフローゼを中心とした腎疾患の腎生検診断・治療と，慢性腎不全患者の外来診療，透析導入，合併症加療を行った．

入院部門は，新型コロナウイルス感染症の対応の元であったが，腎生検を14件実施した．腎生検結果の内訳はIgA腎症7件，腎硬化症2件，膜性増殖性腎炎2件，膜性腎症1件，その他2件であった．しかし教育入院は感染症対策の一環で教育入院を極力行わない方針とした影響で1件となった．

外来部門では2018年から活動を開始し、腎臓病療養指導士7名を含むCKDチームを主軸に活動を継続した．チームは腎臓内科医師・看護師（内科・腹膜透析科）・社会福祉士・栄養士・健康運動指導士・薬剤師・事務で構成されている．2022年度は内科外来へCKD患者345名が通院し，そのうちCKD5期の110名にチームが介入した．声をかけやすい診察待ち時間に看護師・社会福祉士が関わるようにし，患者背景の把握や，半年から年単位の時間をかけた均一なCKM（Conservative Kidney Management）含む腎代替療法選択説明を行っている．また2022年は腎看護外来を開設し，腎代替療養指導士の資格をもつ看護師がじっくり患者と対話する時間を確保した．

CKD3-4期への取り組みとしては，腎不全の進行を予防するため，健康運動指導士・栄養士を中心にした腎臓リハビリを行い，2022年度は28名に介入した．

透析患者の入院部門では，透析導入60件，透析患者の合併症入院1,157件であった．透析患者の合併症の入院の1位はシャント閉塞で204件（17.6%）であった．

特殊血液浄化として，CHDF1件，腹水濾過濃縮再静注法0件，血漿交換0件，レオカーナ215件を行った．

外来透析部門では，透析患者681名の管理を行った．その中でもオーバーナイト透析が前年に引き続き好評を得ており，29名であった．その他在宅透析5名，腹膜透析44名の診療を行った．＊人数は2022年度3月末時点

今後の展望

当院は日本腎臓学会，日本透析医学会，日本糖尿病学会の教育施設である．2021年には腹膜透析研修施設の認定があり，腹膜透析研修を3年間で5回行い，18名（医師3名，看護師15名）の受講があった．

高齢化社会になっていく今後10年は，当院が実績をもつ幅広い透析の提供を継続して行うとともに，透析患者の嚥下障害や骨折，閉塞性動脈硬化症など高齢に伴う合併症加療を他科と協力して対応していく．また腎臓専門病院として近隣のクリニックと連携を続け，保存期腎不全CKD3bからのCKDチーム介入により，腎不全進行抑制や，腎代替療法選択説明にも引き続き力を入れていく．

保存期腎不全の取り組みとして，腎臓リハビリでは，運動が腎予後に影響するデータを集約解析し，今後更に井上病院が地域のCKD医療をけん引することを目標とする．

循環器内科

スタッフ紹介

常勤医1名　高井栄治　1994年卒業
非常勤の循環器専門医2名（大阪大学医学部2名）

診療内容

主に透析患者，慢性腎臓病患者の循環器疾患に対して，循環器専門医として，入院，外来診療を行った．循環器合併症に際して，基幹病院と適切に連携を行った．

常勤医として，外来，入院の担当以外，循環器診療についての，コンサルテーションを受け，対応している．

2022年のトピックス・実績

循環器外来受診患者数は延べ1,224名であった．その内訳は移植腎患者64名，透析患者278名と，腎臓，透析専門病院に特徴的な比率であった。

常勤医が受け持った，循環器入院患者は121名であった．

今後の展望

透析患者では，冠動脈疾患，閉塞性動脈硬化症など動脈硬化性疾患と，心臓弁膜症，不整脈が高頻度で出現している．

虚血性心疾患では，無症候性心筋虚血が多く，急性冠症候群の発症には注意が必要である．適切な時期に，心筋虚血，冠動脈病変の評価，治療が行えるよう，丁寧に診療し，基幹病院と連携を行っている．

大動脈弁狭窄症では，病態管理と基幹病院との連携が特に重要である．治療については，人工弁置換術が中心であり，適切な手術時期の判断が重要である．透析患者における保険診療が開始されたTAVI治療も考慮して慎重に診療している．

透析患者での心房細動における抗凝固療法は，現状ワーファリンのみであるが，人工弁患者など以外では禁忌とされている．しかし，心内血栓，脳血栓塞栓症2次予防には必要であると考えている．出血性合併症の懸念があり，導入，管理は慎重に行っている．

血栓塞栓症予防以外に，心不全や透析困難症回避のためカテーテルアブレーション治療が有効であり，基幹病院と適切に連携している．透析患者のアブレーション治療の成功率，再発率を懸念し，心拍数コントロールの重要性を再認識し，診療を行っている．

透析患者だけではなく，入院，外来の非透析患者に対しても真摯に丁寧な診療を行っている．近隣基幹病院だけでなく，法人内連携も積極的に行っている．

吹田，江坂地域の患者に役立つ医療を提供できる環境を，今後も強化していく方針である．

眼科

スタッフ紹介

眼科医　常勤1名（前田裕宇樹），非常勤4名（福山　尚，佐藤圭子，清水典子，吉田史子）
検査員　2名（末吉みなみ，掛谷昌代）

診療内容

外眼部疾患から眼底疾患までの診療を行い，必要時には症状に応じて専門医へ紹介している．

2022年のトピックス・実績

白内障手術や硝子体注射治療，適宜視野検査を行っている．

視野検査	509件
白内障手術	68件
硝子体注射	33件

白内障手術，硝子体注射は兵庫医科大学から派遣された非常勤医師とともに行っている．

第3水曜日の午後には視覚障害申請のための外来を行っている．

今後の展望

透析患者，糖尿病患者の眼合併症の診断・治療を適切に行い，長期に通院を継続できる眼科を目指す．また，白内障手術を積極的に行っていく．

糖尿病内科

スタッフ紹介

2022年は日本糖尿病学会認定教育施設として，糖尿病研修指導医が3名（辻本吉広，木津あかね，土蔵尚子），糖尿病専門医が2名（下村菜生子，宮部美月）在籍して臨床と研究に従事している．糖尿病療養指導士として10名（管理栄養士が2名，薬剤師が1名，看護師が7名），糖尿病看護認定看護師が1名，フットケア指導士が5名活動している．

診療内容

糖尿病専門外来は毎日行う体制で，日本糖尿病学会指導医，専門医による糖尿病の診断・治療を行うとともに，外来糖尿病教室や糖尿病教育入院を担当している．さらに，地域医療を重要視し，糖尿病内科医師全員が他科と協力して一般内科の診断治療や救急対応の担当にも従事している．糖尿病合併症は，全身の合併症を診療する必要があり，他専門科と連携を行っている．糖尿病教育入院は，約1週間の入院期間中に医師，看護師，薬剤師，管理栄養士，理学療法士，臨床検査技師とのチーム教育医療により，糖尿病の知識や自己管理の向上に寄与する．多様な要望に合わせ，注射手技の獲得や低血糖の対処法の指導など週末短期入院も行う．糖尿病性腎症は，早期の糖尿病性腎症から腎不全治療，透析導入まで一貫した治療が可能で，腎機能に合わせた血糖管理を行っている．フットケア外来は毎週1回開設しており糖尿病合併症管理料の算定ができている．地域の健康増進と疾病予防の目的のため行ってきた健康教室は，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，引き続き2022年も開催は休止し，ホームページや待合室のテレビ放映での啓蒙活動を行った．

2022年のトピックス・実績

糖尿病の外来診療では，糖尿病の薬物・注射療法を行った人数は年間805名と毎年多数の通院患者が通われている．透析部門では，通院透析患者の糖尿病患者のうち，糖尿病の薬物・注射療法を行った人数は224名となった．また糖尿病透析予防指導は，2022年の登録者数は12名であり，数年継続されている方も多数登録している．フットケア外来では37名に糖尿病合併症管理料の算定がなされた．一方，入院については，糖尿病教育クリニカルパスの運用数は5件であった．

今後の展望

依然として患者数が増加し続けている糖尿病は本院の基幹診療部門である慢性腎不全，人工透析の原疾患として，その初期診療から保存期，透析導入までの切れ目のない医療の重要性は，繰り返し強調されるべきである．糖尿病は種々の血管病変，各種の悪性腫瘍，そして今後更に増加する認知症などとの関連性も明らかであり，その診療の重要性は地域医療のためにゆるぎないものである．今後も糖尿病学の進歩に遅れることなく，最良の医療を提供できる体制を維持していきたい．

消化器内科

スタッフ紹介

2022年度も2021年度と同様に，上部消化管内視鏡検査は大野恭太，下村菜生子が，下部消化管内視鏡検査、嚥下内視鏡検査，内視鏡的治療の止血術，大腸ポリープ切除術，内視鏡的胃瘻造設術，胃瘻ボタン交換は大野恭太が担当した．胃瘻造設は下村菜生子の協力の下に施行した．消化器専門外来は大野恭太が担当した．ほかには非常勤医が肝臓専門外来を開いている．本院の診療機能から見ると，マンパワーとしては満足できるが，緊急対応には十分とは言えず，もう一人独力で内視鏡を操作可能な医師がいてもいいと考えている．

診療内容

定期の消化器外来は従来通り週2回，定期の上部消化管内視鏡検査は週3回，下部消化管内視鏡検査は週2回である．嚥下内視鏡検査は火曜日，あるいは金曜日の午後，胃瘻交換は月2回金曜日午後，内視鏡治療については必要時に随時施行した．非透析患者の消化器関連の入院患者は可能な限り大野が担当していることもこれまでと同様であった．

2022年のトピックス・実績

2022年（2022/1/1から12/31，以下同様）の上部消化管内視鏡検査は451例であり前年（2021/1/1から12/31，以下同様）の507例より減少となった．前年は新型コロナウイルス感染症流行の影響が薄れてそれ以前の積み残しの症例が検査に回ってきていたが，それが解消された結果の減少かと思われる．また下部消化管内視鏡検査は2022年196例であり，前年281例より，やはり大幅な減少となった．消化管出血の内視鏡的止血術は22例，大腸ポリープ切除術は49例であった．嚥下内視鏡検査は12例（前年15例），内視鏡的胃瘻造設術が12例（前年12例），胃瘻交換が31例（前年36例）であった．胃瘻造設は本院の透析患者が長期経口摂取不能な場合に，主治医の依頼で行っている．消化器外科が存在しない現状では，危険は冒せないので，他院からの紹介に対応することは困難である．胃瘻交換の大半は院外の施設からの紹介患者であり，法人（愛仁会）の老健施設からの依頼が多かったが，他施設や在宅からの紹介も本院での造設例以外の症例も受け入れており，放射線科の協力の下，透視台で行っているため，極めて短時間で安全に施行できている．

今後の展望

消化器外科のない本院での消化器内科の活動には限界があることは同様である．特に胆道系の疾患を扱うためには，複数の熟達した消化器内科医と，そのバックアップとなる消化器外科の存在が必須であり，高価な機材や診療材料を揃える必要があるため対応できない．また緊急での外科対応が，ある確率で必ず必要となる腸閉塞は，内科単独で完結可能な症例であっても，切れ目のない経過観察とそれに付随した適切な対応が必要であり，現体制では受け入れ困難である．消化管出血も対応する医師が一人であれば，時間帯によっては対応困難となる．本院の消化器内科は，本院の維持透析患者の消化管出血が本院で対応できるか否かの見極めのために存在意義があると考える．抗血栓剤を内服している患者が多く，微細な病変から繰り返し出血するケースが多数を占め，出血性ショックには至らないのが通常であり，一人医長体制でも対応可能である．実際2週間に1人程度の緊急内視鏡検査の要請は，このような症例がベースとなっている．嚥下内視鏡検査は嚥下造影検査に比べて，ベッドサイドで被爆することなく容易に施行でき，ますます増加してくる誤嚥性肺炎の患者の嚥下機能の評価，嚥下リハビリの効果判定には有力なメソッドでありNSTチームを通じての依頼によって施行している．こちらは今期新機種の内視鏡に更新している．誤嚥性肺炎を本院で積極的に診療する体制が整い，今後も安定した需要が見込まれる．胃瘻造設の必要性の見極めにも有用である．下部消化管内視鏡検査については本院で検査が再開されて8年目となり2回目，3回目の大腸内視鏡検査を希望されるリピーターの増加が検査数の維持に大切である．消化器外科がないことから，内視鏡検査，治療において事故を起こさない安全な対応を行うことに，十分な注意をもって，施行している．これまでのところ大腸ポリープ切除後，あるいはほかの内視鏡手技後の重篤なトラブルは最小限に抑えられている．

今後もこの安全な内視鏡検査，内視鏡的治療を維持することが第一であることに変わりはない．2023年度には内視鏡装置の更新が行われる見込みであり，より安全かつ苦痛のない内視鏡を目指していく．

泌尿器科

スタッフ紹介

右梅貴信，大北恭平
本年も引き続き常勤医2名での診療体制となっている．

診療内容

外来診療，入院診療及び手術加療を行っている．詳細は後述する．

2022年のトピックス・実績

尿路悪性腫瘍手術（副腎，腎，膀胱，前立腺，陰嚢）を行っている．昨年に引き続き，経直腸的前立腺生検，経尿道的手術，尿管ステント留置術，腎瘻造設術などを行っている．

表．手術件数

（単位：件）

手術名称	件数
経尿道的尿管ステント留置術	29
膀胱悪性腫瘍術（経尿道・電解質溶液利用）	12
腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手	6
経尿道的尿管ステント抜去術	5
経尿道的尿路結石除去術（レーザーによるもの）	4
経尿道的前立腺手術（電解質溶液利用）	4
膀胱腫瘍摘出術	3
皮膚切開（長径10cm未満）	2
膀胱結石摘出術　経尿道的手術	2
創傷処理（筋臓達する5～10cm未満）	1
腎摘出術	1
包茎手術（背面切開術）	1
精巣摘出術	1
陰嚢水腫手術（その他）	1
腎（尿管）悪性腫瘍手術	1
後腹膜悪性腫瘍手術	1
経皮的腎（腎盂）瘻造設術	1
膀胱悪性腫瘍全摘尿路変更なし	1
膀胱皮膚瘻造設術	1
総計	77

また，昨年に引き続き，腎腫瘍に関しては腹腔鏡下手術も積極的に行っている．さらに昨年より経尿道的尿管結石破砕術（f-TUL）を導入し，結石治療も積極的に行っている．

2022年泌尿器科手術件数を以下に示す．

今後の展望

昨年に引き続き，泌尿器科は2名体制で日々の診療に当たっている．

また，手術では昨年より経尿道的尿管結石破砕術（f-TUL）を導入し，手術件数の獲得に努めている．来期も引き続き，結石治療をはじめ，前立腺生検，経尿道的手術や腹腔鏡手術も継続し，更なる手術件数の上昇を目指したい．

透析内科

スタッフ紹介

常勤透析専門医や常勤腎臓内科医及び糖尿病専門医が中心となって，約600名の患者の透析回診を行っている．

診療内容

当院には外来透析200床の透析ベッドがあり，常勤透析専門医が中心となって透析管理を行っている．

基本的に1名の患者に対してデータ回診医1名と透析管理医師2名で回診しており，複数の目で患者の状態を把握できる診療体制となっている．

様々な透析合併症の早期発見を行うために，回診医の指示などにより各種アセスメントの充実，様々な指導が行われている．

2022年のトピックス・実績

2018年9月からオーバーナイト透析を開始した．2022年は，オーバーナイト透析患者32名から35名へ増加した．開始後4年以上が経過し順調に患者数が増えている．さらに受け入れ確保をするため日中の透析患者の透析フロアの調整を行った．また至適透析を勧め，臨床工学技士と連携し，オンラインHDFが，2022年43％から48％へ増加した．

また透析棟6階では，水素水使用による透析を開始し，疲労の改善がみられる結果が報告された．以後も水素水使用を継続している．

感染管理については，2022年も全体研修を行い，透析室においてビニールカーテン廃止や消毒物品の適正化及び消毒液のエタプラスゲル使用状況を確認し，標準予防策が徹底され質の高い感染管理を実施できている．

2022年も新型コロナウイルス感染症に対し感染管理の徹底が必要となった．血液透析治療は週に3回通院があり，集団での同フロア利用のため他者と接触しやすい環境である．また医療従事者も患者と接する機会が多く，日頃から感染予防策を心掛けることを互いに認識するようになり，大規模な感染拡大に至らず経過していた．しかし2022年7月から国内に急速な感染拡大がみられ，当院透析患者も多数の患者の感染が発生した．この感染状況に対し8月から9月初旬まで延べ43名の透析患者を，外来透析棟5階の午後に集約し外来通院を継続した．さらに12月には院内感染を認め，延べ84名の入院している透析患者を，外来透析棟5階を使用して透析継続を行った．今回の感染対応は，昨年までと比べて職員の負担が大きかったが，職員一丸となってこの難局を乗り切った．

そのほかに2020年より入院透析患者の安定した食事摂取の確保と病棟でのケアを行うことを目的に，午後透析を開始した．以後積極的なリハビリの実施に繋がっている．

また2021年から通院透析患者に対し新たに栄養評価としてNRI-JHの評価を開始した．栄養状態が悪い患者に対しては，栄養士が直接患者に聞き取りを行い，栄養状態改善を目指す取り組みを実施している．

今後の展望

透析患者の高齢化によりADL低下や低栄養状態の患者が増加している．それに対し【いつまでも元気にプロジェクト】の取り組みを職員及び患者へ再度伝え，ADL維持や低栄養改善に繋げていく予定である．

また透析患者の新たな集患を目的に，オーバーナイト透析を立ち上げ順調に進んでいる．その後希望者が増えており，受け入れを増やす体制を準備している．さらに当院の強みである医療と介護の連携をいかして，在宅医療としての腹膜透析診療の強化を行っていくため，内科外来での腎代替療法への取り組みに注力している．こちらも多職種が連携して透析の療法選択を行った上で腹膜透析も選択できる環境が整い，引き続き取り組んでいく予定である．

放射線科

スタッフ紹介

森本　章
田中佐織
応援スタッフ
読影：非常勤医師　3名
透析シャントPTA：常勤内科医師　1名
　　非常勤医師　4名

診療内容

（画像診断）

CT・MRIなどの検査依頼が他科の医師からあった場合に，最も適切な撮影方法を診療放射線技師に指示し，安全で最適な検査を提供し，撮影されたCT・MRIの検査報告書を速やかに作成するよう心掛けている．

（透析シャントPTA治療）

狭窄や閉塞が原因で生じているシャントトラブルに対し，カテーテル治療を行っている．予約受付スタッフが適切に予約振り分けてくれていることで，1時間/件の予約枠はほぼ埋まっている状態を維持している．シャント血栓閉塞治療も準緊急で予約外での対応を行っている．大半がエコー下PTAで行うようになり，放射線被曝も造影剤使用率も大幅に減少している．

2022年のトピックス・実績

2019年

CT	4,804件
MRI	1,710件
シャントPTA	1,160件

2020年

CT	5,067件
MRI	1,856件
シャントPTA	1,231件

2021年

CT	5,127件
MRI	1,869件
シャントPTA	1,380件

2022年

CT	5,021件
MRI	1,992件
シャントPTA	1,391件

今後の展望

画像診断に関しては地域クリニックからの検査紹介を増やすことと地域基幹病院からリハビリ入院が増加しているため，転院してきた患者の病状把握を迅速に行えるように取り組んでいきたい．

シャントPTAはこれまで医師2名体制で行ってきたが，医師2名確保できない状況でも治療が行えるように2021年度から診療放射線技師をエコー下シャントPTAのエコー助手として活用することを試験的に開始している．

シャントPTA件数はこれまで増加し続けてきたが，人工血管シャントの静脈吻合部狭窄へのステントグラフトや内シャントの狭窄に薬剤塗布バルーンが保険収載されたことで，長期開存できる症例が増加し今後は症例数が減少すると考えられる．また当院の透析患者数も減少傾向であるため，シャントPTA件数にとっては逆風である．ほかのアクセス治療施設が行っている治療送迎を含め，紹介クリニックからこれまで以上に紹介していただきやすい環境整備を更に整えていきたい．

麻酔科

スタッフ紹介

坂本　元主任部長と稲田拓治嘱託職員の2名体制で麻酔業務を行っている.

診療内容

全身麻酔は月曜日から土曜日まで毎日対応している. また腰椎麻酔のほか, 小手術やアンギオに対する神経ブロック, ハイリスク症例の局所麻酔下手術の全身管理, 末期透析患者に対する緩和ケアなどの業務を行っている.

2022年のトピックス・実績

1. 活動実績

麻酔科管理症例数は370件であったが, 約6割が透析患者, 7割が重症加算対象患者であるのが当院の特徴である.

2. 新型コロナウイルス感染症対策

流行最盛期には自家製エアロゾルテント（ポリ袋）を使用し, 麻酔導入前から抜管後まで患者の頭部をシールし飛沫の拡散を予防した. またマスク換気もリスクになり得るので, 無換気急速導入を施行しており, これは日本臨床麻酔学会で報告し現在も継続している.

3. 業績

日本臨床麻酔学会第42回大会にて『新型コロナ時代の麻酔導入法の検討～無換気急速導入法の試み～』を発表した.

今後の展望

1. 症例数の増加は見込めないが, ハイリスク症例は確実に増えている. 末期透析患者に対する手術の是非の見極めと患者及び家族への説明が重要となってくる. 単に同意を求めるのではなく, 緩和ケアを含めた幅広い選択肢を提供し, ACPも推進していく必要がある.
2. 当院では7割以上の症例に神経ブロックを併用しているが, 麻酔関連の訴訟は神経ブロックが多い. 現在まで問題となった合併症はないが, 日常の繰り返しの中でも注意力を欠かすことなく, 緊張感を持続させていきたい.
3. 新型コロナウイルス感染症は5類に移行したが, 今後新型株の流行や新型コロナウイルス感染症以外の新たな呼吸器感染症が発生する可能性は想定していかなければいけない. 全身麻酔はエアロゾル汚染のリスクであり, スタッフの安全のためにも対策と準備を怠らないようにしていきたい.

表1. 麻酔方法別

（単位：件）

方法	件数
全身麻酔	53
全身麻酔＋硬・伝麻	287
伝達麻酔	23
くも膜下麻酔	5
その他	2
計	370

表2. ASA　PS（リスク分類）

（単位：件）

分類	件数
1（健康）	36
2（軽症）	100
3（重症）	213
4（瀕死）	16
1－4（緊急）	12
計	370

表3. 年齢別

（単位：件）

年齢	件数
～18歳	0
～65歳	78
～85歳	233
86歳～	59
計	370

外科

スタッフ紹介

藤原一郎
福永　慎（透析関連手術）
山口聖良（透析関連手術）

診療内容

・血液透析関連手術
・腹膜透析関連手術
・その他：鼠径ヘルニア，内痔核などの手術

2022年のトピックス・実績

・昨年に続き新型コロナウイルス感染症による手術制限があり，予防にも大きな労力を要した．
・全手術件数は微減であった．
・昨年CAPD関連が急に激減したが本年は微減にとどまった．当院のCAPD導入症例は困難を伴うことが多いがCAPDは当院の特徴的治療のひとつでもあるので今後回復するよう注力していきたい．
・AVF，AVG関連手術は微増にとどまった．手術が必要となる症例のAVF，AVG手術は極めて困難なことが多々ある．手術合併症の予防に細心の注意を払いたい．

今後の展望

当院の血液透析や腹膜透析医療を近隣のVAIVTやCAPD担当科と連携し維持していきたい．近隣のクリニック・病院のアクセストラブルにも積極的に取り組み当院の透析医療の先進的立場を維持していきたい．最近，新規病院からのアクセス作製の依頼があるが病状が悪く作製困難なことも多く苦慮するときがある．円滑な連携・治療が行えるように考えていきたい．

表．2022年外科手術件数

（単位：件）

AVF　89件（△10）	造設	61	CAPD　20件（▲3）	SMAP	6
	再建	10		チューブ留置	2
	瘤切除	4		出口部作成	3
	静脈バイパス	0		出口部変更	1
	血流抑制	4		抜去	8
	血栓除去	1		腸管癒着剥離術，固定	0
	閉鎖	7	留置型Wルーメン　48件（▲2）	留置，入れ替え	39
	ステント除去	1		抜去	9
	感染血管切除	1	その他　20件（▲7）	鼠径ヘルニア（腹腔鏡）	8
AVG　77件（▲5）	造設	41		鼠径ヘルニア（切開）	3
	バイパス	15		痔核切除	0
	抜去	5		ジオン硬化療法	4
	置換	4		CVポート	0
	血栓除去	8		臍ヘルニア、腸切	1
	閉鎖	2		腹壁瘢痕ヘルニア（腹腔鏡）	1
	グラフト縫合	1		腹壁瘢痕ヘルニア（切開）	1
	皮膚弁植皮	1		腹壁膿瘍	1
動脈表在化　1件（△1）		1		直腸脱（腹腔鏡）	1
				その他，創処置	0
			総計		255

心臓血管外科

スタッフ紹介

副院長・心臓血管外科主任部長　谷村信宏
心臓血管外科専門医・修練指導者　日本外科学会専門医・指導医　日本脈管学会認定脈管専門医・指導医　日本フットケア･足病医学会評議員，フットケア指導士及び学会認定師　日本胸部外科学会専門医会員（認定医）　ICD（インフェクションコントロールドクター）　近畿外科学会評議員

診療内容

主に末梢血管外科診療を行っているが，必要に応じて一般外科診療・外科救急診療にも対応している．

1. 包括的高度慢性下肢虚血（CLTI）への対応

血管内治療（EVT）だけでなく，外科的血行再建術にも積極的に取り組んでいる．当院の末梢血管症例においては，透析を伴った重症例が多いため，血管内治療で対応することが多かった．ただし，当科の十八番であるdistal bypass術の症例数は関西の血管外科施設の中でも1，2を争う症例数となっている．また神経ブロックを多用する低侵襲麻酔で，高齢者・重症患者に対しても安全に手術を行うことができるため，他院で手術不能とされた症例でも，必要に応じて手術することが可能であることも功を奏している．これらの手術成績は，学会などでも積極的に発表しており，可能な限り外科的血行再建術に移行するように方針転換してきた成果が認められてきている．全国的にも，重症透析例に対する末梢血管手術を行っている施設が少ないため，今後も積極的に進めていきたいところである．さらに，足部壊死に対する下肢切断も形成外科医の協力の下，自科で行うことによって，包括的高度慢性下肢虚血（CLTI）に対する一貫治療を行っている．

2. 院内フットケアチームの創設

糖尿病内科木津部長とも協力し，院内のフットケア指導士･特定看護師などを中心に，院内フットケアチームを創設した．定期的に会合を持ち，情報共有を図りつつ勉強会も開催している．院内全体での下肢救済への取り組みを更に進めているところである．診療報酬としても「下肢創傷処置」や「下肢創傷処置管理料」も新たに算定できるようになり，チームの活動に追い風をいただいており，更に発展させていきたい．

3. 新しい治療法の導入

慢性疼痛，特に下肢虚血による疼痛コントロールを目的に，脊髄刺激療法（SCS）を導入した．残念ながら今期は対象症例がなかったが，今後も必要があれば対応していきたい．また，HGF遺伝子治療用製品（コラテジェン®）及び新しいLDL-aphereis（レオカーナ®）を導入し，包括的高度慢性下肢虚血（CLTI）への治療選択肢が増加した．レオカーナ®については関西一の使用症例があり，学会などでも発表の機会を得ている．

患者数の年次推移はおおむね横ばいであった．また，本年度も紹介患者は院内紹介だけでなく，院外からの紹介が増加しており，血管外科診療における施設間連携も功を奏していると考えられる．手術症例数については全体として減少しているものの，外科的血行再建術については横ばいであり，今後も末梢血管手術に注力していくことに変わりはなく，それに関連した形成外科的手技についても積極的に関わっていきたい．

今後の展望

1. 院内フットケアチームもできており，今後も院内スタッフ教育に力を入れ，地域医療面でも市民公開講座や研究会などを主催して地域連携を深めたい．そのほか，当院で主催している北大阪フットケア勉強会，さらに関西血管外科倶楽部やOASIS（大阪重症虚血肢救済に対する集学的シンポジウム）等に参加して関西の血管治療医やフットケアに携わる医療従事者と広く連携しており，今後もこの活動を更に広めていきたい．
2. 学会及び研究会などにて引き続き発表を行っており，愛仁会井上病院の知名度も上がってきている．今後も引き続き活動を広めていきたい．
3. 当院は元々透析患者の診療が得意であり，他施設ではまねのできない部分である．この強みを活かし，今後も透析症例の包括的高度慢性下肢虚血（CLTI）に対して積極的に診療を行いたい．
4. 今後も当院での診療拡大を図るべく，新たな人材確保にも留意したい．

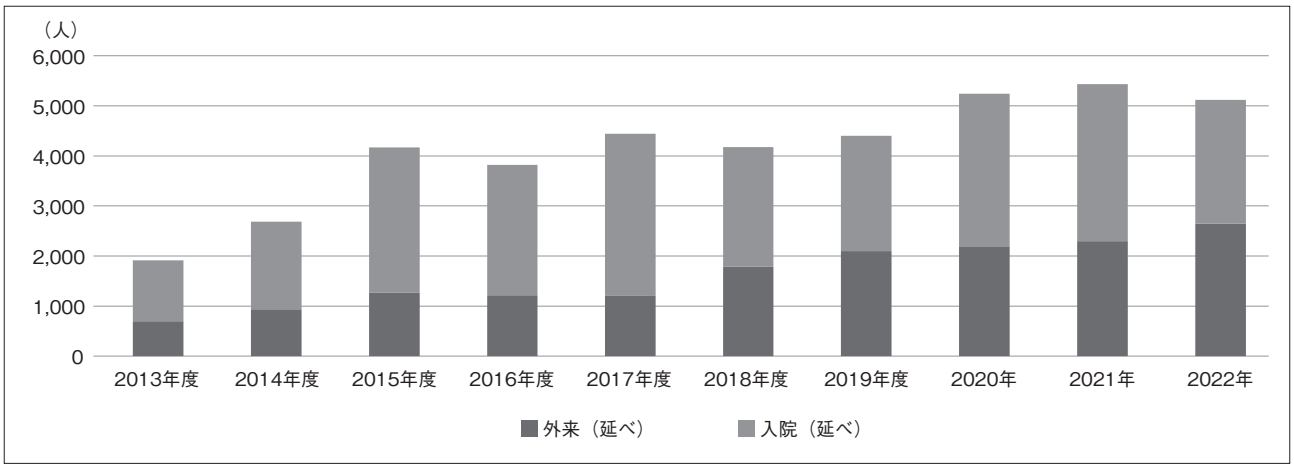


図1．患者数の年次推移（2020年以降年報の対象期間が1月1日～12月31日）

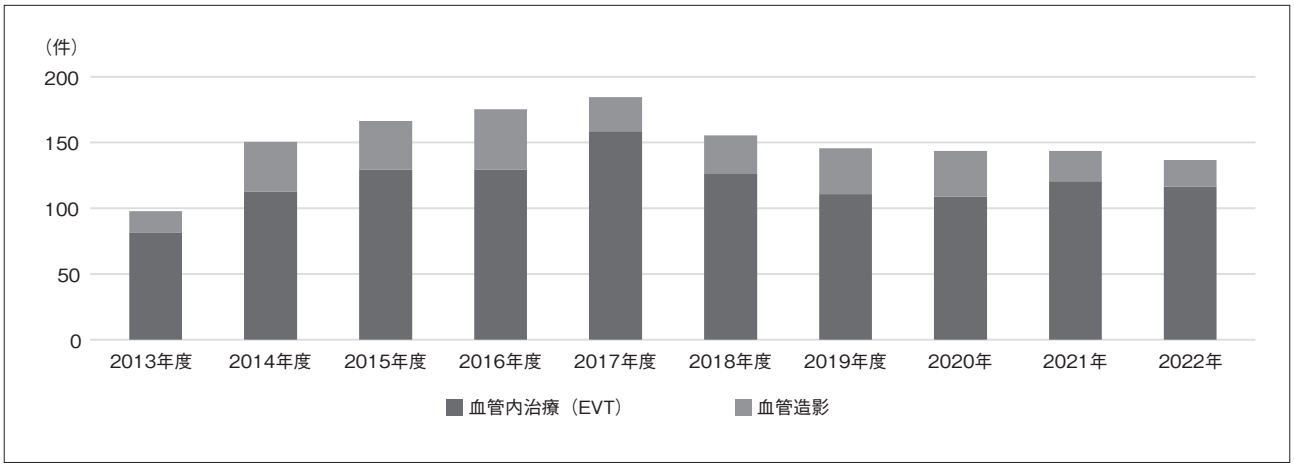


図2．血液造影及び血管内治療の年次推移（2020年以降年報の対象期間が1月1日～12月31日）

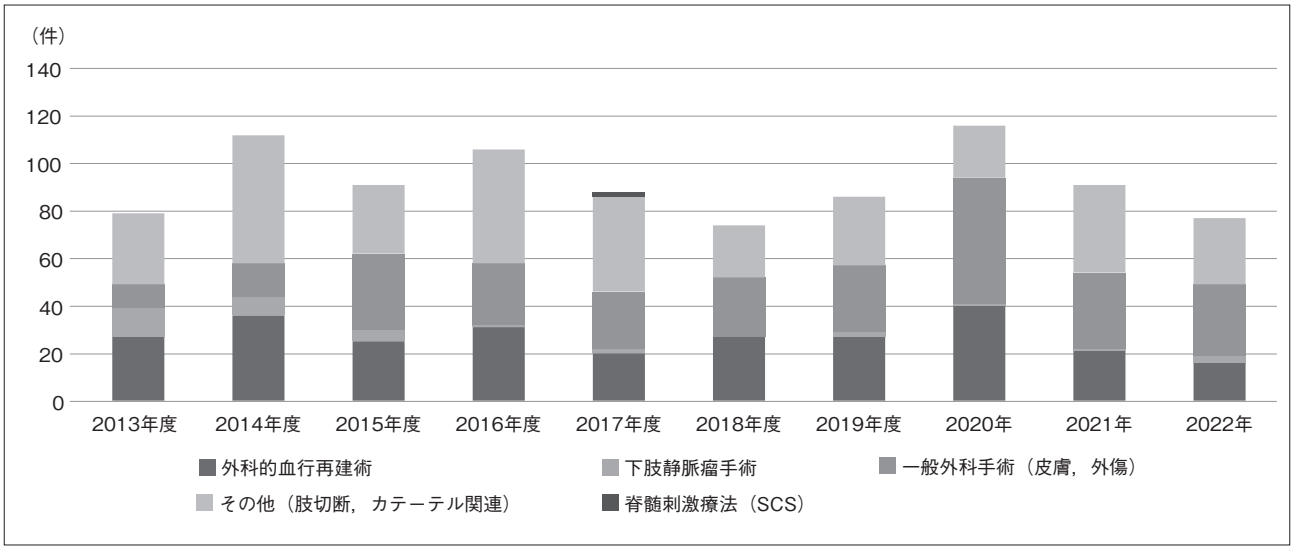


図3．手術症例数の推移（2020年以降年報の対象期間が1月1日～12月31日）

リハビリテーション科

スタッフ紹介

リハビリテーション科
担当副院長　佐藤宗彦
科長　　山口勝生
主任　　松藤勝太
＜理学療法士＞16名
＜作業療法士＞3名
＜言語聴覚士＞2名
＜健康運動指導士＞1名

診療内容

①地域包括ケア病棟の運営
②入院患者のリハビリテーション
③外来患者のリハビリテーション
④透析患者の“いつまでも元気にプロジェクト”
⑤法人内の医療・介護施設と一体化したリハビリテーション運営

2022年のトピックス・実績

①2022年6月から要望の多かった訪問リハビリテーションを開始した．当初より依頼が多くあり，患者満足度の点からも，収益の点からも大きな進歩となっている．
②2020年4月から作業療法士の確保・環境整備により，PT・OT・ST三位一体のリハビリテーション遂行という悲願を達成できた．さらに作業療法士を3名体制に強化した．それにより疾患別リハビリテーションの施設基準が上がり，脳血管・廃用症候群がⅡからⅠとなったので，スタッフのモチベーションという点からも，収益の点からも，大きな進歩となった．
③2020年4月からリハビリテーション室が従来の2倍の広さとなり，窓も大きく，明るく広いリハビリ室となった．さらに3階に移動することにより，病棟からリハビリ室への患者移動の利便性が大きく向上した．これにより患者の満足度も向上している．
④2018年1月より地域包括ケア病棟の施設基準Ⅰを取得した．開設以来，山﨑勇人PTを中心として順調に運営している．
⑤透析患者の健康寿命延伸のため，“いつまでも元気にプロジェクト”という，健康度チェック・生活運動指導を行っている．
⑥誤嚥性肺炎治療プロジェクトの一環として，入院患者の嚥下リハビリテーションにも力を入れている．研修を受けて，吸引実施資格取得したPT4名，ST2名がおり，プロジェクトに貢献している．
⑦腎臓リハビリテーションを行っている．CKDの患者の治療を，リハビリテーションという面からもサポートしており，重要な役割を果たしている．

今後の展望

①作業療法士を4名体制にすることによって，増加している作業療法の需要に応えていく．
②需要の多い訪問リハビリテーションを更に充実する．
③地域包括ケア病棟を更に発展させる．具体的には，様々な部署との連携・家庭訪問などの積極的実施などにより，稼働率100%を達成し，在宅復帰率70%以上をキープする．
④透析患者の健康寿命延伸という目的に対し，リハビリテーション科として，運動・作業・言語聴覚嚥下機能の向上という視点から，三位一体の最大限の貢献を行う．臨床研究も更に推進していく．
⑤腎・糖尿病・骨粗鬆症専門病院として，それぞれ腎臓・糖尿病・骨粗鬆症リハビリテーションに力を入れていく．
⑥病院として誤嚥性肺炎治療に力を入れるとの方針があり，言語聴覚士もチームの一員として最大限のパフォーマンスを発揮する．胃瘻造設術加算施設基準と経口摂取回復促進加算取得を目指す．実績で示した吸引実施資格取得したPTを増やしていく．
⑦愛仁会グループ施設の力添えもあり，リハビリテーション科の人的資源であるスタッフも，年々充実してきている．新たな仲間も増え，お互い切磋琢磨している．モチベーションの高いスタッフが，三位一体となり，明るく広くなったリハビリ室を活かし，ポテンシャルを最大限に発揮していきたい．

リウマチ科

スタッフ紹介

リウマチ科担当副院長　佐藤宗彦
日本リウマチ財団登録ケア看護師　2名

診療内容

関節リウマチ・乾癬・脊椎関節炎患者に対する，投薬・手術・リハビリテーション加療を行っている．

2022年のトピックス・実績

①当院は北摂地域の関節リウマチの拠点病院になっており，600名以上の関節リウマチ・乾癬・脊椎関節炎患者の継続加療を行っており，そのうち約400名に生物学的製剤・JAK阻害剤を使用している．バイオシミラーを含む9種類の生物学的製剤，5種類のJAK阻害剤を患者の症状に応じて，適切に使い分け使用している．

②学術的には，学会研究会発表1件，講演が91件であった．講演を聴いた医師・コメディカルに当院を紹介され初診した患者も多かった．

今後の展望

①北摂地域の関節リウマチの拠点病院の役割を担っていくために，700名以上の関節リウマチ・乾癬・強直性脊椎炎患者の継続加療を目指していく．

②リウマチケアナース，薬剤師，リウマチ科に従事する事務職員など，モチベーションの高いスタッフに恵まれており，“リウマチチーム医療によるリウマチ患者のトータルケアの推進”を基本理念として，臨床でも学術部門でも更なる高みを目指していく．

③医療経済的にも，減薬・スペーシング・バイオシミラーなどの導入により，永続的な高品質の医療を追求していく．

整形外科

スタッフ紹介

整形外科担当副院長　佐藤宗彦

診療内容

①透析整形外科，②関節疾患，③脊椎脊髄疾患，④外傷・骨折，⑤骨粗鬆症に対する診療を行っている．
それぞれに対し，保存加療・手術加療を行っている．

2022年のトピックス・実績

Ⅰ：トピックス

骨粗鬆症に対する有効性が最も高い骨形成促進薬であるロモソズマブは，当院の導入症例が世界で最も多いため，様々な情報発信を行った．

Ⅱ：実績

①手術：件数は月平均16.3件であった．昨年に比べ，膝人工関節・人工骨頭挿入術・股関節周囲骨折・外傷外科の手術が増加した．2019年9月より高槻病院の平中崇文センター長を招聘し，人工膝関節手術をしていただいている．手術時間も驚くほど短く，出血も少量で，侵襲も少なく，患者満足度の高い手術である．

②入院：1日平均入院患者数は，27.2人であった．新型コロナウイルス感染症対応のため，入院制限・救急受け入れを制限せざるを得ない場合もあり，入院患者は変動が大きかった．救急の受け入れを積極的に行っている．吹田周辺には救急を受けて入れている基幹病院が数多くあるが，そのような病院が新型コロナウイルス感染症対応のため，整形外科の救急受け入れを止めているときもあり，手術に結びつくような救急患者の来院数が多く，外傷手術も多かった．

③外来：1日平均外来患者数は，73.1人であった．2017年12月よりDXAが導入され，骨粗鬆外来をスタートし，骨粗鬆患者が著しく増加した．

④学術：和文論文1編，和文総説1編，学会研究会発表4件，講演が59件であった．講演を聴いていただいた医師・コメディカルに当院を紹介され初診した患者も多かった．

今後の展望

①手術：救急を始めとし，前記全ての分野における前進・継続して，手術に繋がる救急を積極的に受け入れていく．平中崇文先生のお力をお借りしたハイレベルな人工膝関節手術，並びに当院の従来からの特色である脊椎手術を多くの患者に提供していく．

②入院：上記の手術目的入院を増やす．継続して，手術に繋がらない救急も積極的に受け入れていく．他院からのリハビリテーション目的，地域包括病棟などへの紹介患者も積極的に受け入れているので，それを継続する．

③外来：救急を始めとし，全ての分野における前進．特にDXAの有効利用による骨粗鬆症患者の増患・個別化精密医療の推進．

④学術：透析整形疾患の研究．一般整形疾患の患者啓発活動の更なる前進．骨粗鬆症研究の推進．

表．手術症例

（単位：件）

症例	件数
手術症例（うち透析患者）｛うち移植患者｝	196（43）
関節外科	113（11）
人工関節　股関節	4（1）
膝関節	37（1）
膝関節再置換術	1
足関節	0
人工骨頭挿入術　股関節	25（3）
股関節周囲骨折整復固定術	29（6）
肩腱板手術	2
膝肩関節滑膜切除半月板手術（鏡視下含む）	11
関節形成術	0
人工関節抜去	0
関節リウマチ足	4
手の外科	18（16）
手根管症候群	13（12）
バネ指	5（4）
腱縫合・移行	0
その他	0

症例	件数
脊椎外科	20（11）
頚椎	5（5）
胸腰椎	0
腰椎	15（6）
外傷外科	27（4）
骨折整復固定術	27（4）
腱縫合術	0
切断術	3
大腿	2
下腿	1
足趾	0
断端形成	0
抜釘術	6
脱臼整復術	5
腫瘍	0
その他	4（1）

Ⅷ

井上病院附属診療所

健診センター
ケアプランセンター
ヘルパーステーション

〒564-0053
大阪府吹田市江の木町14番11号
TEL.06-6386-9525

院長　石津弘視

腎移植外来

スタッフ紹介

非常勤医師：5名
看　護　師：3名　※看護科長は健診センターと兼任
看 護 助 手：1名
移 植 事 務：2名

診療内容

大阪大学医学部附属病院で腎移植手術を受けた後の患者の長期的なフォローアップを行っている．移植腎が長期に生着することを目的とし，移植腎が機能喪失する前に生命を失うことがないよう，癌検診の充実，合併症予防に力を入れている．癌検診に対しては，効率的に検査が受けられるよう，患者ごとに個別的な定期検査スケジュールを計画して実施し，合併症に関しては，早期に専門外来に紹介して介入してもらい，合併症予防に努めている。移植月には患者面談を実施し，自己管理の状況などを確認し，療養生活への支援を行っている．また，移植ドナーのフローアップも行っている．

2022年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の流行により，新型コロナウイルス感染症に罹患する患者も増加した．免疫抑制剤内服中のため，重症化が懸念されたが，多くの患者は自宅療養で軽快した．院内では，発熱時，症状出現時には個室にて隔離し，診療棟での発熱外来の協力を得て検査を実施するなど，外来での環境を整え，院内感染が発生しないよう感染対策を行った．

また，附属診療所の一員として，健診センターの看護スタッフが不安なく移植外来の業務ができるという目標の下，業務改善に取り組み，健診スタッフは全員移植業務ができるようになっている．

今後の展望

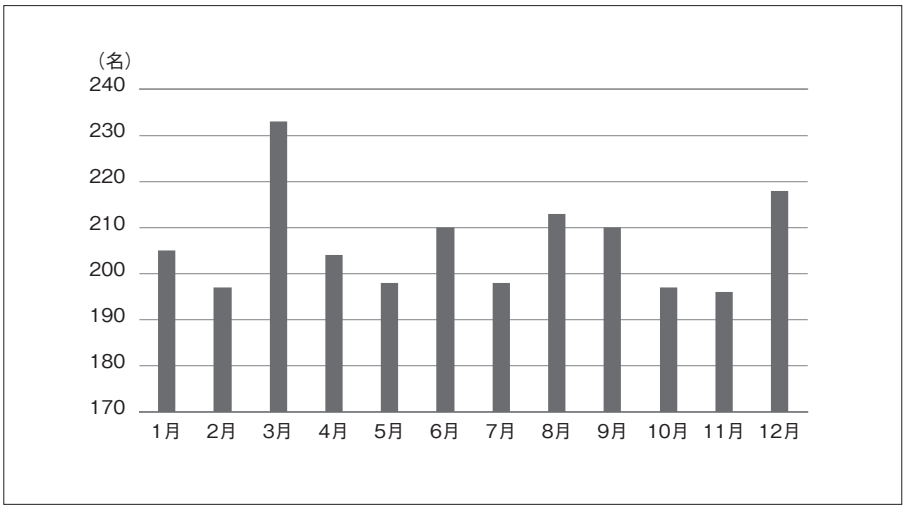
新型コロナウイルス感染症の流行はしばらく継続すると考えられ，引き続き感染対策の継続が必要となる．また，新型コロナウイルス感染後に腎機能が悪化するケースもみられるため，観察の必要性や腎代替療法の介入の時期の検討などが必要である．

今後，井上病院から紹介し，大阪大学医学部附属病院で移植術を受けた患者は，井上病院附属診療所の腎移植外来に紹介されるという流れとなっており，新患を迎えることとなる．スムーズに迎えられるように準備していく必要がある．

表．月間受診者

（単位：名）

	実施率
1月	205
2月	197
3月	233
4月	204
5月	198
6月	210
7月	198
8月	213
9月	210
10月	197
11月	196
12月	218



図．月別外来受診者

Ⅸ

井 上 診 療 所

慢性維持透析
外来透析30床

〒567-0046
大阪府茨木市南春日丘7丁目9番19号
TEL.072-620-0700

院長　辻本大治（～2022年3月）
　　岸本博至（2022年4月～）

井上診療所

スタッフ紹介

今期の人員配置は，以下のとおりであった．

常勤医師2名　　辻本大治院長（3月31日退職），
　　岸本博至院長（4月1日就任）
非常勤医師3名　牧野寛史，眞田文博，中嶋恒男
看護師9名，准看護師2名，看護助手3名
臨床工学技士8名，事務職員2名

診療内容

午前，午後の2クール制で人工透析を実施している．ベッド数は30床で，老健ひまわり入所者への透析治療と近隣の通院患者や老人ホームからの透析患者を受け入れている．

2022年のトピックス・実績

2022年は，4月より院長が交代となり新体制での運営開始となった．隣接する介護老人保健施設ひまわりとの連携体制を強化するために，管理職（看護科長，事務長）が2施設を兼務して，特に看護職員の連携強化を進めた．

2022年4月の診療報酬改定により新設された外来感染対策向上加算Ⅲを6月より算定開始した．9月にはABI機器を導入して，以前より進めてきたフットケアをより充実し，10月よりPAD管理加算の算定を開始した．透析治療では，井上病院心臓内科と連携してレオカーナ治療を積極的に行った．

7月と12月には介護老人保健施設ひまわりで新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し，井上診療所でも多くの陽性者の人工透析を実施したが，感染対策を徹底して，年間通じて透析診療を継続することができた．

職員教育では，職員一人ひとりの目標管理を行い，上長による進捗確認を適宜行った．施設内研修を計画的に実施して，介護老人保健施設ひまわりとの合同勉強会や外部研修への参加を促進した．

2022年の活動実績は，延べ患者数が14,038名（前年13,893名）で前年より145名増加した（図1）．

（※以下（　　）内は前年人数を示す．）

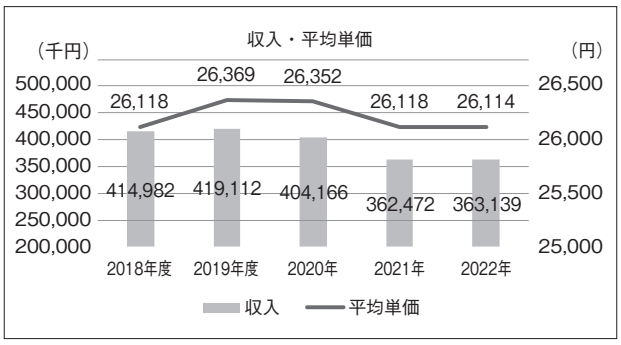
透析患者数では，外来患者数が4,610名（4,870），ひまわり利用者数が9,181名（8,722）で前年よりも透析患者数が増加した（表1）．実人員では外来（通院）患者数31名（33），老健ひまわり利用者数65名（61）で，老健ひまわり利用者の占める割合が増加した．老健ひまわりの透析患者数は増加したが，外来透析患者数が減少傾向で，新規患者の獲得に向けた近隣医療機関や居宅支援事業所への営業活動を老健ひまわりと連携して行った．

2022年の転入は49名（41）で，転出が47名（43）であった（表2）．

今後の展望

ここ数年で培ってきた感染対応力を2023年は定着し，隣接する介護老人保健施設ひまわりとの一体的な運営体制をもとに，井上病院との連携を強化し，透析医療の質の向上を図る．職員一人ひとりが目標をもって自己実現に向けて取り組むことができる職場環境の整備や法人施設との活発な人事交流を進めて，以下の点を重点的に取り組む．

Ⅰ．安定した収入の確保と支出のバランスを保ち，事業の安定継続と収益性を確保する．
Ⅱ．医療度の高い透析患者の療養透析の維持・継続に向けて，介護老人保健施設ひまわりと共同で職員教育と業務の効率化を進める．
Ⅲ．老朽化が進む施設の建物設備を計画的に修繕し，特に耐用年数を超えて使用している透析関連機器を計画的に更新する．
Ⅳ．様々な人材が活躍できる職場環境を整備する．診療所で働く職員がやりがいを持って働くことができるよう多職種連携をもとに職場環境を整備する．



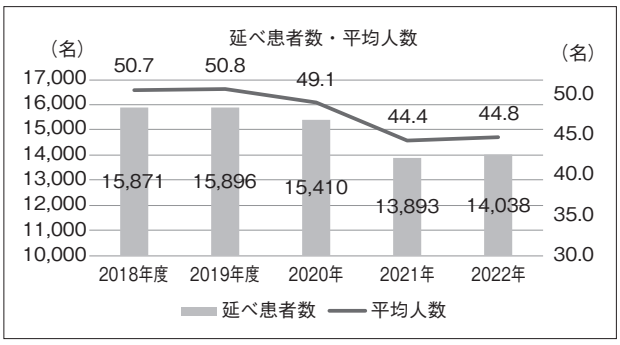


図1．収入と延べ患者数の推移

表１．透析患者数（利用者数）とコンソール1台当たりの生産性

（単位：名）

	外来患者数		ひまわり利用者数		合計	生産性（/1台）	レオカーナ件数
	実人員	延べ数	実人員	延べ数			
2021年合計	407	4,870	729	8,722	13,592	3.1	
2022.1月	33	372	62	741	1,113	3.0	3
2月	34	367	60	672	1,039	3.0	3
3月	33	398	65	766	1,164	3.0	9
4月	34	395	62	736	1,131	2.9	18
5月	32	383	61	736	1,119	2.9	8
6月	31	360	61	777	1,137	3.0	0
7月	32	370	61	746	1,116	3.0	0
8月	32	409	61	708	1,117	2.9	0
9月	32	394	68	778	1,172	2.9	1
10月	31	393	71	845	1,238	3.0	0
11月	31	379	71	846	1,225	3.0	0
12月	31	390	65	830	1,220	3.0	0
2022年合計	386	4,610	768	9,181	13,791	3.0	42

表2．透析患者の転入・転出件数

（単位：件）

	転入				転出			
	井上病院	他病院	その他	合計	井上病院	その他	死亡	合計
2021年合計	17	24	0	41	9	11	23	43
2022年1月	3	1	0	4	1	2	0	3
2月	1	1	0	2	0	1	2	3
3月	2	4	0	6	1	1	0	2
4月	2	1	0	3	3	0	2	5
5月	2	2	0	4	2	3	2	7
6月	1	2	0	3	0	0	4	4
7月	2	1	0	3	0	0	2	2
8月	4	1	0	5	1	1	3	5
9月	5	4	0	9	1	0	1	2
10月	3	4	0	7	1	2	2	5
11月	1	1	0	2	1	0	1	2
12月	0	1	0	1	2	5	0	7
2022年合計	26	23	0	49	13	15	19	47

愛仁会グループ活動統計

愛仁会グループ活動統計（2022年1月～2022年12月）

千船病院

入院

入院延べ患者数

91,835 人

（前年比 95.2 %）

1日平均入院患者数	252 人
新入院患者数	10,485 人
退院患者数	10,474 人
病床稼働率	86.2 %
平均在院日数	7.8 日
入院平均単価	82,758 円

新生児数

延べ新生児数	5,914 人
分娩数	2,357 人

新患者数

初診料算定対象患者数

19,802 人

外来

外来延べ患者数

211,064 人

（前年比 101.8 %）

1日平均外来患者数	869 人
外来平均単価	10,677 円

紹介

開業医紹介数

13,138 件

救急搬送数

5,576 件

入院救急搬送数	1,692 人
外来救急搬送数	3,884 人

手術件数

合計

3,533 件

		泌尿器科	340 件
		整形外科	735 件
内科	19 件	産婦人科	1,547 件
外科	558 件	眼科	217 件
脳神経外科	80 件	耳鼻咽喉科	37 件

剖検数

剖検数	5 件
剖検率	2.9 %

死亡数

死亡数

171 人

尼崎だいもつ病院

入院

入院延べ患者数

70,011 人

（前年比 99.1 %）

1日平均入院患者数	192 人
新入院患者数	1,208 人
退院患者数	1,209 人
病床稼働率	96.4 %
平均在院日数	56.9 日
入院平均単価	38,556 円

新患者数

初診料算定対象患者数

684 人

愛仁会グループ活動統計

外来

外来延べ患者数

5,134 人

（前年比 95.9 %）

1日平均外来患者数	21 人
外来平均単価	11,476 円

紹介

開業医紹介数

1,668 件

剖検数

剖検数	0 件
剖検率	0.0 %

死亡数

死亡数

37 人

高槻病院

入院

入院延べ患者数

163,113 人

（前年比 100.7 %）

1日平均入院患者数	447 人
新入院患者数	15,984 人
退院患者数	15,981 人
病床稼働率	93.7 %
平均在院日数	9.2 日
入院平均単価	86,505 円

新生児数

延べ新生児数	10,200 人
分娩数	995 人

新患者数

初診料算定対象患者数

28,364 人

外来

外来延べ患者数

255,858 人

（前年比 98.6 %）

1日平均外来患者数	1,053 人
外来平均単価	16,652 円

紹介

開業医紹介数

29,657 件

救急搬送数

9,591 件

入院救急搬送数	3,446 人
外来救急搬送数	6,145 人

手術件数

合計

5,376 件

消化器内科	5 件
循環器内科	1 件
呼吸器内科	0 件
糖尿病内分泌内科	0 件
不整脈内科	57 件
小児外科	347 件
呼吸器外科	86 件
心臓血管外科	270 件
消化器外科	600 件
乳腺外科	192 件
脳神経外科	115 件
小児脳神経外科	96 件
泌尿器科	338 件
整形外科	1,126 件
産婦人科	902 件
眼科	828 件
耳鼻咽喉科	10 件
皮膚科	163 件
形成外科	177 件
腎移植科	40 件
小児科	23 件

剖検数

剖検数	3 件
剖検率	0.8 %

死亡数

死亡数

381 人

愛仁会リハビリテーション病院

入　院

入院延べ患者数

92,522 人

（前年比 98.7 %）

1日平均入院患者数	253 人
新入院患者数	1,785 人
退院患者数	1,802 人
病床稼働率	94.2 %
平均在院日数	50.6 日
入院平均単価	42,444 円

新患者数

初診料算定対象患者数

1,505 件

死亡数

死亡数

3 人

外　来

外来延べ患者数

6,046 人

（前年比 124.8 %）

1日平均外来患者数	25 人
外来平均単価	14,590 円

愛仁会しんあいクリニック

外　来

外来延べ患者数

32,098 人

1日平均外来患者数	109 人
外来平均単価	7,651 円

※2021年10月開院

新患者数

初診料算定対象患者数

1,310 人

明石医療センター

入院

入院延べ患者数

127,768 人

（前年比 100.3 %）

1日平均入院患者数	350 人
新入院患者数	11,629 人
退院患者数	11,605 人
病床稼働率	91.6 %
平均在院日数	10.0 日
入院平均単価	82,077 円

新生児数

延べ新生児数	1,950 人
分娩数	844 人

新患者数

初診料算定対象患者数

20,204 人

外来

外来延べ患者数

148,905 人

（前年比 102.8 %）

1日平均外来患者数	613 人
外来平均単価	19,112 円

紹介

開業医紹介数

14,315 件

救急搬送数

5,167 件

入院救急搬送数	2,889 人
外来救急搬送数	2,278 人

手術件数

合計

3,256 件

内科	5 件
消化器内科	16 件
循環器内科	90 件
外科	932 件
泌尿器科	0 件
整形外科	777 件
心臓血管外科	480 件
呼吸器外科	152 件
産婦人科	804 件

剖検数

剖検数	4 件
剖検率	1.0 %

死亡数

死亡数

382 人

井上病院

入院

入院延べ患者数

33,194 人

（前年比 91.3 %）

1日平均入院患者数	91 人
新入院患者数	1,779 人
退院患者数	1,795 人
病床稼働率	71.6 %
平均在院日数	17.6 日
入院平均単価	57,755 円

新患者数

初診料算定対象患者数

5,129 人

外　来

外来延べ患者数

57,749 人

（前年比 101.1 %）

1日平均外来患者数	196 人
外来平均単価	21,227 円

紹　介

開業医紹介数

2,327 件

手術件数

合計

808 件

外科	258 件	血管外科	90 件
整形外科	193 件	麻酔科	0 件
泌尿器科	57 件		
眼科	102 件		
内科	108 件		

学術業績集

千船病院

口頭発表（2022/1/1 ～ 2022/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科（課）	発表者
1	第10回日本婦人科ロボット手術学会	ロボット支援下子宮全摘術における開脚位での効率的な経腟回収法	'22/1	Web	産婦人科	北口智美，大木規義，中村達矢，小川史子，城　道久，安田立子，稲垣美恵子，村越　誉，岡田十三，吉田茂樹
2	第10回日本婦人科ロボット手術学会	ロボット子宮全摘術における良好な術野の作り方　－30度斜視鏡の見上げ，見下げの使い分け－	'22/1	Web	産婦人科	大木規義，小川史子，北口智美，城　道久，安田立子，稲垣美恵子，村越　誉，岡田十三，吉田茂樹
3	第43回日本手術医学会	講演：感染症用陰圧手術室と一般手術室の空調や設備	'22/1	大阪市	麻酔科，手術中材センター	水谷　光
4	第40回周産期学シンポジウム	在胎週数から見たハイリスク児　積極的治療を行った在胎22週，23週児の予後の検討	'22/2	横浜市（Web）	小児科	長坂美和子[1)]，横田知之 1）高槻病院新生児科
5	第285回小児科学会兵庫県地方会	生後早期の新生児メレナとして発症したビタミンK欠乏性出血症	'22/2	神戸市（Web）	小児科	上田浩嗣，野間瑞希，桝田千晶，住吉倫卓，古林真佐美，井上翔太，榎本真由子，藤坂方葉，木原沙紀，水野洋介，横田知之，牟禮岳男，西野昌光，吉井勝彦
6	第285回小児科学会兵庫県地方会	陰唇癒合が原因と考えられた尿路感染症を呈した5カ月女児例	'22/2	神戸市（Web）	小児科	野間瑞希，上田浩嗣，桝田千晶，住吉倫卓，古林真佐美，井上翔太，榎本真由子，藤坂方葉，木原沙紀，水野洋介，横田知之，牟禮岳男，西野昌光，吉井勝彦
7	高槻病院遺伝診療カンファレンス	分娩時の子宮破裂から血管型エーラスダンロス症候群（vEDS）が疑われた例	'22/2	高槻市	産婦人科	村越　誉
8	婦人科内視鏡下手術Webinar	ロボットTLHにおける術野展開の工夫「側方 + 後方アプローチの有用性」	'22/2	Web	産婦人科	大木規義
9	第10回麻酔科医のための産科麻酔プロフェッショナルセミナー	【教育講演】 無痛分娩からみた医療安全～患者，職種間アンケートから見えてきたもの～	'22/2	Web	産婦人科	岡田十三
10	阪神間Endoscopy Webinar	Total Robotic Hysterectomy（TRH）における後方アプローチの有用性	'22/2	Web	産婦人科	大木規義
11	日総合研セミナー	胎児心拍数モニタリング判読ざんまい	'22/2	Web	産婦人科	岡田十三
12	第42回日本肥満学会，第39回日本肥満症治療学会学術集会	スリーブ術後GERDに対する修正RY胃バイパス術の短期成績	'22/3	横浜市	外科	北浜誠一，三原俊彦，桃野鉄平，大浦康宏，山元康義，向井友一郎，住谷充弘，大島令子，岡亜希子，中島進介
13	第27回日本災害医学会総会，学術集会	災害時の妊産婦支援	'22/3	広島市	救急診療部	山下公子
14	第235回日本内科学会近畿地方会	子宮体癌術後カルボプラチン使用を契機に発症した低Na血症の一例	'22/3	Web	糖尿病内分泌内科	大島令子
15	第235回日本内科学会近畿地方会	炭酸リチウム内服中止後も遷延した腎性尿崩症にトリクロルメチアジドが有効であった一例	'22/3	Web	糖尿病内分泌内科	好木康明

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
16	第1回日本周産期麻酔科学会	中規模病院におけるCOVID-19妊婦対応の現状	'22/3	吹田市	麻酔科	松尾佳代子，魚川礼子，大山泰幸，星野和夫，角　千里，水谷　光
17	第1回日本周産期麻酔科学会	SHiPにより大量出血をきたした母体を救命し得た2症例	'22/3	吹田市	麻酔科	星野和夫，魚川礼子，森本優佳子，角　千里，大山泰幸，水谷　光，松尾佳代子
18	第1回日本周産期麻酔科学会	切迫早産に対する塩酸リトドリンによる治療中に横紋筋融解症を疑われ緊急帝王切開となった症例	'22/3	吹田市	麻酔科	森本優佳子，魚川礼子，角　千里，星野和夫，水谷　光
19	第1回日本周産期麻酔科学会	インストラクター：ハンズオンセミナー「無痛分娩を始めようとしている麻酔科医向けハンズオンセミナー：基本手技からトラブルシューティングまで」	'22/3	吹田市	麻酔科	角　千里
20	第9回日本区域麻酔学会	シンポジウム：ありがたい！けど，できれば受けたくはないブロック「自分で区域麻酔を受けたことのある麻酔科医」	'22/4	宜野湾市	麻酔科	魚川礼子
21	第65回日本糖尿病学会年次学術集会	オランザピン内服中にSARS-CoV-2ワクチン接種後発症した糖尿病性ケトアシドーシスの一例	'22/5	神戸市	糖尿病内分泌内科	大江晃央
22	第65回日本糖尿病学会年次学術集会	Glycogenic Hepatopathyによると考えられる著明な肝腫大を伴った若年1型糖尿病の一例	'22/5	神戸市	糖尿病内分泌内科	岡 亜希子
23	第20回兵庫県産婦人科内視鏡手術懇話会	直腸癌腟転移に対して消化器外科との合同手術にて腹腔鏡下広汎子宮全摘術で腫瘍を完全摘出した症例	'22/5	神戸市	産婦人科	瀧川　若，大木規義，大浦康宏，山元康義，北井沙和，北　采加，吉田茂樹
24	第47回日本外科系連合学会学術集会	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後GERDに対する修正手術	'22/6	盛岡市	外科	北浜誠一，三原俊彦，大浦康宏，山元康義，向井友一郎
25	日本頭痛学会主催 Headache Master school Japan 2022 Spring Semester	女性のライフステージを考慮した頭痛治療薬の使い方	'22/6	Web	産婦人科	稲垣美恵子
26	第95回日本内分泌学会学術総会	グルカゴン負荷試験によるスリーブ状胃切除術後の2型糖尿病寛解予測	'22/6	別府市	糖尿病内分泌内科	中島進介
27	第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	入院時Geriatric Nutritional Risk Indexは高齢心不全入院患者のフレイル改善に関連する	'22/6	沖縄市	リハビリテーション科，循環器内科	氏家康友，小宗英貴，白岩梨紗，成原智子，住谷充弘，尾崎正憲
28	栄養フォーラム	愛仁会千船病院における早産児の栄養管理の現状 ～経管栄養2時間ごと施設からの報告～	'22/6	神戸市	小児科	横田知之
29	第146回近畿産科婦人科学会学術集会	帝王切開時の「肩甲難産」に経腟分娩時のSchwartz法を応用し児を娩出した1例	'22/6	京都市	産婦人科	小倉直子，城　道久，小川史子，安田立子，岡田十三，吉田茂樹
30	第146回近畿産科婦人科学会学術集会	レボノルゲストレル放出子宮内システムが短時間で腹腔内へ迷入し腹腔鏡で回収した1例	'22/6	京都市	産婦人科	河谷春那，城　道久，稲垣美恵子，北井沙和，北口智美，北　采加，大木規義，吉田茂樹
31	第69回麻酔科学会	シンポジウム：帝王切開術における脊髄くも膜下麻酔後血圧低下への輸液戦略「帝王切開術の術中低血圧対策：あなたは何を優先する？」	'22/6	神戸市	麻酔科	角　千里
32	Aimovig Premium Symposium	女性のライフイベントを考慮した片頭痛治療	'22/6	東京都	産婦人科	稲垣美恵子
33	第58回日本周産期，新生児医学会学術集会	妊娠第2期に発症し亜急性に経過したSpontaneous Hemoperitoneum in Pregnancy（SHiP）	'22/7	横浜市	産婦人科	伊賀川奨大，稲垣美恵子，三木玲奈，城　道久，安田立子，大木規義，村越　誉，岡田十三，吉田茂樹

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
34	第58回日本周産期，新生児医学会学術集会	無痛分娩に対する産婦人科医/麻酔科医/助産師の意識調査	'22/7	横浜市	産婦人科	岡田十三
35	第58回日本周産期，新生児医学会学術集会	atretic cephaloceleを認めた早産児の一例	'22/7	横浜市	小児科	石村怜子，横田知之，国本一輝，福田祥直，榎本真由子，藤坂方葉，木原沙紀，水野洋介，牟禮岳男，西野昌光，吉井勝彦
36	第58回日本周産期，新生児医学会学術集会	尿道下裂，超音波所見から早期に診断しえたMIRAGE症候群のSGA児例	'22/7	横浜市	小児科	福田祥直，横田知之，国本一輝，横山陽子，榎本真由子，藤坂方葉，木原沙紀，水野洋介，牟禮岳男，西野昌光，吉井勝彦
37	第24回西淀小児科懇話会	カポジ水痘様発疹症との鑑別を要したeczema coxsackiumの一例	'22/7	大阪市	小児科	森脇彩賀，近藤瑠乃，池田茂生，上地高志，石村怜子，野間瑞希，国本一輝，住吉倫卓，井上翔太，古林真佐美，榎本真由子，藤坂方葉，木原沙紀，水野洋介，横田知之，牟禮岳男，西野昌光，吉井勝彦
38	第24回西淀小児科懇話会	腸重積との鑑別を要した回腸末端炎	'22/7	大阪市	小児科	近藤瑠乃，池田茂生，上地高志，森脇彩賀，石村怜子，野間瑞希，国本一輝，住吉倫卓，井上翔太，古林真佐美，榎本真由子，藤坂方葉，木原沙紀，水野洋介，横田知之，牟禮岳男，西野昌光，吉井勝彦
39	第74回日本産科婦人科学会	AP療法が奏功した再発未分化子宮肉腫の1例	'22/8	福岡市	産婦人科	北口智美，吉田茂樹，光岡真優香，小川史子，二木ひとみ，小倉直子，河谷春那，北　采加，三木玲奈，北井沙和，大木規義，村越　誉
40	第74回日本産科婦人科学会	経腟分娩後，産褥10日目に診断した遅発性の外陰血腫の1例	'22/8	福岡市	産婦人科	吉武壮生舜，城　道久，胡　脩平，安田立子，岡田十三，吉田茂樹
41	第74回日本産科婦人科学会	妊娠中に発症し，子宮内膜症関連のSHiPと鑑別を要した脾動脈破裂の1例	'22/8	福岡市	産婦人科	光岡真優香，城　道久，北　采加，安田立子，吉田茂樹
42	第74回日本産科婦人科学会	多発子宮筋腫による妊娠後屈子宮嵌頓症に対し術中超音波検査を行い安全に帝王切開術を実施できた1例	'22/8	福岡市	産婦人科	中村達矢，城　道久，小川史子，大木規義，安田立子，岡田十三，吉田茂樹
43	第74回日本産科婦人科学会	卵巣腫瘍茎捻転に対する術前CT値と病理学的壊死出血に関する後ろ向き研究	'22/8	福岡市	産婦人科	胡　脩平，安田立子，大木規義，稲垣美恵子，村越　誉，岡田十三，吉田茂樹，本山　覚
44	第32回機器と感染カンファレンス	講演：医療者が理解すべき洗浄滅菌の基本事項	'22/8	大分市	麻酔科，手術中材センター	水谷　光
45	日本排尿機能学会	高度肥満症における減量手術前後の下部尿路症状の変化	'22/9	札幌市	泌尿器科	新開康弘
46	第68回日本麻酔科学会関西支部学術集会	無痛分娩後に判明した下肢神経障害の1例	'22/9	Web	麻酔科	仲野有紀，魚川礼子，角　千里，水谷　光，奥谷　龍
47	第68回日本麻酔科学会関西支部学術集会	術後再挿管となった輪状披裂関節炎合併関節リウマチ患者の一症例	'22/9	Web	麻酔科	藤間凡未，池田慈子

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
48	第41回産婦人科漢方研究会学術集会	月経前症候群と診断した更年期ならびにその周辺女性患者に関する検討	'22/9	京都市	産婦人科	稲垣美恵子
49	第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	卵管流水腫に対する卵巣機能に配慮した腹腔鏡下卵管切除術 －たかが卵管切除，されど卵管切除その1	'22/9	横浜市	産婦人科	北口智美，佐伯　愛，大木規義，北　采加，北井沙和，城　道久，安田立子，村越　誉，岡田十三，吉田茂樹
50	第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	高度癒着症例での腹腔鏡下卵管切除術 －たかが卵管切除，されど卵管切除その2	'22/9	横浜市	産婦人科	佐伯　愛，北口智美，大木規義，北　采加，北井沙和，城　道久，安田立子，稲垣美恵子，村越　誉，岡田十三
51	第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	腹腔鏡下子宮筋腫核出術における適切な筋層縫合の習得 －手技のポイント－	'22/9	横浜市	産婦人科	北　采加，佐伯　愛，北口智美，大木規義，吉田茂樹
52	第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	ダヴィンチ手術時代の子宮全摘攻略法－腹腔鏡下手術の次に進むために－	'22/9	横浜市	産婦人科	大木規義
53	第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	経腟分娩後の子宮峡部菲薄化に伴う過長月経に対し，腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術を施行した1例	'22/9	横浜市	産婦人科	三浦穂乃果，大木規義，徳永詩音，城　道久，稲垣美恵子，村越　誉，吉田茂樹
54	日本手術看護学会近畿地区セミナー	麻酔セミナー 応用編：手術室看護師に必要な麻酔，疼痛管理の知識	'22/9	大阪市	麻酔科，手術中材センター	水谷　光
55	西淀川区医師会学術講演会	シミュレーショントレーニングから見た産科救急医療　～ガラパゴス化からの脱却～	'22/9	大阪市	産婦人科	岡田十三
56	第20回日本消化器外科学会大会	Meckel憩室穿孔の診断率を考察した1手術例	'22/10	福岡市	外科	三原俊彦，北浜誠一，大浦康宏，山元康義，向井友一郎
57	日総研セミナー	CTGが分かれば，胎児の様子が見えてくる　胎児心拍数モニタリング判読ざんまい	'22/10	大阪市	産婦人科	岡田十三
58	第50回日本救急医学会総会，学術集会	HuMAでの災害時要支援者への支援活動	'22/10	東京都	救急診療部	山下公子
59	第4回女性骨盤外科鏡視下手術セミナー	【特別口演】「基靭帯切離からの逆算　TLH膜解剖戦略の言語化と定型化」	'22/10	福岡市	産婦人科	大木規義
60	東播磨婦人科手術手技	【一般口演】「ロボット手術時代の子宮全摘攻略法」	'22/10	兵庫県	産婦人科	大木規義
61	第8回日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会	胎児腹腔内臍帯静脈瘤を認めた21トリソミーの1例	'22/10	新潟市	産婦人科	村越　誉，小川史子，岡田十三，春藤　望，玉置知子
62	第8回日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会	血管型エーラスダンロス症候群が疑われた非瘢痕性子宮破裂の1例	'22/10	新潟市	産婦人科	村越　誉，小川史子，岡田十三，春藤　望，玉置知子
63	第51回日本医療福祉設備学会	講演：滅菌供給部門の施設基準 －WHOと日本医療機器学会の基準を参考に	'22/10	東京都	麻酔科，手術中材センター	水谷　光
64	7th IFSO APC Meeting2022	Results of Metabolic surgery for supermobid obesity in Japanese patients	'22/11	Manila	外科	Seiiichi KITAHAMA, Toshihiko MIHARA, Yasuhiro OHURA, Yasuyoshi YAMAMOTO, Tomoichirou MUKAI
65	第50回日本頭痛学会総会	妊娠期の慢性頭痛の特徴と周産期合併症の検討	'22/11	東京都	産婦人科	河谷春那，稲垣美恵子

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
66	日本頭痛学会主催 Headache Master school Japan 2022 Autumn Semester	女性のライフステージを考慮した頭痛治療薬の使い方	'22/11	Web	産婦人科	稲垣美恵子
67	第7回ALSO Japan学術集会	産科病棟の崩壊と再生への道のり	'22/11	Web	産婦人科	岡田十三
68	第42回日本臨床麻酔学会	妊娠性痒疹により硬膜外麻酔を断念した1例	'22/11	京都市	麻酔科	魚川礼子，奥谷　龍，大山泰幸，水谷　光，角　千里，星野和夫
69	第42回日本臨床麻酔学会	無痛分娩の分娩促進中に子宮破裂をきたし，緊急帝王切開を行った1例	'22/11	京都市	麻酔科	日下真美子，魚川礼子，大山泰幸，星野和夫，藤田和子，水谷　光，奥谷　龍
70	ウドノ座談会	座談会：低温滅菌の将来展望－EOG滅菌の代替法を考える	'22/11	東京都	麻酔科，手術中材センター	高階雅紀，深柄和彦，久保田英雄，水谷　光
71	第16回神戸内科学セミナー	肥満心筋症疑い心不全症例の検討	'22/11	神戸市	循環器内科	東　祐介，黒瀬　潤，濱田晶子，板垣　毅，二宮幸三，尾崎正憲
72	第37回女性医学学会学術集会	各ライフステージで考える女性診療で良く遭遇する頭痛	'22/11	米子市	産婦人科	稲垣美恵子
73	第50回日本頭痛学会総会	【プレコングレスセミナー】Aiming for a Healthy Life and Pregnancy for Women with Migraine Do You Know Preconception Care?	'22/11	東京都	産婦人科	稲垣美恵子
74	第50回日本頭痛学会総会	【ワークショップ】片頭痛におけるエストロゲンの役割と治療オプション	'22/11	東京都	産婦人科	稲垣美恵子
75	第126回日本産科麻酔学会	講演：助産師も知っておくべき昇圧薬の使い分け―エフェドリンとネオシネジンのどちらか一択ではない！	'22/11	浜松市	麻酔科	魚川礼子
76	第126回日本産科麻酔学会	シンポジウム：安全に，快適に，みんなで行うには？「無痛分娩からの緊急帝王切開」	'22/11	浜松市	麻酔科	村松　愛
77	第43回日本肥満学会，第40回日本肥満症治療学会学術集会	減量・代謝改善手術の臨床留学について	'22/12	那覇市	外科	北浜誠一
78	第43回日本肥満学会，第40回日本肥満症治療学会学術集会	減量・代謝改善手術に際しフォーミュラ食利用が奏功した症例	'22/12	那覇市	外科	北浜誠一，田中理恵子
79	第43回日本肥満学会，第40回日本肥満症治療学会学術集会	腹腔鏡下修正スリーブバイパス術後の十二指腸空腸縫合不全への対処法	'22/12	那覇市	外科	北浜誠一
80	第43回日本肥満学会，第40回日本肥満症治療学会学術集会	バイパス合併症対策 revision 必要性 臨床の実際	'22/12	那覇市	外科	北浜誠一
81	第43回日本肥満学会，第40回日本肥満症治療学会学術集会	減量手術における臨床工学技士のスコピスト業務参入	'22/12	那覇市	臨床工学科	松尾　悠，北浜誠一
82	第43回日本肥満学会，第40回日本肥満症治療学会学術集会	減量・代謝改善手術を契機に喘息コントロールが改善した肥満喘息の1例	'22/12	那覇市	研修医	井上拓弥，住谷充弘，北浜誠一，中島進介，影山智子，小林基子，羽鳥広隆，岡亜希子，住平　望，奥村あゆ，田中理恵子，住所美沙季，平井麻衣子
83	第238回日本内科学会近畿地方会	SARS-CoV-2ワクチン接種後に糖尿病性ケトアシドーシスで発症した劇症1型糖尿病の一例	'22/12	Web	糖尿病内分泌内科	羽鳥広隆

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
84	第25回大阪西部地域連携合同研究会	当院における脳神経外科の取り組み～脳血管疾患を中心に～	'22/12	大阪府	脳神経外科	千田大樹
85	第43回日本肥満学会学術集会	高度肥満患者における血清IGF-1濃度についての検討	'22/12	那覇市	糖尿病内分泌内科	中島進介
86	第43回日本肥満学会学術集会	高度肥満症に対するスリーブ状胃切除術後にGH分泌の改善を認めた2例	'22/12	那覇市	糖尿病内分泌内科	影山智子
87	第43回日本肥満学会学術集会	糖脂質負荷試験によるスリーブバイパス術の糖脂質代謝の改善効果の検討	'22/12	那覇市	糖尿病内分泌内科	小林基子
88	第16回エンドメトリオーシスフォートラグ	子宮内膜症における術野展開の工夫－尿管剥離のメルクマールについて考える－	'22/12	大阪府	産婦人科	大木規義
89	日本人類遺伝学会第67回大会	軽度の大動脈弁狭窄および肺動脈弁狭窄と三角頭蓋を契機にSHORT症候群と診断された一例	'22/12	横浜市	産婦人科	四本由郁，原田敦子，中田有紀，立花久嗣，村越　誉，稲葉　慧，和田敬仁，小杉眞司，小崎健次郎，玉置知子
90	第5回神戸内科疾患学術集談会	経口糖脂質負荷試験によるスリーブバイパス術の糖脂質代謝の改善効果の検討	'22/12	Web	糖尿病内分泌内科	小林基子

論文発表（2022/1/1 ～ 2022/12/31）

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
1	日本臨床外科学会雑誌	乳房に転移した中枢神経系悪性リンパ腫の1例	83	1565-1569, 2022	外科	向井友一郎，桃野鉄平，三原俊彦，北浜誠一，大浦康宏，山元康義
2	手術	透視下大腸内視鏡検査の施行で腹腔鏡下人工肛門造設術が奏功した慢性特発性大腸偽性腸閉塞症の1症例	76	1353-1361, 2022	外科	三原俊彦，北野智美，桃野鉄平，大浦康宏，山元康義，向井友一郎
3	小児内科	アルドステロン高値により診断に至った早産児の偽性低アルドステロン症1型の1例	54(1)	237-241, 2022	小児科	角谷哲基，牟禮岳男，河野一誠，武田紗季，住吉倫卓，榎本真由子，藤坂方葉，水野洋介，下村真由美，西野昌光，野津寛大，飯島一誠，吉井勝彦
4	日本新生児成育医学会雑誌	超早産児に対する一酸化窒素吸入療法に関する多施設共同実態調査	34(1)	93-100, 2022	小児科	岩谷壮太（兵庫県立こども病院），横田知之
5	周産期医学	不妊治療と総合病院NICU	52(3)	403-406, 2022	小児科	住吉倫卓，横田知之
6	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌	腹腔鏡下子宮全摘術の際に予防的卵管摘出を行い，左卵管采に稀な頸管内膜症を認めた1例	38(1)	93-96, 2022	産婦人科	城　道久，大木規義，荻本圭祐，北　采加，北口智美，村越　誉，渡邊隆弘，吉田茂樹
7	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌	閉経後に生じた単房性卵巣腫瘍茎捻転を良性の診断で腹腔鏡下に摘出し，後に卵巣高異型度漿液性癌と診断した1例	38(2)	65-69, 2022	産婦人科	城　道久，大木規義，細川雅代，荻本圭祐，北　采加，北口智美，名方保夫，吉田茂樹
8	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌	レボノルゲストレル放出子宮内システムが短時間で子宮筋層内から腹腔内へ迷入し，腹腔鏡下手術で安全に回収した1例	38(2)	87-93, 2022	産婦人科	河谷春那，城　道久，稲垣美恵子，北井沙和，北口智美，北　采加，大木規義，吉田茂樹

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
9	産科と婦人科	同側卵巣から発生した3種類の良性腫瘍に対し腹腔鏡下手術を施行した1例	89(6)	676-679, 2022	産婦人科	細川雅代，小倉直子，北　采加，三木玲奈，北口智美，村越　誉
10	産婦人科の進歩	重複腎盂尿管を術前に診断し全腹腔鏡下子宮全摘術を安全に施行できた2例	74(3)	343-350, 2022	産婦人科	加嶋洋子，稲垣美恵子，北口智美，嶋村卓人，北井沙和，城　道久，大木規義，吉田茂樹
11	愛仁会医学研究誌	子宮仮性動脈瘤における臨床的背景と治療法選択に関する後方視的検討	54	5-9, 2022	産婦人科	米田圭明，吉田茂樹，城　道久，苔原つばさ，二木ひとみ，大木規義，村越　誉，前田哲雄，岡田十三
12	愛仁会医学研究誌	無頭蓋症に両上下肢の拇指欠損症を伴った稀な1例	54	48-50, 2022	産婦人科	荒木裕子，岡田十三，城　道久，大木規義，安田立子，稲垣美恵子，村越　誉，吉田茂樹
13	Case Reports in Women's Health	Epithelioid leiomyoma of the uterus: A case report with magnetic resonance imaging findings.	34	e00386, 2022	産婦人科	Kita A, Maeda T, Kitajima K, Murakoshi H, Watanabe K, Inagaki M, Yoshida S
14	British Journal of Radiology case reports	A vaginal fibroepithelial stromal polyp: a case report with magnetic resonance images.	8	20210189, 2022	産婦人科	Ogura N, Inagaki N, Yasuda R, Yoshida S, Maeda T
15	Edometrium Journal of Gynecology and Obstetrics	Cesarean Scar Pregnancy Mimicking a Pseudo-Gestational Sac: A Case Report with Magnetic Resonance Imaging Findings	7	5-9, 2022	産婦人科	Futaki H, Oki N, Maeda T, Kashima Y, Inagaki M, Yoshida S
16	ハイカラプライマリケアジャーナル　治療	どこが変わった？どこを変えない？知りたいがわかる頭痛診療　シチュエーション別　産婦人科でよくみる頭痛	104(8)	981-986, 2022	産婦人科	稲垣美恵子
17	Int J Obstet Anesth	Fetal outcomes with and without the use of sugammadex in pregnant patients undergoing non-obstetric surgery: A multicenter retrospective study	53	103620, 2022	麻酔科	Noguchi S, Iwasaki H, Shiko Y, Kawasaki Y, Ishida Y, Shinomiya S, Ono Uokawa R, Mazda Y
18	医療機器学	滅菌技術の医療現場への適用の歴史－その起源と日本への導入－	92(6)	611-6, 2022	麻酔科，手術中材センター	栗原靖弘，水谷　光
19	救急医学	消毒と滅菌に関する用語解説	46(1)	97-104, 2022	麻酔科，手術中材センター	水谷　光
20	医療機器学	医師として，滅菌供給部門の責任者として，第1種滅菌技師としてガイドラインと評価ツールに期待すること	92(1)	64-9, 2022	麻酔科，手術中材センター	水谷　光
21	日本手術医学会誌	論文投稿のすすめ	43(1)	108-11, 2022	麻酔科，手術中材センター	長瀬　清，谷口雄司，水谷　光，赤沼裕子，秋葉由美，梅下浩司，粕田晴之，倉藤晶子，酒井順哉，佐藤澄子，柴田ゆうか，高階雅紀，髙橋典彦，谷合信彦，徳山　薫，鳥羽好恵，中田精三，丹羽康則，針原　康，堀江久永，前田　浩，山口　円，渡邉　学
22	LiSA	COVID-19陽性患者の帝王切開－マンパワーを含めたリソースを見極めた上で方針決定を	29(2)	118-20, 2022	麻酔科	松尾佳代子，水谷　光
23	3M Times	過酸化水素ガス滅菌の上手な付き合い方	34	1-4, 2022	麻酔科，手術中材センター	齋藤　篤，水谷　光

学術業績集

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
24	LiSA	心電図Basics モニター心電図は12誘導心電図とどう違う？－手術室で見張るか，検査室で記録するか	29(4)	348-52, 2022	麻酔科	水谷　光
25	LiSA	リアル症例カンファレンス in Zoom「脊椎手術直後の急変」	29(5)	413-24, 2022	麻酔科	水谷　光，穴田夏樹，桐山有紀，内藤祐介，松岡　豊，髙木(宮本)美希，山崎広之
26	LiSA別冊春号	痙攣してるーセンセー早く来てー－局所麻酔薬中毒	29(別冊)	115-20, 2022	麻酔科	水谷　光
27	感染対策ICTジャーナル	感染制御における再生処理の重要性－最新ガイドラインから読み解くチェックポイント	17(3)	181-5, 2022	麻酔科，手術中材センター	水谷　光
28	Supplysm	施設基準制定を見据えた滅菌供給部門の提案	14	1-7, 2022	麻酔科，手術中材センター	水谷　光
29	オペナーシング	アイ ラブ オペナース－忘れられない手術室看護師－プロ中のプロは黙って静かに仕事する	37(11)	1027, 2022	麻酔科	水谷　光
30	LiSA	リアル症例カンファレンス in Zoom「肥満，喘息があり，禁煙もできない患者の子宮全摘術」	29(9)	815-23, 2022	麻酔科	黒岩香里，芝順太郎，桐山有紀，白石としえ，髙木美希，水谷　光
31	LiSA	監修：徹底分析シリーズ「手術室の放射線防護できていますか？」	29(11)	1067-107, 2022	麻酔科，手術中材センター	水谷　光

著書発表 (2022/1/1 ～ 2022/12/31)

No.	著　書　名	出版社，地名	版，刷	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
1	新版助産業務要覧第 3 版 Ⅲ アドバンス編 院内助産，助産師外来	日本看護協会出版／東京		60-67, 2022	産婦人科	岡田十三
2	これだけは押さえておこう 妊婦，授乳婦，妊活中の片頭痛治療 jmed mook「頭痛の診療ガイドライン 2021」準拠 ジェネラリストのための頭痛マスター	日本医事新報社／東京（竹島多賀夫編）		55-60, 2022	産婦人科	稲垣美恵子
3	医療現場における滅菌保証のための施設評価ツール	日本医療機器学会／東京		webページ, 2022	麻酔科，手術中材センター	滅菌管理業務検討委員会 深柄和彦，石田克之，市橋友子，大川博史，奥野雅士，川上千森，久保木修，久保田英雄，児玉要輔，齋藤　篤，酒井大志，下前　恵，高階雅紀，藤島宏美，藤田　敏，林　有香，水谷　光
4	イラストでよくわかるはじめての洗浄，消毒，滅菌ラウンド	スリーエム ジャパン株式会社／東京		webページ, 2022	麻酔科，手術中材センター	滅菌管理業務検討委員会 深柄和彦，石田克之，市橋友子，大川博史，奥野雅士，川上千森，久保木修，久保田英雄，児玉要輔，齋藤　篤，酒井大志，下前　恵，高階雅紀，藤島宏美，藤田　敏，林　有香，水谷　光

その他（2022/1/1 ～ 2022/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
1	DUAL Seminar in Osaka	座長：新たな糖尿病治療薬イメグリミンについて	'22/1	Web	糖尿病内分泌内科	中島進介
2	Diabetes Online Seminar	座長：循環器医からみた糖尿病治療の転換	'22/3	Web	糖尿病内分泌内科	中島進介
3	第1回日本周産期麻酔科学会	コーディネーター：ハンズオンセミナー「無痛分娩を始めようとしている麻酔科医向けハンズオンセミナー：基本手技からトラブルシューティングまで」	'22/3	吹田市	麻酔科	魚川礼子
4	第1回日本周産期麻酔科学会	座長：産科出血	'22/3	吹田市	麻酔科，手術中材センター	笠置益弘，水谷　光
5	第29回機器と感染カンファレンス	世話人	'22/3	堺市	麻酔科，手術中材センター	水谷　光
6	第29回機器と感染カンファレンス	座長ⅠおよびⅡ：医療機器メーカーがおこなう滅菌バリデーション	'22/3	堺市	麻酔科，手術中材センター	水谷　光
7	第65回日本糖尿病学会年次学術集会	ポスター093「神経障害：診断，治療」	'22/5	神戸市	糖尿病内分泌内科	中島進介
8	第97回日本医療機器学会	座長：ハイスピード型LTSF（低温蒸気ホルムアルデヒド）滅菌器と今後の低温滅菌の役割	'22/6	横浜市	麻酔科，手術中材センター	水谷　光
9	第97回日本医療機器学会	座長：医療現場における滅菌保証の考え方	'22/6	横浜市	麻酔科，手術中材センター	水谷　光
10	糖尿病，内分泌疾患ジャンプアップセミナー	座長：ミニレクチャー「留学のすすめ」	'22/6	兵庫県	糖尿病内分泌内科	中島進介
11	DUAL Seminar in Osaka	座長：当院におけるイメグリミンの治療効果と安全性について	'22/7	Web	糖尿病内分泌内科	中島進介
12	第23回西淀小児科懇話会	座長	'22/7	大阪市	小児科	吉井勝彦
13	GLP-1RA Online Meeting	座長：糖尿病診療Update　～GLP-1RAの位置づけ～	'22/9	Web	糖尿病内分泌内科	中島進介
14	第44回日本手術医学会	座長：手術医療に携わるスタッフが知っておくべき手術器械再生処理の基本と円滑な手術運営のためのチームワーク	'22/10	東京都	麻酔科，手術中材センター	水谷　光，大川博史
15	第66回日本新生児成育医学会，学術集会	座長	'22/11	横浜市	小児科	横田知之
16	1型糖尿病診療を語る会	１型糖尿病診療を語る会	'22/12	大阪府	糖尿病内分泌内科	司会：中島進介， 演者：岡　亜希子
17	西淀川区GLP-1講演会	座長：実臨床におけるGLP-1受容体作動薬の重要性	'22/12	Web	糖尿病内分泌内科	中島進介
18	厚生労働省	再製造SUD基準策定等事業 再製造SUD推進検討委員会	'22/12	東京都	麻酔科，手術中材センター	水谷　光

尼崎だいもつ病院

その他（2022/1/1 ～ 2022/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
1	横浜市立大学学生講義	認知症診療とその展望	'22/2	横浜市 Web	総合診療科	瀧本　裕
2	ドンア大学学生講義	認知症について	'22/7	大阪市 Web	総合診療科	瀧本　裕
3	シニア住宅相談員認定研修　アドバンスコース	認知症の方への理解と好ましい対応の仕方	'22/10	大阪市 Web	総合診療科	瀧本　裕
4	森ノ宮医療大学NPコース学生講義	心理・精神機能 抑うつ，不安，もの忘れ，睡眠障害	'22/11	大阪市 森ノ宮医療大学	総合診療科	瀧本　裕

高槻病院

口頭発表（2022/1/1 ～ 2022/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科（課）	発表者
1	AD Treatment Up-to-Date in KANSAI	アトピー性皮膚炎治療の現状～新時代の幕開け～	'22/1	大阪市/ハイブリッド開催	皮膚科	山本哲久
2	第40回周産期学シンポジウム	積極的治療を行った在胎22週，23週児の予後の検討	'22/1	横浜市	新生児科	長坂美和子，片山義規，横田知之[1)]，五百蔵智明[2)]，黒川大輔[2)]，芳本誠司[3)]，生田寿彦[3)]，藤岡一路[4)]，仲宗根瑠花[4)]，柴田暁男[5)]，山根正之[6)] 1）千船病院 2）姫路赤十字病院 3）兵庫県立こども病院 4）神戸大学附属病院 5）兵庫医科大学病院 6）済生会兵庫県病院
3	Osaka Surgical Flaps研究会	CLAP（抗菌薬局所持続灌流療法）及び皮弁術による下腿潰瘍への治療経験	'22/1	Web	形成外科	黒川憲史
4	日本消化器病学会近畿支部第116回例会	骨髄癌腫症によるDICを合併したPS不良の進行胃癌に対して早期に化学療法を導入し著明な治療効果を得た一例	'22/2	大阪市	消化器内科	西堀雄一朗，澤井寛明，岩本陽菜，影山達也，伊藤裕貴，増田祥子，南條　望，石田亮介，池内愛実，谷本直紀，鍋嶋克敏，小川浩史，角山沙織，大須賀達也
5	第52回日本人工関節学会	UKA術後脛骨外側顆骨折が生じた2例	'22/2	京都市	整形外科	田中惇貴，平中崇文，藤代高明，小出　基，栖田慶仁，齊藤　亮，有本章彦，岡本剛治
6	第52回日本人工関節学会	ロボットアーム支援人工膝関節置換術における術中計画から見た大腿骨および脛骨の骨切切除量の誤差について	'22/2	京都市	整形外科	栖田慶仁，平中崇文，有本章彦，田中惇貴，齊藤　亮，小出　基，藤代高明，岡本剛治
7	第52回日本人工関節学会	各国レジストリーから見たTHAインプラントの選択	'22/2	京都市	整形外科	藤代高明
8	第52回日本人工関節学会	UKAはどこまで適応が可能か	'22/2	京都市	整形外科	平中崇文
9	第52回日本人工関節学会	Hybrid Oxford UKAの治療成績	'22/2	京都市	整形外科	齊藤　亮
10	第52回日本人工関節学会	Oxford UKにおいて大腿骨内側遠位関節面は術後下降する	'22/2	京都市	整形外科	齊藤　亮
11	第52回日本人工関節学会	Oxford UKAのモバイルベアリングが脛骨コンポーネントの外側壁から離解するとベアリングの前方脱転を生じる	'22/2	京都市	整形外科	平中崇文，栖田慶仁，齊藤　亮，藤代高明，田中惇貴，有本章彦，牟田口由紀子，小出　基，岡本剛治
12	第52回日本人工関節学会	Oxford UKAにおいて深屈曲ギャップは大腿骨遠位骨切り量に影響を受ける	'22/2	京都市	整形外科	平中崇文，栖田慶仁，齊藤　亮，藤代高明，田中惇貴，有本章彦，牟田口由紀子，小出　基，岡本剛治
13	第52回日本人工関節学会	Kinematic AlignmentTKA術前後のCoronal lane Alignment of the Knee（CPKA）を用いた冠状面アライメントphenotype分類	'22/2	京都市	整形外科	平中崇文，栖田慶仁，齊藤　亮，藤代高明，田中惇貴，有本章彦，牟田口由紀子，小出　基，岡本剛治

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
14	第52回日本人工関節学会	Oxford UKAのベアリング脱転は大腿骨サイズが小さいほどベアリング厚が厚いほど生じやすい	'22/2	京都市	整形外科	平中崇文，栖田慶仁， 齊藤　亮，藤代高明， 田中惇貴，有本章彦， 牟田口由紀子，小出　基， 岡本剛治
15	第52回日本人工関節学会	Oxford UKAにおいてカッティングブロックを内方に移動しての内反骨切りは骨折リスクが増加する	'22/2	京都市	整形外科	平中崇文，栖田慶仁， 齊藤　亮，藤代高明， 田中惇貴，有本章彦， 牟田口由紀子，小出　基， 岡本剛治
16	第35回近畿小児科学会	2021年に当院で入院管理を行った小児RSV感染症の特徴	'22/2	大阪市	小児科	濱中統親，石森真吾， 大田尾早紀，山本和宏[1)]， 篠本匡志[1)]，服部有香， 大西　聡[1)]，今出　礼[1)]， 内山敬達，起塚　庸[1)] 1）小児集中治療科
17	第14回単孔式内視鏡手術研究会 第23回Needlescopic Surgery Meeting	当院で取り組む腹腔鏡下虫垂切除術におけるReduced Port法の検討	'22/2	Web	小児外科	田中聡志，服部健吾[1)]， 辻　恵未，久松千恵子， 津川二郎，西島栄治 1）埼玉県立小児医療センター小児外科
18	第9回日本脆弱性骨折ネットワーク学術集会	大腿骨近位部骨折患者に対するホスピタリストの共同診療による手術待機時間への影響	'22/3	Web	総合内科	恒光綾子
19	第94回日本胃癌学会総会	A case of therapy-related MDS in a patient following gastric cancer chamotherapy	'22/3	横浜市	消化器内科	Yuichiro Nishibori, Hiroaki Sawai, Tatsuya Oosuga
20	第52回日本心臓血管外科学会学術総会	大動脈弁閉鎖不全症に対するResuspension法，Reinforcement法の検討	'22/3	横浜市	心臓血管外科	久保沙羅，林　裕之， 常深孝太郎，岡　隆紀， 大北　裕
21	第52回日本心臓血管外科学会学術総会	Ross手術，成人例の経験	'22/3	横浜市	心臓，大血管センター	大北　裕
22	日本内科学会　第235回近畿地方会	新型コロナワクチン接種後に糖尿病性ケトアシドーシスを発症したSGLT2阻害薬内服中の高齢者２型糖尿病の一例	'22/3	Web	糖尿病内分泌内科	尾家勇哉，三浦　洋， 林　友貴，平賀千尋， 吉田健一，陳　慶祥
23	日本内科学会第235回近畿地方会	左心室内血栓を伴う好酸球性心筋炎を合併したEGPAの一例	'22/3	Web	呼吸器内科	山岡貴志，岩坪重彰， 大内愛子，岩本夏彦， 岡本真理子，松村佳乃子， 中村美保，金　永学， 船田泰弘
24	日本内科学会第235回近畿地方会	後縦隔およびその近傍肺に線維化を形成したIgG4関連疾患の一例	'22/3	Web	呼吸器内科	山崎菜々美，岩坪重彰， 大内愛子，山岡貴志， 岩本夏彦，岡本真理子， 中村美保，金　永学， 船田泰弘
25	第6回大阪総合病院精神医学研究会	コロナ禍での総合病院勤務精神科医の日々	'22/3	Web	精神科	杉林　稔
26	第24回北摂皮膚科医会	コロナ禍における帯状疱疹発症の動向について	'22/4	Web	皮膚科	中村　彩
27	第125回日本小児科学会学術集会	川崎病既往のない右巨大冠動脈瘤血栓性閉塞による急性心筋梗塞を呈した一例	'22/4	郡山市	小児科	内山敬達，大西　聡， 起塚　庸，南　宏尚
28	第111回日本病理学会総会	病理診断科におけるコロナ感染対策としてのリモートワークの試み	'22/4	神戸市	病理科	大久保貴子，伊倉義弘， 岩井泰博
29	第111回日本病理学会総会	非免疫不全患者に生じ粟粒結核様の画像，病理所見を呈したニューモシスチス肺炎の1例	'22/4	神戸市	病理科	三宅広彦[1)]，大久保貴子， 松尾健二郎[2)]，岩坪重彰[2)]， 岩井泰博，伊倉義弘 1）関西医大病理 2）呼吸器内科

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
30	第81回日本医学放射線学会	進歩する腎癌治療に対して，今画像診断が提供できるものは？	'22/4	横浜市	イメージングリサーチセンター	高橋　哲
31	第65回日本糖尿病学会年次学術集会	骨折手術後にDKAと甲状腺クリーゼをきたしたバセドウ病合併1型糖尿病の1例	'22/5	神戸市	糖尿病内分泌内科	吉田健一，元山貴仁，平賀千尋，岡　亜希子，三浦　洋，陳　慶祥
32	第65回日本糖尿病学会年次学術集会	新型コロナウィルスに感染した妊娠糖尿病5例に関する報告	'22/5	神戸市	糖尿病内分泌内科	三浦　洋，吉田健一，平賀千尋，陳　慶祥
33	第50回日本血管外科学会学術総会	急性大動脈解離に対する弓部全置換術におけるFrozen Elephant Trunk法の早期成績	'22/5	北九州市	心臓血管外科	久保沙羅，林　裕之，常深孝太郎，岡　隆紀，大北　裕
34	第59回日本小児外科学会学術集会	喉頭気管形成術による抜管後に再狭窄を生じ，PCTRを行った後天性声門下腔狭窄症例	'22/5	東京都	小児外科	久松千恵子，津川二郎，田中聡志，辻　恵未，服部健吾，西島栄治
35	第59回日本小児外科学会学術集会	中堅小児外科医の国内留学のススメ	'22/5	東京都	小児外科	服部健吾，川嶋　寛[1)]，石丸哲也[1)]，柳田佳嗣[1)]，三宅和恵[1)]，井口雅史[1)]，追木宏宣[1)]，前田翔兵[1)]，井原欣幸[1)]，水田幸一[1)]，久松千恵子，津川二郎，西島栄治 1）埼玉県立小児医療センター小児外科，移植外科
36	第59回日本小児外科学会学術集会	喉頭気管形成術後の再狭窄例に対するPartial cricotracheal resection（PCTR）手術	'22/5	東京都	小児外科	津川二郎，田中聡志，服部健吾，久松千恵子，辻　恵未，西島栄治
37	第39回日本呼吸器外科学会	原発性肺癌との鑑別を要した「悪性度不明な平滑筋腫瘍」（STUMP）の多発肺転移の1例	'22/5	東京都	呼吸器外科	金　泰雄，椎名祥隆
38	第121回日本皮膚科学会総会	コロナワクチン接種後に発症した帯状疱疹の13例	'22/6	京都市/ハイブリッド開催	皮膚科	中村　彩，山本哲久，瀬戸英伸
39	第50回日本小児神経外科学会	血友病新生児，乳児の頭蓋内出血に対する外科的治療	'22/6	岐阜市	脳神経外科	和田雄樹[1)]，山中　巧[2)]，川本早希[3)]，福屋章梧[3)]，前野和重[3)]，服部有香，石森真吾[4)]，大西　聡[4)]，起塚　庸[4)]，原田敦子[1)] 1）社会医療法人愛仁会高槻病院小児脳神経外科 2）京都府立医科大学脳神経外科 3）社会医療法人愛仁会高槻病院脳神経外科 4）社会医療法人愛仁会高槻病院小児科
40	第50回日本小児神経外科学会	小児Aplastic or twig-like middle cerebral artery に対して血行再建術を施行した一例	'22/6	岐阜市	小児脳神経外科	藤原知咲，和田雄樹，川本早希[1)]，福屋章梧[1)]，前野和重[1)]，服部有香[2)]，大西　聡[2)]，石森真吾[2)]，起塚　庸[2)]，原田敦子 1）脳神経外科 2）小児科
41	第50回日本小児神経外科学会	脳神経外科専門医の小児神経外科診療　どこまで診療すべきか	'22/6	岐阜市	小児脳神経外科	原田敦子
42	第50回日本小児神経外科学会	血友病新生児，乳児の頭蓋内出血に対する外科的治療	'22/6	岐阜市	小児脳神経外科	和田雄樹，山中　巧，川本早希，福屋章悟，前野和重，服部有香，石森真吾，起塚　庸，原田敦子

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
43	第50回日本小児神経外科学会	頭蓋骨縫合早期癒合症に対するCT検査の被曝低減：放射線科の立場から	'22/6	岐阜市	イメージングリサーチセンター	高橋　哲，原田敦子[1)]，和田雄樹[1)]，中山裕志[2)]，渡辺博也[2)]，石上智也[2)]，小山泰平[2)] 1）愛仁会高槻病院小児脳神経外科 2）愛仁会高槻病院技術部放射線科
44	第63回日本臨床細胞学会総会，春期大会	術中細胞診断を行なった胸壁デスモイド腫瘍の1例	'22/6	東京都	病理科	仲谷武史，伊倉義弘，飯塚梨沙，平尾美智，酒井康裕[1)]，岩井泰弘，西川裕希，井本智子，谷口由美，大久保貴子 1）関西医大病理
45	第28回日本心臓リハビリテーション学術集会	開心術後患者におけるICU退室後のリハビリテーション頻度が及ぼす影響	'22/6	宜野湾市	リハビリテーション科	竹本堅一，欅　　篤
46	第118回日本精神神経学会総会	精神科におけるケースカンファレンスの意義と実際についての試論	'22/6	福岡市	精神科	杉林　稔，河村裕樹[1)] 1）一橋大学
47	第118回日本精神神経学会総会	精神医学的知識や専門性はどのようにして理解可能か	'22/6	福岡市	精神科	河村裕樹[1)]，杉林　稔 1）一橋大学
48	第37回日本環境感染学会総会，学術集会	新型コロナウイルス感染妊婦の受入れと感染制御活動	'22/6	横浜市	小児科	片山義規，鳴美英智
49	日本麻酔科学会第69回学術集会	大腿骨頸部骨折患者に対する術前心エコー検査の適応についての検討	'22/6	神戸市	麻酔科	井川大輝，西田隆也，棚田和子，丸山祐子
50	第65回関西胸部外科学会学術集会	Reversed T technique を用いて弁輪拡大を施行した大動脈弁狭窄症の1例	'22/6	浜松市	心臓血管外科	久保沙羅
51	第59回日本リハビリテーション医学会学術集会	体組成分析からみた女性人工股関節置換術予定者と認知症外来受診者の比較検討	'22/6	横浜市	リハビリテーション科	欅　　篤
52	第59回日本リハビリテーション医学会学術集会	当院における在宅人工呼吸器導入例の自宅退院に向けた理学療法士の支援について	'22/6	横浜市	リハビリテーション科	飯塚崇仁，欅　　篤
53	第28回日本血管内治療学会学術総会	磁気でカテーテルを動かすアブレーション治療-この機械でないと治せない不整脈が確実に存在する-	'22/6	名古屋市	不整脈内科	山城荒平
54	ACP（米国内科学会）日本支部　年次総会，講演会2022	Zoom meeting-Clinical theater 1 "3G"を超える医師のキャリア，フォーラム	'22/6	Web	総合内科	恒光綾子，佐藤　光[1)]，矢野/五味晴美[2)]，岩崎直子[3)]，江波戸美緒[4)] 1）亀田総合病院脳神経内科 2）国際医療福祉大学医学部 3）東京女子医科大学附属成人医学センター 4）昭和大学藤が丘病院循環器内科
55	第18回Craniosynostosis研究会	Saethre-Chotzen 症候群の一家系から考える外科医の遺伝学的診断への関わり	'22/6	東京都	脳神経外科	和田雄樹[1)]，原田敦子[1, 2)]，四本由郁[2)]，玉置知子[2)]，長坂昌登[3)]，浅香明紀[4)]，久徳茂雄[5)]，上田晃一[4)] 1）社会医療法人愛仁会高槻病院小児脳神経外科 2）社会医療法人愛仁会遺伝診療センター 3）医療法人社団三遠メディメイツ国府病院脳神経外科 4）大阪医科薬科大学形成外科 5）市立奈良病院再建形成外科
56	第18回Craniosynostosis研究会	Saethre-Chotzen症候群の一家系から考える外科医の遺伝学的診断への関わり	'22/6	東京都	小児脳神経外科	和田雄樹，原田敦子，四本由郁，玉置知子，長坂昌登，浅香明紀，久徳茂雄，上田晃一

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
57	第18回Craniosynostosis研究会	著明な指圧痕と特徴的な頭蓋形態を呈した矢状縫合早期癒合症の一例	'22/6	東京都	小児脳神経外科	鈴木里咲，和田雄樹，原田敦子，比嘉那優大，大吉達樹，浅香明紀，久徳茂雄，土居ゆみ，上田晃一
58	第30回日本乳癌学会学術総会	乳腺carcinosarcomaの1例	'22/6	横浜市	乳腺外科	三成善光，下山京子，谷田梨乃，溝口　綾，伊倉義弘[1)]，大久保貴子[1)] 1）病理診断科
59	第30回日本乳癌学会学術総会	乳腺carcinosarcomaの1例	'22/6	横浜市	病理科	三成善光[1)]，下山京子[1)]，谷田梨乃[1)]，溝口　綾[1)]，伊倉義弘，大久保貴子 1）乳腺外科
60	第31回日本乳癌学会学術総会	アテゾリズマブ使用後にビッカースタッフ型脳幹脳炎と診断された転移乳がんの1例	'22/6	横浜市	乳腺外科	下山京子，立花久嗣[1)]，笹木　晋[2)]，中島敦史[3)]，三成善光 1）脳神経内科 2）総合内科 3）リハビリテーション病院
61	第44回日本癌局所療法研究会	直腸MiNENに対して外科的切除を施行した1例	'22/7	豊中市	消化器外科	大和田善之，立花崇明，徳原佳織，細野雅義，岡崎太郎，家永徹也
62	第44回日本癌局所療法研究会	CA-125が高値の巨大腫瘍で診断に難渋した胃GISTの一例	'22/7	豊中市	消化器外科	立花崇明，家永徹也，岡崎太郎，大和田善之，細野雅義，池田太郎，徳原佳織
63	第46回日本遺伝カウンセリング学会学術集会	PCDH19関連症候群と診断された難治てんかん症例に対する遺伝カウンセリング	'22/7	東京都	小児科	服部有香，四本由郁，春藤　望[1)]，玉置知子[1)] 1）遺伝診療センター
64	第72回日本病院学会	全身麻酔後に嗄声が生じ外科的治療が必要と判断された症例の検討	'22/7	松江市	麻酔科	佐藤眞理子，位田みつる，内藤祐介，川口昌彦
65	第131回関西形成外科学会学術集会	脊髄髄膜瘤摘出後の皮膚欠損創に対して局所皮弁を用いて閉創を行った経験	'22/7	大阪市	形成外科	出口　大
66	第58回日本周産期・新生児医学会学術集会	在胎36週以上の新生児のビリルビン/アルブミン比によるUB値の予測可能性	'22/7	横浜市	小児科	西澤和輝，片山義規
67	第58回日本周産期・新生児医学会学術集会	遺伝学的検査を考慮した子宮内胎児死亡例の胎児組織凍結保存について	'22/7	横浜市	新生児科	長坂美和子，岸上　真[1)]，片山義規[2)]，池上　等，中後　聡，四本由郁 1）産婦人科 2）遺伝診療センター
68	第58回日本周産期・新生児医学会学術集会	在胎36週以上の新生児のビリルビン/アルブミン比によるUB値の予測可能性	'22/7	横浜市	新生児科	西澤和輝，片山義規
69	第58回日本周産期・新生児医学会学術集会	ワークショップ1－2　声門下腔狭窄症の診断と外科治療	'22/7	横浜市	小児外科	津川二郎
70	第9回関西小児内視鏡外科研究会	滅菌輪ゴムによるポート固定	'22/7	大阪市	小児外科	服部健吾
71	第31回日本小児泌尿器科学会学術集会	発熱性尿路感染症における急性期一過性腎腫瘍大は再発のリスク因子である：多施設共同コホート研究	'22/7	東京都	小児科　外来，小児病棟	石森真吾，藤村順也[1)]，中西啓太[2)]，服部健吾[3)]，平瀬敏志[4)]，松野下夏樹[5)]，神吉直宙 1）加古川中央市民病院小児科 2）済生会兵庫県病院小児科 3）社会医療法人愛仁会高槻病院小児外科 4）北播磨総合医療センター小児科 5）姫路赤十字病院小児科

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
72	第30回日本心血管インターベンション治療学会	単冠動脈症に対してPCIで血行再建を行った一症例	'22/7	Web	循環器内科	松寺　亮，谷村幸亮，湯口　賢，中島健爾，高岡秀幸
73	第58回日本小児循環器学会総会，学術集会	集学的アプローチによる treat and repairを施行できた重症肺高血圧合併心室中隔欠損を伴ったDown症候群の1乳幼児例	'22/7	札幌市	小児科　外来，小児病棟	内山敬達，岸　勘太[1)]，根本慎太郎[2)]，山下麻起[3)] 1）大阪医科薬科大学小児科 2）大阪医科薬科大学胸部心臓血管外科 3）大阪市立総合医療センター小児耳鼻咽喉科
74	第58回日本小児循環器学会総会，学術集会	ホスホジエステラーゼ-5阻害薬が奏功した重症肺高血圧を呈した脚気心の1男児例	'22/7	札幌市	小児科　外来，小児病棟	内山敬達，大多尾早紀，山本和宏[1)]，大西　聡[1)]，起塚　庸[1)]，武井安津子，南　宏尚 1）PICU
75	第58回日本小児循環器学会総会，学術集会	IVIG不応型川崎病の治療方針；冠動脈内径を参考にした3rd line治療の選択（第2報）	'22/7	札幌市	小児科	大西　聡，起塚　庸，内山敬達
76	第58回日本小児循環器学会総会，学術集会	川崎病診断基準を満たし，くすぶり型を呈したYp感染症の3例	'22/7	札幌市	小児科　外来，小児病棟	河井陽昭，内山敬達
77	第35回日本小児救急医学会学術集会	硬性気管支鏡による粘液栓除去が著効した鋳型気管支炎の3歳男児例	'22/7	東京都	小児科	江國　哲，起塚　庸，山本和宏，篠本匡志，大西　聡，石森真吾，津川二郎
78	第69回日本病跡学会総会	鳥井信治郎の起業家精神と中心気質，虎気質	'22/7	つくば市	精神科	杉林　稔
79	第69回日本病跡学会総会	寺田寅彦の分離融合と中心気質，虎気質	'22/7	つくば市	精神科	杉林　稔
80	第74回日本産科婦人科学会学術講演会	免疫正常者に発症した，サイトメガロウィルス感染が原因であった骨盤内炎症性疾患（PID）の1例	'22/8	福岡市	産科	新田勇人，柴田貴司，河谷春那，菅田佳奈，福岡泰教，西川茂樹，徳田妃里，加藤大樹，小辻文和，中後　聡，大石哲也
81	第58回日本小児外科学会近畿地方会	右側大動脈弓合併食道閉鎖に対する胸腔鏡手術の経験	'22/8	大阪市	小児外科	服部健吾，口分田　啓，久松千恵子，津川二郎，西島栄治
82	脳神経内科病診連携WEBセミナー～パーキンソン病の連携を考える～	民間総合病院の立場から見た病診連携	'22/8	神戸市	脳神経内科	松下達生
83	第29回日本排尿機能学会	頚髄損傷が原因の神経因性膀胱による尿失禁に対して，腰椎麻酔のみでボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法を安全に施行した一例	'22/9	札幌市	泌尿器科	西田　剛，西尾恭介，内本泰三，佐々木翔平[1)]，高倉一平[1)]，松岡美保子[2)]，住田幹男[2)]，西田隆也[3)] 1）大阪医科薬科大学腎泌尿器外科 2）愛仁会リハビリテーション病院 3）高槻病院麻酔科
84	第68回関西支部学術集会	胸腔鏡下手術で摘出し得た，硬膜外カテーテル切断片の体内遺残の一例	'22/9	Web	麻酔科	小池紗季，西田隆也，井川大輝，正本真子，棚田和子，丸山祐子
85	第68回関西支部学術集会	ロクロニウム抵抗性疑いの患者に対してマグネシウム製剤を併用することにより有効な筋弛緩を得ることが出きた症例	'22/9	Web	麻酔科	井川大輝，西田隆也，小池沙季，正本真子，棚田和子，丸山祐子
86	第58回日本医学放射線学会秋季臨床大会	頭蓋骨縫合早期癒合症の画像診断：「赤ちゃんの頭の形外来」のある小児脳神経外科を有する病院から	'22/9	東京都	イメージングリサーチセンター	高橋　哲
87	第45回日本膵，胆管合流異常研究会	先天性胆道拡張症の一卵性双生姉妹例	'22/9	徳島市	小児外科	久松千恵子，口分田　啓，服部健吾，津川二郎，福澤弘明[1)]，西島栄治 1）姫路赤十字病院小児外科

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
88	19th Congress of International Pediatric Nephrology Association	Temporary renal enlargement in children at the first episode of fabrile urinary tract infection is a significant prognostic factor for vesicoureteral reflux	'22/9	Calgary	小児科　外来，小児病棟	S. Ishimori, J. Fujimura[1], K. Nakanishi[2], K. Hattori[3], S. Hirase[4], N. Matsunoshita[5], N. Kamiyoshi[6], Y. Okizuka 1）Kakogawa Central City Hospital 2）Saiseikai-Hyogo Hospital 3）Konan Medical Center 4）Kita-Harima Medical Center 5）Himeji Red Cross Hospital
89	内科学会　第237回近畿地方会	診断に苦慮し審査腹腔鏡にて確定診断を得た結核性腹膜炎の1例	'22/9	Web	消化器内科	金丸薫子，関口尚人，安部恵里佳，石原美崎，増田祥子，南條　望，池内愛実，谷本直紀，鍋嶋克敏，小川浩史，澤井寛明，角山沙織，大須賀達也
90	Bologna Heart Surgery Symposium	Infection of thoracic aortic grafts and endografts	'22/9	Bologna	心臓，大血管センター	大北　裕
91	日本心臓血管麻酔学会第27回学術大会	化膿性心膜炎による左室自由壁破裂患者の麻酔経験	'22/9	京都市	麻酔科	西田隆也，井川大輝，棚田和子，丸山祐子
92	日本心臓血管麻酔学会第27回学術大会	術中経食道心エコーの挿入が困難であった症例	'22/9	京都市	麻酔科	井川大輝，西田隆也，棚田和子，丸山祐子
93	日本脳神経外科学会第81回学術総会	軽症虚血性脳卒中患者と認知症外来受診者の体組成分析の比較検討	'22/9	横浜市	リハビリテーション科	欅　篤，前野和重[1]，福屋章梧[1] 1）脳神経外科
94	日本脳神経外科学会第81回学術総会	乳児頭蓋骨骨折の臨床像	'22/9	横浜市	脳神経外科	和田雄樹，豊田佐織[1]，福屋章梧，前野和重，原田敦子 1）小児脳神経外科
95	日本脳神経外科学会第81回学術総会	神経膠芽腫に対する免疫治療効果判定：iRANOと他の奏効判定基準間比較についての後方視的検討	'22/9	横浜市	脳神経外科	福屋章梧，香川尚己[1]，高野浩司[2]，尾路祐介[3]，岡　芳弘[4]，藤本康倫[5]，千葉泰良[6]，木嶋教行[1]，有田英之[2]，木下　学[7]，杉本治夫[8]，貴島晴彦[1] 1）大阪大学大学院医学系研究科脳神経外科 2）大阪国際がんセンター脳神経外科 3）大阪大学大学院医学系研究科生体病態情報科学講座 4）大阪大学大学院医学系研究科癌幹細胞制御学寄附講座 5）大阪労災病院脳神経外科 6）大阪母子医療センター脳神経外科 7）旭川医科大学脳神経外科 8）大阪大学大学院医学系研究科癌免疫学共同講座
96	日本脳神経外科学会第81回学術総会	乳児頭蓋骨骨折の臨床像	'22/9	横浜市	小児脳神経外科	和田雄樹，豊田佐織，福屋章悟，前野和重，原田敦子
97	第25回関西ニューロエンドスコープ研究会	後角穿刺による脈絡叢焼灼術単独で治療した乳児水頭症例	'22/9	Web	小児脳神経外科	和田雄樹，豊田佐織，福屋章悟，前野和重，原田敦子
98	第75回日本胸部外科学会定期学術集会	Reversed T techniqueを用いて弁輪拡大を施行した大動脈弁置換術	'22/10	横浜市	心臓血管外科	久保沙羅
99	第75回日本胸部外科学会定期学術集会	Resusupension法，Reinforcement法を含む大動脈弁形成術の長期成績	'22/10	横浜市	心臓血管外科	久保沙羅

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
100	The 36th Eacts Annual Meeting	Staged aortic repair in syndromic aortic disease	'22/10	Milan	心臓，大血管センター	Y.Okita
101	第71回日本アレルギー学会学術大会	ダニ舌下免疫療法における治療効果の指標としてのダニプリックテストの有用性の検討	'22/10	東京都	小児科　外来，小児病棟	谷内昇一郎，西田敬弘，榎本真弘，今出　礼，水戸守真寿，郷間　環，西野昌光，起塚　庸，家永徹也[1)] 1）愛仁会しんあいクリニック
102	日本消化器病学会近畿支部　第117回例会	骨盤内膿瘍に対して超音波内視鏡下経直腸的ドレナージを施行した1例	'22/10	大阪市	消化器内科	関口尚人，安部恵里佳，石原美崎，金丸薫子，増田祥子，南條　望，池内愛実，谷本直紀，鍋嶋克敏，小川浩史，澤井寛明，角山沙織，大須賀達也
103	日本小児麻酔学会第27回大会	教育講演9　腹壁破裂の麻酔に求められる知識と技術	'22/10	岡山市	麻酔科（小児周術期センター）	土居ゆみ，鈴木康之
104	日本小児麻酔学会第27回大会	当院における小児術前食導入の取り組みと問題点	'22/10	岡山市	麻酔科	齊藤健一，土居ゆみ[1)]，江國　徹[2)]，小池沙季 1）麻酔科　小児周術期センター 2）小児科
105	日本小児麻酔学会第27回大会	高吸水性樹脂製玩具の誤嚥2症例への対応-緊急開腹術および緊急内視鏡摘出術	'22/10	岡山市	麻酔科	井川大輝，土居ゆみ[1)]，小池沙季 1）小児周術期センター
106	第39回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	TAVI後慢性期に心原生ショックを来しIMPELLAとVA ECMOの併用下にPCIを行った一症例	'22/10	豊中市／ハイブリッド開催	循環器内科	佐久間大輝，山田真博，片平龍太郎，田中悠介，谷村幸亮，湯口　賢，佐野浩之，松寺　亮，中島健爾，髙岡秀幸
107	第25回北摂四医師会神経精神医学研究会	Mini Lecture　ケースカンファレンスについて考える	'22/10	高槻市	精神科	杉林　稔
108	第44回日本手術医学会総会	愛仁会高槻病院における周麻酔期看護師の役割と活動報告	'22/10	東京都	麻酔科	佐藤眞理子，中島正順，西田隆也
109	第31回日本小児リウマチ学会	手術前検査を契機に精査を行い，I型インターフェロノパチーが示唆された幼児例	'22/10	新潟市	小児科　外来，小児病棟	藤原知咲，石森真吾，和田雄樹[1)]，永尾宏之，山本和宏，篠本匡志，服部有香，大西　聡，今出　礼，起塚　庸，原田敦子[1)]，宮本尚幸[2)]，八角高裕[2)]，井澤和司[2)] 1）愛仁会高槻病院　小児脳神経外科 2）京都大学大学院医学研究科　発達小児科学
110	第32回日本小児外科QOL研究会	気管切開を有する障害児の誤嚥治療は誤嚥防止術以外にないのか？	'22/10	つくば市	小児外科	久松千恵子，口分田　啓，服部健吾，津川二郎，西島栄治
111	第50回日本救急医学会総会，学術集会	救急外来でRaoultella ornithinolyticaが検出された2症例	'22/10	東京都	救急科	豊島千絵，稲本真也，秋元　寛
112	第60回日本癌治療学会学術集会	ペンプロリズマム抵抗性の転移性尿路上皮癌における化学療法再投与の実臨床成績	'22/10	神戸市	泌尿器科	内本泰三，小村和正[1)]，福岡屋航[2)]，足立孝弘[3)]，吉澤篤彦[4)]，橋本　剛[3)]，高原　健[4)]，稲元輝生[1)]，木村高弘[2)]，大野芳正[3)]，白木良一[4)]，穎川　晋[2)]，東　治人[1)] 1）大阪医科薬科大学病院泌尿器科 2）東京慈恵会医科大学附属病院泌尿器科 3）東京医科大学病院泌尿器科 4）藤田医科大学病院泌尿器科

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
113	35th International Symposium on Pediatric Surgical Research	Musculoskeletal deformities after thoracoscopic repair versus conventional open repair for esophageal atresia repair	'22/10	Osaka city	小児外科	Kengo Hattori, Hiroshi Kawashima[1), Tetsuya Ishimaru[1), Yoshitsugu Yanagida[1), Kazue Miyake[1), Masashi Iguchi[1), Hironobu Oiki[1), Syohei Maeda[1), Yoshiyuki Ihara[1). 1) Department of Pediatric Surgery, Saitama Children's Medical Center
114	第71回日本小児神経学会近畿地方会	遺伝子学的検査を考慮した先天性小児神経外科疾患の診断，治療	'22/10	大阪市	小児脳神経外科	原田敦子，四本由郁[1)，金村米博[2) 3)，宇都宮英綱[4)，玉置知子[1) 1) 高槻病院　遺伝診療センター 2) 国立病院機構大阪医療センター臨床研究センター先進医療研究開発部 3) 国立病院機構大阪医療センター　脳神経外科 4) 白十字病院放射線科，高度画像センター
115	第32回日本小児呼吸器外科研究会	咽頭気管分離術後に生じた唾液瘻に対して声門閉鎖術を行った1例	'22/10	岡山市	小児外科	久松千恵子，口分田　啓，服部健吾，津川二郎，伊勢一哉[1)，西島栄治 1) 仙台赤十字病院小児外科
116	第2回日本不整脈心電学会近畿支部地方会	誘発されない非肺静脈起源心房細動に対するアプローチ	'22/10	大阪市	不整脈内科	山城荒平
117	第2回日本不整脈心電学会近畿支部地方会	洞調律下のFunctional Substrate Map がNon-PV fociの同定に有用であった持続性心房細動の2症例	'22/10	大阪市	不整脈内科	田中友望，吉田雅晴，山城荒平
118	第38回日本小児外科学会秋季シンポジウム	声門下腔狭窄症の外科治療後再狭窄に対するPartial cricotracheal resection（PCTR）手術	'22/10	岡山市	小児外科	津川二郎，口分田　哲，服部健吾，久松千恵子，西島栄治
119	第38回日本小児外科学会秋季シンポジウム	気管手術（Partial Crico-Tracheal Resection）におけるICGによる血流評価　症例報告	'22/10	岡山市	小児外科	口分田　啓，服部健吾，久松千恵子，津川二郎，西島栄治
120	第38回日本小児外科学会秋季シンポジウム	新生児腹部手術既往のある脳室腹腔シャント機能不全に対するサルベージ手術	'22/10	岡山市	小児外科	服部健吾，口分田　啓，久松千恵子，津川二郎，西島栄治
121	第73回日本皮膚科学会中部支部学術大会	組織学的に肉芽腫を認めたNon-episodic angioedema with eosinophiliaの1例	'22/10	富山市/ハイブリッド開催	皮膚科	高橋甲介，福満祥子，瀬戸英伸，山本哲久[1) 1) 宝塚市立病院
122	第73回日本皮膚科学会中部支部学術大会	皮膚科受診を契機として診断に至ったSchmidt症候群の1例	'22/10	富山市/ハイブリッド開催	皮膚科	福満祥子，高橋甲介，瀬戸英伸，山本哲久[1) 1) 宝塚市立病院
123	第8回日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会	HRD検査とgBRCA遺伝子検査におけるBRCA結果判定の乖離が生じた一例	'22/10	新潟市	産科	飯塚徳昭[1)，下山京子[2)，大石哲也[1)，四本由郁[3)，村越　誉[4)，三成善光[2)，玉置知子[3) 1) 愛仁会高槻病院産科婦人科 2) 愛仁会乳腺外科 3) 愛仁会高槻病院遺伝診療センター 4) 愛仁会千船病院産婦人科
124	片頭痛WEBセミナー	片頭痛の診断と治療	'22/10	大阪市	脳神経内科	松下達生
125	日本蘇生学会第41回大会	下肢の末端神経ブロックのみで安全に大腿骨転子部骨折の麻酔管理が行えた重症大動脈弁狭窄症患者の１症例	'22/11	熊本市	麻酔科	佐藤眞理子，中島正順

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
126	第59回日本糖尿病学会近畿地方会	抗GAD抗体強陽性であった劇症1型糖尿病の1例	'22/11	神戸市	糖尿病内分泌内科	眞鍋裕宇，吉田健一，野村勝太，平賀千尋，三浦　洋，陳　慶祥
127	日本消化器内視鏡学会近畿支部第109回例会	金属ステントにて止血し得たEST後出血の1例	'22/11	京都市	消化器内科	石原美崎，関口尚人，安部恵里佳，金丸薫子，増田祥子，南　條望，池内愛実，谷本直紀，鍋嶋克敏，小川浩史，澤井寛明，角山沙織，大須賀達也
128	第32回臨床内分泌代謝Update	腎機能に伴いLT4製剤調節を要したPierson症候群の一例	'22/11	東京都	小児科	今出　礼，陳　慶祥[1)]，平賀千尋[1)]，吉田健一[1)]，石森真吾，起塚　庸，内山敬達 1）愛仁会高槻病院糖尿病内分泌内科
129	第59回日本小児アレルギー学会学術大会	鶏卵経口免疫療法中に出現する誘発症状のリスクファクターとしてのオボムコイドの親和性IgE抗体価測定の意義	'22/11	宜野湾市	小児科	谷内昇一郎，西田敬弘，榎本真宏，今出　礼，郷間　環，水戸守真寿，西野昌光[1)]，起塚　庸，木戸　博[1)]，坂井利佳 1）徳島大学先端酵素学研究所
130	第59回日本小児アレルギー学会学術大会	Severe non-IgE mediated Gastrointestinal food allergy in a patient with recurrent necrotizing enterocolitis, caused by eosinophil extracellular trap cell death.:A Case Report.	'22/11	宜野湾市	小児科　外来，小児病棟	Aya Imaide, Shuhei Dohi, Masatoshi　Mitomori, Meguru　Gouma, Shingo Ishimori, Masahiro Enomoto, Yo Okizuka, Takamichi Uchiyama, Masamitsu Nishino[1)], Yoshiyuki Yamada[2)], Shoichiro Taniuchi 1）Department of pediatrics, Chibune General Hospital 2）Department of peditrics, Tokai University School of Medicine
131	第59回日本小児アレルギー学会学術大会	ワクチン同時接種後のアナフィラキシーに対し，原因特定に好塩基球活性化試験（BAT）が有用だった生後3か月の女児例	'22/11	宜野湾市	小児科　外来，小児病棟	土肥周平，今出　礼，黒岡祐介，水戸守真寿，郷間　環，石森真吾，榎本真宏，起塚　庸，内山敬達，西野昌光[1)]，谷内昇一郎 1）愛仁会千船病院小児科
132	第39回日本こども病院神経外科医会	当院における低出生体重児脳室内出血後水頭症の治療	'22/11	奈良市	小児脳神経外科	原田敦子，倉本仁美，豊田佐織，角野喜則，前野和重
133	第95回日本社会学会大会	精神科における症例検討会のワークの研究――症例検討会の多層性に	'22/11	茨木市	精神科	河村裕樹[1)]，杉林　稔 1）一橋大学
134	第52回日本腎臓学会西武学術大会	腎細胞癌に合併した腎アミロイドーシスの1例	'22/11	熊本市	腎臓内科	黒川直基
135	第14回日本水頭症脳脊髄液学会学術集会	当院における低出生体重児脳室内出血後水頭症の治療	'22/11	東京都	小児脳神経外科	原田敦子，倉本仁美，豊田佐織[1)]，角野喜則[1)]，前野和重[1)] 1）高槻病院脳神経外科
136	The 26th Congress of the Asian Association of Pediatric Surgeons	Congenital biliary dilatation in female monozygotic twins: case report	'22/11	Vietnam, Ho Chi Minh	小児外科	Chieko Hisamatsu, Satoshi Kumode, Kengo Hattori, Jiro Tsugawa, Eiji Nishijima
137	日本不整脈心電学会カテーテルアブレーション関連秋季大会2022	弁論から離れた左心耳底部で離断に成功したTCPC-Fontan術後に生じた副伝導路を有する房室回帰性頻拍の一例	'22/11	新潟市	不整脈内科	田中友望，吉田雅晴，山城荒平

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
138	第84回日本臨床外科学会総会	Nuck管水腫の術前診断で手術を行い，術中に虫垂の大腿ヘルニア嵌頓と診断した１例	'22/11	福岡市	消化器外科	大和田善之，立花崇明，徳原佳織，池田太郎，細野雅義，岡崎太郎，家永徹也
139	第84回日本臨床外科学会総会	魚骨による小腸穿孔に対し，緊急小腸部分切除を施行した一例	'22/11	福岡市	消化器外科	松村雅生，岡崎太郎，立花崇明，徳原佳織，池田太郎，大和田善之，細野雅義，家永徹也
140	第84回日本臨床外科学会総会	S状結腸癌術後に転移性肝癌を疑う所見を認め，肝部分切除術を行ったところ寄生虫様の構造物を認めた1例	'22/11	福岡市	消化器外科	眞鍋裕宇，大和田善之，立花崇明，徳原佳織，池田太郎，細野雅義，岡崎太郎，家永徹也
141	第84回日本臨床外科学会総会	磁器様胆嚢に対して腹腔鏡胆嚢摘出術を行った一例	'22/11	福岡市	消化器外科	立花崇明，岡崎太郎，徳原佳織，大和田善之，細野雅義，家永徹也
142	第66回日本新生児成育医学会	18トリソミーと骨髄髄膜瘤を合併した2症例の診療	'22/11	横浜市	新生児科	岸上　真，中田有紀，片山義規，池上　等
143	第50回日本頭痛学会総会	妊娠期の慢性頭痛の特徴と周産期合併症の検討	'22/11	東京都	産科	河谷春那，稲垣美恵子
144	大阪北部三島エリア皮膚科講演会	小児線状苔癬の診断と治療～線状苔癬，Blashkitisとの鑑別～	'22/11	高槻市/ハイブリッド開催	皮膚科	福満祥子
145	第63回日本肺癌学会学術集会	当院における進行非小細胞癌に対するIpilimumabを含む併用療法の有効性と安全性の検討	'22/12	福岡市	呼吸器内科	日詰健太郎，岩坪重彰，塚本　玲，村上翔子，山岡貴志，岩本夏彦，西村春佳，松村佳乃子，中村美保，船田泰弘
146	第63回日本肺癌学会学術集会	EGFR遺伝子変異陽性かつPD-L1強陽性の肺多形癌に対してオシメルチニブを導入した一例	'22/12	福岡市	呼吸器内科	岩本夏彦，日詰健太郎，塚本　玲，村上翔子，山岡貴志，岩坪重彰，西村春佳，松村佳乃子，中村美保，船田泰弘
147	第43回日本小児腎不全学会学術集会	在宅小児腹膜透析を導入し退院した2事例～看護師が行ったケア～	'22/12	東京都	小児科	浦　萌々子[1)]，石森真吾，山本亜希子[1)]，林　真矢[1)]，花田崇行[1)]，冨田千絢[1)] 1）社会医療法人愛仁会高槻病院　小児センター
148	第35回日本内視鏡外科学会総会	妊娠合併虫垂炎に対する腹腔鏡下手術の安全性の検討	'22/12	名古屋市	消化器外科	池田太郎，大和田善之，立花宗明，徳原佳織，細野雅義，岡崎太郎
148	第35回日本内視鏡外科学会総会	腹腔鏡補助下（ハイブリッド法）で修復を行った陰嚢まで達する膀胱ヘルニアの1例	'22/12	名古屋市	消化器外科	細野雅義，徳原佳織，池田太郎，大和田善之，岡崎太郎，立花崇明
150	第134回日本循環器学会近畿地方会	大動脈弁手術	'22/12	大阪市	心臓，大血管センター	大北　裕
151	第134回日本循環器学会近畿地方会	薬物療法抵抗性の閉塞性肥大型心筋症に対し経皮的中隔心筋焼灼術（PTSMA）が有効であった一例	'22/12	大阪市	循環器内科	山田真博，佐久間大輝，片平龍太郎，田中悠介，谷村幸亮，湯口　賢，佐野浩之，松寺　亮，中島健爾，髙岡秀幸
152	第134回日本循環器学会近畿地方会	転倒による胸部鈍的外傷後に心肺停止となり，のちに仮性瘤形成を契機に外傷性腕頭動脈損傷と判明した一例	'22/12	大阪市	循環器内科	藤原正貴，山田真博，佐久間大輝，片平龍太郎，田中悠介，谷村幸亮，湯口　賢，佐野浩之，松寺　亮，中島健爾，髙岡秀幸
153	日本人類遺伝学会第67回大会	軽度の大動脈弁狭窄および肺動脈弁狭窄と三角頭蓋を契機にSHORT症候群と診断された一例	'22/12	横浜市	小児科	四本由郁

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
154	日本人類遺伝学会第67回大会	バリアントに伴うミトコンドリア病を呈した二卵性双胎について	'22/12	横浜市	小児科	服部有香，四本由郁[1)]，長坂美和子[1)]，春藤　望[1)]，玉置知子[1)]，村山　圭[2)] 1）高槻病院遺伝診療センター 2）千葉県立こども病院遺伝診療センター
155	日本人類遺伝学会第67回大会	SNORD遺伝子領域を含んだ15番染色体中間部欠失によるPrader-Willi症候群の一例	'22/12	横浜市	新生児科	長坂美和子[1,2)]，四本由郁[1,2)]，中田有紀[1,2)]，服部有香[1,2)]，春籐　望[2)]，齊藤伸治[3)]，松原圭子[4)]，玉置智子[2)] 1）愛仁会高槻病院小児科 2）愛仁会高槻病院遺伝診療センター 3）名古屋市立大学大学院医学研究科新生児，小児医学分野 4）国立研究開発法人国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部
156	第100回日本呼吸器学会近畿地方会	播種性肉芽腫病変を呈しニューモシスチス肺炎と診断された一例	'22/12	大阪市	呼吸器内科	日詰健太郎，増田佳純，山岡貴志，村上翔子，岩本夏彦，松村佳乃子，岩坪重彰，中村美保，伊倉義弘，船田泰弘
157	第100回日本呼吸器学会近畿地方会	膠原病治療中に発症したニューモシスチス肺炎の2症例	'22/12	大阪市	呼吸器内科	増田佳純，松村佳乃子，日詰健太郎，塚本　玲，村上翔子，山岡貴志，岩本夏彦，岩坪重彰，中村美保，船田泰弘

論文発表（2022/1/1 ～ 2022/12/31）

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科（課）	著　者
1	Internal Medicine	Quantification of Internal Medicine Resident Inpatient Care Using the Diagnosis Procedure Combination Database【原著論文】	61（24）	3667-3673, 2022	総合内科	Tsutsumi Takahiko, Ishibashi Mika, Takemura Momoko, Isashiki Shota, Niwa Ryotaro, Imanaka Yuichi
2	Internal Medicine	Multidisciplinary Team Deprescribing Intervention for Polypharmacy in Elderly Orthopedic Inpatients: A Propensity Score-matched Analysis of a Retrospective Cohort Study【原著論文】	61（16）	2417-2426, 2022	総合内科	Seto Hiroyuki, Ishimaru Naoto, Ohnishi Jun, Kanzawa Yohei, Nakajima Takahiro, Shimokawa Toshio, Imanaka Yuichi, Kinami Saori
3	Infection	Disseminated granulomatous pneumocystis jirovecii pneumonia masquerading as miliary tuberculosis	51（2）	545-547, 2022	呼吸器内科	松尾健二郎
4	J Thorac Dis	Is there a role for sequential afatinib and osimertinib in patients with EGFR mutaion?	14（1）	207-209, 2022	呼吸器内科	岩本夏彦
5	Internal Medicine.	Pulmonary Tumor Thrombotic Microangiopathy Caused by Recurrent Gastric Cancer 26 Years After Total Gastrectomy【原著論文】	61（13）	1969-1972, 2022	循環器内科	Tadashi Yuguchi, Hiroyuki Sano, Kenji Nakajima, Yoshihiro Ikura.
6	Cardiovascular Intervention and Therapeutics	Integrated backscatter-intravascular ultrasound and modification of plaque during excimer laser coronary angioplasty【原書論文】	37（2）	354-362, 2022	循環器内科	Sasaki Satoru, Nakajima Kenji, Watanabe Keizo, Nozaki Yudai, Yuguchi Tadashi, Sano Hiroyuki, Matsutera Ryo, Murai Naoki, Abe Hiroaki, Takaoka Hideyuki
7	J Cardiol Cases.	A successful treatment of ganglionated plexi ablation for vagally mediated nocturnal atriovantricular block	26（3）	232-235, 2022	不整脈内科	Masanori Kobayashi[1)], Tomohide Ichikawa[1)], Yasushi Wakabayashi[1)], Takashi Koyama[1)], Hidetoshi Abe[1)], Mitsuaki Itoh[2)], Kohei Yamashiro 1）Department of Cardiovascular Medicine, Matsumoto Kyoritsu Hospital 2）Department of Cardiovascular Medicine, Hyogo Brain and Heart Center
8	脳卒中	3D-FLAIRによる評価が有用であった脳皮質静脈血栓症の1例【原著論文/症例報告】	44（2）	152-156, 2022	脳神経内科	立花久嗣，髙橋　哲，影山智子，前野和重，松下達生
9	日本病跡学雑誌	鳥井信治郎の企業家精神と中心気質，虎気質【原著論文】	104	50-62, 2022	精神科	杉林　稔
10	現代思想2022年12月臨時増刊号　総特集＝中井久夫	中井久夫から学んだこと	50（15）	40-47, 2022	精神科	杉林　稔
11	日本病跡学雑誌	追悼文　中井久夫と沖の島々	104	80-82, 2022	精神科	杉林　稔

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
12	Journal of Orthopaedic Science	Xie KaiらによるLetter to the editor への返答（Reply to letter to the editor by Xie Kai et al.）【レター】	27(4)	961-962, 2022	整形外科	Hiranaka Takafumi, Mutaguchi Yukiko, Yoshikawa Ryo, Nakanishi Yuta
13	Cureus	Kinematic Alignment Bi-unicompartmental Knee Arthroplasty With Oxford Partial Knees: A Technical Note	14(8)	e28556, 2022	整形外科	Hiranaka Takafumi, Fujishiro Takaaki, Koide Motoki, Okamoto Koji
14	Bone Joint Open	Current concept of kinematic alignment total knee arthroplasty and its derivatives	3(5)	390-397, 2022	整形外科	Hiranaka T, Suda Y, Saitoh A, Tanaka A, Arimoto A, Koide M, Fujishiro T, Okamoto K
15	Bone Joint Research	Infographic: Three key elements of kinematic alignment total knee arthroplasty for clarified understanding of its approaches	11(4)	226-228, 2022	整形外科	Hiranaka T, Suda Y, Saitoh A, Koide M, Tanaka A, Arimoto A, Fujishiro T, Okamoto K
16	J Arthroplasty.	Bearing Separation From the Lateral Wall of the Tibial Component Is a Risk of Anterior Dislocation of the Mobile Bearing in Oxford Unicompartmental Knee Arthroplasty	37(5)	942-947, 2022	整形外科	Hiranaka T, Suda Y, Kamenaga T, Fujishiro T, Koide M, Saitoh A, Tanaka A, Arimoto A, Okamoto K
17	Knee Surg Relat Res	Agreement and accuracy of radiographic assessment using a decision aid for medial Oxford partial knee replacement: multicentre study	34(1)	13, 2022	整形外科	Hiranaka T, Furuhashi R, Takashiba K, Kodama T, Michishita K, Inui H, Togashi E
18	J Knee Surg.	alidation of the Macroscopic Anterior Cruciate Ligament Status Using the Oxford Classification System in Relation to Cartilage Defects on the Medial Tibial Plateau in Osteoarthritic Knees	35(8)	884-889, 2022	整形外科	Hiranaka T, Hida Y, Tanaka T, Okimura K, Fujishiro T, Okamoto K
19	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc	Short distance from the keel to the posterior tibial cortex is associated with fracture after cementless Oxford UKA in Asian patients	30(4)	1220-1230, 2022	整形外科	Kamenaga T, Hiranaka T, Nakano N, Hayashi S, Fujishiro T, Okamoto K, Kuroda R, Matsumoto T.
20	Orthop Traumatol Surg Res	Contralateral knee flexion predicts postoperative knee flexion in unilateral total knee arthroplasty: A retrospective study	108(5)	103218, 2022	整形外科	Kamenaga T, Hiranaka T, Okimura K, Fujishiro T, Okamoto K
21	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc.	Lateral osteoarthritis progression is associated with a postoperative residual tibiofemoral subluxation in Oxford UKA	30(9)	3236-3243, 2022	整形外科	Kamenaga T, Hiranaka T, Hida Y, Nakano N, Kuroda Y, Tsubosaka M, Hayashi S, Kuroda R, Matsumoto T
22	J Orthop Sci.	Effectiveness of an accelerometer-based portable navigation for intraoperative adjustment of leg length discrepancy in total hip arthroplasty in the supine position	27(1)	169-175, 2022	整形外科	Anjiki K, Kamenaga T, Hayashi S, Hashimoto S, Kuroda Y, Nakano N, Fujishiro T, Hiranaka T, Niikura T, Kuroda R, Matsumoto T
23	Bone Joint J	Varus placement of the tibial component of Oxford unicompartmental knee arthroplasty decreases the risk of postoperative tibial fracture	04-B(10)	1118-1125, 2022	整形外科	Suda Y, Hiranaka T, Kamenaga T, Koide M, Fujishiro T, Okamoto K, Matsumoto T.
24	Knee	Approximately 80% of Japanese osteoarthritic patients fall out of the safety range in restricted kinematically-aligned total knee arthroplasty in an analysis of preoperative long-leg radiograms	35	54-60, 2022	整形外科	Suda Y, Hiranaka T, Kamenaga T, Okimura K, Koide M, Fujishiro T, Saitoh A, Tanaka A, Arimoto A, Okamoto K

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
25	J Knee Surg	Preoperative Condition of the Patellofemoral Joint Does Not Negatively Impact Surgical Outcomes of Lateral Unicompartmental Knee Arthroplasty in the Short Term	35(7)	810-815, 2022	整形外科	Fujita M, Hiranaka T, Kamenaga T, Tsubosaka M, Nakano N, Hayashi S, Kuroda R, Matsumoto T
26	J Orthop. Case Rep	TresLock for unstable proximal femoral fractures: morphological compatibility and clinical results: A case series	12(2)	49-52, 2022	整形外科	Yoshikawa R, Hiranaka T, Kamenaga T, Niikura T, Sakai Y, Kuroda R
27	Arch Orthop Trauma Surg	Fully hydroxyapatite-coated compaction broached and triple-tapered stem may reduce the risk of stress shielding after primary total hip arthroplasty	142(12)	4087-4093, 2022	整形外科	Kuroda Y, Hashimoto S, Hayashi S, Nakano N, Fujishiro T, Hiranaka T, Kuroda R, Matsumoto T
28	J Cell Physiol.	Paracrine effect of the stromal vascular fraction containing M2 macrophages on human chondrocytes through the Smad2/3 signaling pathway	237(9)	3627-3639, 2022	整形外科	Fujita M, Matsumoto T, Hayashi S, Hashimoto S, Nakano N, Maeda T, Kuroda Y, Takashima Y, Kikuchi K, Anjiki K, Ikuta K, Onoi Y, Tachibana S, Matsushita T, Iwaguro H, Sobajima S, Hiranaka T, Kuroda R
29	Clin Orthop Surg	Second-Look Arthroscopic Findings and Clinical Outcomes after Adipose-Derived Regenerative Cell Injection in Knee Osteoarthritis	14(3)	377-385, 2022	整形外科	Onoi Y, Hiranaka T, Hida Y, Fujishiro T, Okamoto K, Matsumoto T, Kuroda R
30	日本脳神経外科認知症学会誌	リハビリテーション医学の視点から認知症診療展望	Vol.2, No.1 2(1)	1-8, 2022	リハビリテーション科	欅　　篤
31	皮膚科の臨床	水泡性類天疱瘡の治療中に後天性血友病Aを併発した1例【原著論文/症例報告】	64(10)	1657-1661, 2022	皮膚科	笹瀬玲奈，山田はるひ，瀬戸英伸，鶴田慧司郎
32	皮膚科の臨床	Wells症候群の1例【原著論文/症例報告】	64(8)	1387-1390, 2022	皮膚科	笹瀬玲奈，山田はるひ，瀬戸英伸
33	日本小児救急医学会雑誌	重症膿胸を契機に同定された選択的IgA欠損症の8歳男児例【原著論文】	21(3)	392-395, 2022	小児科	平場裕美，石森真吾，藤崎拓也，高成田祐希，篠本匡志，大西　聡，服部健吾，起塚　庸，久松千恵子，津川二郎
34	日本小児救急医学会雑誌	Posterior reversible encephalopathy syndrome を契機に診断に至った高安動脈炎の一例【原著論文】	21(3)	367-371, 2022	小児科	高田めぐみ，石森真吾，篠本匡志，服部有香，大西　聡，起塚　庸，古市康子
35	Journal of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery	Severe Pulmonary Artery Hypertension Due to Cardiovascular Beroberi in a 3-Year-Old Boy Successfully Treated with a Phosphodiesterase Type 5 Inhibitor【原著論文】	6(2)	75-80, 2022	小児科	Otao Saki, Uchiyama Takamichi, Yamamoto Kazuhiro, Onishi Satoshi, Okizuka Yo, Takei Atsuko, Minami Hirotaka
36	Journal of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery	Acute Myocardial Infarction Caused by Thrombotic Occlusion by a Right Doronary Gianto Aneurysm in a 6-Year-Old Boy with No History of Kawasaki Disease【原著論文】	6(1)	25-30, 2022	小児科	Uchiyama Takamichi, Onishi Satoshi, Okizuka Yo, Minami Hirotaka
37	日本周産期，新生児医学会雑誌	18トリソミーと脊髄髄膜瘤を合併した2症例の診療【原著論文/症例報告】	58(2)	374-379, 2022	新生児科	大多尾早紀，岸上　真，中田有紀，片山義規，中後　聡，山中　巧，原田敦子

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
38	Eur J Clin Microbiol Infect Dis	Epidemiology of group B streptococcal disease in infants younger than 1 year in Japan: a nationwide surveillance study 2016-2020	41(4)	559-571, 2022	新生児科	Shibata M, Matsubara K, Matsunami K, Miyairi I, Kasai M, Kai M, Katayama Y, Maruyama T, Le Doare K
39	小児の脳神経	偶発的に認めた頭蓋補腫瘤性病変から診断に至ったMcCune-Albright症候群の12歳男児例【原著論文】	47(3)	320-324, 2022	小児脳神経外科	土肥周平，宇津木玲奈，大西　聡，石森真吾，起塚　庸，原田敦子
40	脳神経外科ジャーナル	小児特有の頭部外傷の病態	31(4)	234-239, 2022	小児脳神経外科	原田敦子，中村夏樹，山中　巧
41	脳神経外科	頭蓋骨縫合早期癒合症に対する内視鏡支援下縫合切除術と術後ヘルメット治療	50(6)	1230-1236, 2022	小児脳神経外科	原田敦子，久徳茂雄
42	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research	Difficult maintenance of serum drug concentration in methicillin-resistant Staphylococcus aureus toxic shock syndrome euring early puerperium【原著論文】	48(6)	1484-1488, 2022	産婦人科	Shibata Takashi, Nakago Satoshi, Kato Hiroki, Tokuda Hisato, Hosono Sayoko, Kotsuji Fumikazu
43	日本骨盤底医学会雑誌	McDonald頸管縫縮術後に尿管開口部付近に生じた膀胱膣瘻の修復～修復を成功させ尿管膀胱移植を回避するための手技と思考～	18	11-16, 2022	1）産婦人科 2）泌尿器科	大石哲也[1)]，柴田貴司[1)]，加藤大樹[1)]，中後　聡[1)]，小辻文和[1)]，右梅貴信[2)]
44	日本周産期，新生児医学会雑誌	18トリソミーと脊髄髄膜瘤を合併した2症例の診療	58	374-379, 2022	1）新生児科 2）産婦人科 3）京都府立医科大学脳神経外科 4）小児脳神経外科	大多尾早紀[1)]，岸上　真[1)]，中田有紀[1)]，片山義規[1)]，中後　聡[2)]，山中　巧[3)]，原田敦子[4)]
45	産科と婦人科	MSI-High 子宮体部脱分化癌に対して，ペムブロリズマブと放射線を併用し治療した1例	89 (11)	1237-42, 2022	1）産婦人科 2）病理科	飯塚徳昭[1)]，伊倉義弘[2)]，細野佐代子[1)]，柴田貴司[1)]，加藤大樹[1)]，大石哲也[1)]，中後　聡[1)]
46	愛仁会医学研究誌	胎児MRIを用いた，臍帯相互巻絡による一羊膜（MM）双胎一子死亡症例の管理経験	54	55-57, 2022	産婦人科	伊藤弘樹，中後　聡，柴田貴司，加藤大樹，細野佐代子
47	愛仁会医学研究誌	分娩時の膣壁裂傷に起因し膣壁付近に孤立した後腹膜血腫を経膣的に除去した経験	54	58-60, 2022	産婦人科	新田勇人，柴田貴司，飯塚徳昭，西川茂樹，加藤大樹，小辻文和，中後　聡，細野佐代子
48	愛仁会医学研究誌	母体へのデキサメサゾン投与後に胎児胸部嚢胞縮小を認めたCPAM type2の1例	54	61-64, 2022	産婦人科	森本　始，西川茂樹，福岡泰教，細野佐代子，柴田貴司，加藤大樹，岸上　真，山口里枝，中後　聡
49	BMC Anesthesiol	Efficacy of modified thoracoabdominal nerves block through perichondrial approach in open gynecological surgery: a prospective observational pilot study and a cadaveric evaluation		15;22 (1):107. doi: 10.1186/s12871-022-01652-2. PMID: 35428204; PMCID: PMC9010447.	麻酔科	Tanaka N, Suzuka T, Kadoya Y, Okamoto N, Sato M, Kawanishi H, Azuma C, Nishi M, Kawaguchi M
50	病理と臨床	【非腫瘍性肝疾患-肝生検診断のポイント】脂肪性肝疾患と自己免疫性肝疾患のオーバーラップ（解説）	40(8)	757-762, 2022	病理科	伊倉義弘
51	Intern Med	Pulmonary Tumor Thrombotic Microangiopathy Caused by Recurrent Gastric Cancer 26 Years After Total Gastrectomy	61(13)	1969-1972, 2022	病理科	Yuguchi T, Sano H, Nakajima K, Ikura Y

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
52	Oncogenesis	Cytoglobin attenuates pancreatic cancer growth via scavenging reactive oxygen species	11(1)	23, 2022	病理科	Hoang DV, Thuy LTT, Hai H, Hieu VN, Kimura K, Oikawa D, Ikura Y, Dat NQ, Hoang TH, Sato-Matsubara M, Dong MP, Hanh NV, Uchida-Kobayashi S, Tokunaga F, Kubo S, Ohtani N, Yoshizato K, Kawada N
53	EBioMedicine	Safety, tolerability, and anti-fibrotic efficacy of the CBP/β-catenin inhibitor PRI-724 in patients with hepatitis C and B virus-induced liver cirrhosis: An investigator-initiated, open-label, non-randomised, multicentre, phase 1/2a study	80	104069, 2022	病理科	Kimura K, Kanto T, Shimoda S, Harada K, Kimura M, Nishikawa K, Imamura J, Ogawa E, Saio M, Ikura Y, Okusaka T, Inoue K, Ishikawa T, Ieiri I, Kishimoto J, Todaka K, Kamisawa T

著書発表（2022/1/1 ～ 2022/12/31）

No.	著　書　名	出版社，地名	版，刷	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
1	格段にうまくいくカテーテルアブレーションの基本とコツ　3.心房細動基質に対するアブレーション法　3）自律神経節アブレーション	羊土社／東京	第2版 1刷	303-314, 2022	不整脈内科	山城荒平
2	慢性肺疾患のステロイド療法 周産期医学	東京医学社／東京	52(1)	84-88, 2022	新生児科	長坂美和子，片山義規
3	新生児の症状・所見・検査値見きわめドリル	メディカ出版／大阪	41(6)	551-556, 2022	新生児科	岸上　真
4	麻酔科レジデントマニュアル	医学書院／東京	第2版	176-180, 181-183, 2022	麻酔科	佐藤眞理子，位田みつる

その他（2022/1/1 ～ 2022/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
1	AD Treatment Up-to-Date in KANSAI	一般演題『アトピー性皮膚炎治療の現状～新時代の幕開け～』	'22/1	大阪市/ ハイブリッド開催	皮膚科	瀬戸英伸
2	第35回近畿小児科学会	各種ワクチン接種時期と再発との因果関係を考えさせられた，小児特発性ネフローゼ症候群の1例	'22/2	大阪市	小児科	石森真吾，山本和宏， 篠本匡志，服部有香， 大西　聡，今出　礼， 内山敬達，起塚　庸
3	第35回近畿小児科学会	乳児期早期に腹膜透析導入に至ったPierson症候群の1例	'22/2	Web	小児科	小野あずさ，石森真吾， 山本和宏，篠本匡志， 服部有香，大西　聡， 今出　礼，内山敬達， 起塚　庸，小松博史[1)] 1）NHO舞鶴医療センター小児科
4	医療機関における児童虐待体制整備フォローアップ事業研修会	虐待を鑑別に入れた小児頭部外傷について	'22/2	Web	小児脳神経外科	原田敦子
5	JACアブレーションライブ	心室頻拍	'22/2	大阪市	不整脈内科	山城荒平
6	AF BEST CARE 2022	心房細動治療はABC pathwayで！－超高齢化社会の心房細動治療を考える－	'22/2	京都市	不整脈内科	山城荒平
7	第86回日本循環器学会学術集会	Poster Session（Japanese）11 Arrhythmia3（Complications of Ablation）	'22/3	神戸市	不整脈内科	山城荒平
8	ネイリン爪白癬診療WEBセミナー	特別講演『行動経済学を用いた新しい患者指導～爪白癬を中心に～』	'22/3	Web	皮膚科	瀬戸英伸
9	Parkinson's Disease Seminar in 三島	高齢パーキンソン病患者における治療戦略	'22/3	大阪市	脳神経内科	松下達生
10	Parkinson's Disease Seminar in 三島	サフィナミドの位置づけと100mg増量意義	'22/3	大阪市	脳神経内科	松下達生
11	第122回日本外科学会定期学術集会	VL-２　映像による私の手術手技（2）	'22/4	熊本市	心臓・大血管センター	大北　裕
12	第24回北摂皮膚科医会	講演Ⅰ	'22/4	Web	皮膚科	瀬戸英伸
13	第81回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会	小児（B-19～22）	'22/4	Web	小児脳外科	埜中正博，原田敦子
14	第50回日本血管外科学術総会	特別企画4　日本血管外科学会50周年企画-これまでの血管外科そして，これからの血管外科-	'22/5	北九州市	心臓・大血管センター	古森公浩[1)]，大北　裕 1）名古屋大学大学院医学系研究科血管外科
15	第42回日本脳神経外科コングレス	プレナリーセッション　胎児期水頭症の診断と治療	'22/5	横浜市	小児脳神経外科	原田敦子
16	令和4年度　茨木市医療的ケア児研修会	脊髄髄膜瘤に伴う水頭症，膀胱直腸障害，両下肢麻痺の病態について	'22/5	Web	小児脳神経外科	原田敦子
17	第68回日本不整脈心電学会学術集会	メディカルプロフェッショナル教育講演4　合併症　知る・防ぐ・気づく！	'22/6	横浜市	不整脈内科	山城荒平
18	第68回日本不整脈心電学会学術集会	Oral Session 63　Ablation AF NonPV Ⅰ	'22/6	横浜市	不整脈内科	山城荒平
19	第28回日本血管内治療学会学術総会	プレナリーセッション8　「我々のデバイスはココがすごい！」デバイス4　ロボット・AI	'22/6	名古屋市	不整脈内科	山城荒平

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
20	JOSKAS-JOSSM 2022	イブニングセミナー3　低侵襲・患者個別　人工膝関節置換術と再生医療	'22/6	札幌市	整形外科	平中崇文，高橋謙治[1)] 1）京都府立医科大学大学院医学研究科　運動器機能再生外科学
21	第48回日本骨折治療学会学術集会	大腿骨頚基部骨折に対するTresLock の骨頭固定スクリューは適切に頚部髄内に挿入される	'22/6	横浜市	整形外科	牟田口由紀子，田中惇貴，栖田慶仁，平中崇文
22	第48回日本骨折治療学会学術集会	Oxford 単顆型人工関節置換術後に生じた脛骨内顆不全骨折	'22/6	横浜市	整形外科	牟田口由紀子，田中惇貴，栖田慶仁，平中崇文
23	第6回日本脳神経外科認知症学会学術総会	シンポジウム5　軽度認知症の診断とその対応	'22/6	秋田市	リハビリテーション科	長田　乾[1)]，欅　　篤 1）横浜総合病院臨床研究センター
24	第50回日本小児神経外科学会	シンポジウム2　小児水頭症の長期成績からみた課題と展望	'22/6	岐阜市	小児脳神経外科	原田敦子
25	第50回日本小児神経外科学会	教育セミナー　水頭症・頭蓋内嚢胞性疾患	'22/6	Web	小児脳神経外科	原田敦子
26	第18回Craniosynostosis研究会	合併症から学ぶ	'22/6	東京都	小児脳神経外科	原田敦子
27	第7回頭蓋形状誘導療法研究会	要望演題Ⅰ：合併症から学ぶ	'22/6	Web	小児脳神経外科	原田敦子
28	地域で見守る脳卒中セミナー in 三島	脳卒中の回復期リハビリテーション～ガイドラインなどを中心に	'22/6	高槻市	脳神経内科	松下達生
29	片頭痛Forum in mishima	総合診療外来における頭痛診療	'22/6	大阪市	脳神経内科	松下達生
30	Oral Anti Coagulant Web seminar	後悔しない心房細動治療～超高齢者心房細動治療の新たな選択肢～	'22/6	高槻市	不整脈内科	山城荒平
31	武田薬品医学教育勉強会	パーキンソン病の治療について	'22/6	高槻市	脳神経内科	松下達生
32	アムジェン社内セミナー	片頭痛の診断と治療	'22/6	大阪市	脳神経内科	松下達生
33	第24回日本医療マネジメント学会学術総会	一般演題（口演）3 病院運営（組織運営）3	'22/7	神戸市	循環器内科	髙岡秀幸，清水　操[1)] 1）市立川西病院　事務部長
34	第67回日本透析医学会	透析非導入/継続中止/その他	'22/7	横浜市	腎臓内科	瀬田公一[1)]，辻本吉広 1）独立行政法人国立病院機構京都医療センター
35	第69回日本病跡学会総会	シンポジウム2　臨床と病跡学	'22/7	つくば市	精神科	杉林　稔，齊藤慎之介[1)] 1）自治医科大学附属さいたま医療センター
36	第58回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会プログラム	教育講演5　「周産期・新生児期に見られる気道疾患に対する外科的治療の進歩」	'22/7	横浜市	小児外科	津川二郎
37	愛媛大学医学部講義	小児脳神経外科	'22/7	東温市	小児脳神経外科	原田敦子
38	広島小児神経セミナー	赤ちゃんの頭の形について知っておくべき知識	'22/7	Web	小児脳神経外科	原田敦子
39	第58回日本小児外科学会近畿地方会	消化管	'22/8	大阪市	小児外科	久松千恵子
40	心房細動Web講演会	心房細動治療のいくつかのエレメント　－総合病院の不整脈センターの立ち位置－	'22/8	大阪市	不整脈内科	山城荒平
41	日本麻酔科学会 2022年度支部学術集会	小児麻酔　座長	'22/9/2-10/3	大阪市	小児周術期センター	土居ゆみ

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
42	第2回日本不整脈心電学会近畿支部地方会	心電図検定対策講座1～心電図検定に向けて，心電図の判読力を上げよう～心電図判読力アップのために	'22/10	大阪市	不整脈内科	山城荒平
43	第50回日本救急医学会総会・学術集会	消化器1	'22/10	東京都	救急科	秋元　寛
44	第50回日本関節病学会	整形外科領域におけるスマートグラスの利用～整形外科領域における医工連携	'22/10	新潟市	整形外科	平中崇文
45	第139回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	Oxford Partial Kneeを用いたKinematic alignment UKAおよびBiUKA-A technical note	'22/10	大阪市	整形外科	平中崇文，林　卓磨，井上諒真，蒲地正宗，牟田口由紀子，岡本剛治
46	第139回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	内側人工膝単顆置換術後長期間経過後にインプラント周囲骨折を発症した2例	'22/10	大阪市	整形外科	井上諒真，平中崇文，岡本剛治，藤代高明，小出　基
47	第139回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	Kinematic alignment TKAにより再置換したfailed Oxford UKAの7症例	'22/10	大阪市	整形外科	林　卓磨，平中崇文，岡本剛治，井上諒真，牟田口由紀子
48	第71回日本小児神経学会近畿地方会	遺伝子異常，染色体異常	'22/10	大阪市	小児脳神経外科	原田敦子
49	第12回認知症イメージング研究会	特別講演Ⅱ　アルツハイマー病のバイオマーカー血液バイオマーカーを中心に	'22/10	Web	リハビリテーション科	欅　　篤
50	カテーテルアブレーション関連秋季大会2022	研修セミナー　3．心房細動アブレーションでの追加併用処置（2）GPアブレーション	'22/11	横浜市	不整脈内科	山城荒平
51	カテーテルアブレーション関連秋季大会2022	公開研究会　Best Abstract賞選考会	'22/11	横浜市	不整脈内科	野上昭彦，内藤滋人，高橋　淳，合屋雅彦，山城荒平，宮内靖史
52	カテーテルアブレーション関連秋季大会2022	公開研究会　心房細動（4）	'22/11	横浜市	不整脈内科	高橋　淳，山城荒平
53	カテーテルアブレーション関連秋季大会2022	カテーテルアブレーションライブセミナー　ライブ中継　昭和大学江東豊洲病院	'22/11	横浜市	不整脈内科	山城荒平，吉田幸彦
54	第86回日本皮膚科学会東京支部学術大会	一般演題18【間葉系腫瘍3】	'22/11	東京都/ハイブリッド開催	皮膚科	瀬戸英伸，伊藤友章[1)] 1）東京医大
55	大阪北部三島エリア皮膚科講演会	一般演題	'22/11	高槻市/ハイブリッド開催	皮膚科	瀬戸英伸
56	第66回日本新生児成育医学会・学術集会	先天異常1	'22/11	横浜市	新生児科	池上　等，飛騨麻里子[1)] 1）慶應義塾大学医学部小児科学教室
57	第14回日本水頭症脳脊髄液学会学術集会	一般口演3．シャント術	'22/11	東京都	小児脳神経外科	原田敦子
58	3学会共催　日本プライマリ・ケア連合学会　米国内科学会（ACP）日本支部　日本臨床疫学会PCRC the 4th 第4回年次集会	シンポジウム①日本において「総合診療の価値」はどこまで明らかになっているか～ヘルスサービス研究「JPCA単位対象」	'22/12	Web	総合内科	青木拓也[1)]，吉田秀平[2)]，阿部計大[3)]，濱田　治 1）東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター 2）広島大学病院総合内科総合診療科 3）Harvard T.H. Chan School of Public Health, Takemi Program in international Health

愛仁会リハビリテーション病院

口頭発表（2022/1/1 ～ 2022/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科（課）	発表者
1	第59回リハビリテーション医学会学術集会	回復期リハビリテーション病院における下腿切断患者の特徴と問題点	'22/6	横浜市	リハビリテーション科	越智文雄
2	第3回脊髄損傷患者の尿路管理に関する意見交換会	脊髄障害患者さんはどのタイミングで排尿管理を獲得するのか？	'22/7	Web	リハビリテーション科	松岡美保子
3	第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術集会	歯科介入を含めたリハビリテーションが奏功した舌癌治療晩期の脳梗塞による嚥下障害の一例	'22/9	千葉市	リハビリテーション科	湯川弘之
4	第14回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会	回復期リハビリテーション病棟の損益管理状況と経営管理意識の要因分析	'22/9	大阪市	リハビリテーション科	磯山浩孝
5	第29回日本排尿機能学会	脊髄損傷患者の尿路管理を中心とした医療機関連携～リハ病院からの報告～	'22/9	札幌市	リハビリテーション科	松岡美保子
6	第38回日本義肢装具学会学術大会	片麻痺を合併した下腿切断患者に対する義足管理冊子の作成	'22/10	新潟市	リハビリテーション科	越智文雄
7	第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	両側視床梗塞により情動障害、幼児化傾向を呈した症例	'22/11	岡山市	リハビリテーション科	中島敦史
8	第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	回復期リハビリテーション病棟で脊髄障害患者を支えるための課題	'22/11	岡山市	リハビリテーション科	松岡美保子
9	第57回日本脊髄障害医学会	入院中の脊髄損傷患者に生じた筋肉内出血の特徴	'22/11	横浜市	リハビリテーション科	松岡美保子

論文発表（2022/1/1 ～ 2022/12/31）

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科（課）	著　者
1	愛仁会医学研究誌	気管切開管理を要する医療的ケア児の小児期病状変化と短期入院による在宅ケア支援	54	19-23, 2022	小児科	李　容桂，寺田明佳，和田佳子
2	愛仁会医学研究誌	Factors Associated with Walking Putcomes in Patients in the Cpnvalescent Stage of Incomplete Cervical Spinal Cord Injury	54	24-30, 2022	リハビリテーション科	松岡美保子
3	日本脊髄障害医学会誌	【講演記録】清潔間欠導尿を行っている脊髄障害患者の生活満足度調査	35	112-113, 2022	リハビリテーション科	松岡美保子

その他（2022/1/1 ～ 2022/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
1	北大阪排泄セミナー	脊髄損傷患者の排尿管理について～当院での実践～	'22/5	Web	リハビリテーション科	松岡美保子
2	日本リハビリテーション医学会「リハビリテーション科医になろうセミナー」	リハビリテーション科専門医が語る面白さ	'22/8	Web	リハビリテーション科	松岡美保子
3	日本リハビリテーション医学会「脊髄尿路管理研修会」	リハ科医による脊損患者の尿路管理	'22/12	飯塚市	リハビリテーション科	松岡美保子

愛仁会総合健康センター

その他（2022/1/1 ～ 2022/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
1	第162回糖尿病教育学習研究会	講演1　やってみよう！看護師血糖モニタリング体験 講演2　糖尿病治療における先進デバイスをどう活用するか？	'22/6	神戸市	診療部	冨永洋一
2	第164回糖尿病教育学習研究会	基調講演1　糖尿病チームにおける公認心理師（臨床心理士）の役割について 基調講演2　どうするアドボカシー	'22/9	神戸市	診療部	冨永洋一

明石医療センター

口頭発表（2022/1/1 ～ 2022/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科（課）	発表者
1	Hyogo Lung Cancer Meeting	左上葉切除後に 腎梗塞を発症した一例	'22/1	オンライン	呼吸器外科	高梨　碧
2	第24回日本病院総合診療医学会学術総会	若手部会企画　MKSA919	'22/2	オンライン	総合内科	官澤洋平
3	第285回日本小児科学会兵庫県地方会	兵庫県病院小児科勤務医アンケート調査結果	'22/2	Web	小児科	久呉真章，安部治郎，泉　裕，川崎圭一郎，河田知子，小阪嘉之，辰己和人，田中靖彦，鶴田　悟，冨永弘久，貫名貞之，野津寛大，藤田　位，港　敏則，横山直樹，米谷昌彦
4	進化を続ける肺癌診療	市中病院で肺癌個別化医療にどう対応するか～最新トピックスをふまえて～	'22/2	Web	呼吸器内科	畠山由記久
5	貧血シリーズWebセミナー	腎臓内科の立場から　全身から考える腎性貧血	'22/2	明石市	腎臓内科	米倉由利子
6	第34回日本肘関節学会学術集会	当院における上腕骨遠位cornal shear骨折の治療成績	'22/2	名古屋市	整形外科	脇　貴洋
7	第15回日本ロボット外科学会学術集会	腹腔鏡下仙骨膣固定術・ロボット支援下仙骨膣固定術における各手術操作にかかる時間比較	'22/2	名古屋市	産婦人科	松岡正造
8	第86回日本循環器学会学術集会	Incidence and Characteristics of Immune Checkpoint Inhibitor-related Myocarditis	'22/3	Web	循環器内科	西川達哉
9	第58回日本腹部救急医学会総会	ロボット支援下腹会陰式直腸切断術後早期に発症した，小腸嵌頓によるイレウスの1例	'22/3	オンライン	外科	大坪　出
10	第52回心臓血管外科学会総会	腹部大動脈瘤に対するEVARの術前下腸間膜動脈・腰動脈塞栓術の有効性の検討	'22/3	横浜市	心臓血管外科	吉谷信幸
11	第9回日本脆弱性骨折ネットワーク学術集会	AMC Hip Fractureテンプレート使用による大腿骨近位部骨折の集学的マネジメントの有益性	'22/3	オンライン	総合内科	石丸直人
12	第1回日本周産期麻酔科学会学術集会	中規模病院におけるCOVID-19妊婦対応の現状	'22/3	吹田市	麻酔科	松尾佳代子
13	第1回日本周産期麻酔科学会学術集会	切迫早産に対する塩酸リトドリンによる治療中に横紋筋融解症を疑われ緊急帝王切開となった症例	'22/3	吹田市	麻酔科	森本優佳子
14	第49回日本集中治療医学会学術集会	梗塞前狭心症のタイミングが急性心筋梗塞再灌流後の微小循環障害に与える影響について：心臓MRIからの知見	'22/3	仙台市	循環器内科	民田浩一
15	日本心エコー図学会第33回学術集会	免疫チェックポイント阻害薬投与時の心機能評価の意義	'22/4	米子市	循環器内科	西川達哉
16	東播磨　喘息治療webinar	喘息チェッカーを用いた当院の気管支喘息吸入治療実態調査	'22/4	神戸市	呼吸器内科	畠山由記久
17	第122回日本外科学会定期学術集会	当院における85歳以上超高齢者大腸癌に対する腹腔鏡下手術症例の検討	'22/4	熊本市	外科	水田憲利

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
18	第62回日本呼吸器学会学術講演会	ステロイドパルス治療をうけた急性呼吸不全患者の予後予測因子に関する後ろ向き観察研究	'22/4	京都市	呼吸器内科	髙宮　麗
19	第62回日本呼吸器学会学術講演会	EGPAに対するmepolizumab投与後のステロイド減菌効果と随伴症状への改善効果の検討	'22/4	京都市	呼吸器内科	畠山由記久
20	第62回日本呼吸器学会学術講演会	高齢者非小細胞肺癌の初回治療におけるプラチナ製剤を含む化学療法＋ICI併用療法の有効性，安全性に関する単施設後ろ向き観察研究	'22/4	京都市	呼吸器内科	増田佳純
21	第62回日本呼吸器学会学術講演会	間質性肺炎合併肺癌患者の転帰に関する予後予測因子の検討	'22/4	京都市	呼吸器内科	塚本　玲
22	第62回日本呼吸器学会学術講演会	非侵襲的陽圧換気療法を使用した急性呼吸不全患者の転帰に影響する因子の検討	'22/4	京都市	呼吸器内科	藤本昌大
23	21st European Congress of Trauma and Emergency Surgery	First Orthogeriatric co-management in Japan reduces the length of hospital stays in elderly hip fracture patients	'22/4	オンライン(ノルウェー)	整形外科	脇　貴洋
24	第138回中部日本整形外科災害外科学会･学術集会	内科医と整形外科医が共に大腿骨近位部骨折患者の入院管理を行うOrthogeriatric- co-managementのインパクト	'22/4	名古屋市	整形外科	脇　貴洋
25	第138回中部日本整形外科災害外科学会･学術集会	大腿骨転子部骨折術後に大腿深動脈分枝仮性動脈瘤破裂をきたした1例	'22/4	名古屋市	整形外科	北村俊樹
26	第138回中部日本整形外科災害外科学会･学術集会	鎖骨遠位端骨折におけるSCORPIONの長期成績	'22/4	名古屋市	整形外科	大澤　慎
27	第65回日本糖尿病学会年次学術集会	2型糖尿病患者におけるSGLT2阻害薬開始後のeGFR低下速度に影響する因子に関する検討	'22/5	神戸市	糖尿病・内分泌内科	中村友昭，新井尚樹，千原和夫
28	第65回日本糖尿病学会年次学術集会	特定看護師と訪問看護師の連携による在宅医療患者のインスリン量調整の実態	'22/5	神戸市	糖尿病・内分泌内科	大岩明日香，津崎好美，新井尚樹，中村友昭，千原和夫
29	第65回日本糖尿病学会年次学術集会	外来での段階的なCSII導入～スマートホンアプリの活用	'22/5	神戸市	糖尿病・内分泌内科	津崎好美，鍛冶香澄，新井尚樹，中村友昭，千原和夫
30	日本消化器内視鏡学会総会	当院で経験したＥＦＴＲトラブルシューティング	'22/5	京都市	消化器内科	石田　司
31	Non Communicable Diseases Conference in Akashi 2022	非がん性呼吸器疾患の診療ポイントと緩和ケア	'22/5	明石市	呼吸器内科	岡村佳代子
32	第39回日本呼吸器外科学会学術集会	新型コロナウイルス（COVID-19）肺炎治療経過中に合併した有膿性膿胸に対して開窓術を施行した1例	'22/5	オンライン	呼吸器外科	大橋千裕
33	第39回日本呼吸器外科学会学術集会	定型肺カルチノイド腫瘍に対してロボット支援下右上葉区域切除術を施行した１例	'22/5	オンライン	呼吸器外科	高梨　碧
34	第50回日本血管外科学会学術総会	腕頭動脈malperfusionを伴うStanfordA型急性大動脈解離に対して腕頭動脈Earlyperfusionを用いて弓部大動脈全置換術を施行した一例	'22/5	小倉市	心臓血管外科	林　裕之
35	第50回日本血管外科学会学術総会	急性A型大動脈解離に対して弓部置換術後，急速拡大した解離性下行大動脈嚢状瘤に対して下行置換術を行ったLoeys-Dietz症候群の1例	'22/5	小倉市	心臓血管外科	吉谷信幸
36	第34回びまん性肺疾患勉強会	検診異常で発見された間質性肺炎の一例	'22/5	Web	呼吸器内科	岡村佳代子

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
37	第95回日本整形外科学会総会	内科医と整形外科医が共に入院管理を行うOrthogeriatric- co-managementは大腿骨近位部骨折患者の入院日数を短縮させる	'22/5	神戸市	整形外科	脇　貴洋
38	第13回日本プライマリケア連合学会学術大会	COVID-19流行下での地域活動のオンライン化の取り組み　めいまい体操教室オンライン	'22/6	横浜市	総合内科	金子昌裕
39	第108回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	当院で経験したIgA血管炎9例の内視鏡像の特徴	'22/6	京都市	消化器内科	朝原総一朗
40	兵庫県吸入指導講習会＝ガイドライン推奨ホー吸入の実践～	喘息入院患者の臨床的検討と吸入指導の実際～エナジア使用経験を交えて～	'22/6	明石市	呼吸器内科	畠山由記久
41	第95回日本内分泌学会学術総会	稀な障害ホルモンの組み合わせを示す後天性複合型下垂体機能低下症を呈した聴神経腫瘍の一例	'22/6	別府市	糖尿病・内分泌内科	中村友昭，新井尚樹，千原和夫
42	第95回日本内分泌学会学術総会	20年後のバセドウ病再燃に対するチアマゾール再使用で重度の無顆粒球症を呈した1例	'22/6	別府市	糖尿病・内分泌内科	新井尚樹，中村友昭，千原和夫
43	第13回日本プライマリケア連合学会学術集会	心不全パンデミック時代におけるプライマリ・ケアの役割	'22/6	横浜市	総合内科	官澤洋平
44	第13回日本プライマリケア連合学会学術大会	Impact of a hip fracture template on perioperative complication rate in hip fracture co-management by hospitalists:a retrospective cohort study	'22/6	横浜市	総合内科	石丸直人
45	第13回日本プライマリケア連合学会学術大会	本邦の肺血栓塞栓症の患者におけるPERCクライテリアの診断感度；後ろ向き観察研究	'22/6	横浜市	総合内科	長　陽二郎
46	第65回日本腎臓学会総会	日本の進行期CKD患者における保存的腎臓療法希望者の実態～REACH-J-CKDコホート研究から～	'22/6	神戸市	腎臓内科	米倉由利子
47	第65回日本腎臓学会総会	SARS-CoV-2ワクチン接種後に肉眼的血尿を呈した3症例の腎病理組織像の比較	'22/6	神戸市	腎臓内科	大田健人
48	GSK Severe Asthma Seminar in 明石	重症喘息と好酸球性炎症	'22/6	明石市	呼吸器内科	大西　尚
49	第65回関西胸部外科学会学術集会	COVID-19ワクチン接種後に発症した急性肺塞栓症の1手術例	'22/6	浜松市	心臓血管外科	三里卓也
50	第65回関西胸部外科学会学術集会	外傷性心破裂による心タンポナーデの2救命例	'22/6	浜松市	心臓血管外科	林　裕之
51	第65回関西胸部外科学会学術集会	大動脈弁位人工弁機能不全に対して弁輪拡大を伴う再弁置換術を行った1例	'22/6	浜松市	心臓血管外科	吉谷信幸
52	第236回内科学会近畿地方会	COVID-19後に出血性膀胱炎をきたした一例	'22/6	神戸市	総合内科	長　陽二郎
53	EGPA advanced management WEB 講演会	呼吸器内科からみたEGPA診療－ヌーカラの使用経験を交えて－	'22/6	Web	呼吸器内科	畠山由記久
54	第48回日本骨折治療学会学術集会	非転位型大腿骨頚部骨折においてin situで内固定した場合の骨頭壊死・骨頭圧潰の発症率についての検討	'22/6	横浜市	整形外科	松島真司
55	第48回日本骨折治療学会学術集会	Orthogeriatric co-managementは大腿骨近位部骨折患者の入院日数を短縮させる	'22/6	横浜市	整形外科	脇　貴洋

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
56	第48回日本骨折治療学会学術集会	当院における上腕骨遠位cornal shear骨折の治療成績	'22/6	横浜市	整形外科	脇　貴洋
57	第48回日本骨折治療学会学術集会	鎖骨遠位端骨折におけるSCORPIONの治療成績　術後5年間の中間報告	'22/6	横浜市	整形外科	大島　慎
58	第48回日本骨折治療学会学術集会	外反整復による治療成績の改善の可能性	'22/6	横浜市	整形外科	脇　貴洋
59	NSCLC講演会 in はりま	市中病院における肺癌個別化治療の実際	'22/7	神戸市	呼吸器内科	畠山由記久
60	Akashi Medical Conference on Lung Cancer	当院における免疫関連皮膚障害	'22/7	Web	呼吸器内科	池田美穂
61	第95回日本胃癌学会総会	高度線維化症例に対するCrane techniqueとMigaki tapping technique の有用性	'22/7	札幌市	消化器内科	石田　司
62	第77回日本消化器外科学会総会	当院における80歳以上大腸癌手術症例の検討	'22/7	横浜市	外科	水田憲利
63	第99回日本呼吸器学会近畿地方会	ペムブロリズマブによる薬剤性膵炎，薬剤性細気管支炎を発症した肺扁平上皮癌の一例	'22/7	大阪市	呼吸器内科	藤本葉月
64	第99回日本呼吸器学会近畿地方会	ペンブロリズマブ長期投与後に再発し，再投与が奏功した肺癌の一例	'22/7	大阪市	呼吸器内科	山崎菜々美
65	第99回日本呼吸器学会近畿地方会	神経症状を伴い皮膚生検が有用であった血管内リンパ腫の一例	'22/7	大阪市	呼吸器内科	松尾健二郎
66	明石市薬剤師会研修会	CKDと薬剤～適正使用により薬剤を「活かす」～	'22/7	明石市	腎臓内科	米倉由利子
67	神戸電解質サミット	今こそ，降圧薬～腎臓内科医だから考えたい血圧管理～	'22/7	神戸市	腎臓内科	米倉由利子
68	第58回日本周産期新生児医学会	オスラー病合併妊婦の肺出血に対して緊急帝王切開術ならびに胸腔鏡手術を施行した１例	'22/7	横浜市	産婦人科	下川　航
69	第96回兵庫県産科婦人科学会	明石医療センターにおけるロボット子宮全摘9例の検討	'22/7	神戸市	産婦人科	山﨑　亮
70	第96回兵庫県産科婦人科学会	子宮内外同時妊娠の適切な診断と治療	'22/7	神戸市	産婦人科	嶋村卓人
71	World Conference on Lung Cancer 2022	The drug induced interstitial lung disease in combined chemoimmunotherapy for extensive-stage small cell lung cancer	'22/8	オーストリア	呼吸器内科	髙宮　麗
72	第25回日本病院総合診療医学会学術総会	内科・総合診療専門研修プログラムの本音　若手同士で語ろう　専攻医と卒業生の視点より	'22/8	オンライン	総合内科	宮澤洋平
73	第25回日本病院総合診療医学会学術総会	臨床推論・マネジメントMKSAP19～必須知識を体得する米国流ショートカット！～	'22/8	オンライン	総合内科	鶴田慧司郎
74	第74回日本産科婦人科学会	S状結腸への穿孔を認めた卵巣成熟嚢胞性奇形腫に対し腹腔鏡補助下に手術を施行した1例	'22/8	オンライン	産婦人科	下川　航
75	第74回日本産科婦人科学会学術講演会	卵巣腫瘍茎捻転に対する術前CT値と病理学的壊死・出血に関する後ろ向き研究	'22/8	福岡市	産婦人科	胡　脩平

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
76	第74回日本産科婦人科学会学術講演会	妊娠中に発症し，子宮内膜症関連のSHiPと鑑別を要した脾動脈破裂の一例	'22/8	博多市	産婦人科	光岡真優香
77	第5回日本腫瘍循環器学会学術集会	ドキソルビシン心筋症の病理学的診断におけるテネイシンCとマクロファージの有用性	'22/9	Web	循環器内科	西川達哉
78	第237回日本内科学会近畿地方会	ウステキヌマブで緩解維持可能となった自己免疫性水疱症を合併した潰瘍性大腸炎の1例	'22/9	大阪市	消化器内科	瀧本　将
79	第24回日本骨粗鬆症学会	総合内科医のOrthogeriatics	'22/9	大阪市	総合内科	石丸直人
80	第68回関西支部学術集会	パーキンソン病に対してモノミアン酸化酵素B（MAO-B）阻害薬を内服している患者の全身麻酔中にエフェドリンを使用し異常高血圧を呈した1例	'22/9	オンライン	麻酔科	森本優佳子
81	第68回関西支部学術集会	COVID-19診断後57日目に施行した心臓手術の麻酔経験	'22/9	オンライン	麻酔科	松本あい
82	播磨Respiratory and Infection Forum	基本に立ち返る胸部X線写真～読影の勘どころ～	'22/9	Web	呼吸器内科	畠山由記久
83	第9回神戸呼吸器内科勉強会	ペンブロリズマブによる薬剤性肺炎，細気管支炎パターンの薬剤性肺臓炎を発症した肺扁平上皮癌の一例	'22/9	神戸市	呼吸器内科	藤本葉月
84	日本心臓血管麻酔学会第27回学術集会	レミマゾラムを用いて低侵襲僧帽弁形成手術に対して術後早期抜管を行った1症例	'22/9	京都市	麻酔科	濱崎　豊
85	第19回秋季生涯教育セミナー	Multimorbidityを診療する上での手引き／臨床現場での使用に向けて	'22/9	大阪市	総合内科	石丸直人
86	第24回日本骨粗鬆症学会	内科医と整形外科医が共に大腿骨近位部骨折患者の入院管理を行うOrthogeriatric co-managementのインパクト	'22/9	大阪市	整形外科	脇　貴洋
87	第62回日本産科婦人科内視鏡学会	内視鏡技術認定医によるロボット支援子宮全摘術スタートアップと腹腔鏡内下子宮全摘術の手術成績比較	'22/9	横浜市	産婦人科	松岡正造
88	第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	・当院で経験した子宮内外同時妊娠の2例 ・心理学からアプローチしたトレーニング習慣化の実践	'22/9	横浜市	産婦人科	嶋村卓人
89	第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	手術は暗記！台本作成で目指せLTHの定型化と最速のLearning Curve	'22/9	横浜市	産婦人科	山﨑　亮
90	Kobe Lung Cancer Conference	症例検討　75歳女性　治療方針	'22/10	神戸市	呼吸器内科	岡村佳代子
91	明石市医療連携セミナー	基本に立ち返る喘息診療	'22/10	明石市	呼吸器内科	岡村佳代子
92	明石西神戸CKD病診連携セミナー	高齢CKD患者の薬物療法	'22/10	神戸市	腎臓内科	米倉由利子
93	第15回播磨喘息連携研究会	喘息病診連携の実際～PGAM2022改定を踏まえたトータルマネジメント～	'22/10	明石市	呼吸器内科	畠山由記久
94	第139回中部日本整形外科災害外科学会	CHSを用いて治療し得た高エネルギー外傷機転に伴う大腿骨転子部骨折偽関節の1例	'22/10	大阪市	整形外科	福本玄太

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
95	第75回日本胸部外科学会	心臓手術におけるトルバプタンの術前投与が周術期水分管理に及ぼす影響	'22/10	横浜市	心臓血管外科	三里卓也
96	第25回大動脈ステントグラフト研究会	VALIANT留置3年後にspringbackforceによる大動脈偏位を来した1例	'22/11	奈良市	心臓血管外科	安　健太
97	Secere Astha Expert Meeting in 兵庫	重症喘息診療をアップデートする2022	'22/11	明石市	呼吸器内科	大西　尚
98	第46回KCDC	検診発見の後縦隔腫瘍の一例	'22/11	神戸市	呼吸器内科	藤本葉月
99	第109回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	ベドリズマブが奏功し緩解維持可能であったクローン病2例	'22/11	京都市	消化器内科	塩屋暁子
100	第109回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	腸閉塞に対して腹腔鏡下手術を行い，診断しえた希少部位子宮内膜症の一例	'22/11	京都市	消化器内科	田中太郎
101	第109回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	内視鏡的に整復し得た早期大腸癌による腸重積の一例	'22/11	京都市	消化器内科	長谷川貴久
102	第59回糖尿病学会近畿地方会	原発性甲状腺機能低下症を基礎に糖尿病ケトアシドーシスを来した2型糖尿病の一例	'22/11	神戸市	糖尿病・内分泌内科	新井尚樹，中村友昭，千原和夫
103	第32回臨床内分泌代謝Update	腫瘍増大能に比しACTH分泌の自律性が弱いクルック細胞腺腫の一例	'22/11	東京都	糖尿病・内分泌内科	中村友昭，新井尚樹，千原和夫
104	第32回臨床内分泌代謝Update	術前にコルチコトロフ腫瘍を疑った下垂体ゴナドトロフ腫瘍の一例	'22/11	東京都	糖尿病・内分泌内科	新井尚樹，中村友昭，千原和夫
105	第16回神戸内科学セミナー	後腹膜血腫に深部静脈血栓症を合併した症例の検討	'22/11	神戸市	総合内科	榎本隆則
106	プライマリ・ケア連合学会第35回近畿地方会	ゆるっとつながる病院総合医のつどい	'22/11	奈良市	総合内科	宮澤洋平
107	カテーテルアブレーション関連秋季大会2022	アブレーション中誘発されたbiatrial tachycardiaに対して洞結節枝を避けてanterior lineを作成できた左房前壁に広範なscarを持つ持続性心房細動	'22/11	新潟市	循環器内科	平山恭孝
108	第84回日本臨床外科学会総会	潰瘍性大腸炎の経過中に発症し，腹腔鏡下に切除しえた肝reactive lymphoid hyperplasiaの1例	'22/11	福岡市	外科	水田憲利
109	第84回日本臨床外科学会総会	腸管子宮内膜症による腸閉塞に対して単孔式腹腔鏡補助下手術を施行した1例	'22/11	福岡市	外科	菊地拓也
110	第84回日本臨床外科学会総会	腹腔鏡補助下横行結腸癌手術後に乳糜腹水を認めた2例	'22/11	福岡市	外科	藤田彩花
111	第35回びまん性肺疾患勉強会	一部陰影改善が見られた両肺多発粒状影の一例	'22/11	Web	呼吸器内科	岡村佳代子
112	第47回日本足の外科学会学術集会	トランポリンで受傷した距骨骨軟骨損傷を伴ったMcFarland骨折の1例	'22/11	松山市	整形外科	脇　貴洋
113	GSK Severe Asthma Seminar Web講演会	重症喘息治療　生物学的製剤導入のポイント	'22/12	Web	呼吸器内科	岡村佳代子
114	第73回神戸心臓外科研究会	若年者ARに対してROSS手術を施行した一例	'22/12	神戸市	心臓血管外科	吉谷信幸

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
115	第360回東播小児臨床談話会	シクロスポリン療法が効を奏したIgA腎症の一例	'22/12	明石市	小児科	藤井順子
116	第35回日本内視鏡外科学会総会	骨盤内に充満する直腸GISTに対し，術前イマチニブ投与を行い肛門温存し得た一例	'22/12	名古屋市	外科	大坪　出
117	第35回日本内視鏡外科学会総会	腹腔鏡下に切除しえた遺残尿膜管由来粘液嚢胞腺腫の1例	'22/12	名古屋市	外科	水田憲利
118	第238回日本内科学会近畿地方会	自己免疫性溶結性貧血（AIHA）を合併したIgG4関連疾患（IgG4-RD）の一例	'22/12	オンライン	総合内科	鶴田慧司郎
119	Severe Asthma Symposium	当院の気管支喘息治療の現況	'22/12	神戸市	呼吸器内科	岡村佳代子
120	第100回日本呼吸器学会近畿地方会	神経鞘腫と鑑別を要した限局型キャッスルマン病の一例	'22/12	大阪市	呼吸器内科	藤本葉月
121	第100回日本呼吸器学会近畿地方会	急速転帰で死亡に至った緑膿菌感染症の2症例	'22/12	大阪市	呼吸器内科	榎本隆則
122	第100回日本呼吸器学会近畿地方会	抗結核治療により無顆粒球症に至った一例	'22/12	大阪市	呼吸器内科	松尾健二郎
123	第100回日本呼吸器学会近畿地方会	肺癌に合併した RS3PE 症候群にステロイド投与を行い速やかに改善した症例	'22/12	大阪市	呼吸器内科	山崎菜々美
124	第100回日本呼吸器学会近畿地方会	膠原病治療中に発症したニューモシンチス肺炎の2症例	'22/12	大阪市	呼吸器内科	増田佳純
125	EGPA advanced management WEB 講演会	呼吸器内科からみたEGPA診療 －ヌーカラの使用経験を交えて－	'22/12	Web	呼吸器内科	畠山由記久

論文発表（2022/1/1 ～ 2022/12/31）

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
1	J Gen Fam Med.	Serotonin syndrome after an overdose of over-the-counter medicine containing dextromethorphan	23	38-40, 2022	総合内科	尾本仁那，官澤洋平
2	Internal medicine	A Giant Infected Coronary Artery Aneurysm	61(9)	1467-8, 2022	総合内科	辻本泰貴，官澤洋平
3	Internal medicine	Multidisciplinary Team Deprescribing Intervention for Polypharmacy in Elderly Orthopedic Inpatients: A Propensity Score-matched Analysis of a Retrospective Cohort Study	61(16)	2417-26, 2022	総合内科	世戸博之，石丸直人，木南佐織
4	Journal of integrative and complementary medicine	Kikyo-to for Acute Upper Respiratory Tract Infection-Associated Sore Throat Pain: A Multicenter Randomized Controlled Trial	28(9)	768-74, 2022	総合内科	石丸直人，木南佐織
5	Infez Med.	Recurrent erysipelas led to diagnosis of hereditary hemorrhagic telangiectasia	30(1)	129-133, 2022	総合内科	山岡茉莉，官澤洋平
6	J Gen Fam Med.	Calcium pyrophosphate crystals in L4-L5 facet joint from small fluid sample	23(3)	193-194, 2022	総合内科	官澤洋平，木南佐織
7	Monaldi Arch Chest Dis.	Specific antibody deficiency to pneumococcal polysaccharide in a young adult with recurrent respiratory infections: a case report	93(3)	133-136, 2022	総合内科	石丸直人，木南佐織

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
8	日本呼吸器学会誌	クロピトグレルによる薬剤誘発性ループスの1例	11(4)	207-211, 2022	呼吸器内科	髙宮　麗，岡村佳代子，塚本　玲，松尾健二郎，池田美穂，大西　尚
9	Sleep and Breathing	Correction to: Analysis of nocturnal desaturation waveforms using algorithms in patients with idiopathic pulmonary fibrosis	26	1503, 2022	呼吸器内科	Yasuda Y, Nagano T, Izumi S, Yasuda M, Tsuruno K, Tobino K, Nakata K, Okamura K, Nishiuma T, Takatsuki K, Funada Y, Ohnishi H, Yamamoto M, Nishimura Y, Kobayashi K.
10	愛仁会医学研究誌	胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡的全層切除の実際	53	7-10, 2022	消化器内科	石田　司，ベンスレイマン・ヤハヤ，松岡晃生，川瀬雄太，石原美崎，法貴真也，瀧本　将，大西紘平，田中太郎，當銘成友，古松恵介，門　卓生，吉田俊一，中島卓利
11	Endoscopy	Endoscopic full-thickness resection of IgG4-related gastric submucosal tumor-like lesion	54	E1028-E1029, 2022	消化器内科	Ishida T, Bensuleiman Y, Takimoto M, Matsuoka K, Nakashima T.
12	Surg Endosc.	The risk scoring system for assessing the technical difficulty of endoscopic submucosal dissection in cases of remnant gastric cancer after distal gastrectomy	36	1482-1489, 2022	消化器内科	Tanaka S, Yoshizaki T, Yamamoto Y, Ose T, Ishida T, Kitamura Y, Obata D, Iwatate M, Fujita M, Ikeda A, Ariyoshi R, Kawara F, Abe H, Takao T, Morita Y, Sano Y, Umegaki E, Nishisaki H, Toyonaga T, Kodama Y.
13	JGH Open	Significance of post-progression therapy after tyrosine kinase inhibitors for advanced hepatocellular carcinoma	6	427-433, 2022	消化器内科	Yoshihiko Yano, Atsushi Yamamoto, Akihiko Minami, Kenji Momose, Takuya Mimura, Soo Ki Kim, Hiroki Hayashi, Takuo Kado, Hirotaka Hirano, Yoshihida Ueda, Yuzo Kodama
14	愛仁会医学研究誌	CRH刺激試験での顕著な血中ACTH増加反応と続発性副腎皮質機能低下症の併存は下垂体茎障害急性期の特徴的所見か？	54	65-69, 2022	糖尿病・内分泌内科	新井尚樹，中村友昭，宮部祥花，井下尚子，山田正三，千原和夫
15	CEN Case Reports	Comparison of renal histopathology in three patients with gross hematuria after SARS-CoV-2 vaccination	12(2)	176-183, 2022	腎臓内科	Kento Ota, Yuriko Yonekura, Madoka Saigan, Kimihiko Goto, Shinichi Nishi
16	腎と透析　腹膜透析2022	腹腔鏡下CAPDカテーテル挿入術後に腹壁ヘルニアを生じたCAPD患者の一例	93 別冊	145-146, 2022	腎臓内科	米倉由利子
17	Hindawi　Case Reports in Surgery	Adult intestinal malrotation treated with laparoscopic Ladd procedure		Article ID 6874885, 2022	外科	Noritoshi Mizuta, Takuya Kikuchi, Yoshiyuki Fukuda
18	日本臨床外科学会雑誌	人工血管感染に起因した感染性冠動脈瘤の1例	838	1234-1238, 2022	心臓血管外科	三里卓也
19	日呼外会誌	妊娠中に胸腔内破裂をきたした肺動静脈瘻の一例	36	36-40, 2022	呼吸器外科	北爪麻衣
20	愛仁会医学研究誌	明石医療センターにおける小児心身症の心理的治療の一考察	54	77-79, 2022	小児科	松本千佳，藤井順子，大山正平，梁川裕司，横山直樹，小寺智子

学術業績集

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
21	日本新生児成育医学会雑誌	超早産児に対する一酸化窒素吸入療法に関する多施設共同実態調査	34(1)	93-100, 2022	小児科	岩谷壮太，七里阿寿美，京野由紀，郷間　環，黒川大輔，横田知之，柴田暁男，高寺明弘，上田雅章，山根正之，横山直樹，芳本誠司
22	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	大腿骨転子部骨折術後に大腿深動脈分枝仮性動脈瘤破裂をきたした1例	65(5)	665-666, 2022	整形外科	北村俊樹
23	骨折	当院におけるステム周囲骨折に対する治療経験	44(3)	718-721, 2022	整形外科	北澤大也
24	骨折	大腿骨頸部骨折に対する骨接合術の治療成績　Hansson pinlocの前向き調査結果	44(3)	671-674, 2022	整形外科	松島真司
25	骨折	内科医と整形外科医が共に入院管理をするOrthogeriatric- co-managementが大腿骨近位部骨折患者に与えるインパクト	44(2)	337-340, 2022	整形外科	脇　貴洋
26	骨折	がん専門病院と外傷病院のコラボレーション　骨転移・骨腫瘍による病的骨折患者への早期治療介入の実現	44(1)	151-155, 2022	整形外科	脇　貴洋

著書発表（2022/1/1 ～ 2022/12/31）

No.	著　書　名	出版社，地名	版，刷	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
1	medicina 特集 日常診療に潜む臨床検査のピットフォールを回避せよ 各論<内分泌･代謝検査> Case 14. コルチゾール正常だから副腎機能は大丈夫!?	医学書院／東京	59(8)	1274-1277, 2022	総合内科	藤井真里，官澤洋平
2	総合診療 特集　こんなところも！“ちょいあて”エコー　POCUSお役立ちTips！⑧皮膚軟部感染症×エコー 蜂窩織炎と膿瘍，壊死性筋膜炎	医学書院／東京	32(8)	951-954, 2022	総合内科	官澤洋平
3	Medicina【これからもスタンダード!-Quality Indicatorの診療への実装-生活習慣病を中心に】生活習慣に関する疾患の診療評価指標とその実装 呼吸器疾患　COPDの診療評価指標	医学書院／東京	59(11)	1900-1904, 2022	総合内科	石丸直人
4	medicina 特集　これからもスタンダード！Quality Indicatorの診療への実装　生活習慣病を中心に 「肺がんの予防と検診の臨床評価指標」	医学書院／東京	59(11)	1970-1974, 2022	総合内科	鶴田慧司郎，官澤洋平
5	レジデントノート 医学論文　これなら探せる！読める！「PubMed検索の勘所」	羊土社／東京	23(16)	2649-2658, 2022	総合内科	官澤洋平
6	とことん極める！腎盂腎炎 36 透析患者で注意する尿路感染症（膀胱膿症）－無尿なのに膀胱内に液体が！？－	南山堂／東京	1版	172-176, 2022	総合内科	坂田尚弥，官澤洋平

No.	著　書　名	出版社，地名	版，刷	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
7	とことん極める！腎盂腎炎 5 尿検査を極める－尿検査でどこまで迫れますか？－	南山堂／東京	1版	20-28, 2022	総合内科	官澤洋平
8	とことん極める！腎盂腎炎 6 グラム染色を極める－グラム染色で注意するポイントはなんですか?－	南山堂／東京	1版	29-33, 2022	総合内科	官澤洋平
9	とことん極める！腎盂腎炎 26 若い女性への再発予防の指導方法について－実際どう指導していますか？－	南山堂／東京	1版	132-133, 2022	総合内科	長　陽二郎，官澤洋平
10	とことん極める！腎盂腎炎 27 尿路感染を起こしやすいリスクファクターへの介入	南山堂／東京	1版	134-138, 2022	総合内科	長　陽二郎，官澤洋平
11	Hospitalist　特集：身体診察 13.　体重減少と全身倦怠感：過剰検査と見逃しのジレンマのなか，身体診察でフォーカスをどう絞っていくか	メディカルサイエンスインターナショナル／東京	1号	185-194, 2022	総合内科	官澤洋平
12	In the Clinic 翻訳 Stable Ischemic Heart Disease	米国内科学会日本支部／東京	160(1)	ITC1-ITC16, 2022	総合内科	水木真平，官澤洋平
13	In the Clinic 翻訳 Nonalcoholic Fatty Liver Disease	米国内科学会日本支部／東京	169(9)	ITC65-ITC80, 2022	総合内科	水木真平，官澤洋平
14	月刊薬事 2022年2月号（Vol.64 No.2）Q22：神経難病患者の痙縮への有効な薬物療法は？	日本医事新報社／東京	64(2)	266-268, 2022	総合内科	官澤洋平
15	月刊薬事 2022年2月号（Vol.64 No.2）Q16：肝硬変患者の浮腫・腹水への介入と処方例は？	日本医事新報社／東京	64(2)	248-250, 2022	総合内科	水木真平
16	Hospitalist Clinician Update　ホスピタリストが押さえておくべき 20 論文をセレクト 拡大版（1）	メディカルサイエンスインターナショナル／東京	10(2)	338-345, 2022	総合内科	官澤洋平，石丸直人
17	Hospitalist Clinician Update ホスピタリストが押さえておくべき 20 論文をセレクト 拡大版（2）	メディカルサイエンスインターナショナル／東京	10(2)	370-377, 2022	総合内科	官澤洋平，石丸直人
18	Hospitalist Clinician Update ホスピタリストが押さえておくべき 20 論文をセレクト	メディカルサイエンスインターナショナル／東京	9(4)	912-919, 2022	総合内科	官澤洋平，石丸直人
19	消化器内視鏡【症例から学ぶ胃ESD−改訂ガイドラインwith and beyond−】高難度症例を克服する高難度瘢痕症例への挑戦	東京医学社／東京	34(7)	1270-1275, 2022	消化器内科	石田　司，豊永高史，松岡晃生，ベンスレイマン・ヤハヤ
20	胃と腸（【食道ESD瘢痕近傍病変の診断と治療】食道ESD瘢痕近傍病変に対するESD）	医学書院／東京	58(3)	308-317, 2022	消化器内科	豊永高史，吉崎哲也，石田　司，鷹尾俊達，阿部洋文，池澤伸明，阪口博哉，河原史明，田中心和，伴　宏充，寺島禎彦，光藤大地，阪口正博，前田　環，横崎　宏，児玉裕三

学術業績集

No.	著　書　名	出版社，地名	版，刷	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
21	【大腿骨近位部骨折-最新トレンドとエキスパートの治療法】頸部骨折　大腿骨頸部骨折における分類と整復の重要性　骨接合術後の再手術を回避するために	臨床整形外科・医学書院／東京	57(12)	1395-1402, 2022	整形外科	脇　貴洋
22	【なぜそうする?時系列で根拠とともに流れが理解できる!得意になる!整形外科　下肢の主要7術式　術者の考えがわかる!ガイド】ガンマー型ネイルは骨折手術の基本です!大腿骨転子部骨折髄内釘	オペナーシング・メディカ出版／大阪	37(12)	1161-1170, 2022	整形外科	脇　貴洋
23	【"ストン"と理解!患者説明もまかせて!大腿骨頸部/転子部骨折のおさえどころ】二次骨折　二次骨折予防の取りくみ	整形外科看護・メディカ出版／大阪	27(1)	59-68, 2022	整形外科	脇　貴洋

その他 (2022/1/1 ～ 2022/12/31)

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科(課)	担当者
1	Biologics Select Seminar	「バイオ製剤の導入と使い分けとこれから」「バイオ製剤の切り替え/臨床について」	'22/1	Web	呼吸器内科	大西　尚
2	明石市医師会　ジーオインターネット放送局～暮らしを守る医療～第37回	「年々増加の大腸癌 ～便潜血検査を～」	'22/1	web	外科	豊川晃弘
3	Colorectal cancer web seminar	EGFR抗体薬の副作用管理，休薬・減量の工夫	'22/2	神戸市	外科	豊川晃弘
4	第27回日本災害医学会学術集会	一般演題ポスター7「情報・通信・セキュリティ」	'22/3	広島市	救急科	井上　彰
5	ニボルマブ エリアWEBセミナーin明石	胃癌1stline治療にNivolumabとChemoを併用するベネフィットについて	'22/3	明石市	外科	豊川晃弘
6	新しいCKD治療を考える会	座長（SGLT2 阻害剤による新たな慢性腎臓病治療）	'22/3	Web	腎臓内科	米倉由利子
7	第4回 Kobe Onco-Cardiology Board 腫瘍循環器学勉強会	開会の辞	'22/3	神戸市	消化器内科	中島卓利
8	近畿心血管治療ジョイントライブ2022	第13回BAV Club @KCJL2022　コメンテーター	'22/4	大阪市	循環器内科	石橋健太
9	近畿心血管治療ジョイントライブ2022	Theme Live 1　コメンテーター	'22/4	大阪市	循環器内科	民田浩一
10	第2回Otsuka 内視鏡Webセミナーin兵庫	ビスコクリアの使用経験と内視鏡治療の新たな展開	'22/4	Web (明石市)	消化器内科	石田　司
11	東播磨　喘息治療webinar	明日から使えるコロナ禍の喘息診療に関する豆知識	'22/4	神戸市	呼吸器内科	大西　尚
12	第62回日本呼吸器学会学術講演会	ミニシンポジウム19　COVID-19臨床経過予測因子	'22/4	京都市	呼吸器内科	大西　尚

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
13	第62回日本呼吸器学会学術講演会	ミニシンポジウム13　びまん性肺疾患　疫学　統計	'22/4	京都市	呼吸器内科	岡村佳代子
14	中外製薬社内研修会	消化管癌の治療	'22/4	神戸市	外科	豊川晃弘
15	AKASHI HF Team Meeteing	Opening Remarks	'22/4	明石市	呼吸器内科	大西　尚
16	Non　Communicable Diseases Conference in Akashi 2022	Opening Remarks	'22/5	明石市	呼吸器内科	大西　尚
17	Non Communicable Diseases Conference in Akashi 2022	左室駆出率の保たれた心不全にどう立ち向かうか	'22/5	明石市	循環器内科	民田浩一
18	Lung Cancer Symposium in KOBE	EGFR遺伝子変異陽性肺癌治療のベストプラクティス	'22/5	神戸市	呼吸器内科	大西　尚
19	SHPT治療研究会	基調講演座長	'22/5	Web	腎臓内科	米倉由利子
20	第34回びまん性肺疾患勉強会	「症例から間質性肺炎を学ぶ」パネリスト	'22/5	Web	呼吸器内科	大西　尚
21	第59回兵庫県内視鏡治療談話会	胃粘膜下腫瘍で発見されIgG4関連疾患であった内視鏡的胃全層切除症例の検討	'22/6	神戸市	消化器内科	瀧本　将
22	兵庫県吸入指導講習会＝ガイドライン推奨ホー吸入の実践～	喘息診療の新展開　PGAMを踏まえた治療強化とホー吸入の実践	'22/6	明石市	呼吸器内科	大西　尚
23	大鵬製薬社内研修会	消化管癌の治療	'22/6	神戸市	外科	豊川晃弘
24	Akashi Medical Conference on Hepatocellular Carcinoma	座長	'22/6	明石市	消化器内科	中島卓利
25	消化器疾患-New Normal	座長	'22/6	神戸市	消化器内科	中島卓利
26	大腸がん治療を考える会	再発大腸癌に対する治療方針	'22/6	神戸市	外科	豊川晃弘
27	第37回R175消化器外科集談会	遺伝性消化器疾患	'22/6	神戸市	外科	豊川晃弘
28	第37回R175消化器外科集談会	潰瘍性大腸炎の経過中に偶発的に発見された肝腫瘤の1例	'22/6	神戸市	外科	豊川晃弘
29	日本内科学会第236回近畿地方会	感染症1　座長	'22/6	神戸市	総合内科	石丸直人
30	ACP日本支部年次総会・講演会2022	ITC翻訳プロジェクト×ベッドサイド5分間コラボレーション実践ワークショップ	'22/6	オンライン	総合内科	官澤洋平
31	ACP日本支部年次総会・講演会2022	ITC翻訳プロジェクト×ベッドサイド5分間コラボレーション実践ワークショップ	'22/6	オンライン	総合内科	水木真平
32	Akashi Medical Conference on Lung Cancer	当院における免疫関連皮膚障害/免疫チェックポイント阻害薬による皮膚障害マネジメント	'22/7	Web	呼吸器内科	大西　尚

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
33	Lung Cancer Seminar in AKASHI	Closing Remarks	'22/7	Web	呼吸器内科	大西　尚
34	バイオ適正導入を考える会	バイオ製剤の環境要因～Covid19，バイオマーカーを交えて～	'22/7	Web	呼吸器内科	岡村佳代子
35	明石肝疾患治療　地域連携会	座長	'22/7	明石市	消化器内科	中島卓利
36	CKD Network Update	座長（リアルワールドデータからひも解く腎性貧血治療の新展開）	'22/8	Web	腎臓内科	米倉由利子
37	神戸新聞　記事体広告	肺が硬くふくらみにくくなる病気－長引く咳や息切れが見られたら	'22/8	神戸新聞	呼吸器内科	岡村佳代子
38	第7回消化器がんセミナー	大腸癌化学療法－Best Practiceを考える	'22/8	神戸市	外科	豊川晃弘
39	播磨Respiratory and Infection Forum	呼吸器感染症の最前線－肺MAC商都COVID-19肺炎を含めて－	'22/9	Web	呼吸器内科	大西　尚
40	PCI Optimization by Physiology and Imaging（POPAI）2022	CFRとFFR，iFRの概念，類似点と相違点	'22/9	Web	循環器内科	民田浩一
41	PCI Optimization by Physiology and Imaging（POPAI）2022	Lecture Course Part4 FFR and resting index in specific lesion subset 座長	'22/9	Web	循環器内科	民田浩一
42	PCI Optimization by Physiology and Imaging（POPAI）2022	テーマSライブ4　Physiology and Imaging: diffuse and tandem disease 座長	'22/9	Web	循環器内科	民田浩一
43	中外製薬社内研修会	大腸癌の薬物療法	'22/9	神戸市	外科	豊川晃弘
44	睡眠薬の適正使用を考える会	出口を見据えた不眠症治療 座長・ディスカッションパート	'22/9	オンライン	総合内科	木南佐織
45	第3回 UC Skill up Web セミナー	当院における難治性潰瘍性大腸炎の2症例	'22/10	Web	消化器内科	石田　司
46	CKD・高尿酸血症治療WEBフォーラム	閉会挨拶	'22/10	Web	腎臓内科	米倉由利子
47	Hyogo colorectal cancer web seminar	最新の情報に基づいた大腸癌薬物療法	'22/10	神戸市	外科	豊川晃弘
48	第39回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	一般口演16　Physiology/CR-MRI/興味ある症例 座長	'22/10	大阪市	循環器内科	民田浩一
49	明石市医療連携セミナー	基本に立ち返る喘息診療	'22/10	明石市	呼吸器内科	大西　尚
50	第15回播磨喘息連携研究会	COPD・慢性気管支炎の症状から考えるビレーズトリが適切な患者像	'22/10	明石市	呼吸器内科	大西　尚
51	Complex Cardiovascular Therapeutics（CCT）2022	Live demonstration Sakurabashi Live 1　コメンテーター	'22/10	神戸市	循環器内科	民田浩一
52	Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement（ARIA）2022	ARIA塾でPhysiologyの疑問を解決しよう！　コメンテーター	'22/10	Web	循環器内科	民田浩一

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
53	東はりま・北はりま潰瘍性大腸炎治療Webフォーラム	当院における潰瘍性大腸炎に対する5ASA治療の現状	'22/11	Web	消化器内科	石田　司
54	第46回KCDC	総合司会	'22/11	神戸市	呼吸器内科	畠山由記久
55	KOBE Lung Cancer Seminar for adjuvant therapy	Closing Remarks	'22/11	Web	呼吸器内科	大西　尚
56	神戸消化器癌フォーラム2022@web	大腸癌に対する最新集学的治療2022	'22/11	神戸市	外科	豊川晃弘
57	Lung Cancer Online Seminar in HYOGO	進展型小細胞肺癌の治療について	'22/11	神戸市	呼吸器内科	畠山由記久
58	日本プライマリケア連合学会　第35回近畿地方会	症例報告1－　座長	'22/11	奈良市	総合内科	石丸直人
59	日本プライマリケア連合学会　第35回近畿地方会	キャリアCafé（ダイバシティ推進委員会）運営	'22/11	奈良市	総合内科	官澤洋平
60	CRC Leaders meeting in Kansai & Tokyo	大腸癌化学療法	'22/11	大阪市・東京都	外科	豊川晃弘
61	SEASIDE INTERSTITIAL LUNG DISEASE SEMINAR	過敏性肺炎診療指針2022	'22/12	神戸市	呼吸器内科	大西　尚
62	第134回日本循環器学会近畿地方会	心筋炎・心筋症3 座長	'22/12	大阪市	循環器内科	民田浩一

井上病院

口頭発表（2022/1/1 ～ 2022/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科（課）	発表者
1	Lilly RA Web Conference	2020ガイドライン改訂がきり拓くJAK Firstの世界	'22/1	Web	整形外科	佐藤宗彦
2	リウマチWebセミナー	REBORN the TNF with ゴリムマブ	'22/1	Web	整形外科	佐藤宗彦
3	Romosozumb講演会 on WEB～イベニティを使いこなすポイント～	ロモソズマブがきり拓く骨粗鬆症治療新時代－逐次療法と再投与－	'22/1	Web	整形外科	佐藤宗彦
4	富田林医師会学術講演会	痛みとトリガーポイントについて	'22/1	Web	整形外科	佐藤宗彦
5	リウマチWebセミナー	REBORN the TNF with ゴリムマブ	'22/1	Web	整形外科	佐藤宗彦
6	神経障害性疼痛マネージメントセミナー	ミロガバリンがきり拓く神経障害性疼痛の新時代	'22/1	Web	整形外科	佐藤宗彦
7	ＡＤ Online Seminar	整形外科医が考えるオルミエントの安全性	'22/1	Web	整形外科	佐藤宗彦
8	福井県臨床整形外科医会学術講演会	ロモソズマブがきり拓く骨粗鬆症治療新時代－逐次療法と再投与－	'22/1	Web	整形外科	佐藤宗彦
9	骨粗鬆症NEXT Webセミナー	ロモソズマブがきり拓く骨粗鬆症治療新時代－市販後調査が明らかにした安全性－	'22/1	Web	整形外科	佐藤宗彦
10	Lilly PsA Web Conference	整形外科医から見たPsAの現状と治療	'22/2	Web	整形外科	佐藤宗彦
11	骨粗鬆症WEBカンファレンスin福山－椎体骨折のある骨粗鬆症患者治療における病診連携連携－	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界～逐次療法・再投与を見据えた治療～	'22/2	Web	整形外科	佐藤宗彦
12	京滋脊椎骨粗鬆症セミナー	ロモソズマブがきり拓く骨粗鬆症治療新時代－逐次療法と再投与－	'22/2	Web	整形外科	佐藤宗彦
13	Online Seminar CKD-MBD	腎臓内科の立場で考える，透析導入目的の紹介時期は，eGFR5？10？15？Ml/min	'22/2	Web	腎臓内科	藤原木綿子
14	リウマチWebセミナー	REBORN the TNF with ゴリムマブ	'22/2	Web	整形外科	佐藤宗彦
15	骨粗鬆症治療up to date～骨形成促進薬のポジショニング～	ロモソズマブがきり拓く骨粗鬆症治療新時代－逐次療法と再投与－	'22/2	Web	整形外科	佐藤宗彦
16	腎・透析　スキルアップWEBセミナー	井上病院でのCKD-MBD治療	'22/2	Web	腎臓内科	一居　充
17	骨粗鬆症治療を学ぶ会<第2回Webセミナー>	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界～逐次療法・再投与を見据えた治療～	'22/2	Web	整形外科	佐藤宗彦
18	第16回北摂泌尿器科連合医会総会・講演会	井上病院　紹介	'22/2	Web 豊中市	泌尿器科	右梅貴信
19	リウマチWebセミナー	REBORN the TNF with ゴリムマブ	'22/2	Web	整形外科	佐藤宗彦

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
20	CKD病診連携フォーラム	CKD 3期，4期，5期　当院のCKD連携それぞれの取組み	'22/2	Web	腎臓内科	藤原木綿子
21	リウマチWebセミナー	REBORN the TNF with ゴリムマブ	'22/2	Web	整形外科	佐藤宗彦
22	骨粗鬆症治療UPDATE～地域で取り組む骨折予防～	ロモソズマブがきり拓く骨粗鬆症治療新時代－逐次療法と再投与－	'22/2	Web	整形外科	佐藤宗彦
23	リウマチWebセミナー	REBORN the TNF with ゴリムマブ	'22/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
24	骨粗鬆症診療セミナー	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界～逐次療法・再投与を見据えた治療～	'22/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
25	第27回透析バスキュラーアクセスインターベンション治療医学会学術集会・総会　スペシャルシンポジウム	ＡＶＧにおけるステントグラフトVIABAHNの意味とその背景	'22/3	Web	放射線科	森本　章
26	第27回透析バスキュラーアクセスインターベンション治療医学会学術集会・総会	VAIVTフォローから外科的処置に移行した症例について	'22/3	Web	放射線科	森本　章
27	Meet The Expert ～もっと知ろうよリウマチのこと～	今，求められるリウマチ治療～患者に寄り添う治療を目指して～	'22/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
28	Osteoporosis up date	ロモソズマブがきり拓く骨粗鬆症治療新時代－逐次療法と再投与－	'22/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
29	骨粗鬆症WEBセミナー	ロモソズマブがきり拓く骨粗鬆症治療新時代－逐次療法と再投与－	'22/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
30	十日町市中魚沼郡学術WEB講演会	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界～逐次療法・再投与を見据えた治療～	'22/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
31	骨粗鬆症治療UPDATE～治療介入と継続率を高めるために～	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界～逐次療法・再投与を見据えた治療～	'22/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
32	淡海整形外科Clinical Conference	ロモソズマブがきり拓く骨粗鬆症治療新時代－逐次療法と再投与－	'22/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
33	Meet The Expert ～もっと知ろうよリウマチのこと～	今，求められるリウマチ治療～患者に寄り添う治療を目指して～	'22/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
34	リウマチWebセミナー	REBORN the TNF with ゴリムマブ	'22/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
35	Hanshin Osteoporosis Seminar	ロモソズマブがきり拓く骨粗鬆症治療新時代－逐次療法と再投与－	'22/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
36	Hanshin Osteoporosis Seminar	実臨床における骨粗鬆症治療とロモソズマブの使いどころ	'22/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
37	Lilly RA Web Conference	2020ガイドライン改訂がきり拓くＪＡＫ Firstの世界	'22/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
38	DURL Seminar in 北摂	腎症を合併した2型糖尿病治療を再考する～イメグリミンの可能性について考える～	'22/3	Web	糖尿病内科	木津あかね
39	Osteoporosis Web Symposium －地域で取り組む2次骨折予防－	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界～逐次療法・再投与を見据えた治療～	'22/4	Web	整形外科	佐藤宗彦

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
40	南大阪Network Forum	井上病院の保存期診療と人生貧血治療について	'22/4	Web	腎臓内科	一居　充
41	リンヴォック適性使用推進講演会	GO TO JAK －リンヴォックの適した症例とは－	'22/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
42	JAK阻害薬の今後の展望を考える会	2020ガイドライン改訂がきり拓くJAK Firstの世界	'22/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
43	リウマチWebセミナー	REBORN the TNF with ゴリムマブ	'22/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
44	EVENITY Web Symposium	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'22/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
45	JAK Masters Conference	2020ガイドライン改訂がきり拓くJAK Firstの世界	'22/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
46	骨粗鬆症治療戦略　最前線	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界－逐次療法･再投与を見据えた治療－	'22/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
47	骨粗鬆症における病診連携連携を考える会 in広島	ロモソズマブがきり拓く骨粗鬆症新時代－逐次療法と再投与－	'22/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
48	Osteoporosis Web Seminar ～実臨床に学ぶ骨粗鬆症診療～	骨粗鬆症最適治療における骨形成促進薬の使用について	'22/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
49	①第50回日本血管外科学術総会 ②第34回教育セミナー	内膜摘除は血管外科医の最も基本的手技である。	'22/5	北九州市	血管外科	谷村信宏
50	Romosozumab講演会 on WEB　～イベニティを使いこなすポイント～	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'22/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
51	東成区の骨粗鬆症治療について考える　～健康で元気な毎日の為に～	ロモソズマブがきり拓く骨粗鬆症新時代-逐次療法と再投与-	'22/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
52	リンヴォック適性使用推進講演会	GO TO JAK －腎機能低下RA患者に於けるリンヴォックの可能性－	'22/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
53	骨粗鬆症治療カンファレンス（WEB）	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'22/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
54	骨粗鬆症セミナー in 岩手西北医師会　～地域で取り組む骨折予防～	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'22/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
55	RA exchange seminar	REBORN the TNF with ゴリムマブ	'22/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
56	Lilly PsA Web Conference	整形外科医から見たPsAの現状と治療	'22/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
57	骨粗鬆症性骨折予防セミナー	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'22/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
58	第95回日本内分泌学会学術総会	汎下垂体機能低下症に対して副腎皮質ステロイドの補充を行い，顕在化した仮面尿崩症による尿量増加をきっかけに，腎後性腎不全を発症した一例	'22/6	Web 別府市	消化器内科	大野恭太
59	芦屋市医師会学術講演会	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'22/6	Web	整形外科	佐藤宗彦

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
60	整形外科セミナー　～骨粗鬆症と足の外科～	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'22/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
61	リンヴォック適性使用推進講演会	GO TO JAK －腎機能低下RA患者に於けるリンヴォックの可能性－	'22/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
62	Osteoporosis Web Conference ～骨折の危険性の高い骨粗鬆症治療Update~	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'22/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
63	AD Online Seminar	整形外科医が考えるオルミエントの安全性	'22/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
64	RA Switch Lecture	REBORN the TNF with ゴリムマブ	'22/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
65	岐阜医療圏骨粗鬆症セミナー	ロモソズマブがきり拓く骨粗鬆症新時代－逐次療法と再投与－	'22/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
66	Lilly PsA Web Conference	整形外科医から見たPsAの現状と治療	'22/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
67	令和4年度 第6回高崎市医師会学術講演会	ロモソズマブがきり拓く骨粗鬆症新時代－逐次療法と再投与－	'22/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
68	Bone Seminar	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'22/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
69	第67回日本透析医学会学術集会・総会	透析患者CLTIに対する動脈内膜摘除	'22/7	横浜市	血管外科	谷村信宏
70	第67回日本透析医学会学術集会・総会	透析患者における骨粗鬆症治療はどうする	'22/7	横浜市	整形外科	佐藤宗彦
71	第67回日本透析医学会学術集会・総会	腹膜透析患者410例において酸性腹膜透析液使用時代と中性腹膜透析液使用時代の被嚢性腹膜硬化症発症頻度を中心に比較した調査報告	'22/7	横浜市	腎臓内科	藤原木綿子
72	第67回日本透析医学会学術集会・総会	肘部深部静脈交通枝で開存していたAVFに行った肘部バイパス術の4年の経過	'22/7	横浜市	外科	藤原一郎
73	第67回日本透析医学会学術集会・総会	当院で施行した過剰血流内シャントへの4mmPTFEグラフトを使用した血流抑制術の報告	'22/7	横浜市	透析内科	福永　慎
74	第67回日本透析医学会学術集会・総会	エコー併用VAIVTでの不成功について～狭窄治療と血栓治療の違い～	'22/7	横浜市	放射線科	森本　章
75	腎臓病Webセミナー －嚢胞性腎疾患を学ぶ－	エコーで腎のう胞を診断したときに検討する事項～鑑別と検査・治療～	'22/7	Web	腎臓内科	藤原木綿子
76	宝塚市整形外科医学術講演会	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界～逐次療法・再投与を見据えた治療～	'22/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
77	吹田・豊中CKD連携フォーラム	井上病院における保存期CKD診療について	'22/7	吹田市	腎臓内科	藤原木綿子
78	関節リウマチ治療 For pharmacists	私の関節リウマチ治療～薬物治療の注意点を含めて～	'22/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
79	RA JAK conference in 中津	2020ガイドライン改訂がきり拓くJAK Firstの世界	'22/7	Web	整形外科	佐藤宗彦

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
80	関節リウマチ治療 For pharmacists	私の関節リウマチ治療～薬物治療の注意点を含めて～	'22/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
81	PD管理のコツを学ぶWｅｂ講座～快適なPDライフの実現のために～	PD感染症の対処と予防について～腹膜炎・カテーテル関連感染症の診療ポイント～	'22/7	Web	腎臓内科	藤原木綿子
82	関節リウマチネットワークセミナー	REBORN the TNF with ゴリムマブ	'22/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
83	Lilly PsA Web Conference	整形外科医から見たPsAの現状と治療	'22/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
84	骨粗鬆症治療セミナー	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界～逐次療法・再投与を見据えた治療～	'22/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
85	Lilly PsA Web Conference	整形外科医から見たPsAの現状と治療	'22/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
86	TERIBONE Auto Injector Online Seminar	ＡＩが導く脆弱性骨折なき世界	'22/8	Web	整形外科	佐藤宗彦
87	リンヴォック適性使用推進インターネットライブセミナー	GO TO JAK －腎機能低下RA患者に於けるリンヴォックの可能性－	'22/8	Web	整形外科	佐藤宗彦
88	JAKI Lecture Meeting in North-OSAKA	整形外科の視点から見たJAK阻害剤のメリット	'22/8	Web	整形外科	佐藤宗彦
89	リウマチ性疾患セミナー	REBORN the TNF with ゴリムマブ	'22/8	Web	整形外科	佐藤宗彦
90	リンヴォック（RA/PsA）適性使用推進講演会	RAの最新治療戦略-ウパダシチニブの使用も含めて-	'22/8	Web	整形外科	佐藤宗彦
91	関節リウマチWebセミナー	関節リウマチ治療における最新の話題	'22/8	Web	整形外科	佐藤宗彦
92	Upasita Advisory Board2022 in大阪	・早期カルシミメティクス治療の可能性について ・Upasitaの使用経験について～有効性・安全性～	'22/8	豊中市	腎臓内科	一居　充
93	ウパシタ発売1周年記念WEB講演会　in大分	井上病院でのCKD-MBD治療～実臨床での経験を踏まえて	'22/9	Web	腎臓内科	一居　充
94	関節リウマチWebセミナー～Regression to the TNFa inhibition～	ガイドラインに基づいたリウマチ治療の最適化～REBORN the TNF～	'22/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
95	リンヴォック適性使用推進講演会	GO TO JAK RA 治療の最前線、JAK阻害剤の使用意義とは	'22/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
96	トリガーポイントWeb講演会	痛みとトリガーポイント注射からトリガーポイントの病態を含めて～	'22/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
97	第97回大阪透析研究会	腹膜透析における腎性貧血の管理～心不全との関与を含めて～	'22/9	大阪市	腎臓内科	藤原木綿子
98	第97回大阪透析研究会	多発性嚢胞腎の画像診断と治療・腎予後～維持透析までの経過～	'22/9	大阪市	腎臓内科	藤原木綿子
99	第97回大阪透析研究会	β2ミクログロブリン吸着カラムがきり拓く透析患者の健康寿命延伸	'22/9	大阪市	整形外科	佐藤宗彦

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
100	第97回大阪透析研究会	今，注目すべきは亜鉛～亜鉛と栄養の重要な関連～	'22/9	大阪市	透析内科	下村菜生子
101	第97回大阪透析研究会	井上病院におけるICT,ASTの活動報告	'22/9	大阪市	泌尿器科	大北恭平
102	第97回大阪透析研究会	腹膜透析開始直後に発症した直腸脱の1症例	'22/9	大阪市	外科	藤原一郎
103	第97回大阪透析研究会	関節リウマチを合併した血液透析患者に対するJAK阻害剤による治療成績	'22/9	大阪市	整形外科	佐藤宗彦
104	第97回大阪透析研究会	骨粗鬆症を合併した透析患者に対するロモソズマブ1年終了後の逐次療法	'22/9	大阪市	整形外科	佐藤宗彦
105	第97回大阪透析研究会	骨粗鬆症を合併した透析患者に対するロモソズマブの骨折治癒促進効果	'22/9	大阪市	整形外科	佐藤宗彦
106	第97回大阪透析研究会	ウロキナーゼを使用できない血栓閉塞VAIVTでの吸引治療の限界	'22/9	大阪市	放射線科	森本　章
107	これからの骨粗鬆症治療を考えるWEB講演会2022	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'22/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
108	Lilly RA Web Conference	2020ガイドライン改訂がきり拓くJAK Firstの世界	'22/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
109	丹波市医師会学術講演会	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界～逐次療法・再投与を見据えた治療～	'22/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
110	JAKi Crosstalk Meetinf in 大阪・名古屋	関節リウマチへの最適な治療選択を考える～JAK first with Filgotinib～	'22/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
111	NAGOYA Fracture Prevention Seminar	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'22/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
112	第2回DKD Expert Conference	DKD患者の運動療法	'22/9	豊中市	腎臓・透析部門学術責任者	辻本吉広
113	整形外科による関節リウマチ医療Webセミナー	TNF阻害薬の役割～Golimumabの最適化～	'22/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
114	第2回三泗地区の脊椎疾患医療連携を考える会	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'22/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
115	MEET THE EXPERT SEMINAR in 吹田	CKD3期，4期，5期，当院のCKD連携それぞれの取り組み	'22/9	吹田市	腎臓内科	藤原木綿子
116	MEET THE EXPERT SEMINAR in 吹田	透析患者のcovid-19を診療してみて	'22/9	吹田市	腎臓内科	一居　充
117	リンヴォック適性使用推進講演会	GO TO JAK －RA治療の最前線，JAK阻害剤の使用意義とは－	'22/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
118	第84回大阪医科薬科大学整形外科関連病院談話会プログラム	ロモソズマブがきり拓く骨粗鬆症新時代－逐次療法と再投与－	'22/10	大阪市	整形外科	佐藤宗彦
119	第26回日本透析アクセス医学会学術集会・総会	ワークショップ 短期再狭窄に対するDCB治療成績	'22/10	名古屋市	放射線科	森本　章

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
120	第26回日本透析アクセス医学会学術集会・総会	シンポジウム 造影併用エコー下PTA	'22/10	名古屋市	放射線科	森本　章
121	JAK阻害剤を考える会 In 愛知・大阪	関節リウマチへの最適な治療選択を考える～JAK first with Filgotinib～	'22/10	Web	整形外科	佐藤宗彦
122	Lilly PsA Web Conference	整形外科医から見たPsAの現状と治療	'22/10	Web	整形外科	佐藤宗彦
123	Orthopedic Surgery×Osteoporosis	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'22/10	Web	整形外科	佐藤宗彦
124	第72回 日本泌尿器科学会中部総会	当院における維持透析患者の腎癌に対する腹腔鏡下腎摘除術の初期経験に関する検討	'22/10	和歌山市	泌尿器科	大北恭平
125	第34回東京都整形外科勤務医会研修講演会	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界～逐次療法と再投与を見据えた治療～	'22/10	Web	整形外科	佐藤宗彦
126	骨粗鬆症WEBセミナー in 上越	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'22/10	Web	整形外科	佐藤宗彦
127	天の川 SHPT治療WEBセミナー	井上病院でのCKD「－MBD治療～実臨床での経験を踏まえて～」	'22/10	Web	腎臓内科	一居　充
128	第8回北大阪フットケア勉強会	腎臓内科の立場で考える，透析導入目的の紹介時期は，eGFR5？10？15ml/min	'22/10	吹田市	腎臓内科	藤原木綿子
129	リンヴォック適性使用推進講演会	GO TO JAK －RA治療の最前線，JAK阻害剤の使用意義とは－	'22/10	Web	整形外科	佐藤宗彦
130	Lilly RA Web Conference	2020ガイドライン改訂がきり拓くJAK Firstの世界	'22/10	Web	整形外科	佐藤宗彦
131	骨粗鬆症治療update meeting-人生100年時代を目指して，健康寿命を考える－	骨粗鬆症最適治療が切り拓く脆弱性骨折なき世界	'22/10	Web	整形外科	佐藤宗彦
132	Parsabiv Web Symposium 2022	透析患者の健康寿命延伸を目指して－サルコペニア・フレイル対策に挑む－	'22/10	Web	腎臓･透析部門学術責任者	辻本吉広
133	関節リウマチ薬物治療Webセミナー③	関節リウマチへの最適な治療選択を考える	'22/10	Web	整形外科	佐藤宗彦
134	リンヴォック適性使用推進講演会	Go To JAK －RA治療の最前線，JAK阻害剤の使用意義とは	'22/10	Web	整形外科	佐藤宗彦
135	骨折二次予防を考えるWEBセミナー　－骨粗鬆症マネージャーを中心とした多職種連携の取り組み－	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'22/10	Web	整形外科	佐藤宗彦
136	北摂CLTI Conference !!! 患者さんの足を守る!!!	当院におけるCLTI症例の取り組み	'22/11	大阪市	心臓血管外科	谷村信宏
137	第32回臨床内分泌代謝Update	透析患者に亜急性に甲状腺機能低下症を来した症例の特徴について	'22/11	東京都	消化器内科	大野恭太
138	峡東骨粗鬆症Webセミナー	ロモソズマブがきり拓く骨粗鬆症新時代－逐次療法と再投与－	'22/11	Web	整形外科	佐藤宗彦
139	生活習慣病地域医療セミナー2022	CKDの運動療法－明日からできる腎臓リハビリテーションとそのエビデンス－	'22/11	吹田市	腎臓･透析部門学術責任者	辻本吉広

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
140	EVENITY Web Symposium	骨粗鬆症治療のファーストチョイス，どうするか？～骨折リスクに応じた最適な薬剤選択～	'22/11	Web	整形外科	佐藤宗彦
141	骨粗鬆症性骨折連鎖を考える会2022冬	ロモソズマブがきり拓く骨粗鬆症治療新時代－逐次療法と再投与－	'22/11	Web	整形外科	佐藤宗彦
142	Lilly RA Web Conference	2020ガイドライン改訂がきり拓くJAK Firstの世界	'22/11	Web	整形外科	佐藤宗彦
143	日本臨床麻酔学会　第42回大会	人工股関節全置換術術後に肺水腫を発症した重症大動脈弁狭窄症患者の1症例	'22/11	京都市	麻酔科	坂本　元
144	日本臨床麻酔学会　第42回大会	新型コロナ時代の麻酔導入法の検討	'22/11	京都市	麻酔科	稲田拓治
145	リンヴォック適性使用推進講演会	Go To JAK　RA治療の最前線，JAK阻害剤の使用意義とは	'22/11	Web	整形外科	佐藤宗彦
146	JAK阻害剤を考える会 In 大阪・静岡	JAK first with Filgotinib～関節リウマチへの最適な治療選択を考える～	'22/11	Web	整形外科	佐藤宗彦
147	GLP-1 Web講演会	その糖尿病性腎臓病患者さんの治療，どうする？	'22/11	Web	腎臓･透析部門学術責任者	辻本吉広
148	RINVOQ RA Online Seminar	Go To JAK　RA治療の最前線，JAK阻害剤の使用意義とは	'22/11	Web	整形外科	佐藤宗彦
149	第52回日本腎臓学会　西部学術大会	慢性腎不全期（CKDステージ3b）の腎臓リハビリ介入の結果報告	'22/11	熊本市	腎臓内科	藤原木綿子
150	骨粗鬆症治療 連携 Web Symposium	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'22/11	Web	整形外科	佐藤宗彦
151	骨粗鬆症治療 連携 Web Symposium	骨粗鬆症治療薬の治療継続率を向上させる為に	'22/11	Web	整形外科	佐藤宗彦
152	関節リウマチ薬物治療Webセミナー④	関節リウマチへの最適な治療選択を考える	'22/11	Web	整形外科	佐藤宗彦
153	骨粗鬆症治療連携セミナー	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界－逐次療法と再投与を見据えた治療－	'22/11	Web	整形外科	佐藤宗彦
154	第10回香川CKD研究会	僕が考えるVAIVT strategy	'22/11	Web	放射線科	森本　章
155	Lilly PsA Web Conference	整形外科医から見たPsAの現状と治療	'22/11	Web	整形外科	佐藤宗彦
156	KEVZARA Online Seminar	Changes in treatment methods for patient demographics	'22/11	Web	整形外科	佐藤宗彦
157	第28回日本腹膜透析医学会学術集会・総会	腹膜透析患者の定期心電図検査により，虚血性心疾患の発見・治療を行った2症例	'22/11	岡山市	透析内科	下村菜生子
158	南九州 RA Expert Web Seminar	2020ガイドライン改訂がきり拓くJAK Firstの世界	'22/11	Web	整形外科	佐藤宗彦
159	RA Crosstalk Meeting in 北大阪	JAK first with Filgotinib～関節リウマチへの最適な治療選択を考える～	'22/11	Web	整形外科	佐藤宗彦

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
160	RINVOQ RA Online Seminar	強直性脊椎炎の最新治療 Upadacitinibを中心に	'22/12	Web	整形外科	佐藤宗彦
161	第61回日本網膜硝子体学会総会	ストレス負荷によるラット脈絡膜変化	'22/12	大阪市	眼科	前田裕宇樹
162	JAK阻害剤を語る会 in 大阪・神戸	自験例から考えるフィルゴチニブの有効性･安全性について	'22/12	Web	整形外科	佐藤宗彦
163	RA exchange seminar	REBORN the TNF with ゴリムマブ	'22/12	Web	整形外科	佐藤宗彦
164	JAKi Expert Meeting	関節リウマチへの最適な治療選択を考える～JAK first with Filgotinib～	'22/12	Web	整形外科	佐藤宗彦
165	JAKi Crosstaik Meeting	関節リウマチへの最適な治療選択を考える～JAK first with Filgotinib～	'22/12	Web	整形外科	佐藤宗彦
166	メトジェクト適性使用WEB講演会	リウマチ治療新時代への扉を開く～フェーズ1.2における投与経路のパラダイムシフト～	'22/12	Web	整形外科	佐藤宗彦
167	Lilly RA Web Conference	2020ガイドライン改訂がきり拓くJAK Firstの世界	'22/12	Web	整形外科	佐藤宗彦
168	リンヴォック適性使用推進講演会	Go To JAK　RA治療の最前線, JAK阻害剤の使用意義とは	'22/12	Web	整形外科	佐藤宗彦

論文発表（2022/1/1 ～ 2022/12/31）

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
1	腎臓内科	サルコペニア･フレイルの発症機序とビタミンD	16（1）	31-37, 2022	腎臓内科	奥手祐治郎
2	透析フロンティア	骨折ハイリスク透析患者に対する薬物療法はどうしたらいいですか？	32（3）	17-19, 2022	整形外科	佐藤宗彦
3	大阪透析研究会会誌	AVG静脈吻合部狭窄に対する新しい治療デバイス	39（1）	69-74, 2022	放射線科	森本　章
4	大阪透析研究会会誌	反撃の時が来た	39（2）	巻頭言, 2022	腎臓･透析部門学術責任者	辻本吉広
5	腎と透析	90日未満VAIVT施行例についての検討	93 別刷	153-154, 2022	放射線科	森本　章
6	糖尿病プラクティス	腎代替療法：最新の動向―透析医療と移植医療	39（2）	167-174, 2022	腎臓･透析部門学術責任者	辻本吉広

その他（2022/1/1 ～ 2022/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
1	AHA・ACLSコース	講師	'22/1		血管外科	谷村信宏
2	アステラス製薬株式会社社内研修会	講師	'22/1		透析内科	下村菜生子
3	今後の循環器・腎臓疾患を考える会	座長	'22/1	Web	腎臓内科	藤原木綿子
4	第12回透析運動療法研究会	座長	'22/1	東京都	腎臓・透析部門学術責任者	辻本吉広
5	製品技術指導ミーティング	技術指導	'22/2	Web	放射線科	森本　章
6	腸内細菌と糖尿病	講師	'22/2		糖尿病内科	木津あかね
7	リウマチWebセミナー	座長	'22/2	Web	整形外科	佐藤宗彦
8	CKD病診連携フォーラム	座長	'22/2	Web	糖尿病内科	木津あかね
9	CKD病診連携フォーラム	座長	'22/2	Web	腎臓内科	一居　充
10	リウマチWebセミナー	座長	'22/2	Web	整形外科	佐藤宗彦
11	第96回大阪透析研究会	座長	'22/3	大阪市	腎臓・透析部門学術責任者	辻本吉広
12	アドバイザー会議	薬剤アドバイザー	'22/4	東京都	整形外科	佐藤宗彦
13	社内勉強会	講師	'22/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
14	RAチーム医療検討会	座長	'22/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
15	RA exchange seminar	座長	'22/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
16	吹田市の前立腺がん治療を考える会～mCSPC治療を考える～	オープニング	'22/6	Web	泌尿器科	右梅貴信
17	社内研修会	講師	'22/6	吹田市	透析内科	下村菜生子
18	第67回日本透析医学会学術集会・総会	座長	'22/7	横浜市	放射線科	森本　章
19	第67回日本透析医学会学術集会・総会	座長	'22/7	横浜市	腎臓・透析部門学術責任者	辻本吉広
20	吹田・豊中CKD連携フォーラム	座長	'22/7	吹田市	腎臓内科	一居　充

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
21	吹田・豊中CKD連携フォーラム	座長	'22/7	吹田市	腎臓･透析部門学術責任者	辻本吉広
22	吹田・豊中CKD連携フォーラム	クロージング	'22/7	吹田市	泌尿器科	右梅貴信
23	VAIVT新時代における治療戦略	座長	'22/7	Web	放射線科	森本　章
24	関節リウマチネットワークセミナー	座長	'22/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
25	JAKI Lecture Meeting in North-OSAKA	座長	'22/8	Web	整形外科	佐藤宗彦
26	リウマチ性疾患セミナー	座長	'22/8	Web	整形外科	佐藤宗彦
27	リンヴォック（RA/PsA）適性使用推進講演会	座長	'22/8	Web	整形外科	佐藤宗彦
28	CKD/糖尿病合併症連携研究会2022	座長	'22/9	吹田市	腎臓・透析部門学術責任者	辻本吉広
29	第97回大阪透析研究会	大会長・座長	'22/9	大阪市	腎臓・透析部門学術責任者	辻本吉広
30	第97回大阪透析研究会	座長	'22/9	大阪市	腎臓内科	一居　充
31	第97回大阪透析研究会	座長	'22/9	大阪市	外科	藤原一郎
32	第97回大阪透析研究会	座長	'22/9	大阪市		生田洋子
33	第97回大阪透析研究会	座長	'22/9	大阪市	臨床工学科	瓦谷友勝
34	TNF阻害療法の意義を再考する	座長	'22/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
35	JAKi Crosstalk Meetinf in 大阪・名古屋	座長	'22/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
36	近畿大学薬学部 生涯教育研修会	座長	'22/9	Web	腎臓・透析部門学術責任者	辻本吉広
37	整形外科による関節リウマチ医療Webセミナー	座長	'22/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
38	Lilly PsA Web Conference	座長	'22/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
39	第8回北大阪フットケア勉強会	開会挨拶・特別講演座長	'22/10	吹田市	心臓血管外科	谷村信宏
40	第8回北大阪フットケア勉強会	座長	'22/10	吹田市	糖尿病内科	木津あかね

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
41	第8回北大阪フットケア勉強会	閉会挨拶	'22/10	吹田市	泌尿器科	右梅貴信
42	第2回進行性前立腺癌のTRYを考える会　～All for Patients～	オープニングリマークス	'22/10	ハイブリッド 大阪市	泌尿器科	右梅貴信
43	北摂CLTI Conference !!! 患者さんの足を守る!!!	総合司会	'22/11	大阪市	心臓血管外科	谷村信宏
44	AHA ACLSコース	講師	'22/11	大阪市	心臓血管外科	谷村信宏
45	社内勉強会	講師	'22/11	吹田市	腎臓内科	一居　充
46	高槻透析セミナー	座長	'22/11	Web	心臓血管外科	谷村信宏
47	リンヴォック適性使用推進講演会　他領域での使用に学ぶ編	座長	'22/12	Web	整形外科	佐藤宗彦
48	RA exchange seminar	座長	'22/12	Web	整形外科	佐藤宗彦
49	北大阪血管外科ミーティング	座長	'22/12	大阪市	心臓血管外科	谷村信宏
50	JAKi Crosstaik Meeting	座長	'22/12	Web	整形外科	佐藤宗彦

医療業績集 2022

発行日　2024年2月13日
発行所　社会医療法人愛仁会
年報事務局
〒569-1115
大阪府高槻市古曽部町1丁目7番14号
中井老泉ビル2階
TEL (06) 6375-0660　FAX (06) 6375-0560
https://www.aijinkai.or.jp/